

基本計画書

基本計画		
事項	記入欄	備考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ジョウショウガクエン 学校法人常翔学園	
フリガナ大学の名称	オオサカコウギョウダイガク 大阪工業大学 (Osaka Institute of Technology)	
大学本部の位置	大阪府大阪市旭区大宮五丁目16番1号	
大学の目的	<p>本大学は、専門学術を教育研究し、深い教養と実践的応用力を身につけ、時代の要請に対応して国際的視野から知的・技術的創造を実現でき、確かな人間力を備え常に向上を心がける、心身ともにたくましい専門職業人を養成して、社会の発展に貢献するとともに、学術と文化の向上をはかることを目的とする。</p>	
新設学部等の目的	<p>情報処理技術に加えて数理統計に関連する基礎知識と問題解決能力を身につけることで、新たな価値を創造できるデータサイエンスのプロフェッショナル人材を養成する。具体的には、次に掲げる能力を習得させる。</p> <p>(A) 情報処理技術およびデータの収集・分析から得られた成果の活用が人や社会および自然等に及ぼす影響を理解し、それらの改善に取り組むことができる。〔データサイエンスの活用が社会に与える影響を理解する能力〕</p> <p>(B) 社会システムの発展・改良に向け、広い視野および倫理的な視点から判断し、行動できる。〔広い視野および倫理的な視点からの判断力と行動力〕</p> <p>(C) 情報処理技術および数理統計に関連する基礎知識を有しており活用できる。〔知識の活用力〕</p> <p>(D) 課題の背景を理解する能力を有しており、データの収集・分析に基づいた問題解決ならびに価値創造を提案することができる。〔問題解決や価値創造を提案できる能力〕</p> <p>(E) 自分の考えを論理的かつ正確に伝え、かつ、相手を理解するために必要なコミュニケーション能力を有し、他者と協働して活動することができる。〔他者と協働して活動できる能力〕</p> <p>卒業後は、さまざまな産業や官公庁・地方自治体においてデータ解析能力を活かして価値創造を行う、データサイエンティストとしての活躍が想定される。どのような分野においても、データに基づく意思決定は必須になっているが、以下にデータサイエンティストが活躍できる具体的な例を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 製造業（製品開発・企画、マーケティング、品質管理、イノベーション） ● 金融・保険業（商品開発・企画、クウォンツ、ビックデータ解析、データコンサルタント） ● ITを中心とした広告・流通企業（商品開発・企画、世論調査・社会調査、データマイニング） ● 官公庁・地方自治体（公的データの作成、データに基づく政策決定） ● 中学・高校を含む教育機関（数学および情報の教員、教育効果の分析、教育コンテンツの開発） ● IT企業（付加価値を創造するSE、データアナリスト） ● 経営コンサルタント 	

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	情報科学部 【Faculty of Information Science and Technology】 データサイエンス学科 【Department of Data Science】 計	4	70 70	－ －	280 280	学士 (情報学) 【Bachelor of Information Science and Technology】	令和3年4月 第1年次	大阪府枚方市 北山一丁目 79 番 1 号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	大阪工業大学 情報科学部 データサイエンス学科 [定員増] (70) (令和3年4月) 情報知能学科 [定員減] (△15) (令和3年4月) ネットワークデザイン学科 [定員減] (△15) (令和3年4月) (令和2年3月学期変更認可申請) 摂南大学 理工学部 生命科学科 [定員増] (15) (令和3年4月) 住環境デザイン学科 [定員増] (15) (令和3年4月) 建築学科 [定員増] (10) (令和3年4月) 機械工学科 [定員増] (20) (令和3年4月) 電気電子工学科 [定員増] (15) (令和3年4月) 都市環境工学科 [定員増] (10) (令和3年4月) 法学部 法律学科 [定員増] (30) (令和3年4月) 経済学部 経済学科 [定員増] (30) (令和3年4月) (令和2年3月学期変更認可申請)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実習	計				
	情報科学部 データサイエンス学科	100 科目	10 科目	3 科目	113 科目	124 単位			

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	人
新設分	情報科学部	5	3	1	0	9	0	69	
	データサイエンス学科	(5)	(3)	(1)	(0)	(9)	(0)	(47)	
	計	5	3	1	0	9	0	—	
		(5)	(3)	(1)	(0)	(9)	(0)	(—)	
既設分	工学部	7	2	2	0	11	0	27	
	都市デザイン工学科	(7)	(2)	(2)	(0)	(11)	(0)	(27)	
	建築学科	6	7	2	0	15	0	33	
		(5)	(6)	(2)	(0)	(13)	(0)	(33)	
	機械工学科	10	2	4	0	16	0	12	
		(10)	(2)	(4)	(0)	(16)	(0)	(12)	
	電気電子システム工学科	8	5	2	0	15	0	13	
		(7)	(5)	(2)	(0)	(14)	(0)	(13)	
	電子情報システム工学科	7	3	1	0	11	0	10	
		(6)	(3)	(1)	(0)	(10)	(0)	(10)	
	応用化学科	6	7	1	0	14	0	8	
		(5)	(7)	(1)	(0)	(13)	(0)	(8)	
	環境工学科	5	4	0	0	9	0	26	
		(4)	(4)	(0)	(0)	(8)	(0)	(26)	
	生命工学科	5	5	0	0	10	0	24	
		(4)	(5)	(0)	(0)	(9)	(0)	(24)	
	一般教育科	6	9	1	0	16	0	34	
		(6)	(9)	(1)	(0)	(16)	(0)	(34)	
	総合人間学系教室	5	4	3	0	12	0	46	
		(5)	(4)	(3)	(0)	(12)	(0)	(46)	
	ロボティクス&デザイン工学部	5	5	0	0	10	0	81	
	ロボット工学科	(5)	(5)	(0)	(0)	(10)	(0)	(81)	
	システムデザイン工学科	7	2	1	0	10	0	84	
		(7)	(2)	(1)	(0)	(10)	(0)	(84)	
	空間デザイン学科	5	6	0	0	11	0	127	
		(5)	(6)	(0)	(0)	(11)	(0)	(127)	
	情報科学部	5	3	4	0	12	0	79	
情報知能学科	(5)	(3)	(4)	(0)	(12)	(0)	(79)		
情報システム学科	6	4	5	0	15	0	83		
	(6)	(4)	(5)	(0)	(15)	(0)	(83)		
情報メディア学科	7	6	3	0	16	0	74		
	(7)	(6)	(3)	(0)	(16)	(0)	(74)		
ネットワークデザイン学科	5	5	3	0	13	0	77		
	(5)	(5)	(3)	(0)	(13)	(0)	(77)		
知的財産学部	11	5	0	0	16	0	33		
知的財産学科	(11)	(5)	(0)	(0)	(16)	(0)	(33)		
教務部 教職教室	3	2	1	0	6	0	0		
	(3)	(2)	(1)	(0)	(6)	(0)	(0)		
計	119	86	33	0	238	0	—		
	(113)	(85)	(33)	(0)	(231)	(0)	(—)		
合計	124	89	34	0	247	0	—		
	(118)	(88)	(34)	(0)	(240)	(0)	(—)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
			人	人	人					
	事 務 職 員		167 (167)	65 (65)	232 (232)					
	技 術 職 員		16 (16)	0 (0)	16 (16)					
	図 書 館 専 門 職 員		4 (4)	33 (33)	37 (37)					
	そ の 他 の 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)					
計		188 (188)	98 (98)	286 (286)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	149,065.00 m ²	0 m ²	0 m ²	149,065.00 m ²					
	運 動 場 用 地	101,333.13 m ²	0 m ²	0 m ²	101,333.13 m ²					
	小 計	250,398.13 m ²	0 m ²	0 m ²	250,398.13 m ²					
	そ の 他	1,034.03 m ²	0 m ²	0 m ²	1,034.03 m ²					
	合 計	251,432.16 m ²	0 m ²	0 m ²	251,432.16 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		170,024.86 m ² (170,024.86 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	170,024.86 m ² (170,024.86 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	92 室	362 室	115 室	16 室 (補助職員 19 人)	4 室 (補助職員 3 人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		情報科学部 データサイエンス学科		9 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点			
	情報科学部 データサイエンス学科	25,253 [4,293] (20,303 [3,452])	1 [1] (1 [1])	1 [1] (1 [1])	197 (182)	10,252 (10,252)	1 (1)			
	計	25,253 [4,293] (20,303 [3,452])	1 [1] (1 [1])	1 [1] (1 [1])	197 (182)	10,252 (10,252)	1 (1)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体			
		8,661.35 m ²	1,196		495,445					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
		7,790.34 m ²	該当なし							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	届出学科 (共同研究費等は 大学全体)
		教員1人当り研究費等	814 千円	814 千円	814 千円	814 千円	814 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等	172,825 千円	172,825 千円	172,825 千円	172,825 千円	172,825 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	2,650 千円	2,920 千円	2,920 千円	2,920 千円	2,920 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	14,769 千円	10,426 千円	10,426 千円	10,426 千円	10,426 千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
		1,640 千円	1,490 千円	1,490 千円	1,490 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金、手数料等を充当							

既設大学等の状況	大学の名称	大阪工業大学大学院								所在地	平成29年4月から、工学研究科 都市デザイン工学専攻、電気電子工学専攻の博士後期課程の学生募集を停止。
	学部等の名称	修業年限	入学員数	編入学員数	収容員数	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
	工学研究科 博士前期課程						1.12			大阪府大阪市 旭区大宮五丁目 16番1号	
	建築・都市デザイン工学専攻	2	30	—	60	修士 (工学)	0.88	平成29年度			
	電気電子・機械工学専攻	2	50	—	100	修士 (工学)	1.20	平成29年度			
	化学・環境・生命工学専攻	2	30	—	60	修士 (工学)	1.23	平成29年度			
	工学研究科 博士後期課程						0.88				
	都市デザイン工学専攻	3	—	—	—	博士 (工学)	—	昭和42年度			
	生体医工学専攻	3	—	—	—	博士 (工学)	—	平成19年度			
	電気電子工学専攻	3	—	—	—	博士 (工学)	—	昭和42年度			
	建築・都市デザイン工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.66	平成29年度			
	電気電子・機械工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	1.00	平成29年度			
	化学・環境・生命工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	1.00	平成29年度			
	ロボティクス&デザイン工学研究科 博士前期課程						1.18			大阪府大阪市 北区茶屋町 1番45号	
	ロボティクス&デザイン工学専攻	2	30	—	60	修士 (工学)	1.18	平成29年度			
	ロボティクス&デザイン工学研究科 博士後期課程						0.16				
	ロボティクス&デザイン工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.16	平成29年度			
	情報科学研究科 博士前期課程						1.02			大阪府枚方市 北山一丁目 79番1号	
	情報科学専攻	2	40	—	80	修士 (情報学)	1.02	平成12年度			
	情報科学研究科 博士後期課程						0.00				
	情報科学専攻	3	5	—	15	博士 (情報学)	0.00	平成14年度			
	知的財産研究科 専門職学位課程						1.11			大阪府大阪市 旭区大宮五丁目 16番1号	
	知的財産専攻	2	30	—	60	知的財産修士 (専門職)	1.11	平成17年度			

既設大学等の状況	大学の名称	大阪工業大学							所在地		
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
		年	人	年次人	人		倍				
既設大学等の状況	工学部 都市デザイン工学科	4	100	3年次5	410	学士(工学)	1.01	昭和24年度	大阪府大阪市旭区大宮五丁目16番1号	平成29年4月から、工学部空間デザイン学科、ロボット工学科の学生募集及び平成31年4月からの3年次編入学募集を停止。	
	空間デザイン学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成18年度			
	建築学科	4	150	3年次5	610	学士(工学)	1.02	昭和24年度			平成29年4月から、入学定員を次のとおり変更。 工学部 都市デザイン工学科 90→100(+10) 建築学科 140→150(+10) 機械工学科 130→140(+10) 電気電子システム工学科 115→125(+10) 電子情報通信工学科 100→110(+10) 応用化学科 120→130(+10) 環境工学科 70→75(+5) 生命工学科 65→70(+5) 情報科学部 コンピュータ科学科 95→105(+10) 情報システム学科 95→105(+10) 情報メディア学科 95→105(+10) 情報ネットワーク学科 95→105(+10)
	機械工学科	4	140	3年次5	570	学士(工学)	0.98	昭和25年度			
	ロボット工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成22年度			
	電気電子システム工学科	4	125	3年次5	510	学士(工学)	1.01	昭和24年度			
	電子情報システム工学科	4	110	3年次5	450	学士(工学)	1.05	昭和34年度			
	応用化学科	4	130	3年次5	530	学士(工学)	0.99	昭和33年度			
	環境工学科	4	75	3年次5	310	学士(工学)	1.03	平成18年度			
	生命工学科	4	70	3年次5	290	学士(工学)	1.00	平成22年度			
	ロボティクス&デザイン工学部 ロボット工学科	4	90	3年次5	370	学士(工学)	1.04	平成29年度	大阪府大阪市北区茶屋町1番45号		
	システムデザイン工学科	4	90	3年次5	370	学士(工学)	1.07				
	空間デザイン学科	4	100	3年次5	410	学士(工学)	1.03				
	情報科学部 情報知能学科	4	105	3年次5	430	学士(情報学)	0.97			平成8年度	大阪府枚方市北山一丁目79番1号
	情報システム学科	4	105	3年次5	430	学士(情報学)	0.98				
	情報メディア学科	4	105	3年次5	430	学士(情報学)	1.01				
	ネットワークデザイン学科	4	105	3年次5	430	学士(情報学)	1.02	平成19年度			
	知的財産学部 知的財産学科	4	140	3年次10	580	学士(知的財産学)	1.06		平成15年度	大阪府大阪市旭区大宮五丁目16番1号	平成31年4月から、次のとおり名称変更。 工学部 電子情報通信工学科 →電子情報システム工学科 情報科学部 コンピュータ科学科 →情報知能学科 情報ネットワーク学科 →ネットワークデザイン学科

既設大学等の状況	大学の名称	摂南大学大学院							
	学部等の名称	修業年限 年	入学定員 人	編入学定員 年次人	収容定員 人	学位又は 学は称号	定員超過率 倍	開設年度 年度	所在地
既設大学等の状況	薬学研究科 博士課程 医療薬学専攻	4	4	—	16	博士 (薬学)	0.62	平成24年度	大阪府枚方市 長尾峠町 45番1号
	理工学研究科 博士前期課程 社会開発工学専攻	2	12	—	24	修士 (工学)	0.91	平成元年度	大阪府寝屋川市 池田中町 17番8号
	生産開発工学専攻	2	12	—	24	修士 (工学)	0.66	平成26年度	
	生命科学専攻	2	10	—	20	修士 (理学)	0.65	平成26年度	
	理工学研究科 博士後期課程 創生工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	平成20年度	
	生命科学専攻	3	2	—	6	博士 (理学)	0.66	平成28年度	大阪府枚方市 長尾峠町 45番1号
	経済経営学研究科 修士課程 経済学専攻	2	5	—	10	修士 (経済学)	0.00	平成26年度	
	経営学専攻	2	5	—	10	修士 (経営学)	0.10	平成26年度	
	法学研究科 修士課程 法律学専攻	2	5	—	10	修士 (法学)	0.50	平成9年度	大阪府枚方市 長尾峠町 45番1号
	国際言語文化研究科 修士課程 国際言語文化専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.20	平成11年度	
	看護学研究科 修士課程 看護学専攻	2	6	—	12	修士 (看護学)	0.75	平成28年度	

既設大学等の状況	大学の名称	摂南大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍	年度	
	理工学部						1.02		
	生命科学科	4	90	3年次5	370	学士(理学)	1.03	平成22年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号
	住環境デザイン学科	4	70	3年次5	290	学士(工学)	1.00	平成22年度	
	建築学科	4	70	3年次5	290	学士(工学)	1.05	昭和50年度	
	機械工学科	4	110	3年次5	450	学士(工学)	1.01	昭和50年度	
	電気電子工学科	4	90	3年次5	370	学士(工学)	1.04	昭和50年度	
	都市環境工学科	4	70	3年次5	290	学士(工学)	1.01	平成22年度	
	外国語学部						1.06		
	外国語学科	4	220	3年次5	890	学士(文学)	1.06	昭和57年度	
	経営学部						1.07		
	経営学科	4	170	3年次4	688	学士(経営学)	1.07	平成18年度	
	経営情報学科	4	100	3年次4	408	学士(経営学)	1.09	昭和57年度	
	薬学部						1.03		
	薬学科(6年制)	6	220	—	1,320	学士(薬学)	1.03	平成18年度	大阪府枚方市長尾峠町45番1号
	法学部						1.04		
	法律学科	4	250	3年次5	1,010	学士(法学)	1.04	昭和63年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号
	経済学部						1.05		
	経済学科	4	250	3年次4	1,008	学士(経済学)	1.05	平成22年度	
	看護学部						1.03		
	看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.03	平成24年度	大阪府枚方市長尾峠町45番1号
	農学部						0.95		
	農業生産学科	4	80	—	80	学士(農学)	0.98	令和2年度	
	応用生物科学科	4	80	—	80	学士(農学)	0.96	令和2年度	
	食品栄養学科	4	80	—	80	学士(農学)	0.90	令和2年度	
	食農ビジネス学科	4	100	—	100	学士(農学)	0.97	令和2年度	

既設大学等の状況	大学の名称	広島国際大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍	年度	
既設大学等の状況	看護学研究科 博士前期課程 看護学専攻	2	10	—	20	修士 (看護学)	0.00	平成15年度	広島県呉市 広古新開五丁目 1番1号
	看護学研究科 博士後期課程 看護学専攻	3	3	—	9	博士 (看護学)	0.00	平成24年度	
	医療・福祉科学研究科 博士前期課程 医療工学専攻	2	10	—	20	修士 (医療工学)	1.30	平成21年度	
	医療・福祉科学研究科 博士後期課程 医療工学専攻	3	2	—	6	博士 (医療工学)	0.66	平成21年度	
	医療・福祉科学研究科 修士課程 医療福祉学専攻	2	5	—	10	修士 (医療福祉学)	0.30	平成21年度	
	医療経営学専攻	2	5	—	10	修士 (医療経営学)	0.30	平成21年度	
	心理科学研究科 博士後期課程 臨床心理学専攻	3	2	—	6	博士 (臨床心理学)	0.00	平成21年度	
	心理科学研究科 専門職学位課程 実践臨床心理学専攻	2	20	—	40	臨床心理修士 (専門職)	0.65	平成21年度	広島県呉市 広古新開五丁目 1番1号
	薬学研究科 博士課程 医療薬学専攻	4	2	—	8	博士 (薬学)	0.62	平成24年度	

既設大学等の状況	大学の名称	広島国際大学								所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	保健医療学部 診療放射線学科	4年	70人	—	280人	学士 (診療放射線学)	1.05 1.11	平成10年度	広島県東広島市 黒瀬学園台 555番地36	平成27年4月から、心理科学部臨床心理学科の学生募集及び平成29年4月からの3年次編入学募集を停止。	
	医療技術学科 臨床工学専攻 臨床検査学専攻	4	100	—	490	学士 (臨床工学) (臨床検査学)	0.99	平成25年度			
	救急救命学科	4	50	—	50	学士 (救急救命学)	1.22	令和2年度		令和2年4月から、入学定員を次のとおり変更。	
	総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科	4	180	—	570	学士 (理学療法学) (作業療法学) (言語聴覚療法学) (義肢装具学)	1.07 1.12	平成25年度		保健医療学部 医療技術学科 130→100(−30) 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 130→180(+50) (義肢装具学専攻をリハビリテーション支援学科から移行)	
	理学療法学専攻 作業療法学専攻 言語聴覚療法学専攻 義肢装具学専攻	4	—	—	—	学士 (義肢装具学)	—	平成25年度			
	リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	4	—	—	—	学士 (義肢装具学)	—	平成25年度			
	医療福祉学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻 介護福祉学専攻 保育学専攻	4	—	—	—	学士 (医療福祉学)	—	平成10年度		令和2年4月から、総合リハビリテーション学部リハビリテーション支援学科、医療経営学部医療経営学科、医療栄養学部医療栄養学科の学生募集を停止。	
	医療経営学部 医療経営学科	4	—	—	—	学士 (医療経営学)	—	平成23年度		医療福祉学部医療福祉学科、心理学部心理学科の学生募集及び令和4年4月からの3年次編入学募集を停止。	
	心理科学部 臨床心理学科	4	—	—	—	学士 (臨床心理学)	—	平成13年度			
	心理学部 心理学科	4	—	—	—	学士 (心理学)	—	平成27年度			
	看護学部 看護学科	4	120	3年次 10	500	学士 (看護学)	1.05 1.05	平成15年度	広島県呉市 広古新開五丁目 1番1号		
	薬学部 薬学科(6年制)	6	120	—	720	学士 (薬学)	0.84 0.84	平成18年度			
	医療栄養学部 医療栄養学科	4	—	—	—	学士 (医療栄養学)	—	平成26年度			
	健康科学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻 介護福祉学専攻 保育福祉学専攻	4	100	—	100	学士 (医療福祉学)	0.76 0.49	令和2年度	広島県東広島市 黒瀬学園台 555番地36		
	医療経営学科	4	90	—	90	学士 (医療経営学)	0.83	令和2年度			
	心理学科	4	100	—	100	学士 (心理学)	0.83	令和2年度			
	医療栄養学科	4	60	—	60	学士 (医療栄養学)	1.01	令和2年度	広島県呉市 広古新開五丁目 1番1号		
	健康スポーツ学部 健康スポーツ学科	4	70	—	70	学士 (健康スポーツ学)	1.08 1.08	令和2年度	広島県東広島市 黒瀬学園台 555番地36		
附属施設の概要	名称：八幡工学実験場 目的：工学分野教育 所在地：京都府八幡市美濃山一ノ谷4 設置年月：昭和61年12月 規模等：土地 28,687.88 m ² 、建物 4,911.12 m ²										

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎	2前	2		○										兼1	
	社会学基礎	2前	2		○											兼1	
	情報社会論	2後	2		○											兼1	
	倫理学基礎	1前・後	2		○											兼1	
	応用倫理学	2後	2		○											兼1	
	日本の歴史	2前	2		○											兼1	
	人類の歴史	1後	2		○											兼1	
	文学基礎	2前・後	2		○											兼1	
	観る文学	2前・後	2		○											兼1	
	言語学基礎	1前・後	2		○											兼1	
	日本国憲法	2前	2		○											兼1	
	法学基礎	2後	2		○											兼1	
	情報法学	3前	2		○											兼1	
	経済学基礎	2前・後	2		○											兼1	
	現代経済論	2後	2		○											兼1	
	心理学基礎	2前・後	2		○											兼1	
	人間発達と人権	1後	2		○											兼1	
小計(17科目)	—	0	34	0	—			0	0	0	0	0	0	0	兼9	—	
外国語	英語表現(basic1)a	1前	1		○											兼4	
	英語表現(basic1)b	1後	1		○											兼4	
	英語の語法	3前・後	2		○											兼3	
	口語英語 I a	1前	1		○											兼4	
	口語英語 I b	1後	1		○											兼4	
	英語による情報技術 II	3前・後	2		○											兼1	
	英語表現(basic2)a	2前	1		○											兼2	
	英語表現(basic2)b	2後	1		○											兼2	
	口語英語 II a	2前	1		○											兼1	
	口語英語 II b	2後	1		○											兼1	
	英語による情報技術 I a	2前	1		○											兼1	
	英語による情報技術 I b	2後	1		○											兼1	
	英語演習	3後	1				○									兼1	
	海外語学研修	1・2・3・4前・後	2					○								兼1	
日本語 I	1前	2			○										兼1		
日本語 II	1後	2			○										兼1		
小計(16科目)	—	0	21	0	—			0	0	0	0	0	0	0	兼14	—	
健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学a	1前	1		○											兼2	
	基礎スポーツ科学b	2後	1		○											兼2	
	健康科学	3前	2		○											兼1	
	スポーツ科学実習	3前	1					○								兼1	
	小計(4科目)	—	0	5	0	—			0	0	0	0	0	0	0	兼2	—
共通科目・総合理学系	科学史	4前	2		○											兼1	
	小計(1科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	0	0	兼1	—
	物理学基礎	1前	2		○											兼1	
	物理現象の数理	2前	2		○											兼1	
	力学	1前	2		○											兼1	
	電磁気学	1後	2		○											兼1	
	現代物理学入門	2後	2		○											兼1	
	小計(5科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	0	0	兼2	—
	化学基礎	1前・後	2		○											兼1	
	環境情報科学	1後・2前	2		○											兼1	
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	0	兼2	—
	地球科学基礎	1前	2		○											兼1	
	地球環境	1後	2		○											兼1	
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	0	兼1	—
	生命科学基礎	1前	2		○											兼1	
	情報生命科学	1後	2		○											兼1	
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	0	兼1	—
総合	視る自然科学	2後	2		○										兼5	オムニバス・共同(一部)	
小計(1科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	0	0	兼5	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
キャリア科目	基礎ゼミナール	1前		1				○		1	1				兼17			
	キャリアステップ	1後		1						1								
	キャリアデザインⅠ	2前		1				○			1							
	キャリアデザインⅡ	2後		1				○										
	グローバルテクノロジー論	2前・後		1														
	OIT概論	1前		1						1						○		
	小計(6科目)	—	0	6	0			—	2	1	0	0	0	0	兼3	—		
専門科目	数理科学	線形数学Ⅰ	1前	2				○			1							
		線形数学Ⅱ	3後		2			○									兼1	
		微積分Ⅰ	1前	2					○		1							
		微積分Ⅱ	3後		2				○								兼1	
		情報数学	2後		2				○			1						
		微分方程式	1後		2				○			1						
		グラフ理論	2前		2				○			1						
		数理論法	3後		2				○		1							
		確率・統計	2前		2				○		1							
			小計(9科目)	—	6	12	0			—	2	1	1	0	0	0	兼1	—
専門基礎	コンピュータ入門	1前	2					○			1							
	情報通信ネットワーク	2前		2				○			1							
	プログラミング基礎	1後		2				○			1							
	テクニカルライティング	1後	2					○		1						兼1		
	情報処理基礎	1後		2				○		2						兼3		
	コンピュータリテラシー	1前		2				○		2						集中/オムニバス		
	データサイエンス入門	1前	2					○		1								
	データ構造とアルゴリズム	2前		2				○		1								
	実験計画法	3前		2				○				1						
	統計解析	2後	2					○		1								
	多変量解析	3前		2				○				1						
	IoT概論	1後		2				○			1							
	教育心理学	1後		2				○								兼1		
	小計(13科目)	—	8	18	0			—	5	1	1	0	0	0	兼5	—		
基幹科目	データベースシステム	2後		2				○		1								
	オペレーションズ・リサーチ	3前		2				○		1								
	情報技術者論	3後	2					○		1						兼9		
	情報ゼミナール	3後	2					○		5	3	1				オムニバス・共同(一部)		
	システム工学	2前		2				○								兼1		
	情報セキュリティの基礎	3前		2				○								兼1		
	経営システム論Ⅰ	2前	2					○		1								
	データマイニング	2後		2				○			1							
	テキストマイニング	2①・②		1				○			1							
	ビジュアルプログラミング論	2後		2				○		1								
	ソフトウェア工学	2後		2				○		1								
	人工知能	3前		2				○		1								
	パターン認識	2前		2				○		1								
	機械学習	2前	2					○			1							
発想法と問題解決	2①・②		1				○			1								
	小計(15科目)	—	8	20	0			—	5	3	1	0	0	0	兼10	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	応用科目	モデリングとシミュレーション	3後	2		○				1					兼3 オムニバス 兼9 集中／共同 兼1 兼1 兼3 集中／オムニバス 兼15 -
	経営システム論Ⅱ	3後	2		○										
	情報科学実践演習(国際PBL)	2前・後	1			○			1						
	マーケティング論	3前	2			○			1						
	数理ファイナンス	3後	2			○			1						
	ロジスティクス	3後	2			○				1					
	企業会計論	3前	2			○			1						
	教育工学	3後	2			○			1						
	教育方法論	2後	2			○									
	情報科教育法a	3前	2			○									
	工業経営論	2前	2			○			1						
	投資意思決定論	3後	2			○			1						
	経営戦略論	3後	2			○									
	小計(13科目)	-	0	25	0	-	-	-	4	2	0	0	0	0	
演習科目	C演習Ⅰ	1後	3			○				1				共同(一部) 集中	
	C演習Ⅱ	2前	3			○				1					
	Java演習	2後	3			○			1						
	データサイエンス実践演習Ⅰ	2後	2			○			2	1	1				
	データサイエンス実践演習Ⅱ	3前	2			○			1	1					
	データサイエンス実践演習Ⅲ	3後	2			○			1	1					
	価値創造演習	3後	2			○			1						
小計(7科目)	-	7	10	0	-	-	-	5	3	1	0	0	0		
合計(113科目)		-	29	177	0	-	-	-	5	3	1	0	0	0	兼69 -
学位又は称号		学士(情報学)		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位を含む)、キャリア科目2単位および専門科目86単位(必修科目29単位、選択科目<選択必修科目12単位を含む>57単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。 [履修科目の登録の上限:44単位(年間)]							1学年の学期区分		2期(一部科目は4期)						
							1学期の授業期間		14週(一部科目は7週)						
							1時限の授業時間		100分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部情報知能学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎	2前	2		○										兼1	
		社会学基礎	2前	2		○										兼1	
		情報社会論	2後	2		○										兼1	
		倫理学基礎	1前・後	2		○										兼1	
		応用倫理学	2後	2		○										兼1	
		日本の歴史	2前	2		○										兼1	
		人類の歴史	1後	2		○										兼1	
		文学基礎	2前・後	2		○										兼1	
		観る文学	2前・後	2		○										兼1	
		言語学基礎	1前・後	2		○										兼1	
		日本国憲法	2前	2		○										兼1	
		法学基礎	2後	2		○										兼1	
		情報法学	3前	2		○										兼1	
		経済学基礎	2前・後	2		○										兼1	
		現代経済論	2後	2		○										兼1	
		心理学基礎	2前・後	2		○										兼1	
		人間発達と人権	1後	2		○										兼1	
	小計(17科目)	—	0	34	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼9	—	
外国語	英語表現(basic1)a	1前	1		○											兼4	
	英語表現(basic1)b	1後	1		○											兼4	
	英語の語法	3前・後	2		○											兼3	
	口語英語 I a	1前	1		○											兼4	
	口語英語 I b	1後	1		○											兼4	
	英語による情報技術 II	3前・後	2		○											兼2	
	英語表現(basic2)a	2前	1		○											兼2	
	英語表現(basic2)b	2後	1		○											兼2	
	口語英語 II a	2前	1		○											兼1	
	口語英語 II b	2後	1		○											兼1	
	英語による情報技術 I a	2前	1		○											兼1	
	英語による情報技術 I b	2後	1		○											兼1	
	英語演習	3後	1				○									兼1	
	海外語学研修	1・2・3・4前・後	2						○							兼1	集中
	日本語 I	1前	2		○										兼1		
	日本語 II	1後	2		○										兼1		
	小計(16科目)	—	0	21	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼14	—	
健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学a	1前	1		○											兼3	
	基礎スポーツ科学b	2後	1		○											兼3	
	健康科学	3前	2		○											兼1	
	スポーツ科学実習	3前	1					○								兼1	
	小計(4科目)	—	5		—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼4	—	
共通科目・総合理学系	科学史	4前	2		○											兼1	
	小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼1	—	
	物理学基礎	1前	2		○				1								
	物理現象の数理	2前	2		○				1								
	力学	1前	2		○				1								
	電磁気学	1後	2		○				1								
	現代物理学入門	2後	2		○				1								
	小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	0		—
	化学基礎	1前・後	2		○												兼1
	環境情報科学	1後・2前	2		○												兼1
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼2	—	
	地球科学基礎	1前	2		○												兼1
	地球環境	1後	2		○												兼1
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼1	—	
	生命科学基礎	1前	2		○												兼1
	情報生命科学	1後	2		○												兼1
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼1	—	
総合	視る自然科学	2後	2		○				2							兼3	オムニバス・共同(一部)
小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	兼3	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部情報知能学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
キャリア科目	基礎ゼミナール	1前		1				○		5	3	4			兼18	集中 <small>集中/オムニバス・共同(一部)</small>	
	キャリアステップ	1後		1					1								
	キャリアデザインⅠ	2前		1				○	1								
	キャリアデザインⅡ	2後		1				○									
	グローバルテクノロジー論	2前・後		1													
	OIT概論	1前		1					○	1							
	小計(6科目)	—	0	6	0			—	5	3	4	0	0	兼32	—		
専門科目	数理科学	線形数学Ⅰ	1前・後		2			○								兼2	
		線形数学Ⅱ	3後		2			○								兼1	
		微積分Ⅰ	1前・後		2				○							兼3	
		微積分Ⅱ	3後		2				○	1						兼1	
		情報数学	2後		2				○							兼1	
		周波数解析	2前		2				○	1						兼1	
		微分方程式	1後		2				○			1				兼1	
		グラフ理論	2前		2				○							兼1	
		確率・統計	3前		2				○							兼1	
			小計(9科目)	—	0	18	0			—	1		1	0	0	兼6	
専門基礎	コンピュータ基礎	コンピュータ入門	1前	2				○		1						兼1	集中/オムニバス
		情報通信ネットワーク	2前	2				○									
		プログラミング基礎	1後	2					○		1						
		テクニカルライティング	1後	2					○	1							
		デジタル回路	1後	2					○	1							
		情報処理基礎	1後	2					○		1					兼4	
		プログラミング入門	1後	2					○		2						
		データ構造とアルゴリズムⅠ	2前	2					○			1					
		アセンブリ言語	2後	2					○		1						
		ソフトウェア工学Ⅰ	2後	2					○			1				兼1	
		組み込みシステム基礎	2前	2					○		1					兼1	
		コンピュータリテラシー	1前	2					○							兼1	
	小計(12科目)	—	10	14	0			—	2	3	1	0	0	兼8	—		
基幹科目	基礎	オートマトンと形式言語	3前	2				○			1					兼1	共同 <small>オムニバス・共同(一部)</small>
		計算機アーキテクチャ	2前	2				○			1					兼2	
		プロセッサ設計	3前	2					○			1					
		集積回路工学	3前	2					○	1							
		データ構造とアルゴリズムⅡ	3前	2					○							兼1	
		システムプログラム	3前	2					○							兼2	
		オペレーティングシステム	2後	2					○	1							
		プログラミング言語論	3後	2					○		1						
		データベースシステム	2後	2					○							兼1	
		ソフトウェア工学Ⅱ	3前	2					○							兼1	
		Unixプログラミング	3後	2					○							兼2	
		情報技術者論	3後	2					○	1	1					兼8	
		情報ゼミナール	3後	2					○	5	3	4					
		インターフェース・センサ回路	2前	2					○							兼1	
情報セキュリティの基礎	3前	2					○							兼1			
	小計(15科目)	—	8	22	0			—	5	3	4	0	0	兼16	—		
応用科目	応用	知能制御工学基礎	3前	2				○			1					兼1	共同 <small>集中/共同</small>
		集積回路設計	3後	2				○		1							
		画像処理	3後	2					○			1					
		信号処理	3後	2					○			1					
		コンピュータグラフィックスⅠ	3後	2					○							兼1	
		知能情報処理	3後	2					○	1							
		知能制御工学	3後	2					○		1						
		情報科学実践演習(国際PBL)	2前・後	1					○			2				兼7	
	小計(8科目)	—	0	15	0			—	2	1	2	0	0	兼9	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部情報知能学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目 演習科目	C演習Ⅰ	1後	3				○			1	1			兼1 共同 共同 共同 共同 共同 共同
	C演習Ⅱ	2前		3			○				2			
	Java演習	2後		3			○		1	1				
	ソフトウェア工学演習	3前		2			○				1			
	情報科学演習Ⅰ	2後	2				○		1	3	2			
	情報科学演習Ⅱ	3前	2				○		1	1	4			
	情報科学演習Ⅲ	3後	2				○		2	2	2			
	知能制御工学演習	3後		1			○			1				
	CSプロジェクト演習	4前		1			○				1			兼3 集中/共同
小計(9科目)		—	9	10	0		—		3	3	4	0	0	兼4 —
合計(109科目)		—	27	171	0		—		5	3	4	0	0	兼79 —
学位又は称号		学士(情報学)		学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学<コンピュータ・サイエンスコースは必修科目8単位を含む>12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系<コンピュータ・サイエンスコースは必修科目6単位を含む>12単位以上を含む<人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要>)、キャリア科目2単位および専門科目86単位(必修科目27単位、選択科目<選択必修科目で総合コースは12単位、コンピュータ・サイエンスコースは39単位を含む>59単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。 [履修科目の登録の上限:44単位(年間)]							1学年の学期区分		2期					
							1学期の授業期間		14週					
							1時限の授業時間		100分					

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部情報システム学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎	2前	2		○			1									
	社会学基礎	2前	2		○												兼1	
	情報社会論	2後	2		○												兼1	
	倫理学基礎	1前・後	2		○				1									
	応用倫理学	2後	2		○				1									
	日本の歴史	2前	2		○												兼1	
	人類の歴史	1後	2		○												兼1	
	文学基礎	2前・後	2		○						1							
	観る文学	2前・後	2		○						1							
	言語学基礎	1前・後	2		○						1							
	日本国憲法	2前	2		○												兼1	
	法学基礎	2後	2		○												兼1	
	情報法学	3前	2		○												兼1	
	経済学基礎	2前・後	2		○												兼1	
	現代経済論	2後	2		○												兼1	
	心理学基礎	2前・後	2		○												兼1	
	人間発達と人権	1後	2		○												兼1	
小計(17科目)	—	—	0	34	0	—	—	1	0	1	0	0	0	0	0	兼7	—	
外国語	英語表現(basic1)a	1前	1		○												兼2	
	英語表現(basic1)b	1後	1		○								1				兼2	
	英語の語法	3前・後	2		○												兼2	
	口語英語 I a	1前	1		○												兼4	
	口語英語 I b	1後	1		○												兼4	
	英語による情報技術 II	3前・後	2		○												兼1	
	英語表現(basic2)a	2前	1		○												兼2	
	英語表現(basic2)b	2後	1		○												兼2	
	口語英語 II a	2前	1		○												兼1	
	口語英語 II b	2後	1		○												兼1	
	英語による情報技術 I a	2前	1		○												兼1	
	英語による情報技術 I b	2後	1		○												兼1	
	英語演習	3後	1				○										兼1	
	海外語学研修	1・2・3・4前・後	2					○									兼1	
日本語 I	1前	2			○											兼1		
日本語 II	1後	2			○											兼1		
小計(16科目)	—	—	0	21	0	—	—	0	0	1	0	0	0	0	0	兼11	—	
健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学a	1前	1		○												兼3	
	基礎スポーツ科学b	2後	1		○												兼3	
	健康科学	3前	2		○												兼1	
	スポーツ科学実習	3前	1					○									兼1	
	小計(4科目)	—	—	0	5	0	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼4	—
共通科目・総合理学系	科学史	4前	2		○												兼1	
	小計(1科目)	—	—	0	2	0	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1	—
	物理	物理学基礎	1前	2		○												兼1
		物理現象の数理	2前	2		○												兼1
		力学	1前	2		○												兼1
		電磁気学	1後	2		○												兼1
		現代物理学入門	2後	2		○												兼1
	小計(5科目)	—	—	0	10	0	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2	—
	化学	化学基礎	1前・後	2		○												兼1
		環境情報科学	1後・2前	2		○												兼1
		小計(2科目)	—	—	0	4	0	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2
	地球科学	地球科学基礎	1前	2		○												兼1
		地球環境	1後	2		○												兼1
		小計(2科目)	—	—	0	4	0	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1
	生物	生命科学基礎	1前	2		○												兼1
		情報生命科学	1後	2		○												兼1
		小計(2科目)	—	—	0	4	0	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1
総合	視る自然科学	2後	2		○												兼5	
	小計(1科目)	—	—	0	2	0	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼5	オムニバス・共同(一部)

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部情報システム学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
キャリア科目	基礎ゼミナール	1前		1				○		1	2	2			兼25		
	キャリアステップ	1後		1						1							
	キャリアデザインⅠ	2前		1				○		1							
	キャリアデザインⅡ	2後		1				○				1					
	グローバルテクノロジー論	2前・後		1													
	OIT概論	1前		1					○	1						兼1	集中
	小計(6科目)	—	0	6	0			—	4	2	2	0	0	兼38	—		
専門科目	数理科学	線形数学Ⅰ	1前・後		2			○								兼3	
		線形数学Ⅱ	3後		2			○								兼1	
		微積分Ⅰ	1前・後		2				○		1					兼1	
		微積分Ⅱ	3後		2			○								兼1	
		情報数学	2後		2			○			1						
		周波数解析	2前		2			○								兼1	
		微分方程式	1後		2			○		1						兼1	
		グラフ理論	2前		2			○				1					
		数理計画法	3後		2			○								兼1	
		確率・統計	3前		2			○		1							
	小計(10科目)	—	0	20	0			—	1	1	1	0	0	兼5	—		
専門基礎	コンピュータ入門	1前	2				○			1					兼1		
	情報通信ネットワーク	2前		2			○				1						
	プログラミング基礎	1後		2			○				1						
	オートマトンと形式言語	3前		2			○				1						
	テクニカルライティング	1後	2				○		1						兼1		
	デジタル回路	1後		2			○				1						
	情報処理基礎	1後		2			○		2						兼3	集中/オムニバス	
	計算機アーキテクチャ	2後	2				○		1								
	データ構造とアルゴリズムⅠ	2前		2			○								兼1		
	システムプログラム	3前		2			○								兼2	共同	
	オペレーティングシステム	2後	2				○								兼1		
	アセンブリ言語	2後		2			○								兼1		
	コンピュータリテラシー	1前		2			○				1				兼1		
	Unixシステム入門	2前		2			○					1			兼1		
	小計(14科目)	—	8	20	0			—	2	3	1	0	0	兼11	—		
基幹科目	データ構造とアルゴリズムⅡ	3前		2			○								兼1		
	プログラミング言語論	3前		2			○				1						
	データベースシステム	2後	2				○		1								
	ソフトウェア工学Ⅰ	2後		2			○		1								
	ソフトウェア工学Ⅱ	3前		2			○										
	ヒューマンインタフェース	3前		2			○								兼1		
	ネットワーク設計	3前		2			○								兼1		
	オペレーションズ・リサーチ	3前		2			○								兼1		
	情報技術者論	3後	2				○		2						兼8	オムニバス・共同(一部)	
	情報システムの計画策定	3前		2			○		1								
	情報ゼミナール	3後	2				○		4	4	3						
	システム工学	2前		2			○		1								
	情報セキュリティの基礎	3前		2			○								兼1		
経営システム論Ⅰ	3前		2			○								兼1			
	小計(14科目)	—	8	20	0			—	4	4	3	0	0	兼12	—		
応用科目	情報検索	3後		2			○		1								
	人工知能	3後		2			○		1								
	コンピュータグラフィックスⅠ	3後		2			○								兼1		
	構造化文書処理	3後		2			○								兼1		
	高信頼システム	3後		2			○		1								
	モデリングとシミュレーション	3後		2			○								兼1		
	Webサービス論	3後		2			○		1								
	経営システム論Ⅱ	3後		2			○		1						兼3	オムニバス	
	情報システム学特別講義	3後		2			○		2	3	2					共同	
	情報科学実践演習(国際PBL)	2前・後		1				○		1					兼8	集中/共同	
	小計(10科目)	—	0	19	0			—	3	3	2	0	0	兼13	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部情報システム学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門 科 目	C演習Ⅰ	1後	3				○			1	1				兼1 兼1 兼2 兼3 兼7 —	共同
	C演習Ⅱ	2前		3			○			3	1					共同
	Java演習	2後		3			○			2	1					共同
	ソフトウェア工学演習	3前		2			○				1					共同
	情報システム基礎演習	2後	2				○		1	1	2					共同
	情報システム専門演習	3前	2				○		1	1						共同
	情報システム応用演習	3後		2			○		1	1	1					共同
	CSプロジェクト演習	4前		1			○				1					集中/共同
小計(8科目)	—	—	7	11	0	—	—	2	4	2	0	0	兼7	—		
合計(112科目)		—	23	182	0	—	—	5	4	5	0	0	兼78	—		
学位又は称号		学士(情報学)		学位又は学科の分野			工学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学<コンピュータ・サイエンスコースは必修科目8単位を含む>12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系<コンピュータ・サイエンスコースは必修科目6単位を含む>12単位以上を含む<人文社会科学、総合理学系のいずれか1は14単位が必要>)、キャリア科目2単位および専門科目86単位(必修科目23単位、選択科目<選択必修科目で総合コースは12単位、コンピュータ・サイエンスコースは39単位を含む>63単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。 [履修科目の登録の上限:44単位(年間)]							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		14週							
							1時限の授業時間		100分							

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部情報メディア学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目・総合人間学系	哲学基礎	2前		2		○										兼1
	社会学基礎	2前		2		○										兼1
	情報社会論	2後		2		○										兼1
	倫理学基礎	1前・後		2		○										兼1
	応用倫理学	2後		2		○										兼1
	日本の歴史	2前		2		○										兼1
	人類の歴史	1後		2		○										兼1
	文学基礎	2前・後		2		○										兼1
	観る文学	2前・後		2		○										兼1
	言語学基礎	1前・後		2		○										兼1
	日本国憲法	2前		2		○										兼1
	法学基礎	2後		2		○										兼1
	情報法学	3前		2		○										兼1
	経済学基礎	2前・後		2		○										兼1
	現代経済論	2後		2		○										兼1
	心理学基礎	2前・後		2		○										兼1
	人間発達と人権	1後		2		○										兼1
小計(17科目)		—	0	34	0	—			0	0	0	0	0	0	兼9	—
外国語	英語表現(basic1)a	1前		1		○			1		1					兼1
	英語表現(basic1)b	1後		1		○			1		1					兼1
	英語の語法	3前・後		2		○				1						兼1
	口語英語 I a	1前		1		○				1						兼3
	口語英語 I b	1後		1		○				1						兼3
	英語による情報技術 II	3前・後		2		○			1							兼1
	英語表現(basic2)a	2前		1		○				1	1					
	英語表現(basic2)b	2後		1		○				1	1					
	口語英語 II a	2前		1		○										兼1
	口語英語 II b	2後		1		○										兼1
	英語による情報技術 I a	2前		1		○			1							
	英語による情報技術 I b	2後		1		○			1							
	英語演習	3後		1				○			1					
	海外語学研修	1・2・3・4前・後		2												兼1
日本語 I	1前		2		○										兼1	
日本語 II	1後		2		○										兼1	
小計(16科目)		—	0	21	0	—			2	2	1	0	0	0	兼9	—
健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学a	1前		1		○										兼3
	基礎スポーツ科学b	2後		1		○										兼3
	健康科学	3前		2		○										兼1
	スポーツ科学実習	3前		1				○								兼1
	小計(4科目)		—	0	5		—		0	0	0	0	0	0	兼4	—
共通科目・総合理学系	科学史	4前		2		○										兼1
	小計(1科目)		—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	0	兼1	—
	物理学基礎	1前		2		○										兼1
	物理現象の数理	2前		2		○										兼1
	力学	1前		2		○										兼1
	電磁気学	1後		2		○										兼1
	現代物理学入門	2後		2		○										兼1
	小計(5科目)		—	0	10	0	—		0	0	0	0	0	0	兼2	—
	化学基礎	1前・後		2		○										兼1
	環境情報科学	1後・2前		2		○										兼1
	小計(2科目)		—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	兼2	—
	地球科学基礎	1前		2		○										兼1
	地球環境	1後		2		○										兼1
	小計(2科目)		—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	兼1	—
	生命科学基礎	1前		2		○										兼1
	情報生命科学	1後		2		○										兼1
	小計(2科目)		—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	兼1	—
総合	視る自然科学	2後		2		○									兼5	オムニバス・共同(一部)
小計(1科目)		—	0	2	0	—		0	0	0	0	0	0	兼5	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部情報メディア学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
キャリア科目	基礎ゼミナール	1前		1				○		1	3	1			兼25	集中 <small>集中/オムニバス・共同(一部)</small>
	キャリアステップ	1後		1					1							
	キャリアデザインⅠ	2前		1				○				1				
	キャリアデザインⅡ	2後		1				○				1				
	グローバルテクノロジー論	2前・後		1						1						
	OIT概論	1前		1					○	1						
小計(6科目)		—	0	6	0			—	4	3	2	0	0	兼37	—	
専門科目 数理科学	線形数学Ⅰ	1前・後		2				○							兼3	オムニバス 共同
	線形数学Ⅱ	3後		2				○							兼1	
	微積分Ⅰ	1前・後		2				○							兼3	
	微積分Ⅱ	3後		2				○							兼1	
	情報数学	2後		2				○							兼1	
	周波数解析	2前		2				○							兼1	
	微分方程式	1後		2				○		1					兼1	
	グラフ理論	2前		2				○		1					兼1	
	数理計画法	3後		2				○							兼1	
	確率・統計	3前		2				○							兼1	
小計(10科目)		—	0	20	0			—	0	1	0	0	0	兼8	—	
専門基礎	コンピュータ入門	1前	2					○		1					兼1	オムニバス 共同
	情報通信ネットワーク	2前		2				○							兼1	
	オートマトンと形式言語	3前		2				○							兼1	
	テクニカルライティング	1後	2					○			1				兼1	
	デジタル回路	1後		2				○			1				兼4	
	情報処理基礎	1後		2				○		1					兼4	
	プログラミング入門	1前		2				○		1					兼1	
	計算機アーキテクチャ	2前	2					○		1					兼1	
	情報セキュリティの基礎	3前		2				○							兼1	
	データ構造とアルゴリズムⅠ	2前		2				○							兼1	
	データ構造とアルゴリズムⅡ	3前		2				○							兼1	
	システムプログラム	3前		2				○			1				兼1	
	オペレーティングシステム	2後	2					○		1					兼1	
	プログラミング言語論	3後		2				○							兼1	
	アセンブリ言語	3後		2				○		1					兼1	
	データベースシステム	2後		2				○							兼1	
	ソフトウェア工学Ⅰ	2後		2				○							兼1	
	ソフトウェア工学Ⅱ	3前		2				○							兼1	
	コンピュータリテラシー	1前		2				○							兼1	
小計(19科目)		—	8	30	0			—	4	1	2	0	0	兼16	—	
基幹科目	メディアデータ論	1後		2				○		1					兼1	共同 オムニバス・共同(一部)
	コンピュータグラフィックスⅠ	2前		2				○		1					兼1	
	人間情報学	2前		2				○		1		1			兼1	
	ヒューマンインタフェース	3前		2				○		1					兼1	
	画像情報処理Ⅰ	2後		2				○			1				兼1	
	音響処理	2前		2				○		1					兼1	
	感性情報処理	2後		2				○		1					兼1	
	色彩学	3後		2				○							兼1	
	情報技術者論	3後	2					○		3					兼7	
	情報ゼミナール	3後		2				○		6	4	2			兼7	
小計(10科目)		—	4	16	0			—	6	4	2	0	0	兼8	—	
応用科目	コンピュータグラフィックスⅡ	3後		2				○			1				兼1	集中/共同
	構造化文書処理	3後		2				○			1				兼1	
	画像情報処理Ⅱ	3前		2				○		1					兼1	
	CAD	3後		2				○		1					兼1	
	音声情報処理	3前		2				○		1					兼1	
	メディアインタフェース	3後		2				○		1					兼1	
	Webデザイン	3前		2				○		1					兼1	
	情報科学実践演習(国際PBL)	2前・後		1				○		3	1	1			兼4	
小計(8科目)		—	0	15	0			—	5	3	1	0	0	兼4	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部情報メディア学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 演習科目	アニメーション演習	1前		1				○		1	1				共同 オムニバス・共同(一部) 兼2 共同 共同 共同 共同 共同 共同 共同 兼3 集中/共同 兼5 —
	情報メディア入門	1後	1					○		6	4	2			
	C演習 I	1後	3					○			2				
	C演習 II	2前		3				○			2	1			
	Java演習	2後		3				○		1	2				
	ソフトウェア工学演習	3前		2				○							
	情報メディア演習 I	2後	2					○		4	1	2			
	情報メディア演習 II	3前	2					○		1	3				
	情報メディア演習 III	3後	2					○		5		2			
	CSプロジェクト演習	4前		1				○		1					
小計(10科目)		—	10	10	0			—		6	4	2	0	0	兼5
合計(113科目)		—	22	183	0			—		7	6	3	0	0	兼74
学位又は称号		学士(情報学)		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学<コンピュータ・サイエンスコースは必修科目8単位を含む>12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系<コンピュータ・サイエンスコースは必修科目6単位を含む>12単位以上を含む<人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要>)、キャリア科目2単位および専門科目86単位(必修科目22単位、選択科目<選択必修科目で総合コースは12単位、コンピュータ・サイエンスコースは41単位を含む>64単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。 [履修科目の登録の上限:44単位(年間)]							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		14週						
							1時限の授業時間		100分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部ネットワークデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎	2前	2		○										兼1	
	社会学基礎	2前	2			○										兼1	
	情報社会論	2後	2			○										兼1	
	倫理学基礎	1前・後	2			○										兼1	
	応用倫理学	2後	2			○										兼1	
	日本の歴史	2前	2			○										兼1	
	人類の歴史	1後	2			○										兼1	
	文学基礎	2前・後	2			○										兼1	
	観る文学	2前・後	2			○										兼1	
	言語学基礎	1前・後	2			○										兼1	
	日本国憲法	2前	2			○										兼1	
	法学基礎	2後	2			○										兼1	
	情報法学	3前	2			○										兼1	
	経済学基礎	2前・後	2			○										兼1	
	現代経済論	2後	2			○										兼1	
	心理学基礎	2前・後	2			○										兼1	
	人間発達と人権	1後	2			○										兼1	
	小計(17科目)	—	0	34	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼9	—	
外国語	英語表現(basic1)a	1前		1		○										兼4	
	英語表現(basic1)b	1後		1		○										兼4	
	英語の語法	3前・後		2		○										兼3	
	口語英語 I a	1前		1		○										兼4	
	口語英語 I b	1後		1		○										兼4	
	英語による情報技術 II	3前・後		2		○										兼1	
	英語表現(basic2)a	2前		1		○										兼1	
	英語表現(basic2)b	2後		1		○										兼1	
	口語英語 II a	2前		1		○										兼1	
	口語英語 II b	2後		1		○										兼1	
	英語による情報技術 I a	2前		1		○										兼1	
	英語による情報技術 I b	2後		1		○										兼1	
	英語演習	3後		1			○									兼1	
	海外語学研修	1・2・3・4前・後		2					○							兼1	集中
日本語 I	1前		2		○										兼1		
日本語 II	1後		2		○										兼1		
	小計(16科目)	—	0	21	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼13	—	
健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学a	1前		1		○										兼1	
	基礎スポーツ科学b	2後		1		○										兼1	
	健康科学	3前		2		○											
	スポーツ科学実習	3前		1				○									
	小計(4科目)	—		5		—	—	—	0	1	1	0	0	0	兼1	—	
共通科目・総合理学系	科学史	4前		2		○										兼1	
	小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼1	—	
	物理学基礎	1前		2		○										兼1	
	物理現象の数理	2前		2		○										兼1	
	力学	1前		2		○										兼1	
	電磁気学	1後		2		○										兼1	
	現代物理学入門	2後		2		○										兼1	
	小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼2	—	
	化学基礎	1前・後		2		○										兼1	
	環境情報科学	1後・2前		2		○										兼1	
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼2	—	
	地球科学基礎	1前		2		○											
	地球環境	1後		2		○											
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	0	—	
	生命科学基礎	1前		2		○											
	情報生命科学	1後		2		○											
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	0	—	
総合	視る自然科学	2後		2		○										兼2	オムニバス・共同(一部)
小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	—	1	2	0	0	0	0	兼2	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部ネットワークデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
キャリア科目	基礎ゼミナール	1前		1				○		1	2	3			兼24	集中 <small>集中/オムニバス・共同(一部)</small>
	キャリアステップ	1後		1					1							
	キャリアデザインⅠ	2前		1				○			1					
	キャリアデザインⅡ	2後		1				○								
	グローバルテクノロジー論	2前・後		1												
	OIT概論	1前		1					○	1						
	小計(6科目)	—	0	6	0	—	—	—	—	2	2	3	0	0	兼37	
専門科目	線形数学Ⅰ	1前・後		2				○							兼2	—
	線形数学Ⅱ	3後		2				○							兼1	
	微積分Ⅰ	1前・後		2				○							兼2	
	微積分Ⅱ	3後		2				○							兼1	
	情報数学	2後		2				○							兼1	
	微分方程式	1後		2				○	1						兼1	
	グラフ理論	2前		2				○							兼1	
	数理計画法	3後		2				○							兼1	
	確率・統計	3前		2				○							兼1	
	小計(9科目)	—	0	18	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	兼8	
専門基礎	コンピュータ入門	1前	2					○								集中/オムニバス オムニバス
	情報通信ネットワーク	2前	2					○			1					
	テクニカルライティング	1後	2					○			1				兼1	
	デジタル回路	1後	2					○	1							
	情報処理基礎	1後	2					○							兼5	
	計算機アーキテクチャ	2前	2					○	1							
	データ構造とアルゴリズムⅠ	2前	2					○		1						
	オペレーティングシステム	2後	2					○		1						
	Unix入門	1①	1					○		1						
	データベースシステム	2後	2					○							兼1	
	ソフトウェア工学Ⅰ	2後	2					○							兼1	
	ネットワークデザイン入門	1①	1					○	4	1						
	通信理論	2前	2					○	1							
	コンピュータリテラシー	1前	2					○							兼1	
	デジタル信号処理	2前	2					○	1							
プログラミングリテラシー(入門)	1②	1					○			1						
プログラミングリテラシー(読解)	1④	1					○			1						
情報セキュリティの基礎	1前	2					○	1								
小計(18科目)	—	11	21	0	—	—	—	—	4	3	1	0	0	兼8	—	
基幹科目	Webサイト制作	3前		2				○	1							オムニバス・共同(一部)
	モバイルコミュニケーション	3前		2				○	1							
	ネットワーク設計	2後		2				○	1							
	サーバ構築管理	3後		2				○		1						
	ネットワークアプリケーション	3後		2				○	1							
	情報技術者論	3後	2					○	1		1					
	情報ゼミナール	3後	2					○	5	5	3					
	情報セキュリティの応用	3前		2				○	1							
小計(8科目)	—	4	12	0	—	—	—	—	5	5	3	0	0	兼8	—	
応用科目	オートマトンと形式言語	3前		2				○							兼1	共同 集中/共同
	データ構造とアルゴリズムⅡ	3前		2				○			1				兼1	
	システムプログラム	3前		2				○							兼1	
	プログラミング言語論	3前		2				○							兼1	
	ソフトウェア工学Ⅱ	3前		2				○							兼1	
	構造化文書処理	3後		2				○	1							
	ヒューマンインタフェース	3前		2				○							兼1	
	メディア通信概論	3後		2				○	1							
	オペレーションズ・リサーチ	3前		2				○							兼1	
	モデリングとシミュレーション	3後		2				○							兼1	
	情報科学実践演習(国際PBL)	2前・後		1							1				兼8	
小計(11科目)	—	0	21	0	—	—	—	—	2	1	1	0	0	兼16	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(情報科学部ネットワークデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門 科 目	C演習Ⅰ	1後	3				○			1	1				兼1 兼2 兼2 兼1 兼3 兼7	共同
	C演習Ⅱ	2前		3			○				2					共同
	Java演習	2後		3			○			1	1					共同
	ソフトウェア工学演習	3前		2			○									共同
	ネットワークデザイン基礎演習	2後	2				○		3	2	1					共同
	ネットワークデザイン専門演習	3前	2				○		1	1	1					共同
	ネットワーク・セキュリティ演習	3後		2			○		1	1						共同
	CSプロジェクト演習	4前		1			○					1				集中/共同
小計(8科目)	—	—	7	11	0	—	—	4	3	2	0	0	兼7	—		
合計(110科目)		—	22	175	0	—	—	5	5	3	0	0	兼77	—		
学位又は称号		学士(情報学)		学位又は学科の分野			工学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学<コンピュータ・サイエンスコースは必修科目8単位を含む>12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系<コンピュータ・サイエンスコースは必修科目6単位を含む>12単位以上を含む<人文社会科学、総合理学系のいずれか1は14単位が必要>)、キャリア科目2単位および専門科目86単位(必修科目22単位、選択科目<選択必修科目で総合コースは12単位、コンピュータ・サイエンスコースは39単位を含む>64単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。 [履修科目の登録の上限:44単位(年間)]							1学年の学期区分		2期(一部科目は4期)							
							1学期の授業期間		14週(一部科目は7週)							
							1時限の授業時間		100分							

授 業 科 目 の 概 要			
(情報科学部 データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎	哲学は、自らの納得の感覚に従い「考えること」を徹底して行う学問である。本講義では、人間が存在するために情報というものがどのような局面でどのような役割を果たしているのか、また基本的世界観として情報と実在の関係はどのようになっているのか、といったテーマに即して哲学を実践することを目的とする。より具体的には、生命と情報の関係、自然界における人間の位置、情報の伝達、情報とリアリティについてどう考えるべきかを探求する。
	社会学基礎	自己、家族、仕事など日常的な事柄を出発点に社会的な分析を加えることによって、今まで当たり前と想っていたこと、見過ごしてきた現象について、社会学独自の見方をすることで問題を再発見していくことができる。また、その問題に対して社会的な想像力をもって解決への道筋をみいだせるような考える力を身につける。そのために、まずは社会学上の様々な概念を分析のためのツールとして応用できるようにする。	
	情報社会論	社会の情報化によるコミュニケーション形態、メディア、匿名性、情報ネットワークなどに焦点を当て、それらが社会にどのようなインパクトを与えたかを理解する。情報技術の発達の社会的影響力をふまえて、知的財産権や情報モラルといったテーマを事例に、情報メディアを使用する人間行動について理解する。情報化のプラスの面だけでなく、様々な問題について社会と関連づけて一般化して論じる能力を身につける。	
	倫理学基礎	倫理学とは、人間が人間としてすべきこと・してはいけないこと、善悪について考える学問である。授業で提示される、規範の構造、共同体の内部と外部、共同体の力学、日本の共同体、異なる規範を持つ他者との対話といったテーマに即して、倫理的問題を自らのものとして考えることを目的とする。より具体的には、日本の共同体における「世間」と「社会」の二重構造について、そして当事者研究の知見をもとに異なる規範の対立を乗り越える方法について考える。	
	応用倫理学	倫理学とは、人間が人間としてすべきこと・してはいけないこと、善悪について考える学問である。授業で提示される、仕事の意味、エンジニアの倫理領域、情報の倫理といったテーマに即して、倫理的問題を自らのものとして考えることを目的とする。これにより、エンジニアの倫理の独自性と情報の倫理の独自性を理解するとともに、実際に仕事を続けていく上で必要となる、自らの問題意識に即して問いを立て思考する能力や、自らの仕事への誇りを身につけるための準備を行う。	
	日本の歴史	歴史学は、現在に残された多様な史料情報を収集・分析し、それらを再構成して歴史叙述を行う実証科学である。本講義では多様な史料の性格を紹介するとともに、それがどのように解釈され史実として認定されてきたかについて検討する。そのことによって歴史学がどのような研究方法を用いた学問なのかを認識するとともに、講義全体を通じて日本社会の歩みをより深く理解することを目指す。	
	人類の歴史	世界が緊密化した今日、各地の様々な地域・文化の特質、価値観を理解することが求められている。本講義では人類の誕生から 20 世紀末に至る過程を振り返ることで、歴史的に形成されたそれらの特徴を取り上げるとともに、情報システムの高度化によって現代世界がどのように形成され、いかなる課題を抱え克服してきたのかを概観する。それらを活きた知識とすることで、現代世界をより深く理解し、多様な視点から考える能力、素養を身につけることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(共通科目・総合人間学系)	(人文社会科学)		
	文学基礎	本講義は、「Ⅰ、文学作品のさまざまな姿」、「Ⅱ、文体・メディア・あそび」、「Ⅲ、オリジナルとその変容」、「Ⅳ、吉野・川上村の文学」の四部構成である。第Ⅰ部では、印刷技術が発達する前の時代に、人々の書写活動によって生み出された文学作品が、複数の本文を有し、決して一つだけではない姿を見せることについて考える。第Ⅱ部では、万葉仮名、絵画、和歌文化をキーワードに、多様な文学の表現方法を学ぶ。第Ⅲ部では、古典作品がいかに前時代との関わりを意識し、作品に取り入れ、変容させていったのかを考える。第Ⅳ部では、本学と連携協定を締結している奈良県吉野郡川上村にまつわる文学を取り上げる。古典籍データベースや学習アプリを活用して学習を進めるとともに、人文科学分野の課題に対して情報技術を活用することにより、新たな知見を見出すことも目指す。	
	観る文学	本講義では、まず、平安時代成立の絵巻物(『伴大納言絵巻』、『信貴山縁起絵巻』、『源氏物語絵巻』)を取り上げ、鑑賞方法を習得する。特に、「新日本古典籍総合データベース」(国文学研究資料館)、「日本古典籍データセット」(人文学オープンデータ共同利用センター)のようなデータベースや学習アプリケーション、学習支援サイト等を活用しながら、古典文学作品へのアプローチを行う。また、IIIF (International Image Interoperability Framework) を活用し、より発展的な絵巻物鑑賞方法を考案する。最終的には「より分かりやすい絵巻物鑑賞方法(より魅力的な絵巻物展示方法)」を考案し、口頭発表・レポート執筆を行うことを目指す。講義全体を通して、文学を継承し発展させていくための情報技術についても考える。	
	言語学基礎	言語学とは、私たち人間が日常使用している「言葉」を研究する学問領域である。本講義では、言語そのものの構造(文や語などの仕組み)、言葉の使われ方、変異(地理的・社会的な異なり)、歴史的变化を中心に取り上げる。最終的には、言語が人間の意思伝達のためにあるものであることをふまえて、人間のコミュニケーションについて考える。本講義では、言語学の概念、言語学の分け方、言語学の記録、言語学の変化、日本語の特質、言語学の聴き方、言語学のとらえ方について解説する。	
	日本国憲法	本講義では、日本国憲法について、そこに表現される「個人の尊厳」という理念に焦点をあて、できるかぎり具体的な事例に即して解説を行なう。受講生は、「自由の基礎法」としての憲法の講義を受講することを通して、「ひとはいかに生きるべきか」という根本的な問いについて、思索をめぐらせるとともに、日本国憲法の基本的な理解について立憲主義を軸とした説明ができ、人権概念の成立と展開、および、その意義について、包括的に説明できることを目指す。	
	法学基礎	本講義では、わたしたちの日常生活におけるいくつかの法的諸問題の解説を通して、法の分野における基本的な考え方を説明する。なお、本講義の目的は、法律の条文や判例、学説といった知識を覚えこむことではなく、社会的な諸問題を、法的に再構成し、その全体像を捉えることにある。このことを踏まえ、「なぜ、そのように考えるのか」ということを常に意識し、近代法システムの基本的な考え方・方向性について、包括的に説明できることを目指す。	
情報法学	現代社会において、目に見えるものではない「情報」の価値や重要性は、日々増している。したがって、情報の価値や重要性を保護しながら、うまく情報を活用していくことが求められる。そのためには、情報に関するどのような法が存在し、また存在しないのかを理解したうえで、情報に接することが必要である。この講義では、情報に関する法整備の状況や、情報に関して問題が起きた事例などを基に情報法の基礎と現在を学ぶことで、技術者としてどのように情報を取り扱うべきなのかを、法的観点から学ぶ。		

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
(共通科目・総合人間学系)	(人文社会科学)	経済学基礎	本授業は、経済学の領域の中でも、社会政策と呼ばれる領域を扱う。社会政策は、労働と生活保障を中心に据えた政策体系であり、労働を基本とする資本主義経済において、誰にとっても関わりを持つ領域と言える。多くの人々は就職をするわけであるが、それは労働市場へ人々が参加し、そこで賃金を得ることを意味する。まずはこの労働市場における種々のルール・システムと制度を学ぶ。しかしながら、労働市場に上手く参加できなかつたり、離脱しなければならない事態は誰にでも起こりえる。この場合に必要となるのが生活保障・社会保障の制度である。このルール・制度についても学ぶ。このように、労働者として社会に出た際に必要となる種々の知識を身につけることは、今後の生活において役立つ。また、最新のニュースも随時参照しながら、労働を中心とした制度・政策体系の検討を通じて、経済と制度・政策の関係を知り、経済学的な発想を養うことを目的とする。	
	現代経済論	本授業では、経済学の領域の中でも、社会保障を分析の対象として取り上げる。生活していく上で、大なり小なり「お世話になる」制度であり、常に話題になる制度である。しかし、なぜ資本主義経済において社会保障が必要なのか、なぜ社会保障改革が叫ばれるのか、その理由を具体的に説明できる人は少ない。社会保障を見る目を、経済学的な視点から養うことは、どのような人生を過ごすにしても役立つ。そして、社会保障は権力作用と現実の権利実現との狭間で揺れ動くものであるが、いかなる社会保障制度ならば、われわれの経済行動に良い影響をもたらし、少しでも生きやすい社会を生み出すことができるのかについて、現実の政策動向や種々のニュースも紹介しつつ、社会保障を根本から考える。		
	心理学基礎	人は生きていくうえで様々な能力を駆使している。また、その能力も人のかかわりの中で成長・発達していく。心理学は、人間の「こころ」を「行動」でとらえ、人間の行動を支配する法則や理論を発見する学問である。本講義では、第一に、心理学の基本的な考え方や基礎的な知識を学習することを目的とする。第二に、人間のもつ各種の心的機能、人の発達過程、性格・パーソナリティの理論ととらえ方、対人関係や適応などの問題について心理学の観点から取り上げる。以上のことを学ぶことにより、受講生が他人や自分自身について、さらに理解を深める基礎となることを目標としている。		
	人間発達と人権	人権についての理解を深めるとともに、常に人権課題について関心を持ち、人権に対する意識を高めることを目指す。このために、主な啓蒙思想や市民革命について学習し、日本国憲法に規定されている基本的人権の内容や問題点についても学習し、今日の日本における様々な人権課題(女性・子ども・同和問題等)について学習する。そして、人権尊重の考え方が発展してきた過程について説明でき、日本国憲法に規定されている基本的人権について説明でき、今日の日本における様々な人権課題について説明できることを目指す。		
外国語	英語表現(basic1)a	英語学習では、「読む・聞く・書く・話す」の4種類の技能が求められる。本講義は、高校までに学んだ英語の知識・習得レベルを向上させることが目的である。具体的には、英文法と基本語彙において不十分な箇所を補い、比較的易しい英文を正しく解釈し、基本的な語彙を用いて正しい英文が書けるようになることが目標である。またリスニングを通して、単語・英文の正しい発音もできるようになることを目指す。さらに、グローバルな視点で異文化に関する背景知識についても理解させる。		
	英語表現(basic1)b	「英語表現(basic1)a」に引き続き、様々な英語表現について学習し、「読む・書く・聞く・話す」に関する能力を向上させる。基本語彙・文法から実践的な語彙・文法への橋渡しを行うことによって、未知の表現に出会っても意味を推測する姿勢を身につけることが目的である。この授業を通じて、初級レベルの語彙の意味を理解しスペリングや発音に注意してその語彙を運用できるとともに、文法構造に基づいた英文の解釈、簡単な英文の作成、短い英文の要旨把握ができるようになることが目標である。さらに、グローバルな視点で異文化に関する背景知識についても理解させる。		

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(共通科目・総合人間学系)	(外国語) 英語の語法	1・2年次で身につけた英語能力をもとに、社会で求められる英語を臆せず使用することができることを目標に、この科目では、様々な状況で使い分けられる語法について学習する。そして意味は似ているがニュアンスが違う語の使い分けや、文構造のレベルでの状況に応じた使い分けを知ることは重要であることから、特に実社会でよく出てくる表現を習得することを目指す。また、他の人と英語で積極的にコミュニケーションを取り協力する能力を養成する。	
	口語英語Ia	口語英語 Ia は、ネイティブの教員により実際のコミュニケーションの場面を想定した活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を高めることを目標とする。活動の中心となるのは、自分の考えを述べること、相手の話を正確に聞くこと、その内容をきちんと理解すること、さらにコミュニケーション上で生じた問題を解決することなどである。日常生活について話すのに必要な基本的な語彙だけでなく、情報技術に関連する専門的な語彙も身につけることを目指す。	
	口語英語Ib	口語英語 Ib は、口語英語 Ia に引き続き、ネイティブの教員により実際のコミュニケーションの場面を想定した活動を通じてコミュニケーションに必要な英語力を高めることを目標とする。活動の中心となるのは、自分の考えを述べること、相手の話を正確に聞くこと、その内容をきちんと理解すること、さらにコミュニケーション上で生じた問題を解決することなどである。日常生活だけでなく自分の過去の経験や将来の計画について話すのに必要な基本的な語彙を身につけ、さらには情報技術に関連する専門的な語彙も使えるようになることを目指す。	
	英語による情報技術Ⅱ	情報分野の技術情報は大半が英語で発信されている。情報技術者にとって、英語で書かれたマニュアル、専門図書、教科書、学術論文、技術文書、雑誌記事、ウェブページ、業界ニュースなどを英語で読むことは日常的に必要である。また、プログラム作成、学会発表、ホームページ作成、電子メールなどで英語を書くことも必要である。そして、学術的な研究発表を行う国際会議の場では、ほとんどの場合使用言語は英語である。この様に、すべて英語で論文原稿を書き、口頭発表又はポスター発表し、さらに他の発表者の発表を論文(予稿集)を読みながら聴講し、質疑応答と議論をしなければならぬ。このために、情報技術に関する研究発表を題材とした英語での発表及び聴講の訓練を通して、情報技術者としてのコミュニケーション能力育成を行う。	
	英語表現(basic2) a	この授業の目的は、「英語表現(basic1)」で身につけた英語能力をより実践的なものにする事である。すなわち、レベルの高い語彙や語法を学び、更にかなり高度な表現も理解することを目指す。そこで、本講義では実際に英語を書いたり読んだりするために必要なことを学び、よりレベルの高い実用的な「コミュニケーションの手段としての英語」を効果的に身につける。また、他の人と英語で積極的にコミュニケーションを取り協力する能力を養成する。	
	英語表現(basic2) b	「英語表現(basic2) a」に引き続き、中級レベルの語彙や語法の習得を図る。まずニュアンスの異なる表現を使い分けられること目指し、より詳しい語彙や文構造についての知識を習得する。更に、高度な読解力・作文能力を習得する。この授業を通じて、中級レベルの語彙の意味を理解しスペリングや発音に注意してその語彙を運用できるとともに、文法構造に基づいた英文の解釈、やや複雑な英文の作成、やや長い英文の要旨把握ができるようになることが目標である。さらに、グローバルな視点で異文化に関する背景的知識についても理解させる。	
	口語英語Ⅱ a	口語英語Ⅱ a では、実際のコミュニケーションの場面を想定し、より実践的なコミュニケーション活動を通じて英語力を高めることを目標とする。活動としては、課題の説明などを自信を持って、流暢に正確に伝えられるような練習を中心に行う。また、情報技術に関わる専門的な課題の説明ができるように、自分の考えを英語で表現するための語彙力を身につける。加えて、課題に他者と協力して取り組む際に必要なコミュニケーション力の向上を図る。この授業は、ネイティブの教員が指導する。	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(共通科目・総合人間学系)	(外国語)		
	口語英語Ⅱb	口語英語Ⅱaでは、口語英語Ⅱaに引き続き、実際のコミュニケーションの場を想定し、より実践的なコミュニケーション活動を通じて英語力を高めることを目標とする。活動としては、相手に情報を伝えること、自分の意見を表明すること、内容をまとめることを流暢に効果的にできるようにするための練習を中心に行う。また、情報技術に関わる専門的な課題の説明ができるように、自分の考えを英語で表現するための語彙力を身につける。加えて、課題に他者と協力して取り組む際に必要なコミュニケーション力の向上を図る。この授業は、ネイティブの教員が指導する。	
	英語による情報技術Ia	情報分野の技術情報は大半が英語で発信されており、情報技術者にとって英語で書かれたマニュアルや専門図書、教科書、学術論文、技術文書、雑誌記事、ウェブページ、業界ニュースなどを英語で読むことは日常的に必要である。また、プログラム作成、学会発表、ホームページ作成、電子メールなどで英語を書くことも必要である。このために情報技術の基礎を英語で学ぶことを通して、英語によって記述された技術的な内容の理解、伝達、情報収集をする力を身につける。	
	英語による情報技術Ib	英語による情報技術 Ia に引き続き、英語によって記述された情報科学分野の技術的な内容を理解し、英語による情報収集を行い、実践的な問題解決をする能力を身につける。英語による情報技術 Ia では Computer Science 入門と Python プログラミングの基本文法を題材としたが、本講義ではこの同じ教科書を引き続き用いて、Simulation, Algorithm, Object oriented design, Software development など、より高度な内容を取り扱う。	
	英語演習	英語演習では、1・2 年次に培ってきた英語力のさらなる向上を目指し、より積極的に英語を用いて課題に取り組むために PBL 型の授業を行う。この授業で課される課題は情報技術に関するものが中心となる。与えられた課題に関わる問題を解決するにあたり、他者と協力するために必要な表現力や、自分の意見を明確に表現するための語彙力を身につける。情報技術に関する課題の解決には専門の授業で得た知識が必要となるが、これを英語を用いて行うことで国際化の進む社会へ対応できるようにする。	
	海外語学研修	実践的な英語の習得と英語の歴史・文化的な背景・習慣に直接触れ、広範な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。まず、英語の事前学習を行い、自ら研修先の情報収集を行う。そして現地の授業では、2 週間程度、英語の 4 技能(読む・聞く・書く・話す)を総合的に学ぶ。同時に課外活動では、滞在国・地域の文化を理解するとともに、他の参加者との会話を通じてコミュニケーション能力の向上を図る。また、ホームステイの場合にはホストファミリーとの対話を通じて、その地域の家庭文化を学ぶ。その後、英語の事後学習を行い、各研修先の代表者が研修の成果についての発表を行う。そして、英語の発信能力とともに、異文化コミュニケーション能力を養い、異文化交流ができることを目指す。	集中
	日本語Ⅰ	本科目は留学生のために開講しており、大学で学ぶために必要な最低限の日本語力を身につける。授業ではまず、聞き取りの技術、読解の技術、発話の技術、作文の技術を磨く。そして大学一般レベルの読み物をもとに情報検索の方法を学ぶとともに、模擬講義を聴きながらノートを取る方法を学ぶ。これにより、教科書等を読む時に必要な情報をすばやく見つけることができ、聞き取りにおいては論の展開を考えながら聞き取ることができ、論理的に質疑応答ができ、筆記試験の答えが書けるようになることが目標である。	
	日本語Ⅱ	本科目は「日本語Ⅰ」の発展であり、レポート作成と研究発表のシミュレーションを通じて、日本語運用の応用力を磨くことが目的である。この授業では、基本的な単漢字の読み・書きのルールおよび意味を理解し未習の漢字の意味が推察でき、資料を活用し論理的で形式の整ったレポートが書け、定められた時間内で研究発表および質疑応答ができ、研究発表の質疑応答が問題なくでき、研究発表のレジュメが書けるようになることが目標である。	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(共通科目・総合人間学系)	健康・スポーツ科学		
	基礎スポーツ科学 a	健康増進の3原則は運動・栄養・休養である。これらをバランスよくライフスタイルに取り込むための知識・態度・習慣化などの能力を高めることをねらいとする。同時に運動文化を享受する態度や実践能力を養う。このために、自己の生理機能の状態及び自己の実態を知り、自分に適したトレーニング法を学習し、運動・スポーツの楽しみ方や充実感を体験する。そして、生涯を通しての運動・スポーツ実践の必要性和重要性について理解する。	
	基礎スポーツ科学 b	生活習慣と体力をテーマとして、日常生活をどのように改善していくべきなのかについて学び、普段からできる体力づくりや運動習慣の重要性など、健康な生活を営むうえで必要とされる知識と態度を養う。また、スポーツを通じた仲間づくりに努めるとともに、リーダーシップをとれる人間性を養うことを目的とする。さらに、スポーツ実技を通じ基礎体力の意義や健康に関係した問題の把握と解決法、運動・スポーツの科学的な知識の理解と実践も身につけることを目標とする。	
	健康科学	健康の概念や健康に関する種々の因子などについて考えるとともに、健康を維持・増進するための基礎知識を修得することを目標とする。特に、運動と健康との関連について、運動生理学の分野で得られているデータをもとに理解を深め、自ら健康について考察したことを発表できるようになることを目的とする。そして、健康の概念や健康に関わる因子について理解し、健康と生活習慣との関連について述べることができ、運動処方に関する知識を修得し処方を作成でき、健康維持や増進のための知識を修得し実践できることを目標とする。	
	スポーツ科学実習	生涯にわたってスポーツを楽しみ、運動を実践できるような知識を理解することを目的とする。本科目では実際にスポーツ種目をいくつか実習して経験することで、運動習慣を身に付け、健康に関心を持たせることをねらいとする。到達目標は、生涯スポーツへの取り組み方を考察し、実際に実践する能力の修得、生涯スポーツを楽しむ工夫の考案、生涯スポーツの概念を述べることができ、各種スポーツを自ら実践できることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
共通科目・総合理学系	科学技術史	<p>現代社会において科学・技術の問題にまったく無知・無関心では人類の知識総体の理解を行うことは不可能である。それほど科学的知識は社会において大きな影響力をもっている。当講義では、発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術という人類の知的営為について、古代ギリシャから遡り解説する。なお、扱われる対象は近代の数学や物理学を主体とした分野であるが、数理科学的学問の誕生には西洋思想の諸問題の理解が深く関係しているため適宜取り上げる。講義で得られる知識は個別の専門分野のプロフェッショナルを育成する際に失われる傾向にある、研究の社会的意義等を俯瞰するジェネラリストの視点を補完するために役立ち、学際的困難性を伴う課題解決に有効である。</p>	
	物理	<p>情報科学で学ぶ様々な事柄の中には、物理的基礎の上に成り立っているものが多数ある。コンピュータグラフィックスでは、計算により光の性質が再現されており、最新のゲームの映像作成においては力学や流体力学等の物理の様々な知見が利用されている。保存則の考え方は、情報科学の様々な事柄に応用されている。この授業では、運動の測定、運動の記述と物理量、運動方程式、仕事とエネルギー、摩擦力、衝突、回転運動、波の物理について解説する。これにより、自然現象のモデル化と少数の法則により統一的に自然を解釈する物理の考え方の理解を目指す。</p>	
	物理現象の数理	<p>自然の構造が少数の基本法則に支配されていることを明らかにした物理学は、驚くほど簡単な構造をした学問体系である。そのなかで物理学は数学をいろいろな側面で活用してきた。複雑多様な現象を理解するとき、数学という言葉で簡潔に表現された物理法則の数学的処理が理解できれば、自然を一層深く知ることができる。さらに、具体的な問題への応用のためにもスキルとして使いこなせる物理数学の理解が必要である。講義では定理の証明など数学的厳密さにこだわらず、親しみの持てる題材を取り上げ物理現象との関連を示していく。関数や方程式が物理現象とどう関係しているか具体例で示し、スキルとして使いこなせる数学を学ぶ。この授業では、物理法則の数学的処理の方法の理解を通して、情報システムと自然とのかかわりを考える能力、素養を身につけることを目標にする。</p>	
	力学	<p>ニュートンの運動法則を出発点とする力学の諸概念を、ベクトルと微積分を使って学習する。授業では、物理量と単位系、力のモーメントと剛体の平衡、座標系と運動の記述、力と運動法則、重力を受けている質点の運動、人工衛星の運動、弾性力を受けている質点の運動、非慣性系と見かけの力、エネルギー保存則、運動量と運動量保存則、角運動量と角運動量変化則について解説する。力学は森羅万象の根源を説明しようとする物理学の柱であり、近代科学の出発点である。そして、現代人の自然観の根底をなすものである。個々の具体的事実から一般的な命題ないし法則を導き出し(帰納法)、この結果を演繹する科学的思考法(合理的思考)の論理の基礎を身につける。</p>	
	電磁気学	<p>情報科学は、電気、電子回路の知識を基礎の一部として作り上げられている。このために電気および磁気の基本を理解することは必須である。実験も交えながら電磁気の基本概念を学ぶ。授業では、最初に入門的な概説とコンピュータのハードウェアとの関係、歴史、単位系などの説明を行う。そして、クーロンの法則、電気力、静電場、定常電流、電流と磁場、電磁誘導について解説する。また、ベクトル、微積分などを多用するので、数学的な基礎についても解説する。</p>	
	現代物理学入門	<p>19世紀末までに確立した古典物理は、日常現象に照らして人々が納得できる自然観を提示した。20世紀に登場した相対論や量子論が、その自然観に大きな変化をもたらし、かつ深化させた。しかし、日常感覚からかなりかけ離れている部分があり、その真の意味は十分に知られていない。今や、現代物理学はさまざまな技術に浸透する一方で、物質の根源や宇宙の誕生と進化についても科学的な説明を与えつつある。この講義では、現代物理学の理解を通して、情報システムと自然とのかかわりを考える能力、素養を身につけることを目標にする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(共通科目・総合理学系)	化学	化学基礎 情報化社会の発展に貢献する「情報プロフェッショナル」の育成において、自然科学の基礎力はその礎となる重要な素養のひとつである。基礎化学を取り扱う本授業のねらいは、その基本的な法則、原理、公式を理解し、それらの内容と身近な現象やさまざまな素材の特徴(性質)を結びつけられる想像力と客観的な判断力とを修得するところにある。尚、本科目は、科学的な視点で情報化社会を構築するさまざまな物事について、これらをモデル化し、新たなモデル創造へと繋げるための育成プログラムの端緒に位置づけられる。	
		環境情報科学 ヒトの健康にとってより良い環境の維持と向上に貢献できるように、化学物質のヒトへの影響および生活環境や地球生態系とヒトの健康との関わりについての基本的知識や態度を修得する。具体的には、生態系や生活環境に影響を及ぼす自然現象や人為的活動を理解し、環境汚染物質などの成因、人体への影響、汚染防止、汚染除去、廃棄物対策および法的規制などに関する基礎的知識を習得し、環境改善に向かって努力する態度を身につける。	
	地球	地球科学基礎 人間は地球システムの中に生活していると同時に地球システムを構成する一要素でもある。この講義では私たちを取り巻く身近な地球環境の現状と、それが微妙なバランスの上に成り立っている事を学ぶ。授業では、波や河川的作用による地球表層の変化過程、山地での侵食による堆積物生産から河川による運搬・堆積作用、海洋での堆積物の輸送や分布ならびに地球規模の海洋循環とその役割、岩石の成分や物性、プレートテクトニクス・プレートテクトニクス理論を用いた地球表層の地形や火山・地震活動などについて説明する。なお、「地球環境」の基礎となる講義である。	
		地球環境 近年、さまざまな地球環境問題がクローズアップされるようになった。この講義では現在の地球環境が成立するまでの地球システムの進化および気候変動史を学ぶことにより、現在の状況を地球システムの進化の中の一断面として把握し、さらにその将来を地球環境問題などとともに考える。授業では、宇宙の中での地球環境の特異性および生命の存在する条件、地球温暖化問題・最終氷期、地質年代、過去の環境指標・酸素同位体比法、新生代の気候変動、氷河時代と無氷河時代・寒冷化の機構、地球の形成過程、生命の発生・地球との共進化について解説する。	
	生物	生命科学基礎 情報科学と生命科学は 21 世紀の科学・産業の基盤をなし、相互に影響しあって発展している。したがって情報科学を専攻する学生が生命について理解することは重要である。本講義では生命の基礎概念から、細胞生物学、生化学、遺伝学について解説する。具体的には、細胞の基本的性質、原核細胞と真核細胞、生体物質、タンパク質と酵素、たんぱく質の構造、遺伝の基礎概念、遺伝物質、遺伝子機能の発現、理論生命科学について詳説する。	
		情報生命科学 各種検査機器の発達により、現在では人体からいろいろな種類のデータを大量に得て、コンピュータを用いて解析できるようになった。これにより、新しい生理現象が次々と明らかになっている。このような技術を支えるのが情報科学であり、本講義では主に神経生理学と情報科学のつながりについて学ぶ。そして、神経細胞とイオン輸送による静止電位の発生、活動電位とその細胞内及び、細胞間での伝わり方を理解し論理的に説明できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(共通科目・総合理学系)	総合 視る自然科学	<p>人間は日常生活で光を使って色々なものをみている。日常的な「見る」は大変重要であるが、漫然と見ているのではなく、目的を持って「視る」と予想もしていなかったことが見える。現在の社会を築いている自然科学では様々なものをどのように「視る」のか、そこからどのような事がわかるのか、地球科学、生命科学、物理学の様々な分野ではどのように「視て」何がわかるのか、実験や実習で身をもって体験して理解することを目標とする。またこのような「視る」行為がコンピュータ機器の利用でどのように拡大していくかについても理解を促す。</p> <p>(オムニバス方式／全 14 回) 初回は全教員による授業の趣旨と各テーマについて説明する。その後、13 回の分担は次の通りである。 (13 藤井 研一／3 回) 物理の光学実験に関する実習を行い解説する。 (15 横川 美和／3 回) 鉱物の偏光顕微鏡観察に関する実習を行い解説する。 (40 矢野 浩二郎／3 回) 無脊椎動物と脊椎動物の観察に関する実習を行い解説する。 (39 井上 裕美子／3 回) 人の生理応答の光を用いた測定に関する実習を行い解説する。 (14 藤 博之／1 回) 光の理論的性質に関する解説を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
キャリア科目	基礎ゼミナール	<p>高校までとは大きく異なる大学での授業および生活にスムーズになじみ、より有意義な大学生活が送れるように、少人数のゼミナール形式による授業を行う。教員・学生が一体となった交流・討論や意見交換などを通じて、大学で何をどのように学ぶかについて考え、必要なスキルの習得も目指す。また各教員がクラス担任として、必要に応じて履修上の指導にも当たる。この授業を通じて、グループで協力して与えられた課題を期間内に完成でき、自分の意見や考えや思いを自らの手段で的確に表現でき、意思伝達のため与えられた書式での表現方法を理解・実践でき、グループの中で自分の意見や考えを的確にまとめて表現でき、提示された文章の内容を正確に読み取って理解できるようになることを目指す。</p>	
	キャリアステップ	<p>大学での学習は高校での学習と大きく異なる。高校までは様々な可能性に対応出来る基礎を築くための学習であったが、大学での学習は明確な自己実現に向かった学習となる。このために自分自身を見つめ直し、いったい自分は何をしたいのか、何に適しているかを真剣に考える必要がある。この授業では様々な実習を通して、自分自身についての認識を深め、大学での主体的な学習や日常生活のチェックを行い、より良いあり方について考えることを目的とする。</p>	
	キャリアデザイン I	<p>自分自身がどのような人間であるかを振り返って考え、考えた結果を的確な文字表現によりまとめる能力の獲得、深化をブログ記事作成により行なう。ブログ記事作成をグループで行なう。このためのグループワークを通して、各自の考えやその表現が他人にどのように受け止められるかの議論をグループでの直接の意見交換とブログでのコメント交換の形により行なう。テーマ設定されたブログ記事作成を通して、自身の考える「自分」と他人の目に映る「自分」の違いを認識する。ここでは、グループ内での「他者」との比較が重要となる。「他者」との議論を通して「自分」自身の視点、独自性について認識を深める。これにより、独りよがりではない客観的な自分像の理解を得た上で、記事にまとめる。教室での座学、グループワークと演習室でのブログ作成を繰り返す形で授業を進める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(キャリア科目)	キャリアデザインⅡ	<p>大学生活の安定化を図りつつ、将来に向けた自分づくりを意識して、取るべき行動を明確にする。このために今後の大学生活での目標設定と行動計画作成を行い、ここまでの自分自身の大学生活を振り返るとともに、卒業後、社会人として選択可能な世界について調査を行う。この振り返りと社会調査に基づき、望むべき将来を考え、望むべき学生生活を実現するために何をやるのかをグループワークを通して考える。それぞれが大学生としての残りの時間をどのように使うべきかについて計画を具体的に立てることがねらいである。また、コミュニケーション能力向上、問題解決のための論理的思考能力、自身のマネージメント能力の育成を目指した初歩的な演習・訓練を行う。</p>	
	グローバルテクノロジー論	<p>情報科学の諸分野で生み出される技術を世界的な視野で活用する視座の獲得に向けて、必要な専門技術・研究態度を、PBL (Project-Based Learning)を中心としたアクティブラーニングの手法を通じて実践的に学ぶ。国・地域の違いによる文化や価値観の多様性が技術の応用に影響することを意識しつつ、集団活動を通じて課題解決力・創造性・協調性・リーダーシップを養成するとともに、グローバルなコミュニケーションツールとしての英語力向上も図る。</p>	集中
	OIT概論	<p>大阪工業大学での勉学について再認識し学習意欲を高めたい学生、あるいは転学部・転学科を検討している学生に、「世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する」という建学の精神を説き、「心身ともにたくましい専門職業人を育成する」という本学の教育の理念を語り、さらに、本学4学部の教育研究分野の概要を分かりやすく教授することを目的とする科目である。なお、この科目は本学への入学を志す連携校の高校生にも開放する。</p> <p>(オムニバス方式／全7回)</p> <p>(21 井上 晋、75 栗根 美津子／1回) 自校史教育として、大阪工業大学の教育の理念、沿革、アドミッションポリシーなどについて解説し、本学で学ぶことの意味について考える。</p> <p>(22 寺地 洋之／1回) 本学工学部のデザイン分野に該当する学科の教育・研究について解説する。</p> <p>(23 周 虹、52 上野 未貴／1回) 本学工学部のエンジニアリング分野に該当する学科の教育・研究について解説する。</p> <p>(24 野村 良紀／1回) 本学工学部のサイエンス分野に該当する学科の教育・研究について解説する。</p> <p>(25 井上 雄紀、26 西應 浩司／1回) 本学ロボティクス&デザイン工学部に該当する学科の教育・研究について解説する。</p> <p>(1 椎原 正次、17 深海 悟、18 牧野 博之、19 鈴木 基之、20 塚本 勝俊／1回) (共同) 本学情報科学部の教育・研究について解説する。</p> <p>(27 水野 五郎／1回) 本学知的財産学部の教育・研究について解説する。</p>	集中／オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専 門 科 目	数 理 科 学	線形数学 I 自然科学や社会科学に広い応用をもつ線形代数について、その基礎を線形数学 I、IIを通して学習する。I では行列、行列式、連立 1 次方程式の解法と 逆行列の性質等について学習する。到達目標は次の通り。 ①行列の演算規則を理解し、基本的な計算ができ、②連立方程式と行列の関係を理解し、基本的な問題を解くことができ、③行列式の種々の計算公式を使うことができ、さらに標準的な問題を解くことができ、④行列の余因子について理解し、それを求めることができ、⑤逆行列を求めることができる。	
	線形数学 II 線形数学 I で獲得した知識と計算方法の修得に積み重ねて、ベクトル空間とその基底、線形写像と表現行列、固有値と固有ベクトル、行列の対角化等を正しく理解し、かつ具体的に求めることができるよう学習する。到達目標は次の通り。 ①ベクトルの 1 次独立性と基底の概念を理解し、その基本的な計算ができ、②固有値の意味を理解し、その基本的な計算ができ、③固有ベクトルの意味を理解し、その基本的な計算ができ、④正規直交系、直交行列の概念と性質を理解し、その基本的な計算ができ、⑤対称行列を直交行列により対角化することができる。		
	微積分学 I 理工学の基礎として重要な微分法・積分法の考え方、計算方法、応用を学習する。主として 1 変数関数の微積分について考えるが、2 変数関数の微積分に関する基礎知識にも触れる。本講義の内容は、例えば、微分法は自然現象のモデル化に、テーラー展開や積分法は数値解析の基礎概念に、オイラーの関係式は周波数解析・通信理論の基礎になるなど、多くの科目に関係する。本学部の専門科目への連携を含めて講義を進める。到達目標は次の通り。 ①初等関数の性質を理解して導関数の計算とグラフが描け、②初等関数の原始関数を理解して基本的な積分計算と応用ができ、③テーラーの定理を理解し基本的な級数展開と近似計算を実行でき、④偏微分の概念を理解し基本的な計算ができる。		
	微積分学 II 自然科学や社会科学のほとんどの分野において、その内容を真に理解をするためには、1 変数関数の微分積分の知識だけでは不十分で、多変数関数に関する事柄も必要である。この講義では、多変数関数の微分積分(偏微分、重積分)およびその応用を中心に解説する。到達目標は次の通り。 ①多変数関数の合成関数の微分法(連鎖律)を正しく使うことができ、②多変数関数のテーラー展開をすることができ、③多変数関数の極値問題を解くことができ、④重積分を累次積分により計算することができ、⑤変数変換をとまらぬ重積分を計算することができる。		
	情報数学 情報数学は情報科学のいろいろな分野と密接に結びついて、重要な役割を担っている。まず、集合、写像、関係といった情報科学の基礎を学習する。さらにアルゴリズムと密接に関係している帰納的(再帰的)な考え方について学習する。最後に公開鍵暗号の理論として情報科学と深く関係している整数論を学習する。到達目標は次の通り。 ①集合、写像、関係を説明でき、②整数、素数、合同式の性質を理解し、不定方程式、合同方程式の解法ができ、③帰納法、帰納的(再帰的)定義に従って処理ができ、その性質を求められる。		
	微分方程式 自然現象や社会現象をモデル化すると、微分方程式で記述されることが多い。常微分方程式を中心に、モデル化の方法・解法・応用例(電気回路や運動方程式など)を解説する。また、PCを援用した微分方程式の理解や、シミュレーションの基礎についても説明する。到達目標は次の通り。 ①基本的な 1 階線形微分方程式・2 階線形微分方程式(同次形)が解け、②微分方程式の概念を理解し、初期条件を与えて解を決定することができ、③基本的な線形微分方程式(非同次形)が解け、④微分方程式を用いて自然現象・社会現象をモデル化し、解を得ることができ、⑤コンピュータを用いた微分方程式の解法で必要となる数式を導出できる。		

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(専 門 科 目) (数 理 科 学)	グラフ理論	<p>点と線だけで構成されるグラフの理論は非常に広い分野で応用されているため、これを学ぶことは現代では必要不可欠である。講義内容はできるだけ一般的なテーマを選ぶ。様々な応用ができるようにグラフ理論の基礎を学習し、グラフが様々な活用できることを学ばせる。到達目標は次の通り。</p> <p>①与えられた条件を満たすグラフを描くことができ、②様々なグラフについて、その定義と性質を説明でき、③情報科学等の領域でグラフ理論が様々な活用できることを説明でき、④グラフの基本的な用語を理解し、要求された経路、閉路、木、全域木、次数、橋、成分などを求めることができる。</p>	
	数理計画法	<p>現実のシステムは複雑で、直接これを扱うのは困難である。そのため、数理モデルを作成し、このモデルを解析するのが一般的である。これにより非科学的な勘や経験による意思決定を排除し、科学的で合理的な判断が行える。本講義では線形モデルを最適化するシンプレックス法を理解することを目的とする。さらに、輸送計画や配置計画などを理解することで数理計画法に対する理解を深める。到達目標は次の通り。</p> <p>①線形計画法の定式化ができ、②シンプレックス法を使って問題を解くことができ、③MODI 法を使って問題を解くことができ、④ハンガリー法を使って問題を解くことができ、⑤数理計画法の解を分析することができ、⑥ソフトを使って問題を解くことができる。</p>	
	確率・統計	<p>社会現象・自然現象の解析に不可欠な確率・統計の基本を解説する。確率分布の概念から統計解析へのつながりを軸にして、条件つき確率計算の応用、母集団データの区間推定法や仮説検定法など、多くの実例を含めて説明する。到達目標は次の通り。</p> <p>①数え上げ、確率、期待値の計算ができ、②条件つき確率を理解して応用でき、③確率分布の概念を理解して平均・分散などの計算ができ、④標本分布の概念を理解してデータ解析へ応用でき、⑤統計的推定・仮説検定の概念を理解して応用できる。</p>	
専 門 基 礎	コンピュータ入門	<p>この科目は、情報の科学技術に関する必須の基礎知識を習得するとともに、コンピュータが活躍している分野への展望を得てこれから学習して行く各専門科目の位置づけを理解し学修の動機付けとすることを目的とする。講義では、興味深い歴史的なエピソードや、今日的なトピックスにも触れる。情報科学部における教育の基礎として全学科共通に最初の授業として実施される必修の専門科目である。到達目標は次の通り。</p> <p>①二進数の計算ができ、②コンピュータ内での二進数や浮動小数点などの表現を説明でき、③基本論理要素について理解して説明でき、④論理回路の基礎について理解して説明でき、⑤計算できる仕組みを説明でき、⑥情報の表現と情報量の概念を説明でき、⑦コンピュータの総合的な概念や仕組みを説明できる。</p>	
	情報通信ネットワーク	<p>インターネットに接続していることが当たり前となった現在において、ネットワークアプリケーションの使い方だけを把握していても、動作原理を理解していなければネットワークトラブルに対処できない。本授業では、インターネットを支えている通信プロトコルの TCP/IP について、概念、基礎知識、実際の通信が TCP/IP 上でどのように行われているか等を解説する。適宜最新のトピックスも紹介する。到達目標は次の通り。</p> <p>①OSI 参照モデルにおける各レイヤの機能、役割が説明でき、②TCP/IP を用いたネットワークシステムの原理を理解し、与えられた条件に沿ったアドレス計算ができ、③クライアント－サーバシステムの原理と構造が説明できる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専 門 科 目 (専 門 基 礎)	プログラミング基礎	<p>プログラム作成の演習「C演習 I」と連携して、プログラムを書く前にはどのようなことを考えなければならないかについて説明する。単なるプログラミングテクニックではなく、計算機で問題を解決するとはどういうことか、問題の種類、性質、情報の基本概念や表現、処理を実現する方法、それを記述する為のアルゴリズムとその性質、などについて取り上げる。また、必要に応じて、命題論理などの復習を行う。到達目標は次の通り。</p> <p>①論理の基本を理解し、問題を論理的に形式化(プログラム)することができ、②基本的なプログラムを読み、実行結果や変数の値の変化を答えることができ、③基本的なアルゴリズム、探索、並べ替えなどのプログラムを説明でき、④プログラムの計算量を求められる、⑤与えられた問題を形式化して記述、解くことができる。</p>	
	テクニカルライティング	<p>本科目を「科学技術に関する事項や実社会における身近な課題について、効果的にコミュニケーションする手法」と捉え、テクニカルライティングの必要性・目的、日本文と文書作成の基本ルールに基づいた技術論文の作成手法、効果的なプレゼンテーション手法を講義、レポート作成などの演習・発表などを通じて習得することを目的とする。到達目標は次の通り。</p> <p>①形式のおよび意味的に正しい文章を書くことができ、②文書作成の目的とその対象読者を認識して、論理的に主題を展開する文書を作成することができ、③適切な図表を用いて、分かりやすい技術文書を作成することができ、④目的に沿って、分かりやすい資料を作成し、プレゼンテーションをすることができる。</p>	
	情報処理基礎	<p>情報処理技術者試験は、ソフトウェア業界で仕事をしていく人たちのための国家試験である。このうち基本情報技術者試験はその登竜門にあたる試験であり、情報系の学部卒業生は合格して当然のレベルである。また、基本情報技術者試験の出題範囲の知識は、本学部の専門科目を学ぶ際にも、たいへんよい整理になる。この授業では、①テクノロジ系、②マネジメント系、③ストラテジ系の各分野において情報処理技術者試験が要求している水準の技術的内容について説明できるようになることが目標である。</p> <p>(オムニバス方式／全 14 回)</p> <p>(4 安留誠吾／1 回) 基本情報処理技術者試験で出題されているストラテジ系(システム戦略と経営戦略)の範囲の内容について解説する。</p> <p>(45 中西 知嘉子／1 回) 基本情報処理技術者試験で出題されているストラテジ系(企業と法務)の範囲の内容について解説する。</p> <p>(1 椎原正次／1 回) 基本情報処理技術者試験で出題されているマネジメント系の範囲の内容について解説する。</p> <p>(4 安留誠吾／3 回) 過去に出題されたテクノロジ系、マネジメント系、ストラテジ系の各問題に対する演習とその解説を実施する。</p> <p>(29 須永 宏／3 回) 過去に出題されたテクノロジ系、マネジメント系、ストラテジ系の各問題に対する演習とその解説を実施する。</p> <p>(45 中西 知嘉子／3 回) 過去に出題されたテクノロジ系、マネジメント系、ストラテジ系の各問題に対する演習とその解説を実施する。</p> <p>(30 橋本 渉／2 回) 過去に出題されたテクノロジ系、マネジメント系、ストラテジ系の各問題に対する演習とその解説を実施する。</p>	集中／オムニバス

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(専 門 科 目) (専 門 基 礎)	コンピュータリテラシー	<p>技術者に必要なコンピュータリテラシーを身につけることを目標とする。ワープロソフトによる科学技術論文の作成、表計算ソフトによる分析、プレゼンテーションソフトによる資料の作成、さらに電子メールの送受信と WEB ページの閲覧が主なテーマである。関係するソフトウェアを如何に使用するのがかを演習により理解する。各テーマの水準については、入門程度とする。到達目標は次の通り。</p> <p>①ソフトを使用して、数式や図、表、グラフを作成することができ、②ソフトを使用して、データの分析を行うことができ、③電子メールの送受信および HTML が記述でき、④ソフトを使用して、スライドを作成することができ、⑤ソフトを利用してプレゼンテーションを行うことができ、⑥体裁の整った実験レポートを作成することができる。</p>	
	データサイエンス入門	<p>データサイエンスの構成要因には、統計的要因、計算機的要因、及び人間的な要因がある。本講義ではデータサイエンスの基礎付けとして、特に統計的要因からデータ処理のサイクルである PPDAC を元に、主として与えられたデータの吟味、その要約やグラフ化、そのデータに関連するデータとの比較とその結果の解釈といった一連のサイクルを、演習課題等を経て修得する。また、確率的な事象に対する基本的な性質も修得する。達成目標は次の通り。</p> <p>①データを吟味しその問題点を指摘することができ、②データの要約として適切な要約値が計算でき、③データの要約として適切なグラフ化ができ、④与えられたデータと関連するデータを求め比較することができ、⑤確率的な事象に対する基本的な性質を理解し説明ができる。</p>	
	データ構造とアルゴリズム	<p>コンピュータではデータを効率よく扱うことが必要である。データ構造とは、データのメモリ上での表現であり、アルゴリズムは問題を解くための具体的手順(算法)である。データ構造とアルゴリズムは、プログラムを作成する上で必ず学ばなければならない基礎の一つである。本授業では、プログラムを作成するにあたって基本的なデータ構造及び、アルゴリズムについての理解を目指す。到達目標は次の通り。</p> <p>①アルゴリズムの計算量について理解し説明でき、②基本的なデータ構造について理解し説明でき、③整列や探索の基本的なアルゴリズムについて理解し説明でき、④再帰的アルゴリズムについて理解し説明でき、⑤データや手続きの抽象化について理解し説明できる。</p>	
	実験計画法	<p>実験計画法は、実験方法の効率化に向けたデザインの下で実験結果に対してランダムネスに基づいた解析を行うことを目的とする。基本的な原則としては、局所管理化、反復、無作為化の 3 原則があり、乱塊法や田口メソッドなどの手法がある。本講義では、特に分散を複数の要因の和と仮定したモデルの下でデータを分析する分散分析の手法について、理論的な考察を踏まえた上で、演習課題等を経て修得する。また、処理平均の多重比較法についても概説する。達成目標としては以下の通り。</p> <p>①実験計画法の 3 原則を理解し説明ができ、② 2 群間の平均の差の解析ができ、③一元配置分散分析の解析ができ、④二元配置分散分析の解析ができ、⑤処理平均の多重比較法の概要を理解し説明ができる。</p>	
	統計解析	<p>統計解析は統計の理論に基づいて解析を行うものである。主として統計的推測と統計的仮説検定があり、漸近理論は正規性や一致性等の推定量の良さの比較に用いられる。統計的推測には最尤法やモーメント法とベイズ法等があり、統計的仮説検定にはネイマン＝ピアソンの定理等がある。本講義では、有限個の確率分布を仮定した下での、推測や検定の手法について修得する。また、漸近論についても概説する。達成目標は次の通り。</p> <p>①確率分布のパラメータの意味合いを理解し説明ができ、②最尤法やモーメント法による推測ができ、③ベイズ法による推測ができ、④ネイマン＝ピアソンの定理を使い仮説検定ができ、⑤漸近理論の概要を理解し説明ができる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(専 門 科 目) (専 門 基 礎)	多変量解析	<p>多変量解析は、複数の独立変量からなる多変量データを統計的に扱う手法である。主として、重回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析などがある。本講義では、2 変量解析における基本である回帰分析を元に、その拡張としての多重回帰分析及び多変量正規分布を中心に、演習を通じて修得する。また、主成分分析とクラスター分析の分析手法についても概説し、統計ソフトウェアによる演習も行う。達成目標は次の通り。</p> <p>①回帰分析の計算が実行でき、②多変量解析の考え方を理解し説明ができ、③多変量データの解析ができ、④多重共線性に関する検討ができ、⑤主成分分析とクラスター分析を統計ソフトウェアを使って実行できる。</p>	
	IoT概論	<p>これからの IoT システムに必要な技術概要について学び、その基礎技術をパソコンとマイコンボードを接続したシステムを用いて学ぶ。この中で、特に組み込みシステムプログラミングについて学びながら、基礎的なプログラム技法も学ぶ。そして実際にネットワークに接続された組み込みシステムに触れながら IoT システムの構築方法について学ぶ。到達目標は次の通り。</p> <p>①組み込みシステムの構成について説明でき、②IoT システムにおける機器制御の基本的なプログラムを作成でき、③IoT システムからのデータを取得するプログラムが作成でき、④簡単なネットワークサービスの提供が行えるシステムを構築できる。</p>	
	教育心理学	<p>この授業では、子どもの発達と学習の過程および個性・個人差に関する諸理論を、教科指導上・生徒指導上の実践的諸課題と密接に関連付けながら講義する。受講者は、まず授業の最初に、その日のテーマに関する既有知識をミニレポートにまとめ、続く講義の中で示される教育心理学の知識や理論を活用しつつ、現場における実践的諸課題に今後どう取り組むかを考え、次の授業までに宿題レポートにまとめる。到達目標は次の通り。</p> <p>①幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴について説明でき、②幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識に基づいて発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を説明でき、③幼児、児童及び生徒の個性と個人差、教師像の諸類型について説明できる。</p>	
基 幹 科 目	データベースシステム	<p>データベースシステムは情報システムにおいて不可欠なものであり、データベース技術者の需要はますます高くなってきている。本講義では、最も普及している関係データベースシステムをとりあげ、基本概念から実現技術、およびデータベース設計に至るまでを一通り理解することを目標とする。到達目標は次の通り。</p> <p>①関係データモデルに関する諸概念(関係、キー、関係代数、関数従属、正規形、SQL)を理解するとともに、第三正規形の条件を満たす関係スキーマが設計でき、②E-R ダイアグラムで表現された関係スキーマの内容を読み取ることができ、③トランザクションの振る舞いを説明できる。</p>	
	オペレーションズ・リサーチ	<p>さまざまなシステムの計画、管理、運用などにおいて、科学的な方法や手法を適用することで、対象とする問題にとって最も好ましい解を得ることを目的とする。この授業では、いくつかの簡単なモデルを取り上げ基本的な解法を説明し、取り上げたテーマに関しては、ある程度の問題が解けることをねらいとする。到達目標は次の通り。</p> <p>①日程問題のためにPERT 図を描くことができ、②在庫問題における安全在庫量の計算ができ、③財務問題のために資金の時間的価値を計算でき、④日程問題に対して数理的な解決を図ることができ、⑤在庫問題に対して数理的な解決を図ることができ、⑥財務問題に対して経済性を評価することができ、⑦工程問題に対してジョンソン法により順序付けを行うことができる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(専 門 科 目) (基 幹 科 目)	情報技術者論	情報システムは、あらゆる分野に関わる基盤となっており、果たす役割は益々大きいものになる。従って、専門家として情報システムに関わる技術者は、自らの仕事が社会に及ぼす影響について深い理解と明確な認識を持って行動することが求められる。本講義では、情報技術者に求められる社会的役割、職業倫理、広い分野にわたる情報技術者の職場とその仕事などについて学び、技術者としての役割と仕事について生涯自己学習能力を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式／全 14 回) (47 布村 泰浩／1 回) プロセッサ開発にかかる情報技術者の仕事について解説する。 (16 佐野 睦夫／1 回) ビジネス系情報システムの開発技術者の仕事について解説する。 (32 神田 智子／1 回) マルチメディアを扱う情報システム技術者の仕事について解説する。 (33 福澤 寧子／1 回) サイバーセキュリティに関する情報システム技術者の仕事について解説する。 (31 山田 隆亮／1 回) 自分の社会的責任を自覚し、それを担い喜びを得るような技術者になることを解説する。 (31 山田 隆亮／1 回) プロの情報技術者に求められる倫理観と社会的責任について解説する。 (2 須山 敬之／1 回) 警笛鳴らしと公益通報者保護について解説する。 (2 須山 敬之／1 回) 情報技術と社会との関わりに関する最近の事例について解説する。 (17 深海 悟／1 回) ソフトウェアのバグ、情報システム構築における失敗事例等の事例について解説する。 (12 平山 亮／1 回) 情報技術と「プライバシー」、「所有権とソフトウェア」、「責任と情報システム」との関わりについて解説する。 (2 須山 敬之、12 平山 亮、17 深海 悟、18 牧野 博之、31 山田 隆亮、32 神田 智子、33 福澤 寧子、50 杉川 智／4 回) (共同) 与えられたテーマについてグループ単位で討議させ、その結果を発表させる。	オムニバス方式・共同(一部)
	情報ゼミナール	4 年次配当の卒業研究を実施するに先立って、これまでに学習した個別の理論や専門知識を整理し、受講生自らが将来の進路を定められるような多角的な学習指導を行うことを目的とする。到達目標は次の通り。 ①社会環境を理解し、自己の能力や性格を認識した上で適正な進路を見出すことができる能力を身に付けており、②情報技術の学士候補に相応しいコミュニケーション能力を身に付け、卒業研究、進学、就職活動に活用できる。	
	システム工学	情報技術の急速な進展に伴い、システムへの要求は多様化、高度化し続けている。複雑な要求に応じてシステムを開発・運用するため、システム工学で扱う概念、枠組み、方法論、技法がよく用いられる。システム工学の技術知識は、目の前にある問題にどう当てはめて使うのかのイメージを持ちながら学ぶことが重要である。本講義では、具体的な事例を多用しつつ、複雑なシステムを取り扱うためのシステムズアプローチ、システム計画、モデリング、最適化、高信頼化の技法等を講義する。	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(専 門 科 目) (基 幹 科 目)	情報セキュリティの基礎	<p>情報セキュリティ技術の適用分野が広がっており、情報科学に携わる研究者、技術者にとって、その基礎技術の習得が重要となってきた。本講義では情報システムにおけるセキュリティ上の問題の所在とその対策の理解を目標として、不正や脅威の具体例、ネットワークを介した取引やサービスを安全に提供するための暗号、認証などの要素技術とその適用方法、およびセキュアなシステム構築のためのシステム技術などを解説する。到達目標は次の通り。</p> <p>①暗号方式の基本概念、動作原理、利用方法が説明でき、②公開鍵インフラストラクチャの概念、仕組みを理解し、利用方法や問題の解決策を示すことができ、③本人認証の各方式の概念、仕組み、相違を説明でき、④ネットワークシステムにおける不正、脅威、リスクの概念や対策の具体例、社会的な影響を説明できる。</p>	
	経営システム論 I	<p>種々の経営活動の効率化には、もはや情報システムは欠かすことができない。しかし、効果的な情報システムを構築・運用するためにはマネジメント・システムへの理解が重要である。本講義では、企業システムの仕組みや経営効率化の方法について解説する。また、ビジネス・ゲームによる意思決定の演習も実施する。到達目標は次の通り。</p> <p>①経営資源を説明することができ、②システム思考およびマネジメントサイクルについて説明することができ、③経営システム研究の歴史やその意義を説明することができ、④さまざまな管理システムについて説明することができ、⑤経営戦略やビジネスモデルの概念を説明することができ、⑥他者と協調して意思決定し、その成果を論理的に説明することができる。</p>	
	データマイニング	<p>データマイニングとは機械学習、パターン認識の技術を用いて、多くのデータから知識を抽出する技術である。本講義ではデータマイニングの目的や意義と具体的な手法について解説する。さらに、データマイニングで使用されるツールやライブラリを用いて、データセットの分析を行う。到達目標は次の通り。</p> <p>①データマイニングの概念とその意義を説明することができ、②データマイニングに用いられるツールおよびライブラリの基本的な利用方法を習得し、③問題の性質に応じて有効なツールを選択・組み合わせることができ、④データセットに適切なツールを適用し、複数のアルゴリズムを用いてデータの解析ができる。</p>	
	テキストマイニング	<p>テキストマイニングとはデータマイニングのうち、テキストを対象とする技術である。この実習ではデータマイニングの技術をテキストに適用することにより知識の抽出を行う。テキストは画像と異なり時間方向の情報を持っており、ここではその特性に注意してマイニングを行う。到達目標は次の通り。</p> <p>①テキストマイニングの概念とその意義を説明することができ、②テキストマイニングに用いられるツールおよびライブラリの基本的な利用方法を習得しており、③データに応じて適切なツール・ライブラリを選択・組み合わせ使用することができ、④時間情報に注意し、データセットに適切なツールを適用し、データの解析ができる。</p>	
	ビジュアルプログラミング論	<p>データ分析した結果を可視化することは、データサイエンティストにとっては必須のことである。本講義では、データ分析した結果を可視化するために、Python と各種可視化ツールを活用し、可視化したデータの見方を解説する。用途に応じたデータの加工方法、可視化ツールの選択が可能となることが目的である。到達目標は次の通り。</p> <p>①Python の基本的な文法を理解し、簡単なプログラムを作成でき、②各種データ処理ツールを活用でき、③各種可視化ツールを活用でき、④可視化した図、表を説明できる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(専 門 科 目) (基 幹 科 目)	ソフトウェア工学	<p>ソフトウェアを工業製品として高品質に開発するための基盤技術としてソフトウェア工学が重要な役割を果たしている。この講義では、ソフトウェア工学の入門として、ソフトウェアの概念、開発プロセスとそのプロセスモデル、要求定義からテストにいたるソフトウェア開発の全工程の方法論、技法、表記法などについて基礎的な事項について学ぶ。到達目標は次の通り。</p> <p>①ソフトウェア工学の基礎となっている概念(抽象化、段階的詳細化、情報隠蔽、モジュール化、構造化など)をふまえたうえで、ソフトウェアライフサイクルおよび各ライフサイクルプロセスで使われる方法論、技法、表記法を理解し、簡単な問題に適用でき、②単体テストについて、テストケース設計上の基本的考え方が理解できており、簡単なプログラムに対するテストケースが設計でき、③ソフトウェアの品質を多様な観点で捉えることができ、ソフトウェア設計の良否の評価基準、尺度を示すことができる。</p>	
	人工知能	<p>人間が行っている知的活動を計算機上に実現しようとする人工知能の概要を講義する。人工知能は計算機の可能性を追求する計算機科学の大きな牽引役のひとつであり、その概要を理解することは意義深い。まず人工知能の基本的な知識及び実例について述べる。次に問題を解決するための探索アルゴリズムについて述べる。更にニューラルネットワーク、深層学習による問題解決手法について述べる。到達目標は次の通り。</p> <p>①人工知能の基本的な知識を習得しており、②縦型、横型、A*などの探索アルゴリズムを理解しており、最適順路を求めることができ、③ニューラルネットワークおよび深層学習の特徴を学び、それらによる学習と推論について理解し、簡単な問題に適用できる。</p>	
	パターン認識	<p>パターン認識とは実世界の音声や画像の情報などの与えられたパターンがどのカテゴリに属するかまたはどのような属性を持っているかを認識する技術である。本講義では、パターン認識の手法である最尤推定、ベイズ推定の手法について解説する。到達目標は次の通り。</p> <p>①パターン認識の基本的な概念、定義などについて説明でき、②最尤推定の基本的性質を理解し、簡単な問題に適用でき、③ベイズ推定の計算方法を理解し、簡単な問題に適用でき、④深層学習を用いたパターン認識を簡単な問題に適用できる。</p>	
	機械学習	<p>機械学習は与えられたデータを解析することによりデータの規則性を発見する手法であり、近年の人工知能の発展に大きく貢献している技術である。まず機械学習の基本的な考え方を述べる。機械学習の手法のうち、教師あり学習と教師なし学習について述べ、更にその他の機械学習の手法についても簡単に触れる。到達目標は次の通り。</p> <p>①機械学習の概念について説明でき、②サポートベクタマシンなどの教師あり学習の手法による識別や回帰を学び、簡単なデータに適用でき、③k-means 法などの教師なし学習によるクラスタリングの手法を学び、簡単なデータに適用でき、④強化学習や半教師あり学習等のその他の機械学習の手法について理解している。</p>	
	発想法と問題解決	<p>取り組む問題について本質を見極め、解決方法を検討する、という行為は日常生活のいたるところで見ることができる。目標を達成する過程で障害となる問題を抽出し、問題を解決する方法を見つけ出すための一般的手法を知ることが重要である。本講義では問題を捉えるための視点、問題分析、解決手順とその導出手段、解決手順の導出過程において必要になる要素と充足方法など一連の科学的技法を学ぶ。また、その過程で思考や発想などを目的にしたがって整理し、表現するための基本的な技術を習得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専 門 科 目 応 用 科 目	モデリングとシミュレーション	<p>本講義では、様々な現象をモデル化し、定量的に評価・解析・改善するコンピュータシミュレーション技法について学ぶ。主に離散系シミュレーションに重点を置き、情報技術者が働く分野で遭遇する問題を多く扱うことによって、モデル化とコンピュータシミュレーション技法を身につける。到達目標は次の通り。</p> <p>①微分方程式に基づく物理モデルのシミュレーション手法を理解して利用でき、②待ち行列などのランダム事象の統計的性質をベースにしたシステムを理解して利用でき、③モンテカルロシミュレーションの手法を理解して利用でき、④ランダム事象の確率分布の基礎的性質について理解してモデルの設計に取り入れることができ、⑤基本的なモデルについて、シミュレーション解析のプログラミングができる。</p>	
	経営システム論Ⅱ	<p>経営システムにおいては、さまざまな制約条件のもとで目的が最もよく達成されるような意思決定が重要である。このためには、企業の経営環境および課題について理解する必要がある。また、近年では、技術が経営に与える影響について注目されている。とりわけ情報技術が企業経営に与える影響は、ますます大きなものになっている。また、イノベーションも重要な概念である。</p> <p>本講義はオムニバス形式で実施する。内容は、次の通りである。①具体的な業界を取り上げて、企業の経営環境および課題について解説する。②情報技術が企業や社会に与える影響を事例を用いて解説する。③技術を活かす経営について事例を用いて解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(1 椎原 正次／3回) 経営システム論Ⅰとの関連および生産システムにおける課題について解説する。</p> <p>(34 林 茂樹／3回) 銀行などの金融業の役割や課題について解説する。</p> <p>(31 山田 隆亮／3回) 社会産業分野における情報システムの意義と今後の展望について事例を踏まえながら解説する。</p> <p>(77 宮田 秀典／5回) 製造業における技術と経営について事例を踏まえて解説する。</p>	オムニバス方式
	情報科学実践演習(国際PBL)	<p>情報科学分野の諸問題をプロジェクトチームで解決する実践的な力を身につけるため、PBL(Project-Based Learning)を中心としたアクティブラーニングの手法を通じて学ぶ。特に、国際的に活躍する技術者の育成を主眼とし、情報科学分野の諸問題を国際的なチームで解決する力を身につける。専門分野において設定された課題を、海外の学生とプロジェクトチームを組み、学生が主体的に行動することで、共同で課題解決に取り組む。専門分野における技能と問題解決能力、リーダーシップと協調性によるチームワーク力、英語でのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、異文化と多様な価値観の理解、国際的な視野で思考できる能力の向上を図る。</p>	集中/共同
マーケティング論	<p>本講義では、マーケティングに関する基礎的項目と最近の諸問題を取り上げ、マーケティング活動について、その基本的な考え方を理解することを目的とする。具体的には、マーケティングの基本的な考え方、セグメンテーション、ターゲティング、そしてポジショニングといった市場の見方、さらにはマーケティングの具体的な戦略となるマーケティング・ミックスの考え方について説明をおこなう。さらに、実際の企業で行われている事例の紹介を通じて、知識を広げることが目的としている。到達目標は次の通り。</p> <p>①マーケティングの基本的な考え方を説明でき、②マーケティングの基本概念(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング)について説明でき、③マーケティング・ミックスについて説明でき、④マーケティングの応用について説明できる。</p>		

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専 門 科 目 (念 用 科 目)	数理ファイナンス	<p>数理ファイナンスは金融経済学での議論から、数学モデルないし数値モデルとして拡張されたものである。本講義では、離散モデルを中心にして、最適消費・投資問題、二項モデルとマルコフモデル、オプション・先物の価値評価、金利の期間構造などの具体的な評価を、演習を通じて修得する。また、ポートフォリオ理論についても概説する。達成目標は次の通り。</p> <p>①ファイナンスにおける現物、先物、先物オプションを理解して説明ができ、②二項モデルとマルコフモデルで数理ファイナンスを理解して説明ができ、③二項モデル下でのヨーロピアン・オプションが計算でき、④金利の期間構造を理解して説明ができ、⑤ポートフォリオ理論の概要を理解して説明ができる。</p>	
	ロジスティクス	<p>現代社会において、取扱対象を運ぶ、保管するなどロジスティクス(物流)の機能を単に充足するだけでなく、これを高度化・効率化することが重要になっている。実際、多くの製造業や流通業にとって、ロジスティクスは現代企業の重要な経営戦略の一つとなっている。本講義では、現代社会に不可欠なロジスティクスについて、基礎的な概念を紹介し、小売業、製造業、流通業といった業種別のロジスティクスの特徴を明らかにするとともに、管理のための効果的な手法について解説する。到達目標は次の通り。</p> <p>①現代社会におけるロジスティクスが担う役割とその重要性について理解して説明でき、②業種別のロジスティクスについて特徴を説明でき、③ロジスティクス管理の必要性和効果的な手法を列挙でき、④流通業と製造業における先進的なロジスティクスの事例について、その仕組みと企業活動における意義を理解して説明できる。</p>	
	企業会計論	<p>企業外部のものが企業の財務諸表の分析を通じて得られたデータを活用し、企業の収益性・安全性・成長性などの特性を評価することはさまざまな意思決定においても重要な方法である。なかでも貸借対照表や損益計算書といった財務諸表には企業の状況を表すさまざまなデータが含まれているため、これを分析して企業の見える化をすることは大変有効である。そこで、本講義では財務諸表を説明するとともに、財務諸表分析を紹介し、企業会計について理解することを目的とする。到達目標は次の通り。</p> <p>①貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書を理解し、②財務諸表分析をおこない、企業の状態を評価でき、③管理会計の側面から今後有利な代替案の提示ができる。</p>	
	教育工学	<p>Edtech という Education(教育)と technology(技術)を合わせた造語ができるほど、教育を行う上で、ICT を効果的に活用することが重要である。本講義では、教育工学の背景と特徴を説明した上で、e-ラーニングやデジタル教材などの ICT ツールの利活用について紹介する。到達目標は次の通り。</p> <p>①教育工学の背景と特徴を説明でき、②各種 ICT ツールの設定ができ、③各種 ICT ツールを活用でき、④ICT ツールのログを可視化できる。</p>	
	教育方法論	<p>この科目では、「授業」を成り立たせている様々な要素に着目して、ねらいに即した教材の作成と情報機器の効果的な活用法を含めて、教育の方法と技術を学ぶ。まず、テキストの内容に関する 2 つ以上の資料を検索し、批判的にまとめるとともに、班別討議と全体発表・質疑・応答により関連する概念について受講者自身が内的に構成することをめざす。また、理論と実践とを往還しながら理解することをめざす。さらに、班別に実際に指導案を作成するとともに、それに基づいて班別の模擬授業や全体での模擬授業を行い、自己評価・相互評価や授業担当者による評価を受けて授業を改善するなど、授業づくりの過程を体験し学ぶ。そして、本科目の予習・復習に割り当てられる時間の中で、最大限の内容を仕上げる体験をすること、アクティブラーニングの体験をすることもねらいである。</p>	
	情報科教育法a	<p>高校普通教育に情報教育が導入された歴史的経緯や特徴について理解するとともに、学習指導要領上の位置づけを理解する。また、高等学校での授業設計の方法を学ぶとともに、学校現場で実際に活用されている多様な教材や情報機器等の活用例、授業実践例を示し、授業研究や評価の方法などについて具体的に学び、学習指導案の作成や模擬授業の実施を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専 門 科 目 (念 用 科 目)	工業経営論	<p>本講義では、生産マネジメントならびに品質管理に関する基本的な知識を獲得することを目的とする。生産マネジメントでは、生産プロセス、設計プロセス、そして管理プロセスの3つの観点より説明をおこなう。さらに、これらプロセスをブラッシュアップするための改善活動について理解することも目的としている。到達目標は次の通り。</p> <p>①生産マネジメントの基本的な考え方が説明でき、②生産プロセスのセル生産システムについて説明でき、③設計プロセスにおける資材所要量計画(MRP)について説明でき、④管理プロセスにおける在庫管理モデルについて説明でき、⑤改善のマネジメントにおける ECRS の原則について説明できる。</p>	
	投資意思決定論	<p>世の中にはさまざまな比較の問題があるが、それらは決して正しく評価されていない。比較の問題にもすでに抽出された原理があり、これを正しく理解し、実践をすることが重要である。本講義では、比較の原則について説明し、さまざまな事例に対して、実際にこの原則がどのように活用可能かを説明する。さらに、この原則を応用することにより、独立案、排反案、そして混合案といった選択問題への活用方法についても説明をする。そのほか、設備投資に考慮が必要となる資金の時間的価値についても説明をおこなう。到達目標は次の通り。</p> <p>①経済性工学に関する比較の原則を説明でき、②優劣分岐点の考え方について説明でき、③資金の時間的価値について説明でき、④独立案・排反案・混合案の違いについて説明できる。</p>	
	経営戦略論	<p>本講義の目的は、企業や自治体などの組織における経営戦略について、基本的な考え方や方法論を学ぶことによって、社会における問題発見・解決能力を高めることである。一般に、経営戦略は企業の経営者などのごく一部の人のみに関係あることと思われがちである。しかし、戦略的に物事を考え、適切に問題の発見や解決をする能力は、現場の最前線にいる技術者など、社会における様々な職種において有用である。</p> <p>授業では、経営戦略の策定や実践に必要な基本的な分析枠組みや方法論について種々の事例演習等を用いて修得する。また、企業等に関する複数の事例に関するディスカッション、グループワーク等を通じて、戦略的思考力を高める。</p> <p>(オムニバス方式／全14回) (17 深海 悟／4回) 経営戦略の概念や重要性ならびに基礎となる諸理論について解説する。 (31 山田 隆亮／5回) 経営戦略の中で、特に IT などの技術戦略についての理解を深めるために、具体的な戦略の事例についてディスカッションやグループワークを実施する。 (77 宮田 秀典／5回) 経営戦略の中で、特にマネジメント戦略についての理解を深めるために、具体的な戦略の事例についてディスカッションやグループワークを実施する。</p>	集中/オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専 門 科 目 演 習 科 目	C演習 I	<p>プログラミングはすべての情報処理技術の基礎である。プログラミングを理解することは、他の専門科目への理解を深めることになる。この演習では、基本的な C プログラムの書き方と、計算処理、条件判断処理、繰り返し処理、配列、関数などの C 言語の基礎を学習し、様々な課題をプログラムとして実現する方法を修得する。到達目標は次の通り。</p> <p>① C 言語を用いて問題解決のためのプログラムを作成することができ、② 変数および条件分岐を使用したプログラムを作成することができ、③ 繰り返しを使用したプログラムを作成することができ、④ 配列および関数を使用したプログラムを作成することができる。</p>	
	C演習 II	<p>「C 演習 I」で習得した C 言語の知識とプログラミング能力をもとに、構造体・ポインタなどの C 言語の文法と使用法、リスト・スタック・連結リストなどのデータ構造、ソート・探索などのアルゴリズム、抽象データ型の意義を演習によって理解し、応用プログラムを作成する。統計処理などの身近に利用するユーティリティプログラムを作成できることを目指す。到達目標は次の通り。</p> <p>① スタック、待ち行列、リストについて、操作関数による入出力データと内部データの関係を説明でき、データ構造を利用するアプリと基本的な実装コードを作成でき、さらにエラー処理を含めた応用プログラムを作成でき、② ポインタと構造体について、宣言と定義、代入と参照、比較などを含めた基本コードを作成でき、関数の引数や戻り値での利用などを含めたコードを作成でき、③ 連結リストについて、操作関数による入出力データと内部データの関係を説明でき、データ構造を利用するアプリと基本的な実装コードを作成でき、さらに動的なセルの生成などを含めた応用プログラムを作成でき、④ 2 分木と 2 分探索木について、再帰処理と探索の概念を説明とプログラムの作成ができ、⑤ 抽象データ型の概念と意義を説明できる。</p>	
	Java演習	<p>「C 演習 I、II」に引き続き、プログラミングの基本的な知識と技術を演習によって深める。特に、Java 言語を学習することで、情報科学の重要な考え方であるオブジェクト指向を理解する。更に、グラフィカルユーザインターフェース(GUI)などの応用プログラムを作成することで、ネットワークアプリケーションの作成技術の初歩を学習する。到達目標は次の通り。</p> <p>① 条件判断、繰り返し、配列を使ったメソッドを作成でき、② オブジェクト指向の基本概念を説明できて基本的なプログラムを作成でき、③ オブジェクト指向の継承などの概念を活用した応用プログラムを作成でき、④ GUI プログラムの仕組みを説明できて GUI プログラムを作成できる。</p>	
	データサイエンス実践演習 I	<p>数人ずつのグループにわかれて、① IoT によるデータの収集とその集計、② 企業経営における意思決定、③ 数理手法を用いたシステムの最適化に関する 3 種類のテーマについて順番に演習する。そして、演習テーマの目的あるいは得られた結果を首尾一貫した形で論理的にまとめた報告書を作成できるように、報告書の書き方を入念に指揮する。到達目標は次の通り。</p> <p>① 情報機器によるデータ収集の原理を理解し、データ収集や集計のためのシステム設計および開発ができ、② マネジメントゲームを通じて企業経営について理解を深めるとともに、意思決定を実践することができ、③ 組み合わせ最適化問題の解法について理解し、スケジューリング問題などに応用することができ、④ テーマごとの演習結果をドキュメントとして残し、首尾一貫した形の報告書を作成することができる。</p>	共同(一部)
	データサイエンス実践演習 II	<p>統計解析やデータマイニングなどの科目では、その概念や数理的な分析手法に対する理解も大切であるが、実際にそれらの手法を使って新たな発見に導くことが重要である。そのため、本演習では現実のデータを題材として、適切なソフトウェアを使って解析しその結果をまとめる。これにより、実践的な能力の育成を目的とする。到達目標は次の通り。</p> <p>① 分析目標に対して適切なソフトウェアを使用することができ、② 分析結果を可視化することができ、③ 分析結果に解釈をつけて第三者に説明することができ、④ 意思決定者に対して有効な選択肢を提供することができる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(情報科学部 データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
(専 門 科 目) (演 習 科 目)	データサイエンス実践演習Ⅲ	<p>人工知能や機械学習では、単に原理を理解しているだけではなく、実際にこれらの仕組みをデザインして問題解決を図る能力を高める必要がある。そこで、チームを編成して、設定された現実的なテーマに対する解決法を検討し、その結果に基づき人工知能や機械学習を開発する。これにより、実践的な能力の育成を目的とする。到達目標は次の通り。</p> <p>①チームで問題解決のための枠組みを検討することができ、②枠組みに基づいて人工知能や機械学習を試作でき、③試作されたシステムを評価することができ、④試作されたシステムを第三者に説明することができる。</p>	
	価値創造演習	<p>この演習の目的は、複数の分野にまたがる知識を適用して、具体的な問題解決を図ることで価値創造のための実践力を高めることである。このため実際に企業や自治体等が有している具体的な問題の中からテーマを選定し、仮説検証を通じて問題解決の糸口をつかみ、具体的な解決方法を立案する。さらに、その成果を第三者にプレゼンテーションして知識を深める。到達目標は次の通り。</p> <p>①統計解析などを通じて問題のための仮説を立てることができ、②チームで協調して問題解決の方法を検討することができ、③情報技術などを使って問題解決のための仕組みを確立することができ、④演習の成果を第三者に説明して議論することができる。</p>	集中

学校法人常翔学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和2年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和3年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
大阪工業大学				大阪工業大学				
工学部	900	40	3,680	工学部	900	40	3,680	
都市デザイン工学科	100	5	410	都市デザイン工学科	100	5	410	
建築学科	150	5	610	建築学科	150	5	610	
機械工学科	140	5	570	機械工学科	140	5	570	
電気電子システム工学科	125	5	510	電気電子システム工学科	125	5	510	
電子情報システム工学科	110	5	450	電子情報システム工学科	110	5	450	
応用化学科	130	5	530	応用化学科	130	5	530	
環境工学科	75	5	310	環境工学科	75	5	310	
生命工学科	70	5	290	生命工学科	70	5	290	
ロボティクス&デザイン工学部	280	15	1,150	ロボティクス&デザイン工学部	280	15	1,150	
ロボット工学科	90	5	370	ロボット工学科	90	5	370	
システムデザイン工学科	90	5	370	システムデザイン工学科	90	5	370	
空間デザイン学科	100	5	410	空間デザイン学科	100	5	410	
情報科学部	420	20	1,720	情報科学部	460	20	1,880	
情報知能学科	105	5	430	データサイエンス学科	70	-	280	学科の設置(届出)
情報システム学科	105	5	430	情報知能学科	90	5	370	定員変更(△15)
情報メディア学科	105	5	430	情報システム学科	105	5	430	
ネットワークデザイン学科	105	5	430	情報メディア学科	105	5	430	
知的財産学部	140	10	580	知的財産学部	140	10	580	
知的財産学科	140	10	580	知的財産学科	140	10	580	
計	1,740	85	7,130	計	1,780	85	7,290	
大阪工業大学大学院				大阪工業大学大学院				
工学研究科	116	-	238	工学研究科	116	-	238	
建築・都市デザイン工学専攻(M)	30	-	60	建築・都市デザイン工学専攻(M)	30	-	60	
建築・都市デザイン工学専攻(D)	2	-	6	建築・都市デザイン工学専攻(D)	2	-	6	
電気電子・機械工学専攻(M)	50	-	100	電気電子・機械工学専攻(M)	50	-	100	
電気電子・機械工学専攻(D)	2	-	6	電気電子・機械工学専攻(D)	2	-	6	
化学・環境・生命工学専攻(M)	30	-	60	化学・環境・生命工学専攻(M)	30	-	60	
化学・環境・生命工学専攻(D)	2	-	6	化学・環境・生命工学専攻(D)	2	-	6	
ロボティクス&デザイン工学研究科	32	-	66	ロボティクス&デザイン工学研究科	32	-	66	
ロボティクス&デザイン工学専攻(M)	30	-	60	ロボティクス&デザイン工学専攻(M)	30	-	60	
ロボティクス&デザイン工学専攻(D)	2	-	6	ロボティクス&デザイン工学専攻(D)	2	-	6	
情報科学研究科	45	-	95	情報科学研究科	45	-	95	
情報科学専攻(M)	40	-	80	情報科学専攻(M)	40	-	80	
情報科学専攻(D)	5	-	15	情報科学専攻(D)	5	-	15	
知的財産研究科	30	-	60	知的財産研究科	30	-	60	
知的財産専攻(P)	30	-	60	知的財産専攻(P)	30	-	60	
計	223	-	459	計	223	-	459	

令和2年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和3年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
摂南大学				摂南大学				
理工学部	500	30	2,060	理工学部	585	30	2,400	
生命科学科	90	5	370	生命科学科	105	5	430	定員変更(15)
住環境デザイン学科	70	5	290	住環境デザイン学科	85	5	350	定員変更(15)
建築学科	70	5	290	建築学科	80	5	330	定員変更(10)
機械工学科	110	5	450	機械工学科	130	5	530	定員変更(20)
電気電子工学科	90	5	370	電気電子工学科	105	5	430	定員変更(15)
都市環境工学科	70	5	290	都市環境工学科	80	5	330	定員変更(10)
外国語学部	220	5	890	外国語学部	220	5	890	
外国語学科	220	5	890	外国語学科	220	5	890	
経営学部	270	8	1,096	経営学部	270	8	1,096	
経営学科	170	4	688	経営学科	170	4	688	
経営情報学科	100	4	408	経営情報学科	100	4	408	
薬学部	220	-	1,320	薬学部	220	-	1,320	
薬学科	220	-	1,320	薬学科	220	-	1,320	
法学部	250	5	1,010	法学部	280	5	1,130	
法律学科	250	5	1,010	法律学科	280	5	1,130	定員変更(30)
経済学部	250	4	1,008	経済学部	280	4	1,128	
経済学科	250	4	1,008	経済学科	280	4	1,128	定員変更(30)
看護学部	100	-	400	看護学部	100	-	400	
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
農学部	340	-	1,360	農学部	340	-	1,360	
農業生産学科	80	-	320	農業生産学科	80	-	320	
応用生物科学科	80	-	320	応用生物科学科	80	-	320	
食品栄養学科	80	-	320	食品栄養学科	80	-	320	
食農ビジネス学科	100	-	400	食農ビジネス学科	100	-	400	
計	2,150	52	9,144	計	2,295	52	9,724	

摂南大学大学院			
薬学研究科	4	-	16
医療薬学専攻(D)	4	-	16
理工学研究科	38	-	80
社会開発工学専攻(M)	12	-	24
生産開発工学専攻(M)	12	-	24
生命科学専攻(M)	10	-	20
創生工学専攻(D)	2	-	6
生命科学専攻(D)	2	-	6
経済経営学研究科	10	-	20
経済学専攻(M)	5	-	10
経営学専攻(M)	5	-	10
法学研究科	5	-	10
法律学専攻(M)	5	-	10
国際言語文化研究科	5	-	10
国際言語文化専攻(M)	5	-	10
看護学研究科	6	-	12
看護学専攻(M)	6	-	12
計	68	-	148

摂南大学大学院			
薬学研究科	4	-	16
医療薬学専攻(D)	4	-	16
理工学研究科	38	-	80
社会開発工学専攻(M)	12	-	24
生産開発工学専攻(M)	12	-	24
生命科学専攻(M)	10	-	20
創生工学専攻(D)	2	-	6
生命科学専攻(D)	2	-	6
経済経営学研究科	10	-	20
経済学専攻(M)	5	-	10
経営学専攻(M)	5	-	10
法学研究科	5	-	10
法律学専攻(M)	5	-	10
国際言語文化研究科	5	-	10
国際言語文化専攻(M)	5	-	10
看護学研究科	6	-	12
看護学専攻(M)	6	-	12
計	68	-	148

令和2年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員 (完成年度)	令和3年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員 (完成年度)	変更の事由
広島国際大学				広島国際大学				
保健医療学部	220	-	880	保健医療学部	220	-	880	
診療放射線学科	70	-	280	診療放射線学科	70	-	280	
医療技術学科 (臨床工学専攻) (臨床検査学専攻)	100	-	400	医療技術学科 (臨床工学専攻) (臨床検査学専攻)	100	-	400	
救急救命学科	50	-	200	救急救命学科	50	-	200	
総合リハビリテーション学部	180	-	720	総合リハビリテーション学部	180	-	720	
リハビリテーション学科 (理学療法学専攻) (作業療法学専攻) (言語聴覚療法学専攻) (義肢装具学専攻)	180	-	720	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻) (作業療法学専攻) (言語聴覚療法学専攻) (義肢装具学専攻)	180	-	720	
看護学部	120	10	500	看護学部	120	10	500	
看護学科	120	10	500	看護学科	120	10	500	
薬学部	120	-	720	薬学部	120	-	720	
薬学科	120	-	720	薬学科	120	-	720	
健康科学部	350	-	1,400	健康科学部	350	-	1,400	
医療福祉学科 (医療福祉学専攻) (介護福祉学専攻) (保育福祉学専攻)	100	-	400	医療福祉学科 (医療福祉学専攻) (介護福祉学専攻) (保育福祉学専攻)	100	-	400	
医療経営学科	90	-	360	医療経営学科	90	-	360	
心理学科	100	-	400	心理学科	100	-	400	
医療栄養学科	60	-	240	医療栄養学科	60	-	240	
健康スポーツ学部	70	-	280	健康スポーツ学部	70	-	280	
健康スポーツ学科	70	-	280	健康スポーツ学科	70	-	280	
計	1,060	10	4,500	計	1,060	10	4,500	

広島国際大学大学院			
看護学研究科	13	-	29
看護学専攻 (M)	10	-	20
看護学専攻 (D)	3	-	9
医療・福祉科学研究科	22	-	46
医療工学専攻 (M)	10	-	20
医療工学専攻 (D)	2	-	6
医療福祉学専攻 (M)	5	-	10
医療経営学専攻 (M)	5	-	10
心理科学研究科	22	-	46
臨床心理学専攻 (D)	2	-	6
実践臨床心理学専攻 (P)	20	-	40
薬学研究科	2	-	8
医療薬学専攻 (D)	2	-	8
計	59	-	129

広島国際大学大学院			
看護学研究科	13	-	29
看護学専攻 (M)	10	-	20
看護学専攻 (D)	3	-	9
医療・福祉科学研究科	22	-	46
医療工学専攻 (M)	10	-	20
医療工学専攻 (D)	2	-	6
医療福祉学専攻 (M)	5	-	10
医療経営学専攻 (M)	5	-	10
心理科学研究科	22	-	46
臨床心理学専攻 (D)	2	-	6
実践臨床心理学専攻 (P)	20	-	40
薬学研究科	2	-	8
医療薬学専攻 (D)	2	-	8
計	59	-	129

校地校舎等の図面

1 都道府県内における位置関係の図面

著作権により添付省略

1) 出典

Google マップ〔グーグル株式会社〕

2) 引用元

<https://www.google.co.jp/maps/>

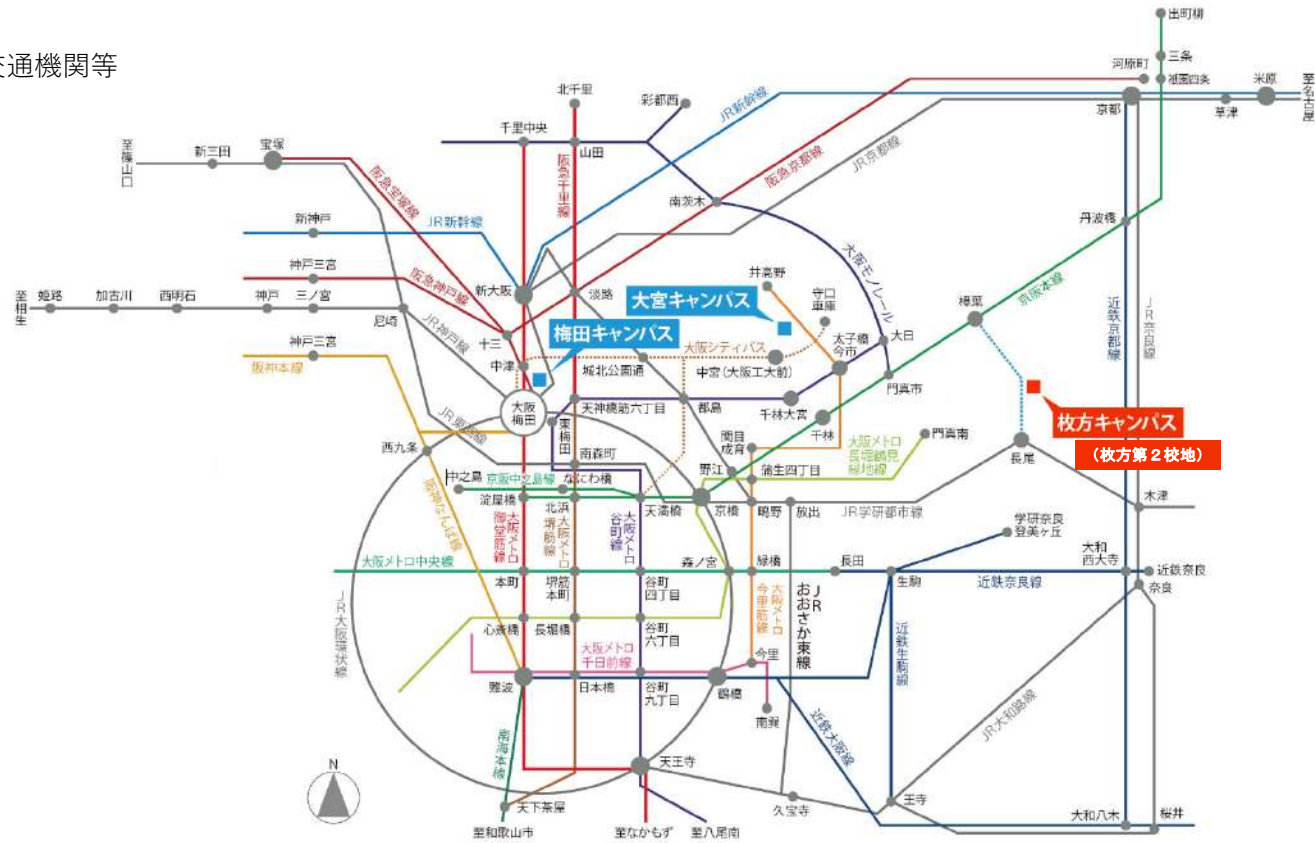
3) 引用範囲

地図

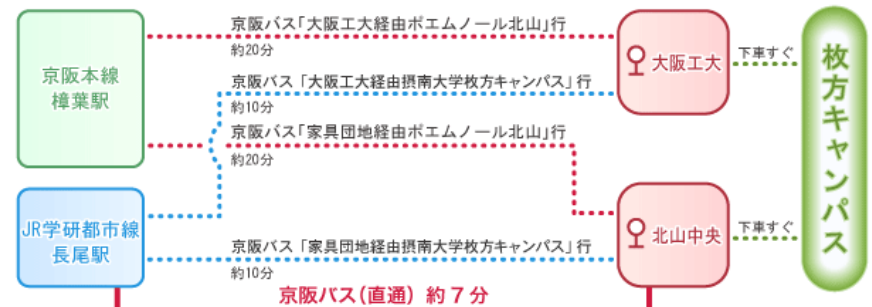
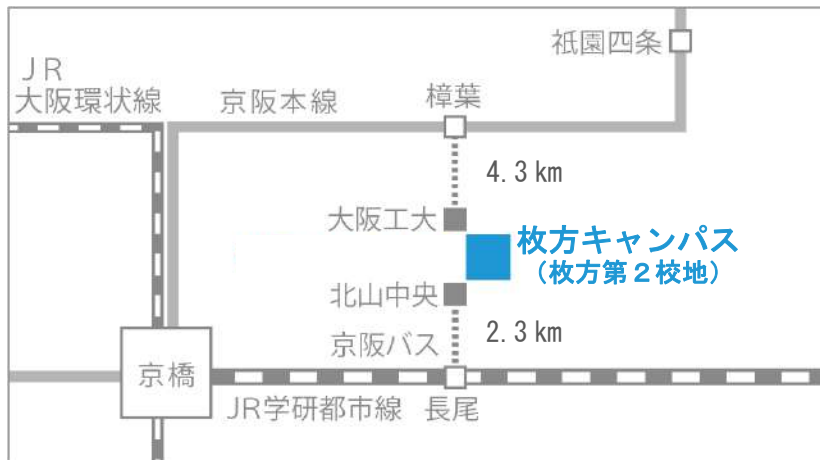
4) その他の説明

大阪府内における本学の位置関係を示すため、大阪・京都・奈良の広域地図上に枚方キャンパスの位置を示すポイントを表示し、「枚方キャンパス（枚方第2校地）」のコメントを付した。

2 最寄り駅からの距離、交通機関等



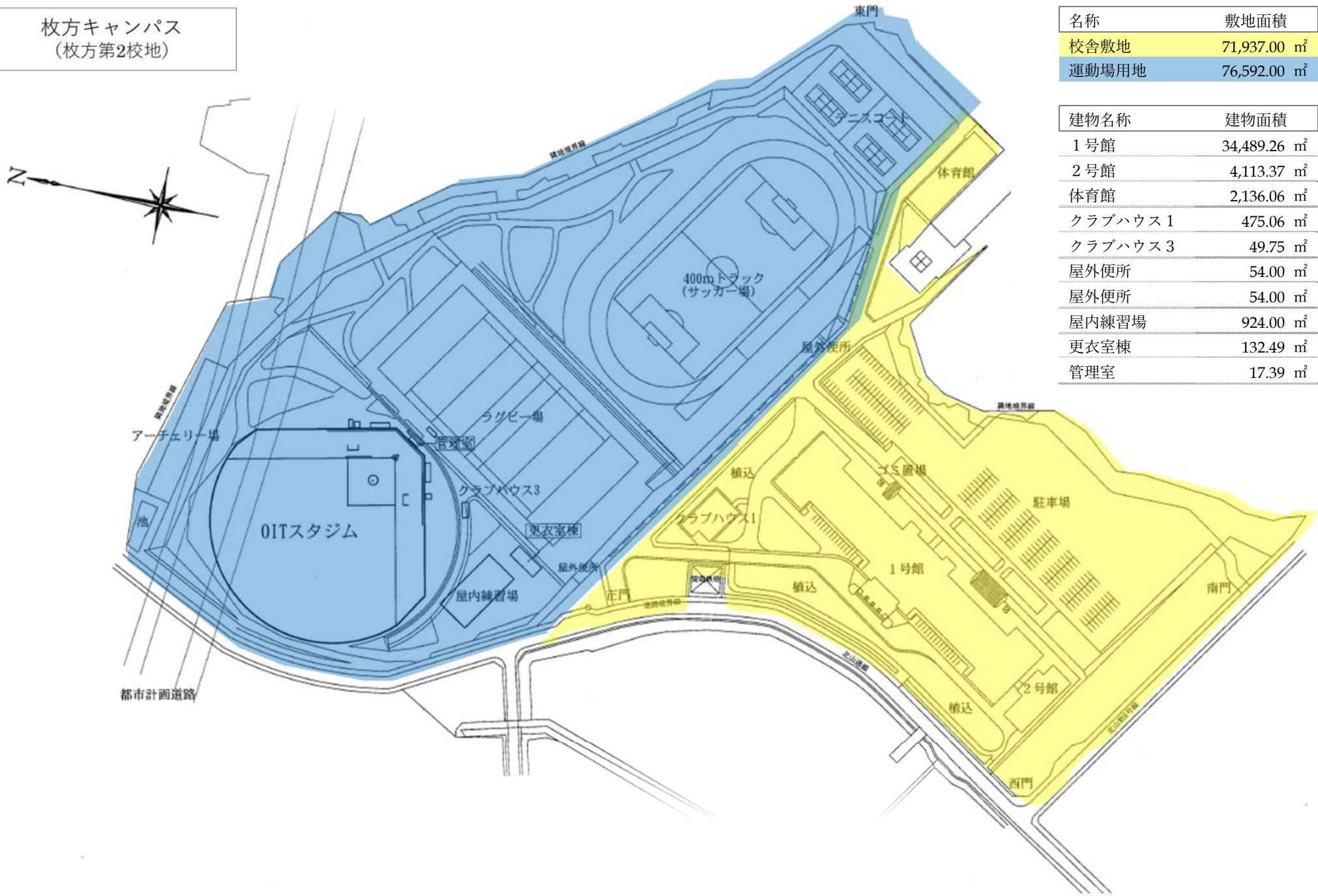
枚方キャンパスへのアクセス



※樟葉駅には、特急・快速急行・急行・準急が停車します(曜日や時間帯によって異なります)
 樟葉駅までの所要時間: 大阪・淀屋橋駅、京都・三条駅から特急・快速急行・急行・準急で25～40分
 ※長尾駅には快速が停車します。
 長尾駅までの所要時間: 大阪・京橋駅から快速で約25分、奈良駅から約35分
 ※京阪バスは、直通便を含め朝夕には毎時4～6便運行しています(直通便の運行は授業期間内の平日)。

3 校舎等配置図

枚方キャンパス
(枚方第2校地)



名称	敷地面積
校舎敷地	71,937.00 m ²
運動場用地	76,592.00 m ²

建物名称	建物面積
1号館	34,489.26 m ²
2号館	4,113.37 m ²
体育館	2,136.06 m ²
クラブハウス1	475.06 m ²
クラブハウス3	49.75 m ²
屋外便所	54.00 m ²
屋外便所	54.00 m ²
屋内練習場	924.00 m ²
更衣室棟	132.49 m ²
管理室	17.39 m ²

学 則

1. 変更後の学則

○大阪工業大学学則

昭和24年3月25日
学園102

第1章 総則

(目的)

第1条 本大学は、専門学術を教育研究し、深い教養と実践的応用力を身につけ、時代の要請に対応して国際的視野から知的・技術的創造を実現でき、確かな人間力を備え常に向上を心がける、心身ともにたくましい専門職業人を養成して、社会の発展に貢献するとともに、学術と文化の向上をはかることを目的とする。

(自己評価等)

第2条 本大学は、前条に規定する目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行う。

2 前項の点検および評価に関することは、別に定める。

第2章 組織

(設置学部および設置学科)

第3条 本大学に、つぎの学部および学科を置く。

学部	学科
工学部	都市デザイン工学科 建築学科 機械工学科 電気電子システム工学科 電子情報システム工学科 応用化学科 環境工学科 生命工学科
ロボティクス&デザイン工学部	ロボット工学科 システムデザイン工学科 空間デザイン学科
情報科学部	データサイエンス学科 情報知能学科 情報システム学科 情報メディア学科 ネットワークデザイン学科
知的財産学部	知的財産学科

(教育研究上の目的)

第3条の2 工学部は、地球環境に配慮しながら、専門技術の基礎ならびに人間力を基盤として幅広い協働によるものづくりを実践でき、常に向上を目指す心身ともにたくましい技術者を育成することを目的とする。

2 ロボティクス&デザイン工学部は、工学的な知識・技術を人間中心の視点から活用し、持続可能で豊かな社会の形成や発展に貢献できる専門職業人を育成することを目的とする。

3 情報科学部は、情報通信に関する知識や技術を学び、広い視野と倫理観を持って社会や産業活動の情報化とその発展に貢献する健全な技術者あるいは専門職業人を育成することを目的とする。

4 知的財産学部は、健全な人間性、知的能力および国際感覚を有することにより、21世紀の産業社会において活躍する者にして、知的財産の保護と活用を推進することに貢献できる職業人を養成することを目的とする。

(収容定員)

第4条 本大学の学科別入学定員および収容定員は、つぎのとおりとする。

学部	学科	入学定員		収容定員
			3年次編入 学定員	
工学部	都市デザイン工学科	100名	5名	410名
	建築学科	150名	5名	610名
	機械工学科	140名	5名	570名
	電気電子システム工学科	125名	5名	510名
	電子情報システム工学科	110名	5名	450名
	応用化学科	130名	5名	530名
	環境工学科	75名	5名	310名
	生命工学科	70名	5名	290名
	計	900名	40名	3,680名
ロボティクス &デザイン工 学部	ロボット工学科	90名	5名	370名
	システムデザイン工学科	90名	5名	370名
	空間デザイン学科	100名	5名	410名
	計	280名	15名	1,150名
情報科学部	データサイエンス学科	70名	—	280名
	情報知能学科	90名	5名	370名
	情報システム学科	105名	5名	430名
	情報メディア学科	105名	5名	430名
	ネットワークデザイン学科	90名	5名	370名
	計	460名	20名	1,880名
知的財産学部	知的財産学科	140名	10名	580名

(大学院)

第5条 本大学に、大学院を置く。

2 大学院については、大学院学則に定める。

(職員組織)

第6条 本大学に、学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手および研究職員ならびに事務職員を置く。

2 本大学に、必要に応じて副学長を置くことができる。

3 本大学には、前2項のほか、教務部長、学生部長、図書館長、情報センター長、学長室長、入試部長および就職部長その他必要な職員を置く。

(各職員の職務)

第7条 学長は、学務を統括し、所属職員を統督する。

2 副学長は、学長を補佐し、その命を受けて本大学の重要な事項についての校務を掌る。

3 学部長は、学長を補佐し、その命を受けて本大学の教学運営業務を遂行し、各学部内の業務を処理するとともに、各学部にも所属する教育系職員を指揮監督する。

4 教授は、専攻分野について、教育上、研究上または実務上の特に優れた知識、能力および実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、または研究に従事する。

5 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上または実務上の優れた知識、能力および実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、または研究に従事する。

6 講師は、教授または准教授に準ずる職務に従事する。

7 助教は、専攻分野について、教育上、研究上または実務上の知識および能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、または研究に従事する。

8 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

9 研究職員は、教授、准教授もしくは講師の職務を補佐し、または指導を受けて研究に従事する。

- 10 事務職員は、本大学の管理運営業務にあたるほか、学生の学修指導および厚生補導に従事する。
- 11 前条第3項の職員の職務については、職制に関する規定に定める。

(大学・大学院運営会議)

第8条 本大学に、大学・大学院運営会議を置く。

- 2 大学・大学院運営会議は、学長、副学長、研究科長、学部長、教務部長、学生部長、図書館長、情報センター長、学長室長、入試部長、就職部長、国際交流センター長、教育センター長、研究支援・社会連携センター長および研究支援・社会連携センター副センター長をもって組織し、本大学の重要な事項を審議する。
- 3 その他大学・大学院運営会議について必要な事項は、大学・大学院運営会議規定に定める。
(教授会)

第9条 本大学の各学部に教授会を置く。

- 2 教授会は、学部長および当該学部の教授をもって構成し、当該学部のつぎの事項について審議する。
 - イ 学則に関すること
 - ロ 諸規定の制定・改廃に関すること
 - ハ 教務に関すること
 - ニ 学生の入学、卒業および転学部・転科に関すること
 - ホ 学長が諮問した事項に関すること
- 3 その他各学部の教授会について必要な事項は、各学部の教授会規定に定める。
(委員会)

第10条 本大学に、本大学の重要な事項を審議する組織として、つぎの委員会を置く。

- イ 自己評価・IR委員会
 - ロ 工学部教員選考委員会
 - ハ ロボティクス&デザイン工学部教員選考委員会
 - ニ 情報科学部教員選考委員会
 - ホ 知的財産学部教員選考委員会
 - へ 入試委員会
 - ト 教務委員会
 - チ 教職課程委員会
 - リ 学生委員会
 - ヌ 就職委員会
 - ル 図書館運営委員会
 - ヲ 人権侵害防止委員会
 - ワ 個人情報保護委員会
 - カ FD委員会
 - コ 教員活動評価委員会
- 2 自己評価・IR委員会は、自己点検・評価、外部評価、認証評価機関による第三者評価、内部質保証に関する事項を審議する。
 - 3 工学部教員選考委員会は、工学部の教員の採用および昇任の資格審査ならびに研修に関する事項を審議する。
 - 4 ロボティクス&デザイン工学部教員選考委員会は、ロボティクス&デザイン工学部の教員の採用および昇任の資格審査ならびに研修に関する事項を審議する。
 - 5 情報科学部教員選考委員会は、情報科学部の教員の採用および昇任の資格審査ならびに研修に関する事項を審議する。
 - 6 知的財産学部教員選考委員会は、知的財産学部の教員の採用および昇任の資格審査ならびに研修に関する事項を審議する。
 - 7 入試委員会は、学長の諮問に応じて各学部の入学者選抜についての企画調整、その他重要な事項を審議する。
 - 8 教務委員会は、学長の諮問に応じて教務に関する重要な事項の審議ならびに各学部間の連絡調整を行う。
 - 9 教職課程委員会は、学長の諮問に応じて教職課程に関する重要な事項の審議ならびに各学部間の連絡調整を行う。
 - 10 学生委員会は、学長の諮問に応じて学生の厚生補導、表彰、懲戒その他重要な事項の審議および各

学部間の連絡調整を行う。

- 11 就職委員会は、学長の諮問に応じて就職に関する重要な事項の審議および各学部間の連絡調整を行う。
- 12 図書館運営委員会は、学長の諮問に応じて図書館の運営に関し必要な事項を審議する。
- 13 人権侵害防止委員会は、本大学における人権侵害の防止に関し必要な事項を審議する。
- 14 FD委員会は、本大学における授業の内容、方法等の改善を図るため、組織的な研修および研究に関する事項を審議する。
- 15 個人情報保護委員会は、本大学における個人情報の保護に関し必要な事項を審議する。
- 16 教員活動評価委員会は、本大学における教員活動評価に関する事項を審議する。
- 17 その他委員会について必要な事項は、各委員会規定に定める。

第3章 学年、学期および休業日

(学年)

第11条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(学期)

第12条 学年をつぎの2学期に区分する。

- イ 前期 4月1日から9月30日まで
 - ロ 後期 10月1日から翌年3月31日まで
- 2 必要がある場合、学長は、前項に定める前期の終期および後期の始期を変更することができる。
 - 3 第1項に定める各学期を前半および後半に分けることができる。

(休業日)

第13条 休業日は、つぎのとおりとする。ただし、休業日に授業等を行うことがある。

- イ 日曜日および国民の祝日に関する法律に定める休日
 - ロ 本学園創立記念日 10月30日
 - ハ 春期休業日 3月21日から3月31日まで
 - ニ 夏期休業日 8月1日から9月14日まで
 - ホ 冬期休業日 12月25日から翌年1月7日まで
- 2 必要がある場合、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。
 - 3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第4章 修業年限および在学年数

(修業年限)

第14条 修業年限は、4年とする。

(在学年数の制限)

第15条 在学年数は、8年を超えることができない。

第5章 入学

(入学時期)

第16条 入学時期は、学年の始めとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、学長は、学年の途中においても、第12条に定める学期の区分に従い、入学させることができる。その場合の学年は、第11条にかかわらず、10月1日に始まり翌年9月30日に終わるものとする。

(入学資格)

第17条 本大学に入学できる者は、つぎの各号のいずれかに該当する者とする。

- イ 高等学校または中等教育学校を卒業した者
- ロ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）
- ハ 学校教育法施行規則第150条に定められた者

(編入学)

第18条 本大学に編入学を志願する者があるときは、選考のうえ原則として第3年次に編入学を許可する。

- 2 編入学できる者は、つぎの各号のいずれかに該当する者とする。

- イ 大学を卒業した者
- ロ 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者
- ハ 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した後に退学した者

- ニ 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所または国立養護教諭養成所を卒業した者
- ホ 学校教育法施行規則第92条の3に定める従前の規定による高等学校、専門学校または教員養成諸学校等の課程を修了もしくは卒業した者
- ヘ 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る）を修了した者
- ト 高等学校の専攻科の課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る）を修了した者
- チ 外国において学校教育における14年の課程を修了した者
- リ 本学において、個別の入学資格審査により、前各号と同等以上の学力があると認めた場合で、20歳に達した者

3 その他編入学については、編入学規定に定める。
（転入学）

第18条の2 本大学に転入学を志願する者があるときは、選考のうえこれを許可することがある。

- 2 転入学できる者は、大学に在籍している者とする。
- 3 その他転入学については、転入学規定に定める。
（出願手続）

第19条 本大学に入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料および別に定める書類を添えて願い出なければならない。
（入学者の選考）

第20条 入学者の選考は、教授会の議を経て学長がこれを行う。
（入学手続および入学許可）

第21条 前条の選考に合格した者は、指定の期日までに、別に定める学費を納入し、所定の手続を完了しなければならない。

- 2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。
- 3 前項により入学を許可された者は、入学宣誓式に出席し、かつ、入学の宣誓をしなければならない。
（保証人）

第22条 保証人は、独立の生計を営む成年者とし、父母またはこれに代わる親族としなければならない。

- 2 保証人は、当該学生の誓約に対し、責任を負わなければならない。
- 3 保証人が、死亡などのため、その資格を失ったときは、新たに保証人を定め届け出なければならない。

第6章 教育課程および履修方法

（授業科目）

第23条 工学部については、各授業科目をキャリア形成の基礎、工学の基礎、専門科目、数理科学と教育およびその他連携科目に分け、これを4年間に配当し、編成する。

- 2 ロボティクス&デザイン工学部については、各授業科目を共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、専門横断科目および専門科目に分け、これを4年間に配当し、編成する。
- 3 情報科学部については、各授業科目を共通科目、キャリア科目、専門科目、自由科目に分け、これを4年間に配当し、編成する。なお、自由科目については、情報科学部履修規定に定める。
- 4 知的財産学部については、各授業科目を導入領域、教養領域、専門領域、展開領域およびその他連携領域に分け、これを4年間に配当し、編成する。
- 5 授業科目は、必修科目、選択必修科目および選択科目とする。

（授業の方法）

第23条の2 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかによりまたはこれらの併用により行うものとする。

- 2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 第1項の授業を、外国において履修させることができる。
- 4 第1項の授業の一部を、校舎および附属施設以外の場所で行うことができる。

（授業科目および単位）

第24条 各学科の授業科目および単位数は、別表第1のとおり定める。

- 2 単位数の計算基準は、つぎのとおりとする。

イ 講義および演習については、15時間または30時間の授業時間をもって1単位とする。

ロ 実験および実習については、30時間または45時間の授業時間をもって1単位とする。

- 3 前項にかかわらず、講義および演習と実験、実習を組み合わせる行う授業科目については、その組み合わせに応じて、15時間から45時間の範囲で、本大学が定める授業時間をもって1単位とする。

(卒業に必要な単位数)

第25条 卒業に必要な単位は、つぎのとおりとする。

工学部	キャリア形成の基礎20単位〔人文社会科学10単位、外国語8単位(英語6単位を含む)、体育2単位〕ならびに工学の基礎26単位および所属する学科の専門科目70単位を含めて合計124単位
ロボティクス&デザイン工学部	共通教養科目20単位(外国語8単位含む)、工学関連科目18単位、専門横断科目および専門科目76単位、その他(共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、所属学科の専門横断科目および専門科目、他学科の専門科目および他学部の科目)10単位を含め、合計124単位
情報科学部	イ データサイエンス学科 共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位を含む)、キャリア科目2単位および専門科目86単位を含めて合計124単位 ロ 情報知能学科、情報システム学科、情報メディア学科、ネットワークデザイン学科 共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系12単位以上を含む。人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位必要)、キャリア科目2単位および所属する学科の専門科目86単位を含めて合計124単位
知的財産学部	導入領域8単位、教養領域20単位(英語科目8単位および一般科目12単位を含む)、専門領域74単位(基幹科目28単位、知的財産法科目12単位、技術&専門科目14単位、探究科目6単位、研究科目4単位を含む)、展開領域14単位(実践英語科目2単位を含む)を含めて合計124単位

(履修の方法および制限)

第26条 履修の方法および履修の制限については、各学部の履修規定に定める。

第7章 単位の授与

(単位の授与)

第27条 授業科目を履修し、試験に合格した者には、所定の単位を与える。ただし、設計製図、演習、実験、実習等については、試験によらないことがある。

(他大学授業科目の履修および大学以外の教育施設等における学修ならびに単位認定)

第28条 教育上有益と認めるときは、他の大学(外国の大学を含む)との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることができる。

2 短期大学または高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修(平成3年度文部省告示第68号に定めるもの)を教育上有益と認めるときは、本大学における授業科目の履修とみなすことができる。

3 前項に関し、その他文部科学大臣が別に定める学修については、大学以外の教育施設等における学修のうち文部科学大臣が定める学修に係る単位認定取扱規定に定める。

4 前3項により修得した単位について、学部長は教授会の議を経て、30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位とみなすことができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第29条 教育上有益と認めるときは、新たに第1年次に入学した者が本大学に入学する前に大学または短期大学等において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む)を、30単位を超えない範囲で入学前既修得単位認定取扱規定により認定することができる。

2 教育上有益と認めるときは、編入学および転入学した者が本大学に入学する前に大学または短期大学等において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む)を、62単位を超えない範囲で

入学前既修得単位認定取扱規定により認定することができる。

- 3 教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行った前条第2項に規定する学修のうちその他文部科学大臣が別に定める学修を、大学以外の教育施設等における学修のうち文部科学大臣が定める学修に係る単位認定取扱規定により認定することができる。

(成績の評価)

第30条 成績の評価は、「A、B、C、D、F、*、G」をもって表し、「A、B、C、D、G」を合格とし「F、*」を不合格とする。

- 2 授業科目の成績は、その授業の方法、内容および年間の計画ならびに成績評価の基準をあらかじめ学生に明示し、当該基準にしたがって行うものとする。

第8章 卒業および学位の授与

(卒業)

第31条 工学部および情報科学部については、4年以上在学し、第25条に定める単位を修得し、かつ、卒業研究に合格した者に、学長は教授会の議を経て卒業を許可する。

- 2 ロボティクス&デザイン工学部については、4年以上在学し、第25条に定める単位(卒業研究を含む)を修得した者に、学長は教授会の議を経て卒業を許可する。

- 3 知的財産学部については、4年以上在学し、第25条に定める単位を修得し、かつ、達成度確認テストおよび卒業研究に合格した者に、学長は教授会の議を経て卒業を許可する。

- 4 前項の規定にかかわらず、本学の学生として3年以上在学し、大学院への進学を希望している者で、学部の定める卒業要件を満たし、かつ、優秀な成績を修めたと認めた場合、学部長が推薦し教授会の議を経て、学長は卒業を認めることができる。

- 5 第1項の規定により卒業の要件として修得すべき124単位のうち、第23条の2第2項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

(学位の授与)

第32条 本大学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

- 2 その他学位の授与については、学位規定に定める。

第9章 休学、退学、除籍、復学、再入学、転学部等

(休学)

第33条 病気その他やむを得ない理由により、長期にわたり修学できないときは、所定の休学願により学部長に願い出て休学することができる。

(休学命令)

第34条 病気その他修学することが適当でないと認められる者については、所属学部長は休学を命じることができる。

(休学期間)

第35条 休学の期間は、原則として当該期または当該学年の末までとする。ただし、学部長が特別の理由があると認めた者については、引き続き翌学年度末までの休学を許可することがある。

(休学期間の制限)

第36条 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

- 2 休学期間は、在学年数に算入しない。

(退学)

第37条 病気その他やむを得ない理由により、退学しようとするときは、学長の許可を得なければならない。

(除籍)

第38条 つぎの各号のいずれかに該当する者は、学長が除籍する。

- イ 学費を所定の期日までに納入しない者
- ロ 休学者で在籍料を所定の期日までに納入しない者
- ハ 第15条の在学年数を超えた者
- ニ 休学期間満了になっても復学を願い出ない者
- ホ 他の大学、短期大学または高等専門学校に在籍していることが明らかになった者(第51条に定める特別履修生として入学を許可された者を除く)
- ヘ 死亡が確認された者

(復学)

第39条 休学者の復学については、復学規定に定める。

(再入学)

第40条 退学した者または除籍された者が再入学を願い出た場合は、学長は教授会の議を経て許可することができる。

2 その他再入学については、再入学規定に定める。

(転学部等)

第41条 転学部または転科を志願する者があるときは、志願先に欠員のある場合に限り、志願先の教授会の議を経て学長が許可することができる。

2 転学部または転科した者がすでに修得した単位の取扱いについては、学部長が別に定める。

3 その他転学部または転科については、転学部・転科規定に定める。

第10章 賞罰

(表彰)

第42条 学生として表彰に価する行為があった者には、学生委員会の議を経て学長が表彰することができる。

2 その他表彰については、学生表彰規定に定める。

(懲戒)

第43条 本大学の学則もしくは諸規定に違反し、または学生の本分に反する行為を行った者には、学生委員会の議を経て学長が懲戒する。

2 懲戒は、譴責、停学および放學とする。

3 放學は、つぎの各号のいずれかに該当する者に対して行う。

イ 性行不良で改善の見込みがないと認められた者

ロ 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

4 その他懲戒については、学生懲戒規定に定める。

第11章 学費

(学費)

第44条 学費は、入学金、授業料および教育充実費とし、その額は、別表第2—1のとおり定める。

(学費の納入等)

第45条 学費は、所定の期日までに納入しなければならない。

2 学費の納入については、学費納入規定に定める。

3 既に納入された学費は、返戻しない。ただし、学費納入規定に定めのある場合は、この限りでない。

(休学中の学費)

第46条 休学中の学費は、休学を許可された期の翌期から免除する。ただし、別表第2—4に定める在籍料を納入しなければならない。

2 その他休学中の学費等の取扱いについては、学費納入規定に定める。

第12章 奨学制度

(奨学制度)

第47条 学業、人物ともに優秀で経済的理由などにより就学困難と認められた者に対し、奨学金を給付することがある。

2 その他奨学金については、学内奨学規定に定める。

第13章 教育職員免許状

(教育職員免許状)

第48条 教育職員免許状の取得を志望する者のために、教育職員免許法に基づき、教科及び教職に関する科目を置く。

2 本大学において、取得できる教育職員免許状の種類および免許教科は、別表第3のとおりとする。

3 前項の免許状を取得するための授業科目、単位の履修方法等については、履修規定による。

第14章 公開講座

(公開講座)

第49条 市民の教養を高め、地域社会の教育文化の向上に資するため、公開講座を設けることがある。

第15章 科目等履修生、特別履修生および研究生

(科目等履修生)

第50条 本大学において、特定の授業科目の履修を志願する者があるときは、本大学の教育に支障のない場合に限り、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 授業科目を履修し、試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 3 履修料は、別表第2—2のとおり定める。
- 4 その他科目等履修生については、科目等履修生規定に定める。
(特別履修生)

第51条 他の大学の学生で、本大学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、本大学の教育に支障のない場合に限り、当該大学(外国の大学を含む)との協議に基づき、特別履修生として入学を許可することがある。

- 2 履修料は、別表第2—2のとおり定める。
- 3 その他特別履修生については、特別履修生規定に定める。
(研究生)

第52条 本大学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、本大学の教育研究に支障のない場合に限り、学長は教授会の議を経て研究生として入学を許可することができる。

- 2 研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者またはこれと同等以上の学力があると認められた者とする。
- 3 研究期間は、6カ月または1年とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。
- 4 研究料は、別表第2—3のとおり定める。
- 5 その他研究生については、研究生規定に定める。

第16章 外国人留学生および帰国学生

(外国人留学生)

第53条 外国の国籍を有する者で、原則として大学入学を目的として入国許可を受けて入国し、本大学に入学を志願する者があるときは、学長は特別に選考のうえ教授会の議を経て外国人留学生として入学を許可することができる。

- 2 その他外国人留学生の入学については、外国人留学生入学規定に定める。
(帰国学生)

第54条 帰国生徒で、本大学に入学を志願する者があるときは、学長は特別に選考のうえ教授会の議を経て帰国学生として入学を許可することができる。

- 2 その他帰国生徒の入学については、外国人留学生入学規定による。

第17章 付置研究所等

(付置研究所等)

第55条 本大学に図書館、情報センター、実験場、研究センターその他の附属施設を置く。これらに関する規定は、別にこれを定める。

第18章 その他

(施行細則)

第56条 本学則施行に必要な細則は、別に定める。

(学則の改廃)

第57条 本学則の改廃は、教授会および大学・大学院運営会議の意見を聴き、学長の承認を得て、理事会の議を経て理事長がこれを行う。

付 則

- 1 本学則は、昭和24年3月25日から施行する。

2

イ この改正学則は、2021年4月1日から施行する。

ロ 2020年度以前の情報科学部の入学者に開設する授業科目および卒業に必要な単位数ならびに教職課程については、なお従前の例による。

ハ 2018年度以前の工学部の入学者の修得すべき授業科目および卒業に必要な単位数ならびに教職課程については、学部長が別に定めるもののほか、なお従前の例による。

ニ 工学部機械工学科の「エンジニアリングプラクティス」の授業科目については、2012年度入学者から適用する。

ホ 2019年度以前の入学者の学費については、なお従前の例による。

ヘ 2019年度以前の知的財産学部知的財産学科の入学者の修得すべき授業科目および卒業に必要な単位数については、なお従前の例による。ただし、知的財産学部長は、これらの者の修得すべき授業科目の実施について、必要な措置を講じることができる。

ト 2018年度以前のロボティクス&デザイン工学部の入学者の教職課程については、なお従前の例による。

チ 第3条の規定にかかわらず、工学部空間デザイン学科および工学部ロボット工学科は、2017年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

リ 第3条の規定にかかわらず、工学部電子情報通信工学科、情報科学部コンピュータ科学科および情報科学部情報ネットワーク学科は、2019年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

別表第1 教育課程表

注1 単位数の前に●を付した授業科目は必修科目

2 単位数の前に■を付した授業科目は選択必修科目

3 教職課程においては、注1、2は、教育職員免許状の取得に必要な必修科目等を示す

I 工学部

1 キャリア形成の基礎

	授業科目	単位数
人文社会科学	世界と人間	2
	文章表現基礎	2
	哲学	2
	倫理学	2
	美術史	2
	文学	2
	日本語の歴史	2
	法学（日本国憲法）	2
	経済学	2
	歴史学	2
	心理学	2
	日本の伝統と文化	2
	国際関係論	2
	※日本の文化と社会Ⅰ	2
※日本の文化と社会Ⅱ	2	
外国語	ベーシック・イングリッシュa	1
	ベーシック・イングリッシュb	1
	オーラル・コミュニケーションⅠa	1
	オーラル・コミュニケーションⅠb	1
	オーラル・コミュニケーションⅡa	1
	オーラル・コミュニケーションⅡb	1
	工学コミュニケーション英語基礎a	1
	工学コミュニケーション英語基礎b	1
	キャリア・イングリッシュⅠa	1
	キャリア・イングリッシュⅠb	1
	キャリア・イングリッシュⅡa	1
	キャリア・イングリッシュⅡb	1
	英語プレゼンテーションa	1
	英語プレゼンテーションb	1
	中国語コミュニケーション	1
	中国語と現代中国事情	1
	海外語学研修	2
	※日本語Ⅰ	2
	※日本語Ⅱ	2
	体育	健康体育Ⅰ
健康体育Ⅱ		1
生涯スポーツⅠ		1
生涯スポーツⅡ		1

注) 授業科目名の前に※を付した科目は、外国人留学生を対象とする。

2 工学の基礎

イ 都市デザイン工学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学 I	2
	解析学 I 演習	1
	解析学 II	2
	解析学 II 演習	1
	解析学 III	2
	解析学 III 演習	1
	線形代数学 I	2
	線形代数学 II	2
	微分方程式 I	2
	微分方程式 II	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2
生物科学	2	
工学マネジメント	工学倫理	2
	ものづくりマネジメント 技術を活かす経営	2
	知的財産法概論	2
	基礎情報処理 I	1
	基礎情報処理 II	1
	品質管理	2
	確率と統計 I	2
	確率と統計 II	2
淀川学	淀川と人間	1
	淀川と環境	1
OITリソース	デザイン探求演習 (PBL)	1
	宇宙・地球・生命一探究演習 (PBL)	1

ロ 建築学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学 I	2
	解析学 I 演習	1
	解析学 II	2
	解析学 II 演習	1
	解析学 III	2
	解析学 III 演習	1
	線形代数学 I	2
	線形代数学 II	2
	微分方程式 I	2
	微分方程式 II	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2

	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2
	生物科学	2
工学マネジメント	工学倫理	2
	ものづくりマネジメント 技術を活かす経営	2
	知的財産法概論	2
	基礎情報処理 I	1
	基礎情報処理 II	1
	品質管理	2
	確率と統計 I	2
	確率と統計 II	2
淀川学	淀川と人間	1
	淀川と環境	1
OITリソース	デザイン探求演習 (PBL)	1
	宇宙・地球・生命一探究演習 (PBL)	1

ハ 機械工学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学 I	2
	解析学 I 演習	1
	解析学 II	2
	解析学 II 演習	1
	解析学 III	2
	解析学 III 演習	1
	線形代数学 I	2
	線形代数学 II	2
	微分方程式 I	2
	微分方程式 II	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2
生物科学	2	
工学マネジメント	工学倫理	2
	ものづくりマネジメント 技術を活かす経営	2
	知的財産法概論	2
	基礎情報処理 I	1
	基礎情報処理 II	1
	品質管理	2
	確率と統計 I	2
	確率と統計 II	2
淀川学	淀川と人間	1
	淀川と環境	1
OITリソース	エンジニアリング探求演習 (PBL)	1
	宇宙・地球・生命一探究演習 (PBL)	1

ニ 電気電子システム工学科

授業科目		単位数
自然科学	解析学Ⅰ	2
	解析学Ⅰ演習	1
	解析学Ⅱ	2
	解析学Ⅱ演習	1
	解析学Ⅲ	2
	解析学Ⅲ演習	1
	線形代数学Ⅰ	2
	線形代数学Ⅱ	2
	微分方程式Ⅰ	2
	微分方程式Ⅱ	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2
	生物科学	2
工学マネジメント	工学倫理	2
	ものづくりマネジメント 技術を活かす経営	2
	知的財産法概論	2
	基礎情報処理Ⅰ	1
	基礎情報処理Ⅱ	1
	品質管理	2
	確率と統計Ⅰ	2
	確率と統計Ⅱ	2
淀川学	淀川と人間	1
	淀川と環境	1
OITリソース	エンジニアリング探求演習（PBL）	1
	宇宙・地球・生命一探究演習（PBL）	1

ホ 電子情報システム工学科

授業科目		単位数
自然科学	解析学Ⅰ	2
	解析学Ⅰ演習	1
	解析学Ⅱ	2
	解析学Ⅱ演習	1
	解析学Ⅲ	2
	解析学Ⅲ演習	1
	線形代数学Ⅰ	2
	線形代数学Ⅱ	2
	微分方程式Ⅰ	2
	微分方程式Ⅱ	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
化学	2	

	地球科学	2
	生物科学	2
工学マネジメント	工学倫理	2
	ものづくりマネジメント 技術を活かす経営	2
	知的財産法概論	2
	基礎情報処理 I	1
	基礎情報処理 II	1
	品質管理	2
	確率と統計 I	2
	確率と統計 II	2
淀川学	淀川と人間	1
	淀川と環境	1
OITリソース	エンジニアリング探求演習 (PBL)	1
	宇宙・地球・生命一探究演習 (PBL)	1

へ 応用化学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学 I	2
	解析学 I 演習	1
	解析学 II	2
	解析学 II 演習	1
	解析学 III	2
	解析学 III 演習	1
	線形代数学 I	2
	線形代数学 II	2
	微分方程式 I	2
	微分方程式 II	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2
生物科学	2	
工学マネジメント	工学倫理	2
	ものづくりマネジメント 技術を活かす経営	2
	知的財産法概論	2
	基礎情報処理 I	1
	基礎情報処理 II	1
	品質管理	2
	確率と統計 I	2
	確率と統計 II	2
淀川学	淀川と人間	1
	淀川と環境	1
OITリソース	サイエンス探求演習 (PBL)	1
	宇宙・地球・生命一探究演習 (PBL)	1

ト 環境工学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学Ⅰ	2
	解析学Ⅰ演習	1
	解析学Ⅱ	2
	解析学Ⅱ演習	1
	解析学Ⅲ	2
	解析学Ⅲ演習	1
	線形代数学Ⅰ	2
	線形代数学Ⅱ	2
	微分方程式Ⅰ	2
	微分方程式Ⅱ	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
	化学	2
	地球科学	2
	生物科学	2
工学マネジメント	工学倫理	2
	ものづくりマネジメント 技術を活かす経営	2
	知的財産法概論	2
	基礎情報処理Ⅰ	1
	基礎情報処理Ⅱ	1
	品質管理	2
	確率と統計Ⅰ	2
	確率と統計Ⅱ	2
淀川学	淀川と人間	1
	淀川と環境	1
OITリソース	サイエンス探求演習（PBL）	1
	宇宙・地球・生命一探究演習（PBL）	1

チ 生命工学科

	授業科目	単位数
自然科学	解析学Ⅰ	2
	解析学Ⅰ演習	1
	解析学Ⅱ	2
	解析学Ⅱ演習	1
	解析学Ⅲ	2
	解析学Ⅲ演習	1
	線形代数学Ⅰ	2
	線形代数学Ⅱ	2
	微分方程式Ⅰ	2
	微分方程式Ⅱ	2
	物理学a	2
	物理学b	2
	物理学c	2
	物理学d	2
	物理学実験	2
化学	2	

	地球科学	2
	生物科学	2
工学マネジメント	工学倫理	2
	ものづくりマネジメント 技術を活かす経営	2
	知的財産法概論	2
	基礎情報処理 I	1
	基礎情報処理 II	1
	品質管理	2
	確率と統計 I	2
	確率と統計 II	2
	淀川学	淀川と人間
	淀川と環境	1
OITリソース	サイエンス探求演習 (PBL)	1
	宇宙・地球・生命—探究演習 (PBL)	1

3 専門科目

イ 都市デザイン工学科

	授業科目	単位数
共通領域	都市デザイン工学入門	2
	都市デザイン工学演習 I	●2
	都市デザイン工学演習 II	●2
	プロジェクト演習	●1
	測量学	●2
	測量学実習	●2
	応用測量学	2
	応用測量学実習	2
	基礎製図	2
	CAD/CG演習	■1
	上下水道システム工学	2
	建設行政	2
	技術者論理	●2
	特別講義 I	2
	特別講義 II	2
	建築・都市設計演習	2
	防災・減災工学	2
	デザイン・計画領域	景観工学
景観工学演習		■1
空間情報学		2
空間デザイン学		2
計画学a		●2
計画学a演習		■1
計画学b		2
社会資本計画学		2
交通計画学		2
都市・地域計画		2
構造領域	構造力学a	●2
	構造力学a演習	■1
	構造力学b	●2
	構造力学b演習	■1
	構造力学c	2
	構造力学c演習	■1

	橋梁工学	2
	複合構造学	2
コンクリート・材料領域	建設材料学	●2
	鉄筋コンクリート工学	2
	鉄筋コンクリート工学演習	■1
	コンクリート構造学	2
	プレストレストコンクリート工学	2
	応用コンクリート工学	2
地盤領域	土質力学a	●2
	土質力学a演習	■1
	土質力学b	●2
	土質力学b演習	■1
	地盤防災工学	2
	地盤施工学	2
	道路工学	2
河川・海岸領域	水理学a	●2
	水理学a演習	■1
	水理学b	●2
	水理学b演習	■1
	河川工学	2
	水系保全学	2
	海岸工学	2
建築士関連科目	建築環境工学	2
	建築法規	2
	建築生産	2
	建築設備	2
	建築・都市設計製図Ⅰ	2
	建築・都市設計製図Ⅱ	2

注) 建築士関連科目の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含まない。

[卒業に必要な単位数]

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位（英語6単位を含む）、体育2単位を含む〕 20単位

工学の基礎 26単位

都市デザイン工学科の専門科目

必修科目 29単位

選択科目（選択必修科目で6単位を含む） 41単位

その他（キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目） 8単位

(合計) 124単位

ロ 建築学科

	授業科目	単位数
基幹	静定構造力学演習	●2
	材料力学演習	●2
	設計演習Ⅰ	●3
	設計演習Ⅱ	●3
	設計演習Ⅲ	●3
	建築演習Ⅰ	●2
	建築演習Ⅱ	●2
建築設計・計画	建築計画Ⅰ	■2
	建築計画Ⅱ	■2

	建築計画Ⅲ	■2
	建築計画Ⅳ	■1
	建築計画Ⅴ	■1
	地区設計論	■1
	地区計画論	■1
	都市計画論Ⅰ	1
	都市計画論Ⅱ	1
	ランドスケープデザイン	1
	建築史Ⅰ	■2
	建築史Ⅱ	■2
	建築史Ⅲ	■1
	建築史Ⅳ	■1
	意匠論	1
	建築法規A	■1
	建築法規B	■1
	CAD/CG演習Ⅰ	2
	CAD/CG演習ⅡA	1
	CAD/CG演習ⅡB	1
	CGプレゼンテーション演習Ⅰ	1
	CGプレゼンテーション演習Ⅱ	1
建築環境工学・設備	建築環境工学Ⅰ演習	■2
	建築環境工学Ⅱ演習	■2
	建築環境工学Ⅲ演習	■2
	建築設備Ⅰ	■2
	建築設備ⅡA	■1
	建築設備ⅡB	■1
構造力学・建築一般構造	構造力学アドバンス	2
	不静定構造力学Ⅰ演習	■2
	不静定構造力学Ⅱ	■1
	塑性力学	■1
	建築振動論Ⅰ	1
	建築振動論Ⅱ	1
	鋼構造Ⅰ	■2
	鋼構造Ⅱ	■2
	鉄筋コンクリート構造Ⅰ	■2
	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	■1
	鉄筋コンクリート構造Ⅲ	■1
	建築基礎構造Ⅰ	■1
	建築基礎構造Ⅱ	■1
	構造計画	2
建築材料・生産	建築材料Ⅰ	■2
	建築材料Ⅱ	■2
	建築施工	■2
	建築経済Ⅰ	■1
	建築経済Ⅱ	■1
共通	設計基礎演習Ⅰ	■2
	設計基礎演習Ⅱ	■2
	建築概論	2
	建築構法	■2
	木構造	■2

	絵画演習	2
	測量学Ⅰ・同演習	1
	測量学Ⅱ・同演習	1
	建築倫理	1
	建築学アドバンスⅠ	1
	建築学アドバンスⅡ	1
	特別講義	1
卒業研究		●4

〔卒業に必要な単位数〕

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位（英語6単位を含む）、体育2単位を含む〕	20単位
工学の基礎	26単位
建築学科の専門科目	
必修科目	17単位
選択科目	53単位
・共通分野で選択必修科目6単位以上を修得していること（ただし、設計基礎演習Ⅰまたは設計基礎演習Ⅱのいずれかを含む）	
・「建築設計・計画分野」で選択必修科目13単位以上を修得していること（ただし、建築法規Aまたは建築法規Bのいずれかを含む）	
・「建築環境工学・設備分野」で選択必修科目6単位以上修得していること（ただし、建築環境工学Ⅰ演習、建築環境工学Ⅱ演習、建築環境工学Ⅲ演習から4単位および建築設備Ⅰ、建築設備ⅡA、建築設備ⅡBから2単位を含む）	
・「構造力学・建築一般構造分野」で選択必修科目10単位以上を修得していること	
・「建築材料・生産分野」で選択必修科目4単位以上を修得していること（ただし、建築材料Ⅰまたは建築材料Ⅱのいずれかを含み、かつ建築施工、建築経済Ⅰ、建築経済Ⅱから2単位を含む）	
・建築計画Ⅳ、建築計画Ⅴ、建築史Ⅲ、建築史Ⅳ、地区設計論、地区計画論、建築設備ⅡA、建築設備ⅡB、鉄筋コンクリート構造Ⅱ、鉄筋コンクリート構造Ⅲ、建築基礎構造Ⅰ、建築基礎構造Ⅱ、建築経済Ⅰ、建築経済Ⅱのうち9単位以上を修得すること	
・別に定める建築士受験資格に係る指定科目から60単位以上を修得していること	
その他（キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目）	8単位
（合計）	124単位

ハ 機械工学科

	授業科目	単位数
共通	機械基礎ゼミナール	1
	機械工学入門a	2
	機械工学入門b	2
	機械工作実習a	●2
	機械工作実習b	●2
	機械工学実験a	●1
	機械工学実験b	●1
	機械情報工学演習Ⅰ	1
	機械情報工学演習Ⅱ	1
	計算力学	2
	実験計画法	2
	先端技術論	2
	航空・宇宙工学	2
	自動車工学	2

	機械工学演習Ⅰ	1
	機械工学演習Ⅱ	1
	機械工学演習Ⅲ	1
	機械工学演習Ⅳ	1
	エンジニアリングプラクティス	4
	工学コミュニケーション英語応用	2
設計・製作系	製図学	2
	CAD/CAM概論	2
	設計製図Ⅰ	●1
	設計製図Ⅱ	●1
	設計演習a	2
	設計演習b	2
	3次元CAD演習	2
	機械製作法Ⅰ	2
	機械製作法Ⅱ	●2
	機械設計法	●2
	生産システム工学	2
	機械材料	●2
	材料力学・機械力学系	材料力学Ⅰ
材料力学Ⅱ		●2
材料力学Ⅲ		2
材料強度学		2
機械力学Ⅰ		●2
機械力学Ⅱ		●2
振動工学		2
熱・流体系	熱力学	●2
	熱工学	●2
	流れ学	●2
	流体力学	●2
	流体機械	2
	内燃機関	2
計測・制御系	計測と制御Ⅰ	2
	計測と制御Ⅱ	2
	センシング工学	2
	基礎電気回路	2
	メカトロニクス	2
	ロボット工学	2
	システム制御理論	2

〔卒業に必要な単位数〕

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位（英語6単位を含む）、体育2単位を含む〕 20単位

工学の基礎 26単位

機械工学科の専門科目

必修科目 30単位

選択科目 40単位

その他（キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目） 8単位

（合計） 124単位

その他の要件

◇発展コース

- ・工学倫理、エンジニアリング探究演習（PBL）、実験計画法、エンジニアリングプラクティス、工学コミュニケーション英語応用、計測と制御Ⅰを修得していること
- ・工学の基礎9単位以上（解析学Ⅱまたは解析学Ⅲから2単位、解析学Ⅱ演習または解析学Ⅲ演習から1単位、線形代数学Ⅰまたは線形代数学Ⅱから2単位、基礎情報処理Ⅰ1単位、基礎情報処理Ⅱ1単位および物理学実験2単位を含む）を修得していること

◇実践コース

エンジニアリング探究演習（PBL）、機械工学演習Ⅰ、機械工学演習Ⅱ、機械工学演習Ⅲ、機械工学演習Ⅳ、3次元CAD演習を修得していること

また、設計演習a、設計演習bのいずれかを修得していること

ニ 電気電子システム工学科

	授業科目	単位数
電気電子基礎	電気電子システム入門	■2
	電磁気学Ⅰ	●2
	電磁気学Ⅱ	●2
	電磁気学Ⅲ	■2
	電磁界理論	2
	電気数学	■2
	基礎電気計測	■2
	計算機プログラミング	■2
	技術者倫理	2
	実験・演習・設計	電気電子システム実験a
電気電子システム実験b		●3
電気電子システム実験c		●3
電気電子システムPBL		2
電機設計／CAD製図		2
電気電子回路	電気回路Ⅰ	●2
	電気回路Ⅱ	●2
	電気回路Ⅲ	■2
	電気回路Ⅳ	■2
	電子回路工学Ⅰ	■2
	電子回路工学Ⅱ	2
	アナログ電子回路	2
	デジタル電子回路	■2
材料・物性・デバイス	電気電子材料	■2
	電子デバイス工学	2
	電子物性論	■2
	LSI工学	2
	センサ工学	2
	プラズマエレクトロニクス	2
	オプトエレクトロニクス	2
エネルギー・電気機器	電力システムⅠ	■2
	電力システムⅡ	2
	エネルギー変換工学	2
	高電圧・パルスパワー工学	2
	電気法規および施設管理	2
	電機システムⅠ	■2
	電機システムⅡ	2
	パワーエレクトロニクス	2
	電気応用	2
システム科学・通信	情報通信工学	2

	ネットワーク工学	2
	アンテナ・伝送工学	2
	電波・通信法規	2
	システム工学	2
	計算機ハードウェア	2
	計算機ソフトウェア	2
	制御工学Ⅰ	■2
	制御工学Ⅱ	2
	ロボット工学	2

〔卒業に必要な単位数〕

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位（英語6単位を含む）、体育2単位を含む〕	20単位
工学の基礎	26単位
電気電子システム工学科の専門科目	
必修科目	17単位
選択科目（選択必修科目で20単位を含む）	53単位
その他（キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目）	8単位

(合計) 124単位

ホ 電子情報システム工学科

	授業科目	単位数
基幹科目	電子情報システム基礎演習	●1
	電子情報システム実験Ⅰ	●2
	電子情報システム実験Ⅱ	●2
	電子情報システム実験Ⅲ	●2
	エレクトロニクスプラクティス	●2
	電気回路Ⅰ	●2
	電気回路Ⅱ	●2
	電気磁気学Ⅰ	2
	電気磁気学Ⅱ	2
	基礎電子回路Ⅰ	2
	基礎電子回路Ⅱ	2
	固体エレクトロニクスⅠ	2
	コンピュータ基礎	2
	コンピュータアーキテクチャ	2
	情報通信基礎	2
	電気回路Ⅰ演習	1
	電気回路Ⅱ演習	1
	電気磁気学演習	1
	電子回路演習	1
	プログラミング・同演習	3
技術人材育成・資格関連科目	情報社会と倫理	2
	情報と職業	2
	電波・通信法規	2
エレクトロニクス系科目	電気計測	2
	電気磁気学Ⅲ	2
	レーザ工学	2
	光エレクトロニクス	2
	電気回路Ⅲ	2

	アナログ電子回路	2
	デジタル電子回路	2
	電子回路設計	2
	固体エレクトロニクスⅡ	2
	半導体デバイス基礎	2
	半導体デバイス工学	2
	量子エレクトロニクス入門	2
	制御工学	2
情報通信系科目	コンピュータシステム	2
	コンピュータグラフィクス	2
	メディア情報開発	2
	ネットワーク設計	2
	デジタル信号処理	2
	伝送理論	2
	通信方式Ⅰ	2
	通信方式Ⅱ	2
	ネットワーク工学	2
	電磁波工学	2
	無線通信工学	2
	情報理論	2
	映像・音響工学	2

〔卒業に必要な単位数〕

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位（英語6単位を含む）、体育2単位を含む〕	20単位
工学の基礎	26単位
電子情報システム工学科の専門科目	
必修科目	13単位
選択科目	57単位
その他（キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目）	8単位
（合計）	124単位

その他の要件

◇基幹コース

- ・必修科目を除く基幹科目から23単位を修得していること
- ・解析学Ⅱ、解析学Ⅱ演習、解析学Ⅲ、解析学Ⅲ演習、基礎情報処理Ⅰ、基礎情報処理Ⅱを修得していること
- ・線形代数学Ⅰ、線形代数学Ⅱ、微分方程式Ⅰ、応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ、物理学実験の6科目のうち6単位以上を修得していること
- ・情報社会と倫理、エンジニアリング探求演習（PBL）を修得していること
- ・情報と職業、電波・通信法規、知的財産法概論、インターンシップ、品質管理の5科目のうち2単位以上を修得していること
- ・キャリアデザインを修得していること
- ・エレクトロニクス系科目から8単位以上を修得していること
- ・情報通信系科目から8単位以上を修得していること

◇実務コース

- ・必修科目を除く基幹科目から12単位を修得していること
- ・キャリアデザイン、情報社会と倫理、情報と職業、電波・通信法規、知的財産法概論、インターンシップ、品質管理の7科目のうち2単位以上を修得していること
- ・エレクトロニクス系科目から8単位以上を修得していること
- ・情報通信系科目から8単位以上を修得していること

～ 応用化学科

	授業科目	単位数
基幹科目	応用化学実験基礎	●2
	応用化学実験A	●2
	応用化学実験B	●2
	応用化学実験C	●2
	基礎化学演習a	●1
	基礎化学演習b	●1
	基礎化学演習c	●1
	応用化学演習a	●1
	応用化学演習b	●1
	応用化学演習c	●1
	化学概論a	●2
	化学概論b	●2
	無機化学Ⅰ	●2
	無機化学Ⅱ	●2
	物理化学Ⅰ	●2
	物理化学Ⅱ	●2
	有機化学Ⅰ	●2
	有機化学Ⅱ	●2
	有機化学Ⅲ	●2
	総合化学系科目	応用化学実験D
化学工学Ⅰ		2
化学工学Ⅱ		2
化学英語		2
応用化学探求		2
情報化学		2
量子化学		2
分子分光光学		2
電気化学		2
危険物取扱法		2
化学安全衛生管理		1
国際研究セミナー		2
国際インターンシップ		2
創成材料化学系科目	有機化学Ⅳ	2
	有機立体化学	2
	反応有機化学	2
	有機合成化学	2
	無機合成化学	2
	物性化学	2
	錯体・有機金属	2
	基礎高分子科学	2
	高分子化学	2
	高分子物性	2
	固体化学	2
環境生命化学系科目	分析化学Ⅰ	2
	分析化学Ⅱ	2
	分子構造解析Ⅰ	2
	分子構造解析Ⅱ	2
	環境化学	2
	環境計測	2

	資源化学	2
	有機工業化学	2
	生活化学	2
	生命有機化学	2

〔卒業に必要な単位数〕

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位（英語6単位を含む）、体育2単位を含む〕	20単位
工学の基礎	26単位
応用化学科の専門科目	
必修科目	34単位
選択科目	36単位
その他（キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目）	8単位

(合計) 124単位

ト 環境工学科

	授業科目	単位数
基幹科目	基礎ゼミナール	1
	環境工学入門	2
	環境量論基礎	●2
	環境統計解析	2
	環境基礎化学実験	1
	環境工学演習 I a	●2
	環境工学演習 I b	●2
	環境工学演習 II a	●2
	環境工学演習 II b	●2
	CAD製図・演習	3
	実践環境工学	2
	研究基礎演習	1
	環境倫理	2
	特別講義 I	2
	特別講義 II	2
環境エネルギー分野	エネルギー基礎	■2
	電気設備工学	2
	エネルギー機能材料	2
	移動現象論	2
	エネルギー変換工学	2
	グリーンテクノロジー	2
	空気調和制御・演習	3
	エネルギー有効利用技術	2
自然環境分野	環境化学	■2
	森林生態学	2
	環境分析	2
	大気環境学	2
	環境バイオテクノロジー	2
	水環境学	3
	自然生態系修復	2
	土壌環境学	2
資源循環分野	反応工学	■2
	廃棄物工学	2

	上下水システムⅠ	2
	上下水システムⅡ	2
	水質変換工学	2
	環境土木通論Ⅰ	2
	環境土木通論Ⅱ	2
	バイオマス利活用技術	2
	環境施設設計	2
	公衆衛生リスク通論	2
環境システム分野	環境システム工学	■2
	環境計画	2
	生産マネジメント	2
	地域環境マネジメント	2
	環境評価・経済性工学	2
	数値解析・演習	3
	蓄積・循環管理論	2

〔卒業に必要な単位数〕

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位（英語6単位を含む）、体育2単位を含む〕	20単位
工学の基礎	26単位
環境工学科の専門科目	
必修科目	10単位
選択科目（選択必修科目で6単位を含む）	60単位
その他（キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目）	8単位

(合計) 124単位

チ 生命工学科

	授業科目	単位数
基幹科目	生物実験	●2
	化学実験	●2
	医工学実験	●2
	生命工学PBLⅠ	●2
	生命工学PBLⅡ	●2
	生命工学ゼミナール	●2
	生命工学研究ゼミナールⅠ	●2
	生命工学研究ゼミナールⅡ	●2
	キャリアデベロップメント	●2
	工学英語	●2
	生命数学演習	●1
	生命物理演習	●1
	人体生理学Ⅰ	■2
	人体生理学Ⅱ	■2
	生化学Ⅰ	■2
	生化学Ⅱ	■2
	電気工学基礎	■2
	微生物学	■2
	無機化学	■2
	有機化学Ⅰ	■2
	有機化学Ⅱ	■2
	遺伝子工学	2

	公衆衛生学	2
	食品衛生学	2
	食品化学工学	2
	食品加工学	2
	先端技術論	2
	バイオエレクトロニクス	2
	バイオメカニクス	2
	分析化学	2
医工学系	医工学概論	2
	高分子工学	2
	人工臓器	2
	生体システム工学	2
	生体物性工学	2
	生命計測工学	2
	バイオマテリアル	2
	生物化学工学	2
生命科学系	生命科学概論	2
	医薬概論	2
	免疫学	2
	機能性食品学	2
	細胞・組織工学	2
	生物情報工学	2
	生物物理学	2
	タンパク質工学	2

〔卒業に必要な単位数〕

キャリア形成の基礎〔人文社会科学10単位、外国語8単位（英語6単位を含む）、体育2単位を含む〕 20単位

工学の基礎 26単位

・解析学Ⅰ、解析学Ⅰ演習、解析学Ⅱ、解析学Ⅱ演習、解析学Ⅲ、解析学Ⅲ演習、線形代数学Ⅰ、線形代数学Ⅱ、微分方程式Ⅰ、微分方程式Ⅱ、確率と統計Ⅰ、確率と統計Ⅱから2単位以上修得していること

・物理学a、物理学b、物理学c、物理学d、物理学実験から2単位以上修得していること

・基礎情報処理Ⅰ、基礎情報処理Ⅱ、品質管理から1単位以上修得していること

・工学倫理およびキャリアデザインを修得していること

生命工学科の専門科目

必修科目 22単位

選択科目（選択必修科目で14単位を含む） 48単位

その他（キャリア形成の基礎、工学の基礎、数理科学と教育、所属学科の専門科目、その他連携科目、他学科の専門科目および他学部の科目） 8単位

（合計） 124単位

4 数理科学と教育

イ 都市デザイン工学科

		授業科目	単位数
数理科学と教育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道徳教育	2
	数学教育	現代代数学	4
		数学特論	4
現代幾何学		4	
現代解析学		4	

注) 数学教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含めない。

ロ 建築学科

		授業科目	単位数
数理科学と教育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道徳教育	2
	数学教育	現代代数学	4
		数学特論	4
現代幾何学		4	
現代解析学		4	

注) 数学教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含めない。

ハ 機械工学科

		授業科目	単位数
数 理 科 学 と 教 育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道徳教育	2
	数学教育	現代代数学	4
		数学特論	4
		現代幾何学	4
		現代解析学	4

注) 数学教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含めない。

ニ 電気電子システム工学科

		授業科目	単位数
数 理 科 学 と 教 育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道徳教育	2
	数学教育	現代代数学	4
		数学特論	4
		現代幾何学	4
		現代解析学	4

注) 数学教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含めない。

ホ 電子情報システム工学科

		授業科目	単位数
数 理 科 学 と 教 育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道徳教育	2
	数学教育	現代代数学	4
		数学特論	4
		現代幾何学	4
現代解析学		4	

注) 数学教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含まない。

へ 応用化学科

		授業科目	単位数
数 理 科 学 と 教 育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道徳教育	2
	理科教育	教職物理学	4
		地学Ⅰ	2
		地学Ⅱ	2
地学実験		2	
生物学Ⅰ		2	
生物学Ⅱ		2	
生物学実験	2		

注) 理科教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含まない。

ト 環境工学科

		授業科目	単位数
数 理 科 学 と 教 育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道徳教育	2
	理科教育	教職物理学	4
		化学実験	2
		地学Ⅰ	2
		地学Ⅱ	2
		地学実験	2
		生物学Ⅰ	2
		生物学Ⅱ	2
		生物学実験	2

注) 理科教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含まない。

チ 生命工学科

		授業科目	単位数
数 理 科 学 と 教 育	数学	級数とフーリエ解析	2
		ベクトル解析	2
		線形代数学Ⅲ	2
		線形代数学Ⅳ	2
		複素解析Ⅰ	2
		複素解析Ⅱ	2
		応用数学Ⅰ	2
		応用数学Ⅱ	2
	化学	実践化学	2
	地学	地球システムと人間	2
	生物	環境生物学	2
	人間	人間発達と人権	2
		教育原論	2
		道徳教育	2
	理科教育	教職物理学	4
		地学Ⅰ	2
		地学Ⅱ	2
		地学実験	2
		生物学Ⅰ	2
		生物学Ⅱ	2

注) 理科教育の分野に区分した授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含まない。

5 その他連携科目

	授業科目	単位数
その他連携科目	キャリアデザイン	1
	キャリア形成支援	1
	インターンシップ	2
	グローバルテクノロジー論a	1
	グローバルテクノロジー論b	1
	OIT概論	1

6 教職課程（教科及び教職に関する科目）

イ 教科及び教科の指導法に関する科目

免許教科	授業科目	単位数	対象学科
数学	線形代数学Ⅰ	●2	都市デザイン工学科
	線形代数学Ⅱ	●2	
	線形代数学Ⅲ	2	
	線形代数学Ⅳ	2	
	現代代数学	■4	
	数学特論	4	
	複素解析Ⅰ	●2	
	複素解析Ⅱ	2	
	ベクトル解析	2	
	現代幾何学	■4	
	解析学Ⅰ	2	
	解析学Ⅰ演習	1	
	解析学Ⅱ	●2	
	解析学Ⅱ演習	●1	
	解析学Ⅲ	●2	
	解析学Ⅲ演習	●1	
	級数とフーリエ解析	2	
	応用数学Ⅰ	2	
	応用数学Ⅱ	2	
	微分方程式Ⅰ	2	
	微分方程式Ⅱ	2	
	現代解析学	■4	
	確率と統計Ⅰ	■2	
	確率と統計Ⅱ	■2	
	基礎情報処理Ⅰ	●1	
	基礎情報処理Ⅱ	●1	
	CAD/CG演習	1	
	数学科教育法a	●2	
	数学科教育法b	●2	
	数学科教育法c	2	
	数学科教育法d	2	
	線形代数学Ⅰ	●2	建築学科
	線形代数学Ⅱ	●2	
線形代数学Ⅲ	2		
線形代数学Ⅳ	2		
現代代数学	■4		
数学特論	4		
複素解析Ⅰ	●2		
複素解析Ⅱ	2		

ベクトル解析	2	
現代幾何学	■4	
解析学 I	2	
解析学 I 演習	1	
解析学 II	●2	
解析学 II 演習	●1	
解析学 III	●2	
解析学 III 演習	●1	
級数とフーリエ解析	2	
微分方程式 I	2	
微分方程式 II	2	
現代解析学	■4	
確率と統計 I	■2	
確率と統計 II	■2	
基礎情報処理 I	●1	
基礎情報処理 II	●1	
CAD/CG演習 I	2	
CAD/CG演習 II A	1	
CAD/CG演習 II B	1	
CGプレゼンテーション演習 I	1	
CGプレゼンテーション演習 II	1	
数学科教育法a	●2	
数学科教育法b	●2	
数学科教育法c	2	
数学科教育法d	2	
線形代数学 I	●2	機械工学科
線形代数学 II	●2	
線形代数学 III	2	
線形代数学 IV	2	
現代代数学	■4	
数学特論	4	
複素解析 I	●2	
複素解析 II	2	
ベクトル解析	2	
現代幾何学	■4	
解析学 I	2	
解析学 I 演習	1	
解析学 II	●2	
解析学 II 演習	●1	
解析学 III	●2	
解析学 III 演習	●1	
級数とフーリエ解析	2	
応用数学 I	2	
応用数学 II	2	
微分方程式 I	2	
微分方程式 II	2	
現代解析学	■4	
確率と統計 I	■2	
確率と統計 II	■2	
基礎情報処理 I	●1	

基礎情報処理 II	●1	電気電子システム工学科
CAD/CAM概論	2	
数学科教育法a	●2	
数学科教育法b	●2	
数学科教育法c	2	
数学科教育法d	2	
線形代数学 I	●2	
線形代数学 II	●2	
線形代数学 III	2	
線形代数学 IV	2	
現代代数学	■4	
数学特論	4	
複素解析 I	●2	
複素解析 II	2	
ベクトル解析	2	
現代幾何学	■4	
解析学 I	2	
解析学 I 演習	1	
解析学 II	●2	
解析学 II 演習	●1	
解析学 III	●2	
解析学 III 演習	●1	
級数とフーリエ解析	2	
微分方程式 I	2	
微分方程式 II	2	
応用数学 I	2	
応用数学 II	2	
電気数学	2	
現代解析学	■4	
確率と統計 I	■2	
確率と統計 II	■2	
基礎情報処理 I	●1	電子情報システム工学科
基礎情報処理 II	●1	
計算機プログラミング	2	
計算機ハードウェア	2	
計算機ソフトウェア	2	
数学科教育法a	●2	
数学科教育法b	●2	
数学科教育法c	2	
数学科教育法d	2	
線形代数学 I	●2	
線形代数学 II	●2	
線形代数学 III	2	
線形代数学 IV	2	
現代代数学	■4	
数学特論	4	
複素解析 I	●2	
複素解析 II	2	
ベクトル解析	2	
現代幾何学	■4	

	解析学 I	2	
	解析学 I 演習	1	
	解析学 II	●2	
	解析学 II 演習	●1	
	解析学 III	●2	
	解析学 III 演習	●1	
	級数とフーリエ解析	2	
	応用数学 I	2	
	応用数学 II	2	
	微分方程式 I	2	
	微分方程式 II	2	
	現代解析学	■4	
	確率と統計 I	■2	
	確率と統計 II	■2	
	基礎情報処理 I	1	
	基礎情報処理 II	1	
	数学科教育法a	●2	
	数学科教育法b	●2	
	数学科教育法c	2	
	数学科教育法d	2	
理科	物理学a	2	応用化学科
	物理学b	2	
	教職物理学	●4	
	物理学c	2	
	物理学d	2	
	有機化学 III	●2	
	無機化学 I	●2	
	化学	●2	
	実践化学	2	
	生物学 I	●2	
	生物学 II	●2	
	生物科学	2	
	環境生物学	2	
	地学 I	●2	
	地学 II	●2	
	地球科学	2	
	地球システムと人間	2	
	物理学実験	2	
	応用化学実験A	●2	
	応用化学実験B	●2	
	生物学実験	2	
	地学実験	2	
	理科教育法a	●2	
	理科教育法b	●2	
	理科教育法c	2	
	理科教育法d	2	
	物理学a	2	環境工学科
	物理学b	2	
	教職物理学	●4	
	物理学c	2	

物理学d	2	
環境分析	2	
環境化学	2	
化学	●2	
実践化学	2	
自然生態系修復	2	
森林生態学	2	
生物学 I	●2	
生物学 II	●2	
生物科学	2	
環境生物学	2	
地学 I	●2	
地学 II	●2	
地球科学	2	
地球システムと人間	2	
物理学実験	2	
化学実験	●2	
生物学実験	2	
地学実験	2	
理科教育法a	●2	
理科教育法b	●2	
理科教育法c	2	
理科教育法d	2	
生物物理学	2	生命工学科
物理学a	2	
物理学b	2	
教職物理学	●4	
物理学c	2	
物理学d	2	
生命物理演習	1	
無機化学	●2	
有機化学 I	●2	
有機化学 II	2	
分析化学	2	
化学	2	
実践化学	2	
人体生理学 I	2	
人体生理学 II	2	
生物学 I	●2	
生物学 II	●2	
生物科学	2	
環境生物学	2	
地学 I	●2	
地学 II	●2	
地球科学	2	
地球システムと人間	2	
物理学実験	2	
化学実験	●2	
生物実験	●2	
地学実験	2	

	理科教育法a	●2	
	理科教育法b	●2	
	理科教育法c	2	
	理科教育法d	2	
工業	工業概論	●2	都市デザイン工学科
	工業概論	●2	建築学科
	工業概論	●2	機械工学科
	工業概論	●2	電気電子システム工学科
	工業概論	●2	電子情報システム工学科
	工業概論	●2	応用化学科
	工業概論	●2	環境工学科
	工業概論	●2	生命工学科
	職業指導A	●2	全学科
	職業指導B	●2	
	工業科教育法a	●2	
	工業科教育法b	●2	
情報	情報社会と倫理	●2	電子情報システム工学科
	コンピュータ基礎	●2	
	デジタル信号処理	●2	
	デジタル電子回路	2	
	コンピュータアーキテクチャ	●2	
	情報理論	2	
	プログラミング・同演習	3	
	コンピュータシステム	●2	
	エレクトロニクスプラクティス	●2	
	情報通信基礎	●2	
	ネットワーク工学	●2	
	ネットワーク設計	2	
	コンピュータグラフィクス	●2	
	電子回路設計	2	
	メディア情報開発	●2	
	映像・音響工学	2	
	情報と職業	●2	
	情報科教育法a	●2	
情報科教育法b	●2		

ロ 教育の基礎的理解に関する科目

授業科目	単位数
教育原論	●2
教職入門	●2
教育行政	●2
教育心理学	●2
特別支援教育	●2
教育課程論	●2

ハ 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

授業科目	単位数
道徳教育	2
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	●2
教育方法論	●2

生徒指導と進路指導	●2
教育相談	●2

ニ 教育実践に関する科目

授業科目	単位数
中学校教育実習	5
高等学校教育実習	3
教職実践演習（中・高）	●2

ホ 大学が独自に設定する科目

授業科目	単位数
人間発達と人権	●2
道徳教育	2
福祉教育概論	2

〔要件〕

- 1 各教科の教育法は、中学校教諭一種免許状（以下「中一種免」という）では8単位、高等学校教諭一種免許状（以下「高一種免」という）では4単位以上（各教育法a・bを含む）を修得しなければならない。
- 2 中一種免を取得しようとする者は、「道徳教育」および「福祉教育概論」を必ず履修し、単位を修得しなければならない。なお、高一種免を取得しようとする者が「道徳教育」を修得した場合は、その単位数を「大学が独自に設定する科目」の単位とする。
- 3 教育実習は、中一種免については「中学校教育実習」、高一種免については「高等学校教育実習」を必ず履修し、単位を修得しなければならない。各教育実習には事前および事後指導の1単位を含む。

II ロボティクス&デザイン工学部

1 共通教養科目（全学科共通）

区分	授業科目	単位数	
共通教養科目	人文社会科学	文章表現基礎Ⅰa	1
		文章表現基礎Ⅰb	1
		文章表現基礎Ⅱa	1
		文章表現基礎Ⅱb	1
		哲学	1
		倫理学	1
		美術史	1
		日本語の歴史	1
		憲法a	1
		憲法b	1
		経済学	1
		歴史学	1
		心理学	1
		※日本の文化と社会	1
		人文社会特殊講義	2
	体育	健康体育Ⅰ	1
		健康体育Ⅱ	1
外国語	プラクティカル・イングリッシュa	1	
	プラクティカル・イングリッシュb	1	
	アカデミック・イングリッシュa	1	
	アカデミック・イングリッシュb	1	
	オーラル・イングリッシュa	1	
	オーラル・イングリッシュb	1	

		ベーシック・プレゼンテーション	1
		ビジネス・イングリッシュa	1
		ビジネス・イングリッシュb	1
		アカデミック・プレゼンテーション	1
		プロフェッショナル・イングリッシュ	1
		海外語学研修	2
		※日本語 I a	1
		※日本語 I b	1
		※日本語 II a	1
		※日本語 II b	1
	キャリア形成	キャリアデザイン	1
		インターンシップ	2

注) 授業科目名の前に※を付した科目は、外国人留学生を対象とする。

2 工学関連科目 (全学科共通)

区分		授業科目	単位数
工学関連科目	数理科目	解析学 I	2
		解析学 II	2
		解析学 III	2
		線形代数学 I	2
		線形代数学 II	2
		確率・統計学	2
		物理数学 I	2
		物理数学 II	2
		物理学 I	2
		物理学 II	2
		物理学実験	2
	工学マネジメント科目	工学倫理	2
		知的財産法概論	2
ものづくりマネジメント (技術を生かす経営)		2	

3 その他連携科目 (全学科共通)

区分	授業科目	単位数
その他連携科目	グローバルテクノロジー論a	1
	グローバルテクノロジー論b	1
	OIT概論	1

4 専門横断科目

イ ロボット工学科

区分		授業科目	単位数
専門横断科目	デザイン思考関連科目	デザイン思考工学概論	2
		デザイン思考実践演習	●1
		ものづくりデザイン演習	2
		ものづくりデザイン思考実践演習 I	●2
		ものづくりデザイン思考実践演習 II	●1
	計算機技術演習科目	基礎情報処理	1
		プログラミング演習 I	●1
		プログラミング演習 II	1
		プログラミング演習 III	1
		プログラミング演習 IV	1
	プログラミング特別演習	●1	

ロ システムデザイン工学科

区分		授業科目	単位数
専門横断科目	デザイン思考関連科目	デザイン思考工学概論	2
		デザイン思考実践演習	●1
		ものづくりデザイン演習	2
		ものづくりデザイン思考実践演習Ⅰ	●2
		ものづくりデザイン思考実践演習Ⅱ	●1
	計算機技術演習科目	基礎情報処理	1
		プログラミング演習Ⅰ	●1
		プログラミング演習Ⅱ	1
		プログラミング演習Ⅲ	1
		プログラミング演習Ⅳ	1
	プログラミング特別演習	●1	

ハ 空間デザイン学科

区分		授業科目	単位数
専門横断科目	デザイン思考関連科目	デザイン思考工学概論	2
		デザイン思考実践演習	●1
		ものづくりデザイン演習	2
		ものづくりデザイン思考実践演習Ⅰ	●2
		ものづくりデザイン思考実践演習Ⅱ	●1
	計算機技術演習科目	基礎情報処理	1
		プログラミング演習Ⅰ	●1
		プログラミング演習Ⅱ	1
		プログラミング演習Ⅲ	1
		プログラミング演習Ⅳ	1
	プログラミング特別演習	●1	

5 専門科目

イ ロボット工学科

区分		授業科目	単位数
専門科目	機電系科目	計測工学	2
		材料力学	●2
		センサ工学	2
		電気回路Ⅰ	●2
		電気回路Ⅱ	2
		電磁気学	2
		デジタル電子回路	2
		基礎機械力学	2
		アナログ電子回路	2
		システム系科目	形式言語とオートマトン
	離散数学		2
	計算機アーキテクチャ		2
	制御工学Ⅰ		●2
	制御工学Ⅱ		2
	信号処理		2
	メカトロニクス		2
	統計解析		2
	画像工学		2
	数値計算法		2

	実験・演習科目	システム工学	2
		ヒューマンインタフェース	2
		ラピッドプロトタイピング	2
		ロボット工学実験Ⅰa	●1
		ロボット工学実験Ⅰb	●1
		ロボット工学実験Ⅱa	●1
		ロボット工学実験Ⅱb	●1
		電気CAD演習	1
		機械CAD演習	1
	メカトロニクス系科目	機械材料	2
		図学	2
		設計製図	2
		構造力学	2
		機構学	●2
		パワーエレクトロニクス	2
		現代制御理論	2
		機械力学	●2
		振動工学	2
		アクチュエータ工学	2
		モーションコントロール	2
卒業研究	卒業研究	●4	

〔卒業に必要な単位数〕

共通教養科目〔外国語8単位含む〕	20単位
工学関連科目	18単位
専門横断科目および専門科目	76単位
必修科目	24単位
選択科目	52単位
その他（共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、所属学科の専門横断科目および専門科目、他学科の専門科目および他学部の科目）	10単位

(合計) 124単位

ロ システムデザイン工学科

区分	授業科目	単位数	
専門科目	機電系科目	計測工学	2
		材料力学	2
		センサ工学	2
		電気回路Ⅰ	●2
		電気回路Ⅱ	2
		電磁気学	2
		デジタル電子回路	●2
		基礎機械力学	2
		アナログ電子回路	2
	システム系科目	形式言語とオートマトン	2
		離散数学	●2
		計算機アーキテクチャ	2
		制御工学Ⅰ	●2
		制御工学Ⅱ	2
	信号処理	2	
	メカトロニクス	2	
	統計解析	2	

		画像工学	2
		数値計算法	2
		システム工学	2
		ヒューマンインタフェース	2
		ラピッドプロトタイピング	2
	実験・演習科目	システムデザイン工学実験 I a	●1
		システムデザイン工学実験 I b	●1
		システムデザイン工学実験 II a	●1
		システムデザイン工学実験 II b	●1
		電気CAD演習	1
		機械CAD演習	1
	IoTものづくり系科目	データ構造とアルゴリズム	●2
		オブジェクト指向プログラミング	2
		ソフトウェア設計	2
		組み込みシステム	2
		人工知能概論	2
		クラウドコンピューティング	2
		映像・音響工学	2
		マルチモーダル対話システム	2
		現代デザイン史	2
デザイン工学概論		2	
ユーザビリティエンジニアリング		2	
卒業研究	卒業研究	●4	

〔卒業に必要な単位数〕

共通教養科目〔外国語8単位含む〕	20単位
工学関連科目	18単位
専門横断科目および専門科目	76単位
必修科目	24単位
選択科目	52単位
その他（共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、所属学科の専門横断科目および専門科目、他学科の専門科目および他学部の科目）	10単位

（合計）

124単位

ハ 空間デザイン学科

区分	授業科目	単位数
専門科目	デザイン共通科目	
	設計製図演習	●2
	造形演習A	2
	造形演習B	2
	CG基礎演習	2
	CAD演習 I	2
	CAD演習 II	2
	総合デザイン演習	●2
	色彩計画	2
	インテリアデザイン計画	2
	知の技法	2
	造形力学 I・同演習	3
	造形力学 II・同演習	3
	構造デザイン	2
	構造材料・構造実験	2
デザイン論 I	●2	

		デザイン論Ⅱ	●2
		デザイン論Ⅲ	2
		空間デザイン論	●2
		文化テクノロジー論	2
	空間デザイン系科目	空間デザイン基礎演習	■2
		空間デザイン演習Ⅰ	■2
		空間デザイン演習Ⅱ	■2
		空間デザイン演習Ⅲ	■1
		空間デザイン演習Ⅳ	■2
		建築計画Ⅰ	2
		建築計画Ⅱ	2
		都市環境デザイン	2
		日本建築史	2
		西洋建築史	2
		近代建築史	2
		建築構造学	2
		建築環境工学Ⅰ	2
		建築環境工学Ⅱ	2
		建築法規	2
		建築施工	2
		建築材料	2
		建築設備	2
		建築設計方法論	2
	プロダクトデザイン系科目	プロダクトデザイン基礎演習	■2
		プロダクトデザイン演習Ⅰ	■2
		プロダクトデザイン演習Ⅱ	■2
		プロダクトデザイン演習Ⅲ	■1
		プロダクトデザイン演習Ⅳ	■2
		プロダクト材料工学	2
		コミュニケーションデザイン論	2
		コンテンツ応用論	2
		情報デザイン論	2
		デザインマネジメント	2
		製品プロデュース論	2
		ユーザビリティ工学	2
		人間工学	2
		デザイン史	2
	卒業研究	卒業研究	●4

〔卒業に必要な単位数〕

共通教養科目〔外国語8単位含む〕	20単位
工学関連科目	18単位
専門横断科目および専門科目	76単位
必修科目	20単位
選択必修科目	9単位
選択科目	47単位
その他（共通教養科目、工学関連科目、その他連携科目、所属学科の専門横断科目および専門科目、他学科の専門科目および他学部の科目）	10単位

（合計） 124単位

6 教職課程（教科及び教職に関する科目）

イ 教科及び教科の指導法に関する科目

免許教科	授業科目	単位数	対象学科
工業	工業概論	●2	ロボット工学科
	工業概論	●2	システムデザイン工学科
	工業概論	●2	空間デザイン学科
	職業指導A	●2	全学科
	職業指導B	●2	
	工業科教育法a	●2	
	工業科教育法b	●2	

ロ 教育の基礎的理解に関する科目

授業科目	単位数
教育原論	●2
教職入門	●2
教育行政	●2
教育心理学	●2
特別支援教育	●2
教育課程論	●2

ハ 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

授業科目	単位数
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	●2
教育方法論	●2
生徒指導と進路指導	●2
教育相談	●2

ニ 教育実践に関する科目

授業科目	単位数
高等学校教育実習	●3
教職実践演習（中・高）	●2

ホ 大学が独自に設定する科目

授業科目	単位数
人間発達と人権	●2
道徳教育	2

注 「高等学校教育実習」には事前および事後指導の1単位を含む。

III 情報科学部

1 共通科目（各学科共通）

区分	授業科目	単位数	
総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎	■2
		社会学基礎	2
		情報社会論	■2
		倫理学基礎	2
		応用倫理学	■2
		日本の歴史	2
		人類の歴史	■2
		文学基礎	■2
		観る文学	2

		言語学基礎	2	
		日本国憲法	2	
		法学基礎	2	
		情報法学	■2	
		経済学基礎	■2	
		現代経済論	2	
		心理学基礎	2	
		人間発達と人権	2	
	外国語	英語表現 (basic 1) a	1	
		英語表現 (basic 1) b	1	
		英語の語法	2	
		口語英語 I a	1	
		口語英語 I b	1	
		英語による情報技術 II	2	
		英語表現 (basic 2) a	1	
		英語表現 (basic 2) b	1	
		口語英語 II a	1	
		口語英語 II b	1	
		英語による情報技術 I a	1	
		英語による情報技術 I b	1	
		英語演習	1	
		海外語学研修	2	
		※日本語 I	2	
		※日本語 II	2	
		健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学a	1
			基礎スポーツ科学b	1
	健康科学		2	
	スポーツ科学実習		1	
	総合理学系	科学技術史	科学史	2
		物理	物理学基礎	■2
			物理現象の数理	2
			力学	2
電磁気学			2	
現代物理学入門			■2	
化学		化学基礎	2	
		環境情報科学	2	
地学		地球科学基礎	2	
		地球環境	■2	
生物		生命科学基礎	2	
		情報生命科学	■2	
総合		視る自然科学	2	

注) 授業科目名の前に※を付した科目は、外国人留学生を対象とする。

2 キャリア科目 (各学科共通)

区分	授業科目	単位数
キャリア科目	基礎ゼミナール	1
	キャリアステップ	1
	キャリアデザイン I	1
	キャリアデザイン II	1
	グローバルテクノロジー論	1
	OIT概論	1

3 専門科目

イ データサイエンス学科

区分	授業科目	単位数
数理科学	線形数学Ⅰ	●2
	線形数学Ⅱ	2
	微積分学Ⅰ	●2
	微積分学Ⅱ	2
	情報数学	2
	微分方程式	2
	グラフ理論	2
	数理計画法	2
	確率・統計	●2
専門基礎	コンピュータ入門	●2
	情報通信ネットワーク	2
	プログラミング基礎	2
	テクニカルライティング	●2
	情報処理基礎	2
	コンピュータリテラシー	2
	データサイエンス入門	●2
	データ構造とアルゴリズム	■2
	実験計画法	2
	統計解析	●2
	多変量解析	2
	IoT概論	■2
	教育心理学	2
	基幹科目	データベースシステム
オペレーションズ・リサーチ		2
情報技術者論		●2
情報ゼミナール		●2
システム工学		2
情報セキュリティの基礎		2
経営システム論Ⅰ		●2
データマイニング		■2
テキストマイニング		1
ビジュアルプログラミング論		2
ソフトウェア工学		■2
人工知能		2
パターン認識		2
機械学習		●2
発想法と問題解決		1
応用科目		モデリングとシミュレーション
	経営システム論Ⅱ	2
	情報科学実践演習（国際PBL）	1
	マーケティング論	■2
	数理ファイナンス	■2
	ロジスティクス	2
	企業会計論	2
	教育工学	■2
	教育方法論	2
	情報科教育法a	2
	工業経営論	■2

	投資意思決定論	2
	経営戦略論	2
演習科目	C演習 I	●3
	C演習 II	■3
	J a v a 演習	■3
	データサイエンス実践演習 I	●2
	データサイエンス実践演習 II	●2
	データサイエンス実践演習 III	■2
	価値創造演習	■2

〔卒業に必要な単位数〕

共通科目（人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位を含む）

・・ 36単位

キャリア科目・・ 2単位

データサイエンス学科の専門科目 必修科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29単位

選択科目（選択必修科目12単位を含む）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57単位

(合計) 124単位

ロ 情報知能学科

区分	授業科目	単位数
数理科学	線形数学 I	■2
	線形数学 II	2
	微積分学 I	■2
	微積分学 II	2
	情報数学	■2
	周波数解析	2
	微分方程式	2
	グラフ理論	■2
	確率・統計	■2
専門基礎	コンピュータ入門	●2
	情報通信ネットワーク	■2
	プログラミング基礎	2
	テクニカルライティング	●2
	デジタル回路	●2
	情報処理基礎	2
	プログラミング入門	2
	データ構造とアルゴリズム I	■2
	アセンブリ言語	●2
	ソフトウェア工学 I	■2
	組み込みシステム基礎	●2
	コンピュータリテラシー	2
	基幹科目	オートマトンと形式言語
計算機アーキテクチャ		●2
プロセッサ設計		■2
集積回路工学		■2
データ構造とアルゴリズム II		2
システムプログラム		2
オペレーティングシステム		●2
プログラミング言語論		■2
データベースシステム		■2
ソフトウェア工学 II		■2

	Unixプログラミング	2
	情報技術者論	●2
	情報ゼミナール	●2
	インターフェース・センサ回路	2
	情報セキュリティの基礎	■2
応用科目	知能制御工学基礎	2
	集積回路設計	2
	画像処理	2
	信号処理	2
	コンピュータグラフィックス I	2
	知能情報処理	2
	知能制御工学	2
	情報科学実践演習（国際PBL）	1
演習科目	C演習 I	●3
	C演習 II	■3
	Java演習	■3
	ソフトウェア工学演習	■2
	情報科学演習 I	●2
	情報科学演習 II	●2
	情報科学演習 III	●2
	知能制御工学演習	1
	CSプロジェクト演習	■1

〔卒業に必要な単位数〕

共通科目（人文社会科学（コンピュータ・サイエンスコースは選択必修科目8単位を含む）12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系（コンピュータ・サイエンスコースは選択必修科目6単位を含む）12単位以上を含む）

（人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要）・・・・・・・・・・ 36単位

キャリア科目・・ 2単位

情報知能学科の専門科目

必修科目・・ 27単位

選択科目（選択必修科目で総合コースは12単位、コンピュータ・サイエンスコースは39単位を含む）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59単位

（合計） 124単位

ハ 情報システム学科

区分	授業科目	単位数
数理科学	線形数学 I	■2
	線形数学 II	2
	微積分学 I	■2
	微積分学 II	2
	情報数学	■2
	周波数解析	2
	微分方程式	2
	グラフ理論	■2
	数理計画法	2
	確率・統計	■2
	専門基礎	コンピュータ入門
情報通信ネットワーク		■2
プログラミング基礎		2
オートマトンと形式言語		■2

	テクニカルライティング	●2
	デジタル回路	2
	情報処理基礎	2
	計算機アーキテクチャ	●2
	データ構造とアルゴリズム I	■2
	システムプログラム	2
	オペレーティングシステム	●2
	アセンブリ言語	2
	コンピュータリテラシー	2
	Unixシステム入門	2
基幹科目	データ構造とアルゴリズム II	2
	プログラミング言語論	■2
	データベースシステム	●2
	ソフトウェア工学 I	●2
	ソフトウェア工学 II	■2
	ヒューマンインタフェース	2
	ネットワーク設計	■2
	オペレーションズ・リサーチ	2
	情報技術者論	●2
	情報システムの計画策定	■2
	情報ゼミナール	●2
	システム工学	■2
	情報セキュリティの基礎	■2
	経営システム論 I	2
応用科目	情報検索	2
	人工知能	2
	コンピュータグラフィックス I	2
	構造化文書処理	2
	高信頼システム	2
	モデリングとシミュレーション	2
	Webサービス論	2
	経営システム論 II	2
	情報システム学特別講義	2
	情報科学実践演習 (国際PBL)	1
演習科目	C演習 I	●3
	C演習 II	■3
	Java演習	■3
	ソフトウェア工学演習	■2
	情報システム基礎演習	●2
	情報システム専門演習	●2
	情報システム応用演習	■2
	CSプロジェクト演習	■1

〔卒業に必要な単位数〕

共通科目 (人文社会科学 (コンピュータ・サイエンスコースは選択必修科目8単位を含む) 12単位
以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系 (コンピュータ・サイエ
ンスコースは選択必修科目6単位を含む) 12単位以上を含む)

(人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要) 36単位

キャリア科目 2単位

情報システム学科の専門科目

必修科目 23単位

選択科目（選択必修科目で総合コースは12単位、コンピュータ・サイエンスコースは39単位を含む）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63単位

(合計)

124単位

ニ 情報メディア学科

区分	授業科目	単位数
数理科学	線形数学Ⅰ	■2
	線形数学Ⅱ	2
	微積分学Ⅰ	■2
	微積分学Ⅱ	2
	情報数学	■2
	周波数解析	2
	微分方程式	2
	グラフ理論	■2
	数理計画法	2
	確率・統計	■2
	専門基礎	コンピュータ入門
情報通信ネットワーク		■2
オートマトンと形式言語		■2
テクニカルライティング		●2
デジタル回路		2
情報処理基礎		2
プログラミング入門		2
計算機アーキテクチャ		●2
情報セキュリティの基礎		■2
データ構造とアルゴリズムⅠ		■2
データ構造とアルゴリズムⅡ		2
システムプログラム		2
オペレーティングシステム		●2
プログラミング言語論		■2
アセンブリ言語		2
データベースシステム		■2
ソフトウェア工学Ⅰ		■2
ソフトウェア工学Ⅱ		■2
コンピュータリテラシー		2
基幹科目		メディアデータ論
	コンピュータグラフィックスⅠ	■2
	人間情報学	2
	ヒューマンインタフェース	2
	画像情報処理Ⅰ	■2
	音響処理	■2
	感性情報処理	2
	色彩学	2
	情報技術者論	●2
	情報ゼミナール	●2
応用科目	コンピュータグラフィックスⅡ	2
	構造化文書処理	2
	画像情報処理Ⅱ	2
	CAD	2
	音声情報処理	2
	メディアインタフェース	2

	Webデザイン	2
	情報科学実践演習（国際PBL）	1
演習科目	アニメーション演習	1
	情報メディア入門	●1
	C演習 I	●3
	C演習 II	■3
	Java演習	■3
	ソフトウェア工学演習	■2
	情報メディア演習 I	●2
	情報メディア演習 II	●2
	情報メディア演習 III	●2
	CSプロジェクト演習	■1

〔卒業に必要な単位数〕

共通科目（人文社会科学（コンピュータ・サイエンスコースは選択必修科目8単位を含む）12単位
以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系（コンピュータ・サイエ
ンスコースは選択必修科目6単位を含む）12単位以上を含む）

（人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要）・・・・・・・・・・ 36単位

キャリア科目・・ 2単位

情報メディア学科の専門科目

必修科目・・ 22単位

選択科目（選択必修科目で総合コースは12単位、コンピュータ・サイエンスコースは
41単位を含む）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64単位

（合計） 124単位

ホ ネットワークデザイン学科

区分	授業科目	単位数
数理科学	線形数学 I	■2
	線形数学 II	2
	微積分学 I	■2
	微積分学 II	2
	情報数学	■2
	微分方程式	2
	グラフ理論	■2
	数理計画法	2
	確率・統計	■2
	専門基礎	コンピュータ入門
情報通信ネットワーク		●2
テクニカルライティング		●2
デジタル回路		2
情報処理基礎		2
計算機アーキテクチャ		●2
データ構造とアルゴリズム I		■2
オペレーティングシステム		●2
Unix入門		1
データベースシステム		■2
ソフトウェア工学 I		■2
ネットワークデザイン入門		●1
通信理論		■2
コンピュータリテラシー		2
デジタル信号処理		2

	プログラミングリテラシー（入門）	1
	プログラミングリテラシー（読解）	1
	情報セキュリティの基礎	■2
基幹科目	Webサイト制作	2
	モバイルコミュニケーション	2
	ネットワーク設計	■2
	サーバ構築管理	2
	ネットワークアプリケーション	■2
	情報技術者論	●2
	情報ゼミナール	●2
	情報セキュリティの応用	2
応用科目	オートマトンと形式言語	■2
	データ構造とアルゴリズムⅡ	2
	システムプログラム	2
	プログラミング言語論	■2
	ソフトウェア工学Ⅱ	■2
	構造化文書処理	2
	ヒューマンインタフェース	2
	メディア通信概論	2
	オペレーションズ・リサーチ	2
	モデリングとシミュレーション	2
	情報科学実践演習（国際PBL）	1
演習科目	C演習Ⅰ	●3
	C演習Ⅱ	■3
	Java演習	■3
	ソフトウェア工学演習	■2
	ネットワークデザイン基礎演習	●2
	ネットワークデザイン専門演習	●2
	ネットワーク・セキュリティ演習	2
	CSプロジェクト演習	■1

〔卒業に必要な単位数〕

共通科目（人文社会科学（コンピュータ・サイエンスコースは選択必修科目8単位を含む）12単位
以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位、総合理学系（コンピュータ・サイエ
ンスコースは選択必修科目6単位を含む）12単位以上を含む）

（人文社会科学、総合理学系のいずれかは14単位が必要）・・・・・・・・・・ 36単位

キャリア科目・・ 2単位

ネットワークデザイン学科の専門科目

必修科目・・ 22単位

選択科目（選択必修科目で総合コースは12単位、コンピュータ・サイエンスコースは
39単位を含む）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64単位

（合計） 124単位

4 教職課程（教科及び教職に関する科目）

イ 教科及び教科の指導法に関する科目

(1) データサイエンス学科

免許教科	授業科目	単位数
数学	情報数学	●2
	数理計画法	2
	データ構造とアルゴリズム	2
	線形数学Ⅰ	●2

	線形数学Ⅱ	●2
	グラフ理論	2
	微積分学Ⅰ	●2
	微積分学Ⅱ	●2
	微分方程式	2
	確率・統計	●2
	統計解析	2
	多変量解析	2
	実験計画法	2
	コンピュータリテラシー	●2
	プログラミング基礎	2
	システム工学	2
	機械学習	2
	モデリングとシミュレーション	2
	人工知能	2
	数学科教育法a	●2
	数学科教育法b	●2
	数学科教育法c	2
	数学科教育法d	2
情報	応用倫理学	2
	情報社会論	●2
	情報法学	2
	経営システム論Ⅱ	2
	コンピュータ入門	●2
	C演習Ⅰ	●3
	Java演習	3
	C演習Ⅱ	3
	データサイエンス実践演習Ⅱ	2
	データベースシステム	2
	ソフトウェア工学	●2
	教育工学	2
	オペレーションズ・リサーチ	2
	データサイエンス実践演習Ⅲ	2
	情報通信ネットワーク	●2
	情報セキュリティの基礎	2
	ビジュアルプログラミング論	●2
	パターン認識	2
	データマイニング	2
	テキストマイニング	1
	情報技術者論	●2
	情報科教育法a	●2
	情報科教育法b	●2

(2) 情報知能学科

免許教科	授業科目	単位数
数学	情報数学	●2
	データ構造とアルゴリズムⅠ	2
	データ構造とアルゴリズムⅡ	2
	線形数学Ⅰ	●2
	線形数学Ⅱ	●2
	グラフ理論	2

	微積分学Ⅰ	●2
	微積分学Ⅱ	●2
	周波数解析	2
	微分方程式	2
	確率・統計	●2
	コンピュータ入門	●2
	プログラミング基礎	2
	オートマトンと形式言語	2
	インターフェース・センサ回路	2
	プログラミング入門	2
	Unixプログラミング	2
	プログラミング言語論	2
	数学科教育法a	●2
	数学科教育法b	●2
	数学科教育法c	2
	数学科教育法d	2
情報	応用倫理学	2
	情報社会論	●2
	情報法学	2
	デジタル回路	●2
	計算機アーキテクチャ	●2
	プロセッサ設計	2
	集積回路工学	2
	集積回路設計	2
	システムプログラム	●2
	オペレーティングシステム	2
	アセンブリ言語	2
	知能制御工学	2
	知能制御工学基礎	2
	コンピュータリテラシー	2
	C演習Ⅰ	3
	Java演習	3
	C演習Ⅱ	●3
	ソフトウェア工学演習	2
	知能制御工学演習	1
	データベースシステム	●2
	ソフトウェア工学Ⅰ	●2
	ソフトウェア工学Ⅱ	2
	組み込みシステム基礎	2
	情報通信ネットワーク	●2
	情報セキュリティの基礎	2
	信号処理	2
	コンピュータグラフィックスⅠ	●2
	画像処理	●2
	情報科学演習Ⅰ	●2
	情報科学演習Ⅱ	2
	情報技術者論	●2
	情報科教育法a	●2
	情報科教育法b	●2

(3) 情報システム学科

免許教科	授業科目	単位数
数学	情報数学	●2
	数理計画法	2
	データ構造とアルゴリズム I	2
	データ構造とアルゴリズム II	2
	線形数学 I	●2
	線形数学 II	●2
	グラフ理論	2
	微積分学 I	●2
	微積分学 II	●2
	周波数解析	2
	微分方程式	2
	確率・統計	●2
	コンピュータ入門	●2
	プログラミング基礎	2
	オートマトンと形式言語	2
	Unixシステム入門	2
	プログラミング言語論	2
	人工知能	2
	モデリングとシミュレーション	2
	システム工学	2
	数学科教育法a	●2
	数学科教育法b	●2
	数学科教育法c	2
	数学科教育法d	2
情報	応用倫理学	2
	情報社会論	●2
	情報法学	2
	経営システム論 II	2
	デジタル回路	●2
	計算機アーキテクチャ	●2
	システムプログラム	●2
	オペレーティングシステム	2
	アセンブリ言語	2
	コンピュータリテラシー	2
	C演習 I	3
	Java演習	3
	C演習 II	●3
	ソフトウェア工学演習	2
	データベースシステム	●2
	情報検索	2
	ソフトウェア工学 I	●2
	ソフトウェア工学 II	2
	オペレーションズ・リサーチ	2
	高信頼システム	2
	情報システムの計画策定	2
	情報システム専門演習	2
	情報通信ネットワーク	●2
	情報セキュリティの基礎	2
	ネットワーク設計	2

	情報システム基礎演習	●2
	構造化文書処理	2
	コンピュータグラフィックス I	●2
	ヒューマンインタフェース	●2
	情報技術者論	●2
	情報科教育法a	●2
	情報科教育法b	●2

(4) 情報メディア学科

免許教科	授業科目	単位数
数学	情報数学	●2
	数理計画法	2
	データ構造とアルゴリズム I	2
	データ構造とアルゴリズム II	2
	線形数学 I	●2
	線形数学 II	●2
	グラフ理論	2
	微積分学 I	●2
	微積分学 II	●2
	周波数解析	2
	微分方程式	2
	確率・統計	●2
	コンピュータ入門	●2
	プログラミング入門	2
	オートマトンと形式言語	2
	プログラミング言語論	2
	画像情報処理 I	2
	画像情報処理 II	2
	CAD	2
	音声情報処理	2
	数学科教育法a	●2
	数学科教育法b	●2
	数学科教育法c	2
数学科教育法d	2	
情報	応用倫理学	2
	情報社会論	●2
	情報法学	2
	デジタル回路	●2
	計算機アーキテクチャ	●2
	メディアデータ論	2
	システムプログラム	●2
	オペレーティングシステム	2
	アセンブリ言語	2
	コンピュータリテラシー	2
	C演習 I	3
	Java演習	3
	C演習 II	●3
	ソフトウェア工学演習	2
	データベースシステム	●2
	ソフトウェア工学 I	●2
	ソフトウェア工学 II	2

	情報通信ネットワーク	●2
	情報セキュリティの基礎	2
	コンピュータグラフィックス I	●2
	コンピュータグラフィックス II	2
	構造化文書処理	2
	音響処理	2
	感性情報処理	2
	アニメーション演習	1
	色彩学	2
	Webデザイン	2
	ヒューマンインタフェース	●2
	情報メディア演習 I	●2
	情報メディア演習 II	●2
	情報メディア演習 III	●2
	情報技術者論	●2
	情報科教育法a	●2
	情報科教育法b	●2

(5) ネットワークデザイン学科

免許教科	授業科目	単位数
数学	情報数学	●2
	数理計画法	2
	データ構造とアルゴリズム I	2
	データ構造とアルゴリズム II	2
	線形数学 I	●2
	線形数学 II	●2
	グラフ理論	2
	微積分学 I	●2
	微積分学 II	●2
	微分方程式	2
	確率・統計	●2
	コンピュータ入門	●2
	プログラミングリテラシー (読解)	1
	オートマトンと形式言語	2
	Unix入門	1
	プログラミング言語論	2
	モデリングとシミュレーション	2
	数学科教育法a	●2
	数学科教育法b	●2
	数学科教育法c	2
数学科教育法d	2	
情報	応用倫理学	2
	情報社会論	●2
	情報法学	2
	デジタル回路	●2
	計算機アーキテクチャ	●2
	システムプログラム	●2
	オペレーティングシステム	2
	コンピュータリテラシー	2
	C演習 I	3
	Java演習	3

C演習Ⅱ	●3
ソフトウェア工学演習	2
データベースシステム	●2
ソフトウェア工学Ⅰ	●2
ソフトウェア工学Ⅱ	2
オペレーションズ・リサーチ	2
情報通信ネットワーク	●2
情報セキュリティの基礎	2
通信理論	●2
デジタル信号処理	2
モバイルコミュニケーション	2
ネットワーク設計	2
ネットワークアプリケーション	2
ネットワーク・セキュリティー演習	2
ネットワークデザイン専門演習	2
ヒューマンインタフェース	2
構造化文書処理	2
メディア通信概論	2
ネットワークデザイン基礎演習	●2
情報技術者論	●2
情報科教育法a	●2
情報科教育法b	●2

ロ 教育の基礎的理解に関する科目

授業科目	単位数
教育原論	●2
教職入門	●2
教育行政	●2
教育心理学	●2
特別支援教育	●2
教育課程論	●2

ハ 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

授業科目	単位数
道徳教育	2
特別活動・総合的な学習の時間の指導法	●2
教育方法論	●2
生徒指導と進路指導	●2
教育相談	●2

ニ 教育実践に関する科目

授業科目	単位数
中学校教育実習	5
高等学校教育実習	3
教職実践演習（中・高）	●2

ホ 大学が独自に設定する科目

授業科目	単位数
人間発達と人権	●2
道徳教育	2
福祉教育概論	2

〔要件〕

- 1 各教科の教育法は、中一種免では8単位、高一種免では4単位以上（各教育法a・bを含む）を修得しなければならない。
- 2 中一種免を取得しようとする者は、「道德教育」および「福祉教育概論」を必ず履修し、単位を修得しなければならない。なお、高一種免を取得しようとする者が「道德教育」を修得した場合は、その単位数を「大学が独自に設定する科目」の単位とする。
- 3 教育実習は、中一種免については「中学校教育実習」、高一種免については「高等学校教育実習」を必ず履修し、単位を修得しなければならない。各教育実習には事前および事後指導の1単位を含む。

IV 知的財産学部

1 導入領域

		授業科目	単位数
導入領域		基礎ゼミナール	2
		言語表現技術Ⅰ	2
		言語表現技術Ⅱ	2
		情報リテラシー	2
		健康体育Ⅰ	1
		健康体育Ⅱ	1

2 教養領域

		授業科目	単位数	
教養領域	英語科目	受信英語Ⅰ	1	
		受信英語Ⅱ	1	
		発信英語Ⅰ	1	
		発信英語Ⅱ	1	
		資格英語Ⅰ	1	
		資格英語Ⅱ	1	
		法学英語基礎Ⅰ	1	
		法学英語基礎Ⅱ	1	
		メディア英語Ⅰ	1	
		メディア英語Ⅱ	1	
		メディア英語Ⅲ	1	
		一般科目	言語表現技術応用	2
			哲学	2
	倫理学		2	
	美術史		2	
	文学		2	
	歴史学		2	
	心理学		2	
	社会学		2	
	日本の伝統と文化		2	
	化学		2	
	地球科学		2	
	生物科学		2	
	生涯スポーツⅠ		1	
	生涯スポーツⅡ		1	
	※日本語Ⅰ	2		
	※日本語Ⅱ	2		
※日本の文化と社会Ⅰ	2			
※日本の文化と社会Ⅱ	2			

注) 授業科目の前に※を付した科目は、外国人留学生を対象とする。

3 専門領域

		授業科目	単位数	
専門領域	基幹科目	産業社会と知的財産	2	
		法学入門	2	
		民法基礎 I	●2	
		民法基礎 II	2	
		民法応用 I	2	
		民法応用 II	2	
		民事訴訟法	2	
		憲法 I	2	
		憲法 II	2	
		行政法 I	2	
		行政法 II	2	
		国際関係法	2	
		刑法	2	
		企業法務概論	2	
		独占禁止法	2	
		経済学入門	2	
		企業経済学 I	2	
		企業経済学 II	2	
		会計学	2	
		ブランド&デザイン、ビジネス入門	●2	
		知的財産情報	2	
		知的財産法科目	知的財産法入門	2
			特許法・実用新案法 I	●2
	特許法・実用新案法 II		2	
	特許法・実用新案法 III		2	
	著作権法		2	
	商標法		2	
	国際知的財産法		2	
	意匠法		2	
	不正競争防止法		2	
	技術&専門科目		大阪技術学	2
		現代技術と産業	2	
		現代機械技術概論	2	
		現代化学概論	2	
		エレクトロニクス概論	2	
		バイオテクノロジー概論	2	
		情報技術知的財産論	2	
		工業デザインと知的財産	2	
		現代技術と特許	2	
		海外の知的財産制度概論	2	
		特許手続	2	
		マーケティングとブランド	2	
		ブランドマネジメント	2	
		デザインマネジメント	2	
		コンテンツマネジメント	2	
		ベンチャービジネス論	2	
イノベーションと企業戦略		2		
経営戦略論		2		
知的財産専門 I		2		
知的財産専門 II		2		

探求科目	特許意匠探求	6
	コンテンツ知的財産探求	6
	ブランド&デザイン知的財産探求	6
	国際知的財産探求	6
	知的財産経営探求	6
	地域知的財産探求	6
	研究科目	研究基礎演習

4 展開領域

授業科目		単位数	
展開領域	実践英語科目	ビジネス英語	2
		英語プレゼンテーション	2
		知的財産専門英語 I	2
		知的財産専門英語 II	2
	展開科目	展開ゼミナールa	2
		展開ゼミナールb	2
		キャリア形成 I	2
		キャリア形成 II	2
		キャリア形成 III	2
		ライフステージと法	2
		中国語コミュニケーション	1
		中国語と現代中国事情	1
		知的財産中国語	2
		海外語学研修	2
		知的財産インターンシップ	2
		知的財産研修	2
		キャリアゼミナール	2

5 その他連携領域

授業科目		単位数
その他連携領域	ブリッジイングリッシュa	1
	ブリッジイングリッシュb	1
	OIT概論	1
	インターンシップ	2
	知的財産総合入門 I	1
	知的財産総合入門 II	1
	知的財産総合応用 I	1
	知的財産総合応用 II	1
	知的財産総合応用 III	1

〔卒業に必要な単位数〕

導入領域	8単位
教養領域（英語科目8単位、一般科目12単位を含む）	20単位
専門領域	
必修科目	10単位
選択科目	64単位
（基幹科目28単位、知的財産法科目12単位、技術&専門科目14単位、探求科目6単位、研究科目4単位を含む）	
展開領域（実践英語科目2単位を含む）	14単位
その他（導入領域、教養領域、専門領域、展開領域、その他連携領域、他学部の科目）	8単位
	（合計）
	124単位

その他の要件

◇知的財産プロフェッショナルコース

特許法・実用新案法Ⅱ、著作権法、商標法、意匠法を修得していること

◇ブランド&デザインコース

著作権法、商標法、意匠法を修得していること

◇ビジネスマネジメントコース

企業経済学Ⅰ、企業経済学Ⅱ、イノベーションと企業戦略を修得していること

別表第2-1 (学費)

(単位：円)

種別	学部	工学部	ロボティクス &デザイン工 学部	情報科学部	知的財産学 部	備考
入学金		250,000	250,000	250,000	250,000	入学時納入
授業料		1,290,000	1,290,000	1,290,000	1,020,000	毎年度納入
教育充実費		100,000	150,000	100,000	50,000	1年次納入
		200,000	300,000	200,000	150,000	2年次以降納 入

学費の金額は、経済情勢の著しい変動があった場合、改定することがある。

別表第2-2 (履修料)

(単位：円)

学部	金額	備考
工学部	23,000	1単位あたり
ロボティクス&デザイン工 学部	23,000	
情報科学部	23,000	
知的財産学部	20,000	

別表第2-3 (研究料)

(単位：円)

種別	期間	6カ月	1年
研究料		180,000	360,000

別表第2-4 (在籍料)

(単位：円)

区分	金額
前期	60,000
後期	60,000

別表第3（教育職員免許状の種類および免許教科）

免許状の種類	免許教科	学部	学科
中学校教諭一種免許状	「数学」	工学部	都市デザイン工学科 建築学科 機械工学科 電気電子システム工学科 電子情報システム工学科
		情報科学部	データサイエンス学科 情報知能学科 情報システム学科 情報メディア学科 ネットワークデザイン学科
	「理科」	工学部	応用化学科 環境工学科 生命工学科
高等学校教諭一種免許状	「数学」 「工業」	工学部	都市デザイン工学科 建築学科 機械工学科 電気電子システム工学科
	「数学」 「情報」 「工業」	工学部	電子情報システム工学科
	「理科」 「工業」	工学部	応用化学科 環境工学科 生命工学科
	「工業」	ロボティクス &デザイン工 学部	ロボット工学科 システムデザイン工学科 空間デザイン学科
	「数学」 「情報」	情報科学部	データサイエンス学科 情報知能学科 情報システム学科 情報メディア学科 ネットワークデザイン学科

教授会規程

○大阪工業大学情報科学部教授会規定

1996年2月27日

学園215

改正 2018年2月21日

(趣旨)

第1条 この規定は、大阪工業大学学則第9条および組織規定第43条第1項に定める大阪工業大学情報科学部教授会（以下「教授会」という）の構成、審議事項、運営等必要な事項を定める。

(構成)

第2条 教授会は、つぎの者をもって構成する。

イ 情報科学部長（以下「学部長」という）

ロ 情報科学部教授（専任に準じる職務を行う特任教授を含む）

2 学部長は、教授会の議を経て、設置学科から准教授各2名を教授会に加えることができる。

3 前項に定める准教授の任期は、毎年4月1日から翌年3月31日までの1年とし、重任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 教授会は、情報科学部の教育研究上のつぎの事項について審議する。

イ 学則に関すること

ロ 諸規定の制定・改廃に関すること

ハ 教務に関すること

ニ 学生の入学、卒業および転学部・転学科に関すること

ホ 学長または学部長が諮問した事項に関すること

(招集および議長)

第4条 教授会は、定例に学部長が招集し議長となる。

2 学部長に事故があるときまたは欠けたときは、あらかじめ学部長が指名した教授が議長となり、議長の職務を行う。

3 第2条に定める教授会構成員（以下「構成員」という）の3分の1以上の者から、議題を示して請求があれば、学部長は、その招集を決定しなければならない。

4 第1項および前項のほか、学部長は必要ある場合、臨時に教授会を招集することを妨げない。

(定足数および表決)

第5条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き議決することができない。

2 教授会の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(員数除外)

第6条 つぎの各号のいずれかに該当する者は、前条第1項の員数から除外する。

イ 休職者

ロ 海外出張者

ハ 長期欠勤などのために引き続き1カ月以上教授会に出席できない者

(議題の事前提出)

第7条 教授会に議題を提出しようとする者は、あらかじめその要領を文書で学部長に提出しなければならない。

2 学部長は、教授会の議に付すべき事項を、主管部署の審議を経たうえで速やかに教授会に提出する。ただし、大学全体の運営に影響を及ぼす事項については、あらかじめ学部長は、学長と協議するものとする。

3 教授会の席上、緊急に提案された議題は、即決することができない。ただし、軽易なものおよび出席者の全員が承認したものについては、この限りでない。

(議事録の調製および呈示)

第8条 議長は、学部事務室長に会議の次第および出席者の氏名等を記載した議事録を作成させなければならない。

2 議事録は、学部事務室で保管し、構成員の請求があるときは、これを呈示しなければならない。

(関係職員の出席)

第9条 議長は、必要があると認めるとき、構成員以外の職員を教授会に出席させ、議事に関し、これに説明をさせまたは意見を述べさせることができる。ただし、表決に加えることはできない。

(欠席届および議事録による了知)

第10条 教授会に欠席する者は、欠席届をあらかじめ学部事務室を経て学部長に提出しておかななければならない。

2 教授会に欠席した者は、その経緯を議事録によって了知するものとする。

(教授会の庶務)

第11条 教授会の庶務は、学部事務室で取り扱う。

(運営細則)

第12条 この規定に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は、教授会の意見を聴き学部長が定める。

(規定の改廃)

第13条 この規定の改廃は、学長ならびに大学・大学院運営会議および教授会の意見を聴き、理事長が行う。

付 則

1 この規定は、1996年4月1日から施行する。

2 この改正規定は、2018年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

1	設置の趣旨及び必要性	P. 2
2	学科の特色	P. 4
3	学科の名称及び学位の名称	P. 6
4	教育課程の編成の考え方及び特色	P. 6
5	教員組織の編成の考え方及び特色	P.11
6	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P.12
7	施設、設備等の整備計画	P.16
8	入学者選抜の概要	P.20
9	取得可能な資格	P.23
10	実習の具体的計画	P.23
11	企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の 学外実習を実施する場合の具体的計画	P.24
12	管理運営	P.25
13	自己点検・評価	P.26
14	情報の公表	P.27
15	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P.27
16	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P.29

1 設置の趣旨及び必要性

1-1 大阪工業大学の沿革と概要

大阪工業大学を設置する学校法人常翔学園は、将来の工業技術者の育成を目指して大正 11 (1922) 年に創設した関西工学専修学校に始まり、以来 90 年以上にわたり、わが国の科学技術をリードする人材を輩出してきた。大阪工業大学は、戦後の学制改革によって、当時の摂南工業専門学校を新制大学として昇格させたもので、昭和 24 (1949) 年に摂南工業大学として開学した〔同年、大阪工業大学に改称〕。

現在、4 学部 16 学科、4 研究科 6 専攻を擁する本学は、「世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する。」を建学の精神に掲げ、日本の産業界を中心に有為な人材を送り出すことを使命としている。

情報科学部は、平成 8 (1996) 年に情報処理学科 (令和元 (2019) 年度に情報知能学科と名称変更) と情報システム学科の 2 学科からなる学部として開設された。その後、情報メディア学科と情報ネットワーク学科 (令和元 (2019) 年度にネットワークデザイン学科と名称変更) を設置して 4 学科からなる学部として、情報技術に関する研究を進展させるとともに、大学の理念である「専門職業人の育成」に沿って、「情報プロフェッショナルの育成」を実施している。

1-2 データサイエンス学科の設置の必要性

世界を取り巻く環境は、高齢化やエネルギー、地球温暖化、地域間格差、新しい産業の創出など社会的課題とともに経済的課題も抱えており、大きな変革期にある。一方で、ICT の急速な発展により、膨大なデータが日々生み出され、第 4 次産業革命が進展し、データ駆動型価値創造社会へと転換してきている。

このような状況の中で、我が国では、超高齢化などの課題先進国として、IoT (Internet of Things)、ロボット、AI (Artificial Intelligence)、ビッグデータなど社会や経済の在り方に変革を及ぼす先端技術を、あらゆる産業や社会に取り入れ、イノベーションから新たな価値創造や人間中心の社会変革を行う、世界に先駆けた超スマート社会 Society5.0 の実現を目指している。

しかしながら、このような未来を創造できる人材が圧倒的に不足しており、「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」(平成 28 (2016) 年 6 月：経済産業省) 及び「IT 人材需給に関する調査」(平成 31 (2019) 年 3 月：経済産業省) でも指摘されているように、今後ますます深刻化が予想され、人材育成が急務となっている。特に、数理的思考に基づき、文理問わず、人文社会学・経済学・心理学・工学・医学・農学・教育学などの様々な学術領域と連携し、データから価値を創造し、社会課題やビジネス課題を解決する、データサイエンティストを育成することは、国家戦略として位置づけられている。

このような状況を受け、令和 3 年 (2021) 4 月、大阪工業大学情報科学部にデータサイエンス学科を開設する (設置位置は、情報科学部の設置地である枚方第 2 校地 (大阪府枚方市))。産官学による実践的な教育ネットワークを構築し、情報科学部既設 4 学科 (情報知能学科、情報システム学科、情報メディア学科、ネットワークデザイン学科) と密に連携し、社会実装のフロント学科として、データサイエンス的アプローチにより、産官学協働で、社会課題

やビジネス課題の解決・新たな価値創造を行う実践的教育を行う。

データサイエンス学科では、情報処理技術に加えて数理統計に関連する基礎知識と問題解決能力を身につけることで、新たな価値を創造できるデータサイエンスのプロフェッショナル人材を養成する。具体的にはディプロマ・ポリシーに掲げている能力を習得させる。

データサイエンス学科ディプロマ・ポリシー

データサイエンス学科では、情報科学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

- (A) 情報処理技術およびデータの収集・分析から得られた成果の活用が人や社会および自然等に及ぼす影響を理解し、それらの改善に取り組むことができる。〔データサイエンスの活用が社会に与える影響を理解する能力〕
- (B) 社会システムの発展・改良に向け、広い視野および倫理的な視点から判断し、行動できる。〔広い視野および倫理的な視点からの判断力と行動力〕
- (C) 情報処理技術および数理統計に関連する基礎知識を有しており活用できる。〔知識の活用力〕
- (D) 課題の背景を理解する能力を有しており、データの収集・分析に基づいた問題解決ならびに価値創造を提案することができる。〔問題解決や価値創造を提案できる能力〕
- (E) 自分の考えを論理的かつ正確に伝え、かつ、相手を理解するために必要なコミュニケーション能力を有し、他者と協働して活動することができる。〔他者と協働して活動できる能力〕

卒業後は、さまざまな産業や官公庁・地方自治体においてデータ解析能力を活かして価値創造を行う、データサイエンティストとしての活躍が想定される。どのような分野においても、データに基づく意思決定は必須になっているが、以下にデータサイエンティストが活躍できる具体的な例を挙げる。

- 製造業（製品開発・企画、マーケティング、品質管理、イノベーション）
- 金融・保険業（商品開発・企画、クウォンツ、ビッグデータ解析、データコンサルタント）
- IT を中心とした広告・流通企業（商品開発・企画、世論調査・社会調査、データマイニング）
- 官公庁・地方自治体（公的データの作成、データに基づく政策決定）
- 中学・高校を含む教育機関（数学及び情報の教員、教育効果の分析、教育コンテンツの開発）
- IT 企業（付加価値を創造する SE、データアナリスト）
- 経営コンサルタント

1-3 情報科学部内に設置する意義

データサイエンスによる価値創造は、情報科学と密接な関りがある。さまざまな種類のデータを自動的に収集・蓄積し、大量となるデータに対して統計的な分析とその視覚化、さらにはシミュレーションによる検証等は、いずれも情報技術が基盤になっていることはいまでもない。データサイエンスが注目されることで脚光を浴びている IoT、ビックデータ、人工知能、データマイニングといった概念は、情報処理技術ともいえる。

前述のように、情報科学部は平成 8 (1996) 年に開設以来、ハードウェアとソフトウェアの両面にわたって情報技術の研究を進めるとともに、情報プロフェッショナル人材の育成を続けてきた。社会の要請であるデータサイエンスの教育・研究の基盤が整っており、情報技術とデータサイエンスによる相乗効果が期待できる。データサイエンス学科を設置することで、企業や行政の持つ課題をもとに、データ分析と情報技術によって、新たな価値創造からその実装までというトータルな社会貢献ができるものと考えられる。

2 学科の特色

大阪工業大学の建学の精神は、「世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けられた実践的技術を持ち、現場で活躍できる専門職業人を育成する」ことである。この精神にしたがって情報科学部では、既設の 4 学科が情報プロフェッショナルの育成を図っている。情報知能学科では知能情報システムとそれを実現する組込みシステム技術及びコンピュータ技術の分野を、情報システム学科ではビジネスシステムや産業・社会基盤システムの分野を、情報メディア学科ではメディアシステムや情報メディアの分野を、ネットワークデザイン学科では情報セキュリティ技術、ネットワークシステム技術、コミュニケーションソフトウェア技術の分野をそれぞれ教育・研究している。これらに対して、データサイエンス学科は、情報科学とデータ科学との融合による新たな価値創造を目指すことが特色といえる。しかし、既設 4 学科との関係も深く、各学科間での授業科目の相互履修、教員間での教育・研究の連携など、学部全体としての有機的な連携を通じて、教育効果の向上を図る。他大学においても「データサイエンス」を冠した学部・学科は存在するが、本学科では情報科学を基盤に有していることが特徴の一つである。

近年、情報技術によって企業経営や社会に変革をもたらすデジタル・トランスフォーメーション (DX) が要請されている。こうした変化のなかデータサイエンス学科は、企業や地域の課題をもとに情報科学とデータ科学により新しい価値の創造を目指している。情報技術を基盤にしているため、価値創造の成果を社会実装 (価値実現) するまでを対象にできる。また、課題解決のためのサイクルである「課題の設定-計画-データ収集-分析-結論」においても、情報技術による大量のデータ収集とその蓄積は不可欠であり、分析過程においては専用ソフトによる解析やコンピュータシミュレーションなどが効果的である。課題やデータは企業や地域行政が有しており、問題解決に必要な情報技術は情報科学部の既設 4 学科で研究開発を進める。したがって、企業や地域と既設 4 学科の間にデータサイエンス学科が介在することで、デジタル・トランスフォーメーションを推進することができる。

さらに、価値創造ができるデータサイエンスのプロフェッショナル人材を養成するために、

情報処理技術、数理統計及び問題解決能力を身に付ける教育を実施する。このため、次のような特徴を有する。

(1) 情報処理技術に関する教育

情報科学部は平成8(1996)年に設置されて以来、多くの学生を情報プロフェッショナルとして輩出した実績がある。既設の4学科はJABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受けた教育カリキュラムであるCS(コンピュータ・サイエンス)コースを有している。データサイエンス学科は現時点で認定を受ける計画はないが、情報技術に関する分野の教育は、このCSコースのカリキュラムに準拠して設計されている。コンピュータアーキテクチャやオペレーティングシステムといった科目は開講されないが、コンピュータの利用や適用に関する能力を身に付けることができる。AIなどの情報技術を開発するのではなく、情報技術を適用する能力を養うことを目指している。なお、データサイエンス学科で開講されていない科目についても、学生は他学科履修の制度を利用して受講することができる。

(2) 数理統計に関する教育

統計分析は、データサイエンティストには不可欠な能力である。本学科では、理論よりも実践を重視する。データ分析に関する講義科目では、統計の理論だけではなくRなどのソフトウェアを使った演習を取り入れる。情報処理技術の利用能力との相乗効果が期待できる。また、演習科目においては、オープンデータなどの実データを使用することで分析マインドを高める。種々のシステムにおける意思決定に役立つような解釈をする習慣を身に付ける。

(3) 問題解決能力に関する教育

企業や地域における問題解決や価値創造には、対象となるシステムに関する知識が欠かせない。そのため、「経営システム学」の分野を教授する。情報技術や数理統計といった理工系の知識と社会科学に関わる知識の融合が不可欠であるため、データサイエンス学科は文理融合を志向する。そこで、経営資源である「人・もの・金・情報」に関わる基本的な考え方やその管理技術及び生産・流通、金融・経済、教育分野におけるシステムを理解するための知識を身に付ける。前述の情報処理技術や数理統計に関する知識と相まって、新たな価値を創造するデータサイエンスのプロフェッショナル人材を育成できる。

授業科目に関する上記の特徴の他に、次のような視点も取り入れる。

(4) コミュニケーション・プレゼンテーション能力

データサイエンティストは、企業や行政の課題をもとに、データの収集と分析により新しい価値を創造する。そのため、顧客等からの要望を的確に理解、分析するとともに、自分の提案を分かり易く他者に説明する能力が要求される。このため、教養科目と専門科目の連携を密にした科目編成を行い、日本語、英語によるコミュニケーション能力の養成を図る。

(5) 価値創造マインドを育成するPBL

知識を修得するだけでは、価値創造につながらない。実際に、企業や地域の課題に対して取り組んでみることにより価値創造マインドを育てる。そのために、企業や行政などと

連携して実課題を準備し、学生に課題を提供しチームを編成し解決する機会を与える必要がある。課題を解決するためのアイデアソンとそれを社会実装するためのハッカソンを準備する。データサイエンス学科の学生だけでなく、既設4学科の学生と協調して解決法を検討する。課題の要点を理解し分析や解決法の見直し及びその実装を経験することで価値創造マインドを育成する。

(6) 技術者倫理

データサイエンティストは、人や企業、社会に関する多種多様なデータを扱うことになる。データや分析によって得られた知見を正しく利用することが重要である。技術者としての正しい倫理感を持ち、それに従って行動できなければならない。そのため、不正利用等が社会に与える影響の深刻さ、不正利用防止のための法規、技術者の社会的役割、責務など、技術者倫理教育の徹底を図る。

3 学科の名称及び学位の名称

3-1 学科の名称

本学科は、社会における新たな価値の創造のためにデータサイエンスの研究及びプロフェッショナル人材の養成を担うことから、その名称及び英訳を次のとおりとする。

学科名称 : データサイエンス学科

学科名称 (英訳) : Department of Data Science

3-2 学位の名称

データサイエンス学科は、情報科学部に設置する。既設の4学科の学位は、「学士(情報学)」(英訳名称: Bachelor of Information Science and Technology)である。そして本学科では、情報処理技術を基盤として、データ収集から分析を通じた価値創造にかかわる学問を授けることから、データサイエンス学科において授与する学位は、「学士(情報学)」(英訳名称: Bachelor of Information Science and Technology)とする。

4 教育課程の編成の考え方及び特色

4-1 データサイエンス学科の教育課程の編成の考え方と特色

情報科学部では、自然と共生し、豊かで安心できる社会の実現をめざし、情報技術を自在に駆使して社会の発展に貢献する『情報プロフェッショナル』の育成を目標としている。そのため、ハードウェア・ソフトウェア・システムの専門技術力、論理的思考力やコミュニケーション能力を修得して各種のシステムを研究開発できる応用技術力を鍛えるとともに豊かな人間性を養うことを理念としており、次のようなディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを掲げている。

情報科学部ディプロマ・ポリシー

4年以上在学して所定の単位を修得し、授業および卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士（情報学）の学位を授与する。

(1) 各種システムを開発することのできる専門能力

- ・数学・自然科学など理工系の専門基礎知識、およびハードウェア・ソフトウェア・システムに関する専門知識を持ち、高度情報化社会のためのシステム開発に活用できる。〔理工系の基礎知識と専門的知識を活用する能力〕
- ・豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力や正確かつ論理的に情報を伝えるコミュニケーション能力を持ち、他者と協働して活動できる。〔豊かな感性・論理的な思考力と柔軟な発想力およびコミュニケーション能力〕

(2) 自然と人間が共生する、豊かで安心できる社会の実現に必要な人間力

- ・自然、社会、文化に対する広い人間的素養を持ち、地球的視野で物事を考え行動できる。〔自然、社会、文化に対する広い人間的素養〕
- ・責任感、倫理観、実行力を持ち自律的に判断し行動できる。〔責任感、倫理観、実行力〕
- ・新しいものごとへの強い関心・興味を持ち、自主的・継続的に学習することができる。〔自主的・継続的に学習する能力〕

情報科学部カリキュラム・ポリシー

情報科学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいて必要な科目を開設し、主体的に学修できる科目運営を取り入れるとともに、科目間の連携を高めた体系的カリキュラムを編成する。

1) 豊かな人間性を養う共通教育

総合人間学系と総合理学系に関する教育を通して幅広い教養を身につけ、社会の多様化や高度情報化に柔軟に対応できる能力を育成する。また、キャリアデザインに関する教育により、大学での学修の動機付けを促し、社会人基礎力を養う。

2) 実践的な情報技術者を育成する専門教育

- a) 情報科学の基礎となる「数理科学」では、情報数学、確率・統計などの数理科学的能力を養い、学科共通的な「専門基礎」では専門科目を体系的に学ぶ上で必要となる基礎的能力を育成する。
- b) 「情報知能」、「情報システム」、「情報メディア」、「情報ネットワーク」、「データサイエンス」の各分野の「基幹科目」、「応用科目」により専門性を高め、さらに「演習科目」での学修を通して専門分野を統合してシステムを設計、実装する能力を養う。

3) 4年次ではそれぞれの学科で学んだ内容の集大成として「卒業研究」を行い、論理的思考力、コミュニケーションやプレゼンテーションの総合的能力の育成を図るとともに、社会における情報技術の役割や情報技術者の責任などについても理解を深める。

P.3 で記述したデータサイエンス学科ディプロマ・ポリシーのとおり、データサイエンス学科の教育課程は、情報処理技術に加えて数理統計に関連する基礎知識と問題解決能力を身につけ、新たな価値を創造できるデータサイエンスのプロフェッショナル人材を養成することを企図している。

情報科学部のカリキュラム・ポリシーに立脚しながら、以下のデータサイエンス学科カリキュラム・ポリシーに基づいてカリキュラムを編成する。

データサイエンス学科カリキュラム・ポリシー

データサイエンス学科ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- 1) 数理科学科目群では、専門科目を学ぶ上で必要となる数学の基礎を固める。
- 2) 専門基礎科目群では、データサイエンスの意義やデータの収集、分析、活用に関する基本的な技法ならびに、ソフトウェアの仕組み、プログラミング言語、プログラミング技術、ネットワークの仕組み等の情報科学に関する基礎的知識を身に付ける。
- 3) 基幹科目群では、大量のデータを収集し効果的に分析する技法ならびに情報システムを実際に構築するためのシステム技術を学び、システムの企画・計画を行うための技術を総合的に身に付ける。
- 4) 応用科目群では、価値創造の対象となる企業や社会の仕組みと課題などについて理解し、かつ価値創造を提案するための幅広い素養を身に付ける。
- 5) 演習科目群では、プログラミングの演習ならびにそれまでに学んできた知識を実践的な例題に適用する体験を通じて理解を深める。
- 6) 卒業研究では、これまで学んだ専門知識を駆使し、協働しながら社会に新しい価値創造を企画・提案する実践的な能力を養う。

4-2 共通科目

「共通科目」の授業科目は、「総合人間学系」と「総合理学系」に区分している。さらに「総合人間学系」は、「人文社会科学」「外国語」「健康・スポーツ科学」に細分し、「総合理学系」は「科学技術史」「物理」「化学」「地学」「生物」「総合」に細分している。

「人文社会科学」は低学年次に配置し、データサイエンス領域の考え方を習得していくとともに、異なる領域の知識・考え方を学ぶことで、専門知識や思考方法を相対化し、社会意義について考え理解する契機として位置付けられる。「外国語」は1年次に留学生に向けて、本学における学習に求められる日本語の利活用能力を早期に習得させることを目的として日本語Ⅰ、日本語Ⅱを配置するほか、国際共通語として特に重要性が高い「英語」の実践的な授業を、1年次、2年次に集中的に配置している。「健康・スポーツ科学」は学生間の人間関係構築の点からも重視し、1年次から3年次まで配置している。

「科学技術史」は専門分野の社会的意義等を俯瞰する科目を4年次に配置し、「物理」「化学」「地学」「生物」「総合」は理学系授業科目に対する新入生の習熟レベルを統一し、情報科学の基礎を学習するために必要な科目を1年次、2年次に配置している。

4-3 キャリア科目

「キャリア科目」は「基礎ゼミナール」「キャリアステップ」「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「グローバルテクノロジー論」「OIT 概論」から構成される。「基礎ゼミナール」「キャリアステップ」「OIT 概論」は初年次に配置し、本学部全学科の学びを俯瞰し、学部全体の目標を理解したうえで、自らの専門分野の役割や専門性の重要性を把握するとともに、学生のアイデンティティ確立、学習の方向性の明確化など、初年次におけるガイダンス機能を有する。「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」「グローバルテクノロジー論」はコミュニケーション能力向上、問題解決のための論理的思考能力、自身のマネジメント能力の育成などを目的とした実践的科目として、2年次に配置している。

4-4 専門科目

本学科の養成する人材像及びカリキュラム・ポリシーに即して、「専門科目」は、「情報処理技術」、「数理統計」、「問題解決」の分野に関する科目群を設定している。そして、前述のとおり、「数理科学」「専門基礎」「基幹科目」「応用科目」「演習科目」の5つの系で構成し、必修科目と選択必修科目、選択科目に区分する。1～2年次では、主に「数理科学科目群」、「専門基礎科目群」、「基幹科目群」に含まれる科目を学修して、「情報処理技術」と「数理統計」に関する分野の知識を身に付ける。3年次では、「応用科目群」に含まれる科目を学修して、問題解決能力を身に付けるために「経営システム」に関する分野の知識を身に付ける。

データサイエンスに関する包括的かつ総括的な科目である「データサイエンス入門」を必修科目に設定している。そして、「情報処理技術」、「数理統計」、「経営システム」各分野に対しては、「コンピュータ入門」、「統計解析」、「経営システム論Ⅰ」を必修科目に指定している。この他に、解析や代数、確率統計の基礎となる科目や「機械学習」を必修にするとともに、文書作成や技術者倫理に関する科目も必修科目に指定している。この他に、プログラミングの演習や実践的な演習の一部も必修科目としている。

数理統計については理論よりも実践を重視している点が特徴といえる。このため「データサイエンス入門」、「統計解析」、「実験計画法」、「多変量解析」、「データマイニング」等の授業科目においては、学生のBYOD (Bring Your Own Device) でR言語を使った教育を実施する。「ビジュアルプログラミング」では、Pythonによる可視化を修得し、「モデリングとシミュレーション」においてはOctaveを使用した演習を取り入れる。また、3年次の「データサイエンス実践演習Ⅱ」及び「データサイエンス実践演習Ⅲ」においては、実際に存在するデータを用いた演習を実施することで、統計解析や機械学習などを実践的に修得させる。さらに、3年次に集中講義として開講する「価値創造演習」では、企業や行政の問題に対して、チームを編成し、データの収集や分析を通じて解決方法の提案とその実装までを実習させることにより価値創造マインドを身に付ける。また、「データサイエンス実践演習Ⅰ」では実験結果のまとめ方や報告書の書き方などをきめ細かく指導する。さらに、3年次の「情報技術者論」では、情報技術者に求められる社会的役割や職業倫理を身に付ける。

4-5 卒業研究

4年次の「卒業研究」では、課題の選定、文献調査、計画に基づくデータ収集と分析、シミュレーション、成果の考察、最終的な論文作成などの実践を通じて、データサイエンス学科

の学び全体を体系的に活用し、学士課程の学びと探求を総括する。

4-6 教養教育

本学は先に述べたとおり、建学の精神から「専門職業人」の育成を標榜するものであるが、「専門職業人」は、まず「世・人・社会に寄与する個人」でなければならず、広い視野と豊かな人間性を涵養することも、本学の大きな責務である。

本学では、建学の精神から導かれるものとして、平成 16 (2004) 年度、教育の理念と教育の方針を以下のとおり定めている (教育の理念は平成 26 (2014) 年 10 月に改定)。

教育の理念

社会・時代の要請に応え、専門学術の基礎と実践的応用力を身に付けるとともに、広い視野と豊かな人間性を涵養し、新しい知的・技術的創造を目指す開拓者精神にあふれた、心身ともにたくましい専門職業人を育成する。

教育の方針

1. 広い視野を持った確かな人間力の涵養
2. 個性・自主自律性の発揮と協調性の修得
3. 準備教育・導入基礎教育などの実施
4. 論理的思考能力と情報表現・伝達能力の養成
5. チームワークの重視とリーダーシップの発揮
6. 学生と教員との協働による授業の改善・改質
7. 国際交流の重視と国際性の涵養
8. 進路指導 (キャリアデザイン支援) 体制の充実
9. 課外活動やボランティア活動の奨励
10. 教育・研究・社会交流 (貢献) の有機的連携

上記の理念・方針の下、本学の専門教育と教養教育の役割は峻別されるものではなく、一体的に機能するものとして教育課程を編成している。

データサイエンス学科は社会課題、ビジネス課題の解決や新たな価値を創造できる人材の育成を目指しており、その設置の趣旨から、多様な人材との連携、多様性の理解が基本となる。そのために、人文社会系科目などを通して視野を拡大し、多様性への理解に根差して、情報科学を活用する視点を確立することが求められ、「専門職業人」としてのアイデンティティを確立するに足る専門知識・技術の修得を担保しながら、情報科学に限定されない開放的な思考を身に付けられる教育課程としている。

また、専門学術・技術の修得もまた、論理的な思考力、的確な自己表現能力、協働する姿勢の修得などの社会的な個の確立、人格の陶冶に資する教養教育に与るものであるという視点の下で一貫している。

加えて、グローバルな環境での活躍を想定した英語力の強化や国内外での様々な PBL など、また課外活動など大学に在籍する期間中の経験も含め、広い視野と豊かな人間性の涵養を総合的に推進する体制を取っている。

5 教員組織の編成の考え方及び特色

5-1 教員配置の考え方

専任教員は、学校法人常翔学園の「任用規定」(【別紙資料1】参照)などに加えて、「大阪工業大学教員選考基準」(【別紙資料2】参照)に照らして任用される。教育研究を遂行する上で求められる専門性の観点から、博士の学位保持者を配置することを原則とし、兼任教員・兼任教員についても、その考え方は踏襲される。加えて、本学は建学の精神にあり、専門職業人を育成する使命を帯びており、教育上の効果に照らして、教員組織の編成にあたり実務経験も適切に考慮される。実務現場の感覚を活用することが教育効果を高めると判断される場合、企業等の最前線で活躍する人材を兼任教員として任用する。

【別紙資料1】「任用規定」

【別紙資料2】「大阪工業大学教員選考基準」

5-2 教員配置の特色と計画

データサイエンス学科における主な専門教育と研究対象は、前述のとおり「情報処理技術」、「数理統計」、「経営システム」の分野である。当学科は9名の専任教員から構成され、工学、理学、情報学、数理学のいずれかの学位を有している。そして、三つの分野の単独もしくは複数の分野を専門としており、専門科目のほとんどを専任教員が担当できる。大阪工業大学内により専門的な教員が存在する場合や共同で開講される科目などは兼任教員を優先することで、カリキュラムを充実させている。

教育上主要と認める授業科目は必修科目としており、専任の教授または准教授を配置している(一部に専任講師・兼任講師との共同担当部分及び兼任教員(情報科学部既設学科専任教員)とのオムニバス部分を含む)。

データサイエンス学科内に次の研究室を設置し、社会課題やビジネス課題の解決・新たな価値創造を推進する。

経営システム研究室、高度ソフトウェア研究室、ものづくりマネジメント研究室、統計的データ探究研究室、分散情報処理研究室、学習モデリング研究室、IoTシステム研究室、計算社会科学研究室、時系列データ解析研究室

5-3 専任教員の年齢構成

本学の定年は満64歳であるが、「特任教員規定」(【別紙資料3】参照)により、人事計画に特に必要と判断する場合には、雇用を延長することができる。一方、当該年度の4月1日において満64歳以上となるものを採用することはできないこととし、64歳を超える期間を含む雇用延長には慎重な対処をしている。今回、設置を計画しているデータサイエンス学科に完成年度までに定年を超える専任教員はいない。

また本学において、教員人事計画の基本方針は、学長が大学・大学院運営会議において示し、審議の上、決定される(【別紙資料4】「2021年度教員人事基本方針」参照)。その基本方針に基づき、採用・昇任などの計画を各学部等において立案し、採用候補・昇任候補の選定に当たっては、所管する委員会(各学部の教員選考委員会等)の審議を経ている(【別紙資料

5)「大阪工業大学情報科学部教員選考委員会規定」参照)。

適正な年齢構成の維持確保は、学長の定める方針においても謳われており、若手教員の採用を積極的に図っている。

今回設置を計画しているデータサイエンス学科の年齢構成は次のとおりである。

職位	学位	29歳以下	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65~69歳	70歳以上	合計
教授	博士				3人	2人			5人
准教授	博士			1人	2人				3人
講師	博士		1人						1人
合計	博士		1人	1人	5人	2人			9人

※令和7(2025)年3月31日時点の年齢を基に作成。

設置時点では教育研究の分野において経験豊かな教員を揃えており、当面の活動において強みを発揮するものであるが、年齢構成が比較的高めになっており、漸次是正を図りながら、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を継続的に行っていく。

【別紙資料3】「特任教員規定」

【別紙資料4】「2021年度教員人事基本方針」

【別紙資料5】「大阪工業大学情報科学部教員選考委員会規定」

6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

6-1 授業方法・学生数等

科目の性質に応じて、講義、演習、実験・実習の方法により授業を行う。授業ごとの学生数については、次のとおり設定している。

(1) 共通科目・総合人間学系

「人文社会科学」は情報科学部共通であり、多くの科目を2回ずつ開講している。「外国語」は他学科と合同で開講し、30~40人のグループに分けて実施する。「健康・スポーツ科学」の実習科目である「基礎スポーツ科学 a」及び「基礎スポーツ科学 b」は25人程度の3グループを作って実施する。

(2) 共通科目・総合理学系

「物理」の科目では、「物理学基礎」と「電磁気学」については授業を学科別で指定して2学科合同で行う。上限は130人程度としている。「物理現象の数理」や「力学」、「現代物理学入門」及び「化学」「地学」「生物」「総合」などの科目は学科指定ではないが、再履修者を含めて上限を150人程度となるように、同一科目を複数回開講している。

(3) キャリア科目

「基礎ゼミナール」は1年生だけを対象とした科目であり、情報科学部全学科横断で共同開講している。データサイエンス学科の1年生を3~4人ずつ19程度に分けて、他

学科の学生を含めて1グループ22～24人程度に編成して実施する。「キャリアステップ」と「キャリアデザインⅠ」は単独で開講し、それぞれ20人程度と50人程度を見込んでいる。「キャリアデザインⅡ」は、他学科と共通で開講するが、50人を超えない程度になると想定している。

(4) 専門科目

「数理科学」の科目で1年生配当の特に重要である「微積分学Ⅰ」と「線形数学Ⅰ」は学科単独で開講し、さらに2クラスに分けることにより40人が上限となるように実施する。そのほかの「数理科学」の科目は学科単独で開講し70人を基準として、再履修者を含めても90人を上限として実施することを想定している。

「専門基礎」の科目は学科単独で開講することにより、70人を基準として再履修者を含めても90人を上限として実施することを想定している。

「基幹科目」のうち、「情報ゼミナール」はデータサイエンス学科の全教員で担当し、主に教授または准教授が指導するので、9人程度の8つのグループに分けて実施する。

「情報技術者論」については学部合同での開講とし、「情報技術者論」は学部全体を2つのグループに分けるため1クラスが約230人程度となる。講義はオムニバス形式であるが、グループ討議では8人の教員が分担して実施する。そのほかの「基幹科目」は学科単独で開講することにより、70人を基準として再履修者を含めても90人を上限として実施することを想定している。

「応用科目」の「情報科学実践演習（国際PBL）」は夏季に行われる国際PBLに対応する科目で、情報科学部全学科横断で実施する。演習を主体とした科目であるが、海外から受け入れた学生との協働演習や海外の大学に赴いて行う協働演習が主な課題であり、その準備を含んだ内容について、講義と演習を行う。演習は、4～6人程度のグループに分かれて実施する。次に、「経営システム論Ⅱ」及び「経営戦略論」は複数の教員及び学外からの講師を招き、オムニバス講義で実施する。「情報科学実践演習（国際PBL）」を除く「応用科目」は学科単独で開講することにより、70人を基準として再履修者を含めても90人を上限として実施することを想定している。

「演習科目」は、すべて学科単独で開講する。「価値創造演習」を除くすべての科目は、ほとんどの学生が受講すると想定しており、70人を基準として再履修者を含めても90人を上限として実施することを想定している。すべての演習にはPCが必要であるが、基本的にはBYOD（Bring Your Own Device）である。「C演習Ⅰ」、「C演習Ⅱ」、「Java演習」については、教員のほかに複数の授業補助者を計画している。「データサイエンス実践演習Ⅰ」については、3つのグループに分かれて演習を実施する。「データサイエンス実践演習Ⅱ」及び「データサイエンス実践演習Ⅲ」は、2つのグループに分かれて演習を実施する。「価値創造演習」は夏期休暇中に集中講義形式で実施し、10～20人程度の参加を見込んでいる。

6-2 履修指導について

教育課程全体として、大学設置基準第21条第2項に定める1単位あたりの学修時間（45時間）を確保し、妥当な学修成果を担保する。そのため、科目の年次配当や履修要件に配慮するとともに、年間の履修登録科目の上限を定め、過剰な履修登録による学修効果の劣化等の

防止を行う。

年間の履修登録科目の上限は44単位、ただし、編入学した学生が入学初年度に履修登録できる科目の上限は56単位としている。「海外語学研修」、「日本語Ⅰ」及び「日本語Ⅱ」、「基礎ゼミナール」、「グローバルテクノロジー論」、「OIT 概論」ならびに教科、教職に関する科目（卒業に必要な単位数に含まれないもの）を除く。）これらの制限は、本学の工学部等の学部と同様のものであり、これまでの本学における運用からも合理的な水準であると考えられる。

各年度の授業開始前に履修ガイダンスを開催し、学生には出席を義務付け、授業科目の選択・履修方法について指導する。また、3年次の情報ゼミナール配属までは、入学時に決めた基礎ゼミナール担当教員が、修得単位やGPAを勘案し、学生に対し学修（履修を含む）や生活に関する助言・指導を行う。成績不振学生については、保護者との連絡を密にとり別途指導を行うなど、学科全体で支援する体制をとる。

本学部の5学科に共通して、基礎から応用・発展へ、学修の適切な積み重ねが担保されるよう、3年次に配当される専門科目の履修に要件を定める。すなわち、3年次配当の専門科目を履修するための要件は、3年次に在籍し2年次修了までに62単位以上を修得する必要がある。

さらに「卒業研究」に着手するための要件を次のとおり定め、学士課程教育全体の集大成である「卒業研究」に臨む上で前提となる学修の蓄積があることを担保する。

- ① 4年次であること
- ② 総合人間学系科目20単位以上を含む共通科目30単位以上、キャリア科目2単位以上であること
- ③ 専門科目において、必修科目12単位以上、選択必修科目12単位以上を含む72単位以上であること
- ④ 総修得単位数が104単位以上であること〔教科及び教職に関する科目（卒業に必要な単位数に含まれないもの）を除く〕
- ⑤ 達成度確認テストに合格していること
- ⑥ 「情報ゼミナール」を修得していること

6-3 履修モデル

本学科では、データサイエンティストとして活躍するため関連する技能の体系的な学びを講義、演習、実験・実習により1年次から4年次までバランスよく配置し教育を行う。

本学科の履修モデルは、養成する人材像と想定される進路に基づき、「データ分析」「SE」「生産・流通」「金融・経済」「教育」の5つのモデルを設定している。授業科目は、「共通科目」、「キャリア科目」、「専門科目」に分類されており、5モデルとも「キャリア科目」は同一である。以下では、「共通科目」、「専門科目」について各モデルの特徴的な科目を挙げる。

I データ分析モデル

履修モデルの前提となる養成する具体的な人材像は、「官公庁・地方自治体などにおいて、公的データの作成、データに基づく政策決定ができるデータサイエンティスト」である。この人材像を養成することを目的とし、数理的分析力を重視している。「共通

科目」の「人文社会科学」では、「倫理学基礎」「応用倫理学」「法学基礎」「情報法学」「現代経済論」「心理学基礎」を履修モデルに含んでいる。「外国語」では「英語による情報技術」をモデルに選定している。「専門科目」では、「数理科学」に分類される科目及び「実験計画法」「数理ファイナンス」「投資意思決定論」を履修モデルとして設定している。

II SEモデル

履修モデルの前提となる養成する具体的な人材像は、「IT企業などにおいて付加価値を創造するSEやデータアナリスト」である。この人材像では、情報システムに関わる要素技術及びソフトウェア開発・プログラミング能力を身に付ける必要がある。「共通科目」の「人文社会科学」では、「情報社会論」「倫理学基礎」「応用倫理学」「情報法学」を履修モデルに含んでいる。「外国語」では「英語による情報技術」をモデルに選定している。「専門科目」では、「情報通信ネットワーク」「システム工学」「ソフトウェア工学」及び「C演習II」を履修モデルとして設定している。

III 生産・流通モデル

履修モデルの前提となる養成する具体的な人材像は、「製造業・流通企業などにおいて製品開発・企画、マーケティング、品質管理、世論調査・社会調査、データマイニングなどができるデータサイエンティスト」である。この人材像では、ものづくりや流通システムに関する知識を身に付ける必要がある。「共通科目」では、「情報社会論」「倫理学基礎」「応用倫理学」「情報法学」「経済学基礎」を履修モデルに含んでいる。「専門科目」では、「経営システム論II」「マーケティング論」「ロジスティクス」「企業会計論」「工業経営論」「経営戦略論」を履修モデルとして設定している。

IV 金融・経済モデル

履修モデルの前提となる養成する具体的な人材像は、「金融・保険業などにおいて商品開発・企画、クウォンツ、ビッグデータ解析、データコンサルティングができるデータサイエンティスト」である。この人材像では、数理的な解析能力と経済システムに関する知識を身に付ける必要がある。「共通科目」では、「倫理学基礎」「応用倫理学」「経済学基礎」「現代経済論」を履修モデルに含んでいる。「専門科目」では、「数理科学」に分類される科目及び「経営システム論II」「数理ファイナンス」「実験計画法」「企業会計論」「投資意思決定論」「経営戦略論」を履修モデルとして設定している。

V 教育モデル

履修モデルの前提となる養成する具体的な人材像は、「教育機関などにおいて数学及び情報の教員、教育効果の分析、教育コンテンツの開発ができるデータサイエンティスト」である。この人材像を養成することを目的とし、教職課程に関係する科目を含んでいることが、このモデルの特徴である。

「共通科目」の「人文社会科学」では、「情報社会論」「倫理学基礎」「応用倫理学」「日本の歴史」「日本国憲法」「情報法学」「人間発達と人権」を含んでいる。「外国

語」ではコミュニケーションを重視し「口語英語」を主体に履修する。「専門科目」では、「数理科学」に分類される科目及び「教育心理学」「教育方法論」「情報科教育法 a」「教育工学」を履修モデルとして設定している。

【別紙資料 6】「教育課程及び履修モデル」

6-4 卒業要件

本学科では専門性の育成に力点を置きながら、専門とするデータサイエンス、情報科学をはじめとする理系分野だけでなく、人文・社会科学系の学問に触れ、物事に対する多面的な理解と多様性に対する受容性を高めるほか、外国語を含めた言語の活用力を高めるなど、社会の構成員として責任ある行動を取る上で必要な基礎的教養を身に付けることに同様の配慮を行っている。

データサイエンス学科の卒業要件は、本大学に4年以上在学し、所定の授業科目について、共通科目36単位（人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位以上を含む）、キャリア科目2単位及び専門科目86単位（必修科目29単位、選択科目57単位）を含めて合計124単位以上修得することとしている。加えて、卒業研究（0単位）も合格することとしている。

なお、教育上有益と認めるときは、他大学（外国の大学を含む）との協議に基づき、学長は学生に当該大学の授業科目を自由科目として履修させることができ、これにより修得した単位については、学部長は教授会の議に基づき、30単位を超えない範囲で卒業に必要な単位として認めることができることとしている。

7 施設、設備等の整備計画

7-1 校地・運動場の整備計画

本学は、大阪府大阪市に大宮校地〔工学部・知的財産学部・工学研究科・知的財産研究科〕（69,566.99 m²）、梅田校地〔ロボティクス&デザイン工学部・ロボティクス&デザイン工学研究科〕（4,648.29 m²）、京都府八幡市に八幡工学実験場（28,687.88 m²）及び今回新たにデータサイエンス学科を設置予定の枚方第2校地〔情報科学部・情報科学研究科〕（148,529.00 m²）を整備し、それぞれの教育研究を遂行してきた。大宮校地では新館の建設等より良いキャンパスへの整備を現在も進めている。枚方第2校地でもトイレの改装や照明のLED化等環境にも配慮した整備を行っている。

7-2 学生の休息場所等の整備状況

枚方第2校地1号館の中央部分のエントランスホールやリフレッシュコーナーにイスや飲料の自動販売機等を設置し、建物周辺にもベンチを設置して学生の休息に利用できる場所を整備している。

同1号館北側にはカフェテリア KITAYAMA、ポエム KITAYAMA と名付けた食堂を設けており、休息及び憩いの場を提供している。

また全館で無線 LAN を利用可能としている。

7-3 運動場について

運動場を大宮校地に 24,741.13 m²、枚方第 2 校地に 76,592.00 m²を整備し、正課の体育や課外のスポーツ活動に役立てている。大宮校地には、ラグビー、アメリカンフットボール、陸上競技、サッカー、ソフトボール、テニス等の関連施設を整備し、枚方第 2 校地には、野球、陸上競技、サッカー、ラグビー、アーチェリー、テニス等の関連設備を整備している。

枚方第 2 校地は、全校地の中で最も運動場の面積が大きく、野球場として専用の OIT スタジアムを整備し、ラグビー場も天然芝グラウンドを整備している。

7-4 校舎等施設の整備計画

教育研究施設の整備

情報科学部の教育研究施設の整備状況は以下のとおりであり、学部の教育課程、個々の授業に適切なクラスサイズ等を実現するための十分な環境を整えており、時間割編成上も問題はない（【別紙資料 7】「データサイエンス学科時間割表」参照）。

情報科学部において使用する施設

- ・ 共用：講義室 23 室、演習室 12 室、実験実習室 4 室、情報処理学習施設 6 室、語学学習施設 3 室、図書館（延床面積 2,582.60 m²）1 室
- ・ データサイエンス学科専用：研究室 9 室、演習室 9 室
- ・ 情報知能学科専用：研究室 12 室、演習室 12 室
- ・ 情報システム学科専用：研究室 15 室、演習室 10 室
- ・ 情報メディア学科専用：研究室 16 室、演習室 11 室
- ・ ネットワークデザイン学科専用：研究室 13 室、演習室 10 室

データサイエンス学科専用の研究室、演習室は 1 号館と 2 号館の 3～6 階に配置する。同学科でまとめるのではなく他学科と隔たりなく配置することで、他学科とのコミュニケーションの機会を円滑に提供できるように整備する。

【別紙資料 7】「データサイエンス学科時間割表」

7-5 図書館の整備状況及び他の大学図書館との協力体制

① 図書館の整備

本学の図書館は、大宮校地の大宮本館、梅田校地の梅田分館、枚方校地の枚方分館で構成されている。各図書館は、図書館クラウドサービスにより情報を共有し、学内外からの相互利用（相互貸借及び文献複写等）を可能にしている。

情報科学部データサイエンス学科を設置する枚方校地の枚方分館は情報科学部 1 号館 3 階にある。ブックシェルフコーナー、ライブラリーパーク、ブラウジングパーク、AV パーク、リスニングコーナー、AIR（Activity Incubation Room）で構成されており、学生利用者等に供している。4 階には学修支援の一環として、「ラーニングcommons」を設置し、

授業や学習、グループや個人等多様な学習ニーズに応え、それぞれの学習スタイルに合わせた利用の場を提供している。

② 整備計画冊数等について

新設するデータサイエンス学科を含め、情報科学部所属学生等が使用する枚方分館の図書収納可能冊数は160,000冊である。情報科学部の開設は平成8(1996)年4月で、情報知能学科、情報システム学科、情報メディア学科、ネットワークデザイン学科がすでに設置されており、蔵書冊数は平成31(2019)年3月現在、専門図書と一般図書を合わせて68,893冊(和書53,204冊、洋書15,689冊)である。なお、蔵書のうち7,920冊(平成31(2019)年3月現在)は研究室保管であるが、卒業研究を行っている学部学生、大学院生等にも必要に応じて利用させている。今後も、新設学科での学習の基礎となる数学、統計学、情報科学領域を中心に既設学科と図書資料を共有し、年次進行に合わせて資料の整備・充実を図る予定である。

また大宮校地、梅田校地に設置している工学部及びロボティクス&デザイン工学部は、学問領域において情報科学部と関連性を有しており、後述の学園内定期連絡便により、大宮本館、梅田分館所蔵資料についても原則翌開館日には資料が届く体制を取っている。

学術雑誌については、令和元(2019)年度現在、情報科学部で「Cognitive Linguistics」のほか、既設各学科で下記の消耗雑誌を購入している。

情報知能学科では12誌(「日経ソフトウェア」「パリティ」「日経Linux」「トランジスタ技術」「日経サイエンス」「Software Design」「Interface」「教育システム情報学会研究報告」「電子情報通信学会研究報告」「National Geographic」「デザインノート」「日経エレクトロニクス」)を購入。

情報システム学科では、8誌(「TOEIC Test プラス・マガジン」「数理科学」「科学」「多聴多読マガジン」「留学ジャーナル」「American Journal of Physics」「遠山顕の英会話楽習」「NHK ラジオ実践ビジネス英語」)を購入。

情報メディア学科では、8誌(「CGWORLD+ digital video」「日経コンピュータ」「画像ラボ」「日本教育工学会研究報告集」「英語教育」「高校生からはじめる現代英語」「The Japan News」「Asahi Weekly」)を購入。

ネットワークデザイン学科では、8誌(「体育の科学」「Training Journal」「生体の科学」「日経NETWORK」「RFワールド」「電子情報通信学会技術研究報告2誌(HCS・MWP)」「Proceedings of the IEEE」)を購入。<*重複除く>

今後、新設学科においても、既設学科と同様に専門誌、特にデータサイエンス分野関連資料を整備していく。現時点では「計算機統計学」「経営の科学」「日本統計学会誌.シリーズJ」「応用統計学」「数学セミナー」などの雑誌等を購入する予定。

そして令和元(2019)年度現在、枚方校地で研究者が個別に契約しているデジタルデータベースは3種、電子ジャーナルは14誌ある。

令和元(2019)年度大宮本館で契約しているデジタルデータベースのうち3校地で利用可能なものは次のものがあり、学科・専攻が個別で契約しているものを含めて全部で13種である。(ID・パスワード発行を受けた登録者のみが利用できるもの含む)

図書・文献の検索ツールとして「JDream3」「Scopus」「CiNii Articles」「CiNii Books」

「JAXA Repository/AIREX」、新聞・雑誌記事の検索ツールとして「朝日新聞 聞蔵Ⅱビジュアル」「日経テレコン 21」「日経 BP 記事検索サービス」、辞書・辞典として「ジャパンナレッジ」、その他のデータベースとして「官報情報検索サービス」「理科年表プレミアム」、個別の学科・専攻が契約している「SciFinder」（大宮のみ）「MathSciNet」がある。電子ジャーナルは大宮校地の設置学科・専攻が契約している「ASCE」33 タイトル、「ACS」46 タイトルなど全 95 種を購読している。

また、梅田分館の電子ジャーナルについては、「Intelligent Service Robotics」ほか全 12 誌を購読している。

③ 図書館の閲覧室、閲覧席数、レファレンス・ルーム、検索手法等

枚方分館には、3 階図書館と 4 階ラーニングcommonsを設置している。閲覧席数は、3 階図書館 173 席、AIR 8 席、4 階ラーニングcommonsでは、グループ学習エリア 70 席、プレゼンテーションブース 20 席、ソファコーナー 25 席、PC 自習コーナー他 11 席、合わせて 307 席であり、新設学科完成時点の収容定員 1,975 人（学部 1,880 人、研究科 95 人）に対する閲覧座席比率は 15.5%である。図書館利用者は 3 階で貸出・返却の手続きを行う。なお、ラーニングcommonsにサポートデスクを設け、スタッフが利用支援、予約処理・備品の貸出などの対応を行っている。

学生用の OPAC 用固定端末を 3 階に 10 台設置しているが、OPAC はキャンパス内に限らずインターネットを通してアクセス可能であり、自宅等からも資料検索できる。また My Library では、貸出利用状況の確認・貸出延長手続・予約・複写依頼・貸借依頼が行える。

④ 他の大学図書館との協力体制

大宮校地にある大宮本館（工学部・知的財産学部・工学研究科・知的財産研究科）、梅田校地にある梅田分館（ロボティクス&デザイン工学部・ロボティクス&デザイン工学研究科）及び同一法人の摂南大学図書館（大阪府寝屋川市、枚方市：蔵書約 53 万冊）、広島国際大学図書館（東広島市、呉市：蔵書約 22 万冊）と図書館システムのデータを共有しており、自館に所蔵がない図書や学術雑誌については図書館システムからオンラインで複写や相互貸借を申込み可能となっている。大宮本館、梅田分館、枚方分館及び摂南大学の各キャンパス間には、学園内定期連絡便を毎日運行している。また、遠隔地にある広島国際大学についても、定期的に運送業者に書類配達を委託しており、手配した資料は迅速に入手可能である。

学園内以外他大学・外部機関に対する複写・相互貸借については、国立情報学研究所の CAT/ILL システムを昭和 61（1986）年から導入しており、日本国内の主な大学・研究機関との相互貸借や複写依頼が可能である。また、海外の図書館とは、個別に複写依頼が可能である。他大学に対する複写料金・相互貸借送料の決済に関しては、国立情報学研究所文献複写、現物貸借相殺制度に参加することにより、処理時間・振込み手数料の面からも、利用者・他大学の負担を最小化している。

8 入学者選抜の概要

8-1 アドミッション・ポリシー及び求める人物像

本学のアドミッション・ポリシー及び求める人物像は以下のとおりである。

アドミッション・ポリシー

大阪工業大学は、優れた人間性と高い見識をそなえ、かつ工学、情報科学及び知的財産学の各分野において、社会に貢献できる確かな専門的实力を身につけた人材を養成します。

すなわち、社会・産業界が求める実践的能力をそなえるとともに、新しい知と技の開拓に挑戦する、心身ともにたくましいプロフェッショナルを養成する場を提供します。

それにふさわしい人として、身につけた知識・技術を活かして将来社会で活躍したいと願う夢を持ち、それを実現する意欲と情熱を燃やし続けることができる若人の入学を求めています。

求める人物像

- (1) 理工系の分野や知的財産の分野に興味を持っている人
- (2) 「ものづくり」や新しい「仕組みづくり」が好きな人
- (3) 得意とする分野において能力を高め、社会に活かしたいと思っている人
- (4) 自分の中に潜む可能性を探求し、情熱と意欲をもってことに当たれる人
- (5) 地域や社会の特徴を理解し、その発展に貢献できる人

大学全体のアドミッション・ポリシーと求める人物像を踏まえ、情報科学部及びデータサイエンス学科においては、入学者選抜の指針を以下のとおり定めている。

情報科学部 アドミッション・ポリシー

情報科学部は、豊かで安心できる社会の実現をめざし、情報技術を自在に駆使して社会の発展に貢献できる「情報プロフェッショナルの育成」を教育理念としており、この理念に沿った学生を受け入れます。

求める人物像

- (1) 情報分野に強い関心を持ち、専門知識や技術を身に付けることをめざす人
- (2) 専門的能力を修得するのに必要な基礎学力と論理的思考力を有し、自主的・積極的に勉学に取り組める人
- (3) 情報プロフェッショナルとして、情報分野の第一線で活躍し、豊かで安心できる社会の実現に貢献したい人

データサイエンス学科 アドミッション・ポリシー

これからの産業には現状の改善だけでなく、新しい価値を生み出すことが求められています。勘や経験をもとにするのではなく、科学的な分析に基づいたシステム設計が求められています。一方で情報技術の発展は、想像を超えるデータの収集とその分析を可能にしました。

データサイエンス学科では、情報技術だけではなくデータ分析能力やマネジメント能力、問題解決能力を身に付けることで、新たな価値を創造できるデータサイエンスのプロフェッショナルを育成します。

求める人物像

- (1) 行動や現象に規則性を見出したり、新たな発見をしたりする能力を身に付けたい人
- (2) 情報技術だけではなく社会システムに関する知識を身に付けたい人
- (3) 産業における情報システムの企画・設計に興味のある人
- (4) 組織運営や企業経営に興味がある人

8-2 学生募集の概要

情報科学部データサイエンス学科においては、上記アドミッション・ポリシー及び求める人物像に基づき、次の学生募集を実施する。なお、募集人員の割合については、データサイエンス学科の入学定員 70 人に対し、一般入試で 55%、推薦入試等で 45%とする（以下、[]内は令和 3（2021）年度入試の募集人員を示す<予定>）。

(1) 一般選抜

1) 一般入試前期 A 日程・AC 日程 [募集人員：19 人 (27%)]

A 日程は配点均一方式の 3 教科入試で学科試験の合計得点のみで、AC 日程は A 日程の学科試験に大学入学共通テストの得点を加えた合計得点で選抜する。

2) 一般入試前期 B 日程・BC 日程 [募集人員：10 人 (14%)]

B 日程は高得点重視方式の 3 教科入試で学科試験の合計得点のみで、BC 日程は B 日程の学科試験に大学入学共通テストの得点を加えた合計得点で選抜する。

3) 一般入試後期 D 日程・DC 日程 [募集人員：5 人 (7%)]

D 日程は 3 教科入試のうち得点の高い 2 教科の合計得点のみで、DC 日程は D 日程の学科試験に大学入学共通テストの得点を加えた合計得点で選抜する。

4) 一般入試前期 C 日程 [募集人員：3 人 (4%)]、一般入試後期 C 日程 [募集人員：2 人 (3%)]

本学独自の学力試験を行わず、大学入学共通テストの成績によって選抜する。利用科目の構成や配点の設定により、本学が求めるさまざまな能力をもった学生を選抜する。

(2) 学校推薦型選抜

1) 公募制推薦入試 [募集人員：18 人 (26%)]

出身学校長による学業・人物ともに優秀であるとの推薦に基づき、適性検査（素養を問う簡単なテスト）2 教科により選考する。

2) 専門高校特別推薦入試 [募集人員：3 人 (4%)]

工業、情報など本学の設置学科に関連する専門知識を有する専門高校の成績優秀な生徒を確保することを目的とし、専門学科の教育課程に配慮した素養を問う簡単なテスト、面接及び書類審査で総合的に選考する。

3) 普通科高校特別推薦入試 [募集人員：3 人 (4%)]

高等学校等在籍時に普通科教育を中心としたカリキュラムを受講した生徒を確保することを目的とし、数学の素養を問う簡単なテストと思考力・判断力・表現力を問う小論文、面接及び書類審査で総合的に選考する。

(3) 総合型選抜

AO入試〔募集人員：2人（3%）〕

本学の教育内容に理解を示し、「学力の3要素」（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を多面的・総合的に評価する選考。1次選考は書類選考、2次選考はプレゼンテーション等を含んだ面接によって選考する。

(4) その他の学校型推薦入試及びその他の選抜〔募集人員：5人（7%）〕

「指定校推薦入試」「系列校内部推薦入試」「外国人留学生入試」「帰国生徒入試」「社会人入試」など、本学への入学意欲の高い受験生に対し選考する。

募集要項の概要については、入試部で原案を策定し、入試委員会、学科長会議、教授会、大学・大学院運営会議の議を経て学長が決定する。入試選抜において学力試験を課す場合、その試験問題の作成及び採点については、試験科目ごとに学長に委嘱された出題者・採点者が担当する。試験の実施については実施責任者である学長の下で入試部が総括する。合否判定については、学長、副学長、学部長、教務部長、学生部長、入試委員長及び入試副委員長、入試部長で構成する「合否判定会議」での審議後、教授会の議を経て学長が決定する。

外国人留学生の受入れについて、「外国人留学生入試」の出願資格を以下のとおりとする。

日本語による授業が理解できる能力を有する外国籍の者で、次の各項のいずれかに該当し、かつ入学後は原則として「出入国管理及び難民認定法」による「留学」の在留資格を取得または更新できる者

- ①外国において12年の学校教育の課程を修了した者及び2021年3月までに修了見込みの者
- ②外国において高等学校に対応する学校の課程で文部科学大臣が別に指定するものを修了した者
- ③上記①に準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- ④上記①に準ずる能力を持つと本学が認めた者

【注意】 志願者が外国人留学生であっても、次の場合は本入試には出願することができない。

- ・日本国内の高等学校を卒業した者（卒業見込者を含む）

志願者には、出願時に日本語学習歴（日本語を学習した学校名及び学習期間、日本留学試験及び日本語能力試験の受験歴）を確認するほか、パスポート（写し）及び在留カード（日本国内居住者のみ）の提出を求める。また、同入試は学科試験、面接、書類審査により選考を実施し、面接では日本語・その他基礎学力や志望理由に関する試問を行う。

また合格者（入学許可者）が海外在住の場合は、本人の希望により在留資格認定の代理申請手続きを本学が行い、その際「経費支弁に関する証明書」「経費支弁能力を証明する資料」を提出させる。

外国人留学生の在籍管理について、東京出入国在留管理局宛に「中長期在留者の受入れに関する届出」を提出し、外国人留学生の受入れの開始と終了を速やかに報告（名簿添付）しているほか、毎月、文部科学省に前月の退学者・除籍者・所在不明者の定期報告を報告している（該当者がいる場合は名簿添付）。

また、外国人留学生の在留期間更新や資格外活動、住所変更等について、諸手続きの

怠りがないよう注意喚起をしており、在留期限やアルバイト先等の情報を把握・管理している。授業の出席状況や学業成績の良好でない者に対する面談と指導も行っている。

社会人の定義は次のとおり定めている。

次の各項のいずれかに該当し、その後3年以上の社会人としての経験を有する者

1. 高等学校または中等教育学校を卒業した者
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
3. 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

※社会人としての経験は、正社員またはアルバイト等として働いていた期間、社会的活動（NPO、NGO、ボランティア活動等）に参加していた期間、主婦としての期間を通算する。

9 取得可能な資格

データサイエンス学科では、中学校教諭一種免許（数学）、高等学校教諭一種免許（数学）、高等学校教諭一種免許（情報）の取得が可能な教職課程を設ける。

また、基本情報技術者試験や統計検定2級等の受験にも対応できる科目編成としている。

10 実習の具体的計画

本学では、4年次に2週間または3週間の教育実習を行っている。

教育実習は、正課で修得した専門知識や教職課程で学んだ理論を、中学校・高等学校での授業や学級指導・生徒指導への参加など、教育活動の全般にわたって経験することで理解を深め、教員として必要な知識や技能、態度を身に付けることを目的としている。

以下は、既設学部・学科の教職課程における教育実習の実績・計画であるが、新学科についても同様に実施する予定である。

令和元（2019）年度は、32名が教育実習を行った。（【別紙資料8】「2019年度 教育実習受け入れ校一覧」参照）

実習前々年度末にガイダンスを実施、実習前年度に履修申請を受け付ける。実施年度の4月初旬から事前指導を開始、その後5月下旬から実習校において教育実習が行われ、実習後には事後指導を行っている。（【別紙資料9】「2020年度 教育実習手続き要領」、【別紙資料10】「2020年度 教育実習に関する日程（予定）」参照）

教育実習校は、教育実習生に自己開拓させるが、大学が予め教育実習受入承諾を学园内及び大学近隣の高等学校から得ておき、実習生の希望と実習校の受入人数を考慮して決定する場合もある。

成績評価は、実習校での評価と大学における事前・事後指導の評価を合わせて、総合的に評価している。

【別紙資料 8】 「2019 年度教育実習受け入れ校一覧」

【別紙資料 9】 「2020 年度 教育実習手続き要領」

【別紙資料 10】 「2020 年度 教育実習に関する日程（予定）」

1 1 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

1 1 - 1 海外語学研修

本学では、複数の海外大学及び語学学校と提携し、学生に語学研修の機会を提供している。令和元（2019）年度の派遣機関は以下の 6 校で、国や地域、プログラムの特色、費用など学生の希望に応じた選択が可能となっている。学生のニーズの変化等に応じて、派遣先を増やすなどの対応を随時検討している。

- ・ Swinburne University of Technology [オーストラリア メルボルン] / 団体参加形式（5 名以上で実施）
- ・ Browns English Language School [オーストラリア ブリスベン/ゴールドコースト] / 個人参加形式（1 名から実施）
- ・ Langports English Language College [オーストラリア シドニー/ブリスベン/ゴールドコースト] / 個人参加形式（1 名から実施）
- ・ Canadian College of English Language [カナダ バンクーバー] / 個人参加型式（1 名から実施）
- ・ Newtype International Language School [フィリピン セブ] / 個人参加型式（1 名から実施）
- ・ SMEAG [フィリピン セブ] / 個人参加型式（1 名から実施）

「海外語学研修」の単位認定に必要な時間数は、事前学習 7 時間以上、現地研修 40 時間以上、事後学習 4 時間以上を満たしたうえで、合計 90 時間以上としている。

平成 30（2018）年度の実績では、単位認定申請者のほとんどの学生が現地研修 130 時間以上学習し、要件を充足している。

成績評価は、現地受入機関発行の修了書等に加え、事前・事後学習の記録や学生から提出された報告書などの成果を総合的に勘案して、本学の語学担当教員が行う。

以上の機関との連携は、国際交流センターが担当し、日常的にメールや電話で連絡調整を行うほか、現地訪問により、受入機関担当者との打合せ、施設設備の確認、周辺環境調査を実施し、受入機関として適切な運営が行われていることを確認している。

1 1 - 2 インターンシップ

本学では、独自のインターンシップ制度を持ち、令和元（2019）年度の受入機関は 124 団体である。（【別紙資料 11】「令和元（2019）年度インターンシップ受入機関」参照）この数字は、景気の動向などによって変動は見られるものの、例年ほぼ安定した運用が図られている。

情報科学部データサイエンス学科の学生についても、既設の学部同様にこの制度を利用し、企業等での実習を行うことができる。実習期間は2週間（実質10日）、時期は夏期がそれぞれ一般的である。

【別紙資料11】「令和元（2019）年度インターンシップ受入機関」

1.2 管理運営

本学の全学部に通ずる重要事項を協議、審議する機関として「大学・大学院運営会議」を設けており、構成員は学長、副学長、研究科長、学部長、教務部長、学生部長、図書館長、情報センター長、学長室長、入試部長、就職部長、国際交流センター長、教育センター長、研究支援・社会連携センター長、研究支援・社会連携センター副センター長からなる。月1回定例会開会し、必要に応じ臨時の会議を開催することがある。

具体的な審議事項としては、

- イ 学生の入学ならびに卒業及び課程修了にかかる基本方針に関すること
- ロ 年間行事予定に関すること
- ハ 教育課程の編成にかかる基本方針に関すること
- ニ 教育研究上の重要な事項及び教育研究の振興に関すること
- ホ アセスメント・ポリシーの策定に関すること
- ヘ 規定の制定・改廃に関すること
- ト 教員の留学に関すること
- チ 名誉教授の称号授与等に関すること
- リ 理事会に付議する案件(教員の任免を除く)に関すること
- ヌ 学長が諮問した事項に関すること
- ル その他管理運営上の重要な事項に関すること

としている。（【別紙資料12】「大阪工業大学大学・大学院運営会議規定」参照）

また各学部に「教授会」を設け、学則に関すること、諸規定の制定・改廃に関すること、教務に関すること、学生の入学、卒業及び転学部・転科に関すること、学長または学部長が諮問した事項に関することを審議する機関としている。月1回程度定例会開会し、必要に応じ臨時の会議を開催することがある。

教学に関する事項に与る機関として「教務委員会」を設置し、年間3回程度開会している。教育課程及び教育内容、年間授業計画、授業時間割の編成調整、履修制度、成績評価、卒業資格、諸免許・資格、学修指導、教育技術の改善などを審議している。同委員会は教務部長を委員長とし、各学部の教務委員会委員等により構成されており、同委員会の決定事項は各委員を通して各学部の教務委員会、教授会等に報告されている。

【別紙資料12】「大阪工業大学大学・大学院運営会議規定」

1 3 自己点検・評価

1 3 - 1 実施方法・実施体制

本学の使命・目的を実現するために、教育研究や管理運営等の状況について、自ら点検・評価する「大阪工業大学自己評価・IR委員会」を組織している。

同委員会は学長が委員長となり、大学の教育研究及び管理運営上の重要な事項の審議機関である大学・大学院運営会議の構成員に IR センターのセンター長と副センター長を加えた委員会構成とし、さらに委員以外の事務系管理職を幹事とすることで、実効力を具備した組織としている。

任務として、自己点検・評価のほか、外部評価、認証評価機関による第三者評価、内部質保証、点検・評価に係る情報の収集・分析及び提供があり、包括的に点検・評価を担っている。

また、同委員会の下部組織として、学部ごとにも同名の委員会を設置し、全学の委員会で審議・報告された内容について、各学部の自己評価・IR委員会でも審議・報告することとし、学長のリーダーシップのもと、全学で恒常的な自己点検・評価に取り組んでいる。

1 3 - 2 評価項目

(1) 認証評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）の評価基準項目

以下に記載の公益財団法人日本高等教育評価機構の評価基準項目について、自己点検・評価を実施している。

- ①使命・目的等（領域：使命・目的、教育目的）、②学生（領域：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応）、③教育課程（領域：卒業認定、教育課程、学修成果）、④教員・職員（領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援）、⑤経営・管理と財務（領域：経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計）、⑥内部質保証（領域：組織体制、自己点検・評価、PDCA サイクル）

(2) 中期目標・計画

建学の精神と教育の理念に基づき、長期ビジョン達成に向けた中期目標・計画を策定し、その進捗状況を年度ごとに確認している。学校法人常翔学園として共通の「基本 10 項目」である、①学生募集、②教育・研究、③学生支援、④進路・就職、⑤人事、⑥財務、⑦学校間連携、⑧ブランディング、⑨社会貢献、⑩グローバル化の各項目と、設置学校の個性・特色として重視している領域に関して「差別化項目」を設定している。

1 3 - 3 結果の活用・公表

自己点検・評価の結果は、自己評価・IR委員会を通じて学内で共有している。全教職員で大学の現状を共有し、よりよい自己点検・評価とするため、実施体制と方法、評価項目、結果の活用などについて定期的に見直し、改善方策を打ち出すとともに実行へとつなげる体制を構築しており、継続的な教育研究、大学運営の改善を図っていく。

また、自己点検・評価の結果はホームページに掲載し、本学の現状を広く学外に公表している。（掲載ページ <http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/ninsyohyouka.html#zikotenken>）

なお、本学は、平成 28（2016）年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、この結果も同様にホームページで公開している。

1 4 情報の公表

学校教育法第 113 条に基づき学校教育法施行規則第 172 条の 2 に示された事項及びその他の事項について、本学ホームページに掲載している。（【別紙資料 13】「本学 HP における公表情報及び掲載先一覧」参照）

このほか、文部科学省「大学における教育情報の活用支援と公表の促進に関する協力者会議」の提言に基づき、日本私立学校振興・共済事業団が運営する大学ポートレート（私学版）において、各種情報を提供している。

（<http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000525803000.html>）

また、法令で定められた情報の公開にとどまらず、広く社会の意見を取り入れ、大学の諸活動改善に資するため、本学ホームページを中心とした各種情報の発信を行っている。

（<http://www.oit.ac.jp>）

加えて、「大学案内」などの受験生向け冊子、設置法人の常翔学園広報誌「FLOW」や学生向け大学広報誌「おゝよど」等において、教育研究、学生生活全般にわたる幅広い情報を発信している。

【別紙資料 13】「本学 HP における公表情報及び掲載先一覧」

1 5 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、設置学部が掲げる教育研究上の目的を達成できるよう、組織的に教育内容や教育技法の改善に取り組んでいる。以下は、既設の学部・学科ですでに実践している内容で、新学科についても同様に、教育内容等の改善及び大学運営に必要な知識・技能の習得を図っていく。

1 5 - 1 FD・SD フォーラム

本学が取り組んでいる教育改革の啓発を目的として、全教職員を対象に FD・SD フォーラムを平成 13（2001）年度から実施している。授業がない日程に開催し、大宮校地と梅田校地及び枚方第 2 校地間を同時中継するなど、多くの教職員が参加できるよう運営に配慮している。近年では本学の教育改革事例として「ディプロマ・ポリシーとシラバスの作成について」、「DS システムに基づく修学指導の導入実践報告」などのテーマで開催し、学内において課題となっている事項を教職員全体で共有する機会としている。

各学部・学科内でも独自のフォーラムや報告会を実施するなど、積極的な活動を行っている。

1 5 - 2 教職員対象研修会

教育能力向上や魅力ある授業づくり及び適切な大学運営に資するために、研修会やワークショップを開催している。

(1) 「初任教員研修会」（隔年）

就任 2 年目までの教員を対象に、外部講師を招き「授業の基本」をテーマに、発声や板書などの基本の基本から授業展開上の畏など、ワークショップ形式で研修を実

施している。

(2) 「教員研修会」(隔年)

各学部・学科、各研究科・専攻から選抜した教員を対象に、研修会を実施。「理系のためのアクティブ・ラーニング」、「学生に文句を言われたい成績評価方法—特にPBL科目におけるルーブリックの有効活用法—」などをテーマに開催。

(3) 「FD・SD教職協働ワークショップ」

教員と職員の絆を深めて大学の組織力を向上させることや、各学部・学科・部署で、今後のFD・SD活動を牽引する役割を担う人材育成を目的として、毎年夏期休暇期間に、「大学の課題」をテーマにワークショップを開催している。総勢25-35人のファシリテーター及び参加者が、小グループでの討議やプロダクト作成に取り組んでいる。

(4) キャンパスミーティング

キャンパスミーティングと称する学長室主催の研修会・情報共有会を、年に数回(4~5回)、不定期に開催している。対象は、教育系・事務系職員(専任、特任、嘱託)全員で、平日の夕刻に実施。当日の資料や撮影した動画はイントラネットで公開しており、授業や業務等で出席できなかった教職員が視聴できるようにしている。最近の主なテーマは次のとおり。「次年度学長方針」、「財務状況」、「入試結果と次年度の志願動向」、「研究の現状」、「IR活動の現状と計画」、「業務上の情報セキュリティ確保」など。

(5) 教職員のための学生対応勉強会

学生対応のための勉強会を学生部主催で毎年実施。最近の主なテーマは次のとおり。「学生とのコミュニケーションに役立つ心理テスト」、「発達障害のある学生に対する授業面における具体的支援について」、「新型うつ病とは?その病態と支援の方法について」など。

(6) ハラスメント防止研修会(隔年)

人権侵害防止委員会主催のハラスメント防止研修会を開催。弁護士、関連NPO、産業カウンセラー等の外部講師から、各種のハラスメントを防止するため、大学におけるハラスメントの具体例や予防法について研修を実施。

15-3 学生による授業アンケート

平成12(2000)年度から毎年、全学部・研究科において「学生による授業アンケート」を実施している。平成23(2011)年度からは、授業アンケートシステム(C-learning)を導入し、学生の携帯電話・スマートフォンを利用した記名式のアンケートを、開講する全授業科目で実施している。質問項目は、各授業における到達目標達成度の自己評価や教員の授業方法・運営についての評価のほか、自由記述項目を設けている。授業担当教員はリアルタイムで学生の回答(集計や自由記述内容)を閲覧することができる。教員は学生にコメントをフィードバックするほか、各質問項目の評価結果を教授方法や授業運営等の改善に役立てている。

平成26(2014)年度からは、授業アンケートの集計結果及び当該授業科目の受講者数、成績分布、合格率等について学内HPで公表しているほか、「総合的に考えて、この授業を受講してよかったですか?」という設問(5段階評価)で学生が回答したポイント

平均が 3.0 未満の授業科目については、「授業の自己評価と改善方策」を当該授業担当教員から学長宛に提出させている。

1 5 - 4 FD 活動の実施体制

全学的に教育力を増進するため「大阪工業大学 FD 委員会」を設置し、「大阪工業大学教務委員会」及び各学部の委員会等と連携を図りながら FD 活動を行っている。具体的には、既述の「FD・SD フォーラム」や「学生による授業アンケート」などの FD 活動を実施している。各学部内にも、「自己評価・IR 委員会」等の FD 活動推進組織を設置して、フォーラムや検討会等の活動を実施している。さらに活発に FD 活動を推進するため、FD 委員会で各学部の FD 活動推進組織において蓄積された改善手法や内容等を総括することで、より全学的な取り組みに発展・運営できる体制としている。

1 5 - 5 学外機関との連携等

本学は、平成 20（2008）年 4 月に京都大学で設立総会を開催した「関西地区 FD 連絡協議会」の発起人校 24 校の中の一員であり、また監査役校として当該協議会に参画している。

当該協議会が設立する前段階の平成 20（2008）年 1 月に主催・開催した「授業評価ワークショップ」にも参加するなど、他大学の FD 活動に関する情報の収集等を積極的に行っており、得た情報を本学の FD 活動の開発・発展・充実に寄与するよう努めている。

また、本学は大阪府教育委員会、守口市教育委員会、堺市教育委員会、大阪市旭区、大阪市北区、枚方市などと連携協定を締結し、高大連携事業や地域貢献事業を通じて、教育研究内容の向上及び活性化を図る取り組みも行っている。

1 6 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1 6 - 1 教育課程内の取組について

既述のとおり、大阪工業大学の建学の精神は、「世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する」ことである。この精神に沿って情報科学部では、「情報技術を自在に駆使して社会の発展に貢献する『情報プロフェッショナル』の育成」を理念に掲げ、平成 8（1996）年に開設以来、多数の情報技術者を輩出してきた。

そして、今般新設するデータサイエンス学科では、データサイエンスのプロフェッショナル人材の養成を目的としている。

情報科学部のカリキュラム・ポリシーにあるとおり、学部の共通科目として、総合人間学系と総合理学系に関する教育を通して幅広い教養を身につけ、社会の多様化や高度情報化に柔軟に対応できる能力を育成する。さらに、「キャリア科目」区分を設定し、大学での学修の動機付けを促し、社会人基礎力を養う。データサイエンス学科専門科目では、情報処理技術に加えて数理統計に関連する基礎知識と問題解決能力を身につける（「4 教育課程の編成の考え方及び特色」において詳述）。

このように、データサイエンス学科の教育課程全体を通じて、新たな価値を創造できるデータサイエンスのプロフェッショナル人材として社会的・職業的自立を図るために必要

な能力を培うことを企図している。

1 6 - 2 教育課程外の取組について

本学では、就職部が教員との連携の下、学生の進路支援を行う体制を取っている。就職活動に関する学内の行事と学生の活動スケジュールは、既設の学部では3年次の5月から第1回就職ガイダンスを行い、その後、連続的に就職ガイダンス、関連する模擬試験、履歴書・エントリーシートの作成等に関する指導等を行う。（【別紙資料14】「就職行事と活動の流れ」参照）

それと並行して、教員及び就職部員が学生と進路に関する面談を複数回に亘って行い、学生が望むキャリア形成の一步を踏み出せるように随伴する体制を敷いている。具体的な実施時期については、社会情勢に応じて変更も考えられるが、情報科学部データサイエンス学科においても同様の取組により、学生の社会的・職業的自立を支援する。

【別紙資料14】「就職行事と活動の流れ」

1 6 - 3 適切な体制の整備について

大学の建学の精神及び学科の設置趣旨から当然のこととして、進学する学生を除く大多数は、大学での学びを活かせる就業先への進路を得た上、卒業することが想定されている。

上記のとおり、本学においては、教職が協働し、学生の社会的・職業的自立を図る体制を敷いている。就職部は事務系職員が部長を務めているが、学則の定めにより就職委員会を置き、就職部長及び学部等からの選出された委員等によって、学生の就職支援に関する方針等を審議している。また各学科で就職担当の教員を選出し、就職部就職課の職員、そして卒業研究の指導に当たっている教員が、緊密な協力関係をもって、一人ひとりの学生をきめ細かく対面で指導・支援している。情報科学部データサイエンス学科においても同様の体制となる。



[本学 HP (<http://www.oit.ac.jp/japanese/career/support.html>) より]

資料目次

[大阪工業大学 情報科学部 データサイエンス学科]

【別紙資料1】	「任用規定」
【別紙資料2】	「大阪工業大学教員選考基準」
【別紙資料3】	「特任教員規定」
【別紙資料4】	「2021年度教員人事基本方針」
【別紙資料5】	「大阪工業大学情報科学部教員選考委員会規定」
【別紙資料6】	「教育課程及び履修モデル」
【別紙資料7】	「データサイエンス学科時間割表」
【別紙資料8】	「2019年度教育実習受け入れ校一覧」
【別紙資料9】	「2020年度 教育実習手続き要領」
【別紙資料10】	「2020年度 教育実習に関する日程（予定）」
【別紙資料11】	「令和元（2019）年度インターンシップ受入機関」
【別紙資料12】	「大阪工業大学大学・大学院運営会議規定」
【別紙資料13】	「本学HPにおける公表情報及び掲載先一覧」
【別紙資料14】	「就職行事と活動の流れ」

任用規定

昭和 50 年 2 月 8 日

学園 401

改正 2017 年 3 月 21 日

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この規定は、学園に勤務する職員の任用に関する基準と手続を定め、もって任用の公正を図ることを目的とする。

(任用の原則)

第 2 条 任用にあたっては、採用試験、勤務の成績、職務能力もしくは技能、健康状態その他の実証または認定された事実に基づいて、公正に取り扱わなければならない。

(定義)

第 3 条 この規定において任用とは、採用、格付、昇任、降任、転任および転換をいう。

2 採用とは、つぎの各号のいずれかに該当するものをいう。

イ 職員でない者を新たに職員に任命すること

ロ 定年に達し退職した者を改めて職員に任命すること

ハ 第 7 条第 1 項各号の職員を同条第 1 項の他の号の職員に任命すること

3 格付とは、採用した専任の職員について職種別の職階または資格を決定することをいう。

4 昇任とは、専任の職員について第 8 条第 2 項に定める職種を変更しないで、現に任用している職階または資格から上位の職階または資格に進めることをいい、降任とは現に任用している職階または資格から下位の職階または資格に変更することをいう。

5 転任とは、専任の職員の職種等を変更して格付することをいう。

6 転換とは、労働契約法第 18 条ならびに同法の特例に関する法律に基づき、有期雇用の職員を期間の定めのない労働契約（以下「無期労働契約」という）の職員として任用することをいう。

(任用の計画)

第 4 条 学校長は、あらかじめ教育系職員の任用計画を立案し、理事長の承認を得なければならない。

2 事務系職員の任用計画は、総務部長がこれを立案し、理事長の承認を得なければならない。

3 臨時要員の任用計画は、学園本部においては総務部長が、各設置学校においては学長室長（中学校および高等学校においては事務長）が、原則として承認された臨時要員人件費予算の範囲内で計画しなければならない。

(任用の決定)

第 5 条 職員の任用は、理事会の定めるところにより理事長が決定する。

(任用の発令)

第 6 条 理事長は、任用を決定したとき、告示もしくは本人への辞令交付を行う。

2 前項にかかわらず、非常勤講師に委嘱する授業担当科目および時間数は学校長が通知する。

第 2 章 職員の区分

(職員の区分)

第7条 職員の区分は、つぎのとおりとする。

- イ 専任の職員
- ロ 特任の職員
- ハ 嘱託の職員
- ニ 客員の職員
- ホ 非常勤の職員
- ヘ 臨時要員

2 前項ロ号からヘ号の職員のうち、無期労働契約に転換した者については、無期雇用の職員として任用する。

3 学園以外に本務を有する者は、専任の職員に採用することができない。

(専任の職員)

第8条 専任の職員は、兼職を許可されまたは特に認められたもののほかは、その勤務時間および職務能力を教育・研究および学校運営の目的達成のために尽くさなければならない。

2 専任の職員は、教育系職員および事務系職員に分け、それぞれの職種はつぎのとおりとする。

イ 教育系職員の職種

教育職員、研究職員、技術職員

ロ 事務系職員の職種

事務職員、医療職員、技能職員（運転手、作業員）、用務員（校員）

3 教育系職員には、つぎのとおり職階または資格を設け、任用の際に格付ける。

イ 教育職員の職階

大学院教授、大学院准教授、大学院講師

大学教授、大学准教授、大学講師

高等学校教諭、中学校教諭

ロ 研究職員の資格 特別研究員、研究員1級、研究員2級

ハ 技術職員の資格 技師1級、技師2級、技師3級

4 事務系職員のうち事務職員および医療職員を、つぎのとおり区分し、資格を設定して任用の際に格付ける。

イ 事務職員

区分		資格
管理職		参事、副参事
一般職	総合職系列	主幹、主事、主事補
	専任職系列	専任職1級、専任職2級 専任職3級、専任職4級
	エントリー系列	書記

ロ 医療職員

看護師1級、看護師2級、看護師3級

5 前項の系列および任用の基準等については、事務職員任用基準および医療職員任用基準に定める。

(特任の職員)

第9条 特任の職員は、専任の教育系職員に代わってそれに準ずる職務遂行が期待できるとき、

雇用期間を付して教育職員または技術職員として採用する。

2 特任の職員には、つぎのとおり職階を設け、任用の際に格付ける。

イ 教育職員の職階

大学院特任教授、大学院特任准教授、大学院特任講師、大学院特任助教、大学院特任助手
大学特任教授、大学特任准教授、大学特任講師、大学特任助教、大学特任助手、高等学校
特任教諭、中学校特任教諭

ロ 技術職員の職階

特任技師

3 特任の職員の採用の基準、手続等については、この規定によるほか、特任教員規定および特任教諭規定に定める。

(嘱託の職員)

第 10 条 嘱託の職員は、専任の事務系職員に代わってそれに準じる職務遂行が期待できるとき、事務系職員として雇用期間を付して採用する。

2 嘱託の事務系職員の職種は、つぎのとおりとする。

嘱託職員（事務職員、看護師、大阪工業大学ピアサポーター、高等学校実習助手、作業員、運転手、校員、校員補）

3 前 2 項のほか、校医、弁護士、弁理士等特定の専門領域について業務を委嘱する者を業務嘱託として採用することができる。

4 嘱託の職員の採用の基準、手続等については、この規定によるほか、嘱託職員就業規則および広島国際大学嘱託職員就業規則に定める。

(客員の職員)

第 11 条 客員の職員は、教育の充実または学術研究・共同研究の推進あるいは大学運営に対して貢献が期待できるとき、雇用期間を付して教育職員または技術職員として採用する。

2 客員の職員には、つぎのとおり職階を設け、任用の際に格付ける。

イ 教育職員の職階

大学院客員教授、大学院客員准教授、大学院客員講師
大学客員教授、大学客員准教授、大学客員講師

ロ 技術職員の職階

客員技師

3 客員の職員の採用の基準、手続等については、この規定によるほか、客員教員規定に定める。
(非常勤の職員)

第 12 条 非常勤の職員は、教育職員とし、学園が設置する各学校の非常勤講師として採用する。

2 非常勤講師は、つぎの各号のいずれかに該当するときに採用する。

イ 授業計画上、他の教育職員をもって充てることが困難なとき

ロ 専攻分野等から、専任の職員が得がたいとき

ハ 専任の教員に欠員が生じて授業計画に支障を来すとき

3 非常勤講師の採用の基準、手続等については、非常勤講師任用規定または広島国際大学非常勤講師任用規定に定める。

4 第 1 項の非常勤講師のほか、必要に応じて、ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、ポスト・ドクター (PD)、テクニカル・サポーター (TS) およびスチュー

デント・アシスタント（SA）を採用することができる。

- 5 前項の職員の採用の基準、手続等については、それぞれ別に定める要項によるものとする。
（臨時要員）

第 13 条 臨時要員は、つぎの各号のいずれかに該当するときに日数を限って採用するものとする。

- イ 緊急かつ臨時の業務を処理する必要があるとき
- ロ 業務の繁忙期にあたり、専任および嘱託の職員のみで処理することが困難であるとき
- ハ 特殊な業務で、専任および嘱託の職員では処理できないとき
- ニ 臨時に欠員が生じ、または業務を担当する者が欠けたとき

- 2 臨時要員の採用手続等については、臨時要員に関する内規および広島国際大学臨時要員に関する内規に定める。

（無期雇用の職員）

第 13 条の 2 無期雇用の職員の職種、職階、採用の基準および手続等は、雇用期間の定めを除いて転換前と同じとする。

（雇用期間）

第 14 条 特任の職員の雇用期間については、特任教員規定および特任教諭規定に定める。

- 2 嘱託の職員、客員の職員、非常勤の職員および臨時要員の雇用期間は 1 年以内とする。ただし、年度の途中で採用された者については、当該年度末までとし、年度を超えることはできない。
- 3 前項の者を翌年度更新の手続を行って再度採用することを妨げない。
- 4 学園の学生を嘱託の職員として採用する場合は、年度を超えた雇用期間を設けることができることとし、これについては、嘱託職員就業規則、広島国際大学嘱託職員就業規則および高等学校実習助手内規に定める。

第 3 章 採用

（採用の基準）

第 15 条 職員として採用される者は、職種および職階または資格ごとに求められる基準を充足するとともに、私立の教育事業である学園にふさわしい識見を備えている者でなければならない。

- 2 職種および職階または資格の基準は、各大学・大学院の教員選考基準（規定）、任用基準等に定める。

（募集の方法）

第 16 条 職員の募集は、原則として公募とし、各学校のホームページ、一般新聞、学会誌等に掲載するなど適切な方法により学内外に告示するものとする。

- 2 前項にかかわらず、つぎの各号のいずれかに該当するときは、公募によらないことがある。

- イ 大学・大学院の設置および学部・学科・研究科・専攻・課程の新增設に関する教員組織を構成するとき
- ロ 専攻分野、特定の業務等の関係で人材が極めて得にくいとき
- ハ その他やむを得ないと理事長が認めたとき

（選考の方法）

第 17 条 選考は、資格審査を行ったうえで総合的に行う。

- 2 選考に必要な書類は、つぎのとおりとする。

- イ 履歴書

- ロ 教育・研究業績書（教育系職員に限る）
 - ハ 教育に対する抱負レポート（教育系職員に限る）
 - ニ 職務経歴書
 - ホ 健康診断書（適性または職務遂行能力を判断するうえで合理的かつ客観的にその必要がみとめられる場合のみ）
 - へ 最終学校の卒業（見込）証明書および学業成績証明書
 - ト 教員免許状等職務に必要な資格取得を証明するもの
- 3 前項にかかわらず、採用職種等によっては書類を追加または省略することがある。
（資格審査）

第18条 資格審査とは、本人の経歴等から判断される能力が、当該職種、職階または資格に適合するかを審査することをいう。

- 2 教育系職員の採用候補者の資格審査は、所定の審査機関等の意見を聴き、学校長が行う。
- 3 事務系職員採用候補者の資格審査は、所定の審査機関等の意見を聴き、理事長が行う。
- 4 資格審査は、つぎの各号の一以上を併せて行うものとする。

- イ 書類審査
- ロ 面接試験
- ハ 筆記試験
- ニ 適性検査
- ホ 実技試験、模擬授業

第19条 削除
（採用の決定）

第20条 職員の採用は、資格審査を経た候補者のうちから、つぎの各号に基づいて総合的に決定する。

- イ この規定その他所定の手続に従って選考されたか
- ロ 法令および学園規定に定める基準に合致しているか
- ハ 本人の能力、適性、健康状態等が学園の勤務に耐えられるか
- ニ 人格・識見等が教育事業の職員にふさわしいか
- ホ 学園の目的、建学の精神、運営方針から見て適任か

第4章 昇任・降任・転任・転換

（昇任）

第21条 専任の職員で、現に任用している職階または資格より上位の職階または資格に求められる基準に達した者については、これを昇任させることができる。

- 2 資格および職階の基準は、各大学・大学院の教員選考基準（規定）、任用基準等に定める。
（昇任の選考）

第22条 選考は、昇任候補者について資格審査を行ったうえ、総合的に行う。

- 2 教育系職員の昇任候補者の資格審査は、所定の審査機関等の意見を聴き、学校長が行う。
- 3 事務系職員の昇任候補者の資格審査は、所定の審査機関等の意見を聴き、理事長が行う。
- 4 資格審査は、つぎの各号の一以上を併せて行うものとする。

- イ 教育・研究・大学運営に係る業績評価（教育系職員）
- ロ 人事考課（事務系職員）

- ハ 筆記試験
- ニ 面接試験
- ホ 実技試験
- ヘ その他職務遂行能力を客観的に判断できる資料

5 必要により健康診断を行うことがある。

(昇任の決定)

第23条 昇任は、資格審査を経た候補者のうちから第20条の定めを準用して総合的に決定する。

(特別昇任)

第24条 専任の職員が生命を賭して職務を遂行し、そのために危篤となり、または心身障害者となるに至ったとき、理事長は学校長等の申請に基づき前3条によらないで昇任させることがある。

2 現に任用されている職階または資格から上位の職階または資格に任用されるに必要な経過年数は不足するが、当該職階または資格に要求される基準を十分に充足し、かつ勤務成績が優秀な者について、理事長は、学校長等の申請に基づき特別に昇任させることがある。

(降任)

第25条 専任の職員が現に任用されている職階または資格の基準を真に充足していないと判断されるとき、理事長は、学校長等の申請に基づき降任させることがある。

(転任)

第26条 業務の都合により、理事長は、学校長等の意見を聴いて職員の職種変更を命じることがある。

(転換)

第27条 有期雇用の職員の労働契約が更新され、労働契約法第18条ならびに同法の特例に関する法律に定める通算年数を超えたとき、当該職員から申込みがあった場合は、無期労働契約に転換するものとする。

第5章 雑則

(規定の改廃)

第28条 この規定の改廃は、理事会の議を経て理事長が行う。

付 則

- 1 この規定は、昭和50年4月1日から施行する。
- 2 この改正規定は、2017年4月1日から施行する。
- 3 改正前の付則第3項の適用については、なお従前の例による。

大阪工業大学教員選考基準

昭和 38 年 7 月 20 日

学園 412

改正 2018 年 2 月 21 日

(趣旨)

第 1 条 この基準は、任用規定第 8 条に定める職員のうち、大阪工業大学の教育職員の職階の格付基準について定める。

(教授)

第 2 条 教授は、つぎの各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有し、教育上の識見を有する者とする。

イ 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む）を有し、かつ優れた教育・研究業績がある者

ロ 大学において教授の経歴または准教授（助教授を含む）として 10 年以上の経歴があり、かつ相当の教育・研究上の業績がある者

ハ 前各号に準ずると認められる者

2 前項に定める者のほか、新規採用に限り、つぎの各号のいずれかに該当し、かつ教育上の識見を有する者からも選考することができる。

イ 専攻分野について、特に優れた知識および経験を有し、教育・研究上の能力があると認められる者

ロ 芸術・体育等については、特殊の技能に秀で、教育の経歴がある者

(准教授)

第 3 条 准教授は、つぎの各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する者とする。

イ 前条の各号のいずれかに該当する者

ロ 大学において准教授（助教授を含む）の経歴または講師として 5 年以上の経歴があり、かつ相当の教育・研究上の業績がある者

ハ 前号に準ずると認められる者

2 前項に定める者のほか、新規採用に限り、つぎの各号のいずれかに該当する者からも選考することができる。

イ 専攻分野について、優れた知識および経験を有し、教育・研究上の能力があると認められる者

ロ 芸術・体育等については、特殊の技能を持ち、教育上の能力があると認められる者

(講師)

第 4 条 講師は、つぎの各号のいずれかに該当する者とする。

イ 第 2 条または第 3 条に規定する教授または准教授となることのできる者

ロ 大学において、講師の経歴または助教として 3 年以上の経歴があり、相当の教育・研究上の業績または能力があると認められる者

ハ 前号に準ずると認められる者

(助教)

第5条 助教は、つぎの各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する者とする。

イ 修士の学位または専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む）を有する者

ロ 前号に準ずる能力があると認められる者

(助手)

第6条 助手は、つぎの各号のいずれかに該当する者とする。

イ 第5条のイ号に該当する者

ロ 前号に準ずる能力があると認められる者

ハ 学士の学位を有する者

(基準の改廃)

第7条 この基準の改廃は、学長ならびに大学・大学院会議および教員選考委員会の意見を聴き、理事長が行う。

付 則

1 この基準は、制定の日から施行する。

2 昭和30年5月2日制定の大阪工業大学第I工学部教員選考基準は廃止する。

3 この改正基準は、2018年4月1日から施行する。

特任教員規定

○特任教員規定

2009年3月31日

学園 424

改正 2018年10月1日

(趣旨)

第1条 この規定は、任用規定第9条に定める特任の職員（以下「特任教員」という）の資格、雇用期間、給与等について定める。

2 前項にかかわらず、高等学校特任教諭および中学校特任教諭については、特任教諭規定に定める。

(定義)

第2条 特任教員は、雇用期間を定めて任用する者であって、本学園が設置する大学において、専任教員と同様に専ら教育・研究・大学運営に従事する者、または特に任じられた職務を行う者をいう。

(資格)

第3条 特任の教育職員は各大学・大学院の教員選考基準（規定）に定める大学教員の資格を、特任の技術職員は技術職員任用基準に定める資格を有し、かつ、心身共に健全な者でなければならない。

2 当該年度の4月1日において満64歳以上となる者を特任教員に採用することはできない。ただし、学園を定年退職した者を引き続き雇用するとき、および学長の申請に基づき理事長が特に認めたときは、この限りでない。

3 前項ただし書きの場合であっても、当該年度の4月1日において満70歳以上となる者を採用することはできない。

(雇用期間)

第4条 特任教員の雇用期間は、5年とする。ただし、年度の途中で採用する場合は、採用初年度を含めて5年度を超えて雇用することはできない。

2 教育遂行上の必要性があり、学長の申請に基づき理事長が認めた場合は、5年以内で別途雇用期間を設定する。

3 前2項にかかわらず、雇用期間は、労働基準法第14条に定める1回の労働契約期間の上限を超えることはできない。

4 定年後の再雇用に関する規定に基づき、学園を定年退職した者を引き続き特任教員として雇用する場合の雇用期間は、1年とする。

5 各設置大学の教育研究上特に必要と認められる場合は、通算10年（特任技師は5年）を限度に2回まで雇用契約（以下「契約」という）を更新することができる。

6 前項の更新は、つぎの基準により判断する。

- イ 勤務成績および勤務態度
- ロ 勤務に耐えうる心身の状態
- ハ 職務を遂行する能力
- ニ 教育研究上の業績

- ホ 大学運営上の貢献度
- ヘ 担当科目のカリキュラム編成上の必要性
- ト 従事している職務の量的・人的必要性
- チ 学園の経営状況

7 第 5 項にかかわらず、つぎの各号のすべてに該当し、かつ理事長が特に認めた場合は、10 年（特任技師は 5 年）および 2 回を超えて契約を更新することがある。

- イ 過去 10 年（特任技師は 5 年）の勤務成績が極めて優秀であること
- ロ 教育研究上特に必要であり、かつ余人をもって替えがたいと認められること
- ハ 心身ともに健康であること

（雇用期間の定めのない特任教員への転換）

第 4 条の 2 前条に定める雇用期間が通算して 10 年（特任技師は 5 年）を超えた場合、現に契約している雇用期間が満了する日までに、当該満了する日の翌日を始期とする期間の定めのない契約の締結を申し出ることができる。

- 2 前項にかかわらず、契約と契約の間に労働契約法第 18 条第 2 項に定める空白期間が同項の定める期間以上にあるとき、空白期間以前の契約は、通算の雇用期間に算入しない。
- 3 第 1 項の申出は、所定の様式によるものとし、現に契約している雇用期間が満了する 3 カ月前までに理事長に提出しなければならない。
- 4 所定の要件を備えた前項の申出があったとき、当該特任教員を雇用期間の定めのない特任教員（以下「無期雇用特任教員」という）として採用する。

（無期雇用特任教員の労働条件）

第 4 条の 3 無期雇用特任教員の労働条件は、雇用期間の定めを除いて従前のおりとする。

- 2 前項にかかわらず、無期雇用特任教員が担当する授業科目、担当時間数および担当曜日時限（以下「授業科目」という）については、前年度と同じ授業科目等が保証されるものではなく、当該年度のカリキュラム編成や学生数等に基づき、毎年度学長が決定する。
- 3 無期雇用特任教員として採用するとき、授業科目等以外の労働条件は、労働契約法第 7 条の定めるところによる。
- 4 期間の定めのない契約期間中の労働条件の変更は、労働契約法第 10 条の定めるところによる。

（無期雇用特任教員の解雇）

第 4 条の 4 無期雇用特任教員が、第 4 条の 6 第 2 項各号のいずれかに該当する場合は、理事長は、30 日前に予告するか 30 日分の平均賃金を支給して解雇することができる。

（無期雇用特任教員の定年等）

第 4 条の 5 無期雇用特任教員の定年年齢は満 64 歳とし、定年年齢に達した年度末に退職するものとする。

- 2 前項にかかわらず、無期雇用特任教員に採用された年度の 4 月 1 日時点で満 64 歳以上となる者の定年年齢は満 70 歳とし、定年年齢に達した年度末に退職するものとする。
- 3 第 1 項により定年退職となった無期雇用特任教員の定年後の再雇用については、学校法人常翔学園就業規則第 12 条第 2 項（広島国際大学に採用された者にあつては、広島国際大学就業規則第 12 条第 2 項）を準用する。

（雇用契約の解約）

第 4 条の 6 特任教員が、雇用期間の満了前に退職しようとする場合は、病気等やむを得ない事情があるときを除き、原則として 2 カ月前までに書面により申し出なければならない。

2 特任教員が、つぎの各号のいずれかに該当する場合は、雇用期間中であっても雇用契約を解約することができる。

イ 採用時に提出した書類の記載に偽りがあるとき

ロ 心身の故障により、職務に耐え得ないと認められるとき

ハ 勤務成績が悪く、教員としての適格性を欠くと認められたとき

ニ 学校法人常翔学園就業規則に定める懲戒の理由に該当する行為があったとき

ホ 学園の経営上やむを得ない理由があるとき

(就業規則等規定の適用・準用)

第5条 特任教員には、学校法人常翔学園就業規則のうち、第5条、第11条から第13条、第33条および第34条(広島国際大学に採用された者にあつては、広島国際大学就業規則のうち、第5条、第11条から第13条、第35条および第36条)を除き、これを準用する。

2 前項にかかわらず、学校法人常翔学園就業規則第16条から第27条および第31条(広島国際大学就業規則にあつては、第16条から第29条および第33条)までに定める勤務については、任じられる職務に応じて個別に設定し労働契約において定める。

3 特任教員には、特に定めのあるものを除いて、学園の規定を適用または準用する。

(支給する給与)

第6条 特任教員には、本俸(ライフプラン拠出金を含む。以下同じ)、役職手当、通勤手当および学内出講料を支給する。

(本俸)

第7条 本俸は年俸(ライフプラン拠出金を含む。以下同じ)とし、別表第1特任教員年俸表および別表第2または別表第3の年俸適用基準により支給する。ただし、学校長の申請にもとづき理事長が特に認めたときは、別途年俸額を定めることができる。

2 年俸のうち、年間330,000円(月額27,500円)をライフプラン拠出金とする。

3 特任教員はライフプラン拠出金を学園が指定する確定拠出年金の掛金として拠出することができる。

4 その他のライフプラン拠出金に関することは、ライフプラン拠出金規定に定める。

(役職手当)

第8条 役職手当は、学園の役職を命じられた者に、役職手当支給規定(広島国際大学に勤務する者については、広島国際大学役職手当支給規定)により支給する。

(通勤手当)

第9条 通勤手当は、学園に勤務するために交通機関等を利用し経費を要する者に、通勤手当支給規定(広島国際大学に勤務する者については、広島国際大学通勤手当支給規定)により支給する。

(学内出講料)

第10条 特任の教育職員には、別表第4学内出講料支給基準に基づき学内出講料を支給する。

(授業担当責任時間)

第11条 特任教員のうち別表第1特任教員年俸表1号俸適用者(技術職員を除く)には、専任教員の授業担当時間に関する規定を準用して授業担当責任時間を設定する。

2 前項にかかわらず、学校長は、教育研究の遂行上これを準用せず、別途、職務を命じることができる。

(規定の改廃)

第12条 この規定の改廃は、各学校長の意見を聴き、理事長が行う。

付 則

- 1 この規定は、2010年4月1日から施行する。
- 2 昭和40年1月16日制定の特任教授規定および昭和40年3月31日制定の特任教授給与内規、1997年3月25日制定の広島国際大学特任教授規定および1997年3月25日制定の広島国際大学特任教授給与内規は、廃止する。
- 3 この改正規定は、2018年10月1日から施行する。
- 4 2013年3月31日以前に締結または更新した契約については、当該雇用期間を第4条の2第1項に定める雇用期間の通算に含まない。

別表第1

特任教員年俸表

職階		1号俸	2号俸	3号俸
教育職員	特任教授	9,000,000円	5,500,000円	3,000,000円
	特任准教授	7,000,000円	4,500,000円	2,500,000円
	特任講師	6,000,000円	3,500,000円	2,500,000円
	特任助教	5,500,000円	3,500,000円	2,500,000円
	特任助手	4,000,000円	3,500,000円	2,500,000円
技術職員	特任技師	5,000,000円	3,500,000円	2,500,000円

備考 ライフプラン拠出金年間330,000円（月額27,500円）を含む。

別表第2

特任の教育職員の年俸適用基準

号俸	適用基準
1号俸	専任と同様の職務貢献が期待できる者
2号俸	専任の3分の2以上の職務貢献が期待できる者
3号俸	専任の3分の1以上の職務貢献が期待できる者

注：大学院在学中の者を特任助手に採用する場合の年俸は3号俸を適用する。

別表第3

特任の技術職員の年俸適用基準

職員	適用基準
技術職員	技術職員任用基準に定める技師1級相当者を1号俸、技師2級相当者を2号俸、技師3級相当者を3号俸とする。

別表第4

学内出講料支給基準

対象者	支給基準
1号俸適用者	授業を担当すべき時間については、専任教員の授業担当時間に関する規定を準用し、学内出講料支給規定（広島国際大学に勤務する者については、広島国際大学学内出講料支給規定）により学内出講料を支給する。
2号俸3号俸適用者	週当たりの授業時間数が6時間を超える者に対して、学内出講料支給規定（広島国際大学に勤務する者については、広島国際大学学内出講料支給規定）を準用して学内出講料を支給する。

2019年12月5日

2021年度 大阪工業大学教員人事について

学長 益山新樹

1. 教員組織に関する基本方針

新規採用計画については安易に退職補充という考え方はとらず、中長期的な大学運営方針および所定の教員人件費依存率などにに基づき考えていくこととする。

- (1) 学部・学科の教育目標に照らして、中長期的な視点から教育研究分野別に専任比率を考える。
- (2) 学生定員確保の状況を勘案し、専任比率の見直しを考える。
- (3) 学部・学科の垣根を越えた全学的な見地から、授業担当の在り方考える。
- (4) 上記にかかわらず、新学部等の設置構想および教育の質の維持・向上のために特別な事情がある場合は、学長と学部長等が協議する。
- (5) 特任教員の制度を積極的に活用し、専任の退職補充をする際は、特任教員による補充も検討する。
- (6) 客員教員および非常勤講師等の採用についても、適正な教員組織のあり方の観点から検討し、継続採用、増員等には慎重に対処する。
- (7) 若手教員（40歳以下）の採用について、中長期的な視点から、組織活性化の促進を図るため、教員数に占める若手教員数の割合を高める。
- (8) 女性教員の採用について、女性教員の活躍の促進を図るため、教員数に占める女性教員数の割合を高める。

2. 期待する教員像

大学にとって、教員人事は最重要課題である。将来にわたって本学が、社会的な使命を全うし、世の中の評価を得続けるためには、優れた教員組織を維持することが不可欠である。そのために専任等中核的教員については、「将来自分を超えていく優れた人材」という視点を各自が有することを求めることとする。

本学が求める教員は、つぎのような人材である。

- (1) 本学教員選考基準に達している人
- (2) 本学の「教育の理念と方針」に沿って教育ができる人
- (3) 教育・研究および学部・学科運営に優れた人
- (4) 人格・見識が教員としてふさわしく、協調性に富む人
- (5) 健康で、学生に愛情を持って接する人

3. 専任等採用候補者の選考

- (1) 当該学部・学科等の教員組織の年齢構成を勘案し、偏りがあれば、是正を図ること。また、多様な経歴・経験を持つ者の採用に配慮すること。
- (2) 日本全国あるいは海外からの応募も含め、最適任の候補者を選考する。特に、

専門学科の教授については大学院の◎、准教授については◎または合の資格があり、かつ、専門分野に関して優れた教育研究業績を有するとともに、当該分野の学界あるいは産業界において高い評価を得ている人を選考する。

なお、知的財産学部および知的財産専門職大学院の教授については、当該分野の特性・専門性を考慮して、知的財産の管理実務等に関して優れた経験と業績を有するとともに、産業界において高い評価を得ている者を選考することができることとする。

(3) 採用は公募を原則とし、科学技術振興機構・研究者人材データベース（JREC-IN）、学会誌、本学ホームページ等を活用して広く適任者を募る。

(4) 教員人件費依存率のほか教育効果などを考慮し、新規採用時点では特任としての任用を基本とする。

なお、採用後の教育・研究業績評価等により、専任への任用替えの判断を行うこととする。

4. 昇任および専任への任用替え候補者の選考

(1) 年齢にかかわらず博士の学位を有し、教育、研究、大学運営および社会貢献等に優れた業績の人を優先する。業績については現職就任後のものを特に重視し、前記3の(2)に該当する人を選定することが望ましいと考える。

(2) 博士の学位の取得または研究論文の発表が困難な専門分野については、業績が博士の学位に相当するか慎重に検討する。

(3) 教育や学部・学科運営に対する姿勢および能力、実績等については、可能な限り資料、データに基づいて多面的に考慮する。

(4) 教員評価の結果を参考にする。

以上

大阪工業大学情報科学部教員選考委員会規定

1996年2月27日

学園 219

改正 2019年3月19日

(趣旨)

第1条 この規定は、大阪工業大学学則第10条第1項および組織規定第43条第1項に定める大阪工業大学情報科学部教員選考委員会（以下「委員会」という）の構成、審議事項、運営等必要な事項を定める。

(構成)

第2条 委員会は、つぎの委員をもって構成する。

- イ 学長
- ロ 副学長
- ハ 情報科学部長
- ニ 情報科学部各学科長
- ホ 学長室長
- ヘ 情報科学部の教授の中から学長が指名した者 4名以内

(委員の任期)

第3条 前条イ号からホ号の委員の任期は、その在任期間中とする。

2 前条ヘ号の委員の任期は2年とし、重任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第4条 委員会は、情報科学部の教育職員に関するつぎの事項を審議する。

- イ 採用および昇任における資格審査に関すること
 - ロ 研修に関すること
 - ハ その他学長が諮問した教育職員選考に関すること
- 2 資格審査にあたっては、別に定める大阪工業大学教員選考基準、特任教員規定および客員教員規定の定めるところによる。

(委員長・副委員長およびその職務)

第5条 委員会に、委員長および副委員長各1名を置く。

- 2 委員長は、学長をもって充て、副委員長は、委員の中から学長が任命する。
- 3 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときもしくは欠けたときまたは委員長から命ぜられたとき、委員長の職務を行う。

(小委員会)

第6条 委員長は、必要に応じて、小委員会を設けることができる。

- 2 小委員会の委員長および委員は、委員の中から委員長が指名する。ただし、必要に応じて、委員以外の者を加えることができる。
- 3 小委員会では、委員会から付託された事項について審議する。

(定足数および表決)

第7条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(議事録)

第8条 議事録の作成および保管は、学長室庶務課長が行う。

(委員会の庶務)

第9条 委員会の庶務は、学長室庶務課で取り扱う。

(規定の改廃)

第10条 この規定の改廃は、学長および大学・大学院運営会議の意見を聴き、理事長が行う。

付 則

1 この規定は、1996年4月1日から施行する。

2 この改正規定は、2019年4月1日から施行する。

教育課程及び履修モデル

【資料6】

I データ分析モデル

官公庁・地方自治体などにおいて、公的データの作成、データに基づく政策決定ができるデータサイエンティスト

【教育課程】

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次			
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎		2				
		社会学基礎		2				
		情報社会論		2				
		倫理学基礎		2		○		
		応用倫理学		2			○	
		日本の歴史		2				
		人類の歴史		2				
		文学基礎		2				
		観る文学		2				
		言語学基礎		2		○		
		日本国憲法		2				
		法学基礎		2			○	
		情報法学		2				○
		経済学基礎		2				
		現代経済論		2			○	
		心理学基礎		2			○	
		人間発達と人権		2				
	外国語	英語表現 (basic1) a		1		○		
		英語表現 (basic1) b		1		○		
		英語の語法		2				
		口語英語 I a		1		○		
		口語英語 I b		1		○		
		英語による情報技術Ⅱ		2				○
		英語表現 (basic2) a		1				
		英語表現 (basic2) b		1				
		口語英語Ⅱ a		1				
		口語英語Ⅱ b		1				
		英語による情報技術Ⅰ a		1			○	
		英語による情報技術Ⅰ b		1			○	
		英語演習		1				
		海外語学研修		2				
		日本語Ⅰ		2				
	日本語Ⅱ		2					
	健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学 a		1		○		
		基礎スポーツ科学 b		1			○	
		健康科学		2				
		スポーツ科学実習		1				
	共通科目・総合理学系	科学技術史	科学史		2			
		物理	物理学基礎		2		○	
物理現象の数理				2				
力学				2		○		
電磁気学				2		○		
現代物理学入門				2				
化学		化学基礎		2				
		環境情報科学		2		○		
地学		地球科学基礎		2				
		地球環境		2		○		
生物		生命科学基礎		2				
		情報生命科学		2		○		
総合		観る自然科学		2				
キャリア科目		基礎ゼミナール		1		○		
	キャリアステップ		1					
	キャリアデザインⅠ		1			○		
	キャリアデザインⅡ		1					
	グローバルテクノロジー論		1					
	OIT概論		1					

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次			
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目	数理学	線形数学Ⅰ	2			○		
		線形数学Ⅱ		2				○
		微積分学Ⅰ	2			○		
		微積分学Ⅱ		2				○
		情報数学		2			○	
		微分方程式		2		○		
		グラフ理論		2			○	
		数理計画法		2				○
		確率・統計	2				○	
		専門基礎	コンピュータ入門	2			○	
情報通信ネットワーク			2					
プログラミング基礎			2		○			
テクニカルライティング	2				○			
情報処理基礎			2					
コンピュータリテラシー			2		○			
データサイエンス入門	2				○			
データ構造とアルゴリズム			2			○		
実験計画法			2				○	
統計解析	2					○		
多変量解析			2				○	
IoT概論			2		○			
教育心理学			2					
基幹科目	データベースシステム		2			○		
	オペレーションズ・リサーチ		2				○	
	情報技術者論	2					○	
	情報ゼミナール	2					○	
	システム工学		2					
	情報セキュリティの基礎		2				○	
	経営システム論Ⅰ	2				○		
	データマイニング		2			○		
	テキストマイニング		1			○		
	ビジュアルプログラミング論		2			○		
	ソフトウェア工学		2					
	人工知能		2				○	
	パターン認識		2			○		
	機械学習	2				○		
発想法と問題解決		1			○			
応用科目	モデリングとシミュレーション		2				○	
	経営システム論Ⅱ		2				○	
	情報科学実践演習(国際PBL)		1					
	マーケティング論		2					
	数理ファイナンス		2				○	
	ロジスティクス		2					
	企業会計論		2					
	教育工学		2					
	教育方法論		2					
	情報科教育法a		2					
	工業経営論		2			○		
	投資意思決定論		2				○	
	経営戦略論		2					
	演習科目	C演習Ⅰ	3			○		
C演習Ⅱ			3					
J a v a 演習			3			○		
データサイエンス実践演習Ⅰ		2				○		
データサイエンス実践演習Ⅱ		2					○	
データサイエンス実践演習Ⅲ			2				○	
価値創造演習			2				○	
(卒業研究)		0					○	
合計					43	43	38	0
卒業単位数					124			
卒業要件及び履修方法								
<p>本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位を含む)、キャリア科目2単位および専門科目86単位(必修科目29単位、選択科目<選択必修科目12単位を含む>57単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。</p> <p>[履修科目の登録の上限*:44単位(年間)]</p> <p>※「海外語学研修」、「日本語Ⅰ」および「日本語Ⅱ」、「基礎ゼミナール」、「グローバルテクノロジー論」、「OIT概論」、「情報科学実践演習(国際PBL)」ならびに教科および教職に関する科目(卒業に必要な単位数に含まれないもの)を除く。</p>								

II SEモデル

IT企業などにおいて付加価値を創造するSEやデータアナリスト

【教育課程】

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次				
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次	
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎		2					
		社会学基礎		2					
		情報社会論		2			○		
		倫理学基礎		2		○			
		応用倫理学		2			○		
		日本の歴史		2					
		人類の歴史		2		○			
		文学基礎		2					
		観る文学		2					
		言語学基礎		2		○			
		日本国憲法		2					
		法学基礎		2					
		情報法学		2				○	
		経済学基礎		2					
		現代経済論		2					
		心理学基礎		2					
		人間発達と人権		2					
	外国語	英語表現 (basic1) a		1		○			
		英語表現 (basic1) b		1		○			
		英語の語法		2					
		口語英語 I a		1		○			
		口語英語 I b		1		○			
		英語による情報技術 II		2				○	
		英語表現 (basic2) a		1					
		英語表現 (basic2) b		1					
		口語英語 II a		1					
		口語英語 II b		1					
		英語による情報技術 I a		1			○		
		英語による情報技術 I b		1			○		
		英語演習		1					
		海外語学研修		2					
		日本語 I		2					
	日本語 II		2						
	健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学 a		1		○			
		基礎スポーツ科学 b		1			○		
		健康科学		2					
		スポーツ科学実習		1					
	共通科目・総合理学系	科学技術史	科学史		2				○
		物理	物理学基礎		2		○		
			物理現象の数理		2				
			力学		2		○		
			電磁気学		2		○		
			現代物理学入門		2				
		化学	化学基礎		2				
			環境情報科学		2				
地学		地球科学基礎		2		○			
		地球環境		2		○			
生物		生命科学基礎		2					
		情報生命科学		2		○			
総合		観る自然科学		2					
キャリア科目		基礎ゼミナール		1		○			
	キャリアステップ		1						
	キャリアデザイン I		1			○			
	キャリアデザイン II		1						
	グローバルテクノロジー論		1						
	OIT概論		1						

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次				
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次	
専門科目	数理学	線形数学Ⅰ	2			○			
		線形数学Ⅱ		2					
		微積分学Ⅰ	2			○			
		微積分学Ⅱ		2					
		情報数学		2			○		
		微分方程式		2		○			
		グラフ理論		2			○		
		数理計画法		2				○	
		確率・統計	2				○		
		専門基礎	コンピュータ入門	2			○		
情報通信ネットワーク			2			○			
プログラミング基礎			2		○				
テクニカルライティング	2				○				
情報処理基礎			2						
コンピュータリテラシー			2		○				
データサイエンス入門	2				○				
データ構造とアルゴリズム			2			○			
実験計画法			2						
統計解析	2					○			
多変量解析			2				○		
IoT概論			2		○				
教育心理学			2						
基幹科目	データベースシステム		2			○			
	オペレーションズ・リサーチ		2				○		
	情報技術者論	2					○		
	情報ゼミナール	2					○		
	システム工学		2			○			
	情報セキュリティの基礎		2				○		
	経営システム論Ⅰ	2				○			
	データマイニング		2			○			
	テキストマイニング		1			○			
	ビジュアルプログラミング論		2			○			
	ソフトウェア工学		2			○			
	人工知能		2				○		
	パターン認識		2					○	
	機械学習	2				○			
発想法と問題解決		1			○				
応用科目	モデリングとシミュレーション		2				○		
	経営システム論Ⅱ		2				○		
	情報科学実践演習(国際PBL)		1					○	
	マーケティング論		2				○		
	数理ファイナンス		2					○	
	ロジスティクス		2					○	
	企業会計論		2				○		
	教育工学		2					○	
	教育方法論		2					○	
	情報科教育法a		2					○	
	工業経営論		2					○	
	投資意思決定論		2					○	
	経営戦略論		2					○	
演習科目	C演習Ⅰ	3			○				
	C演習Ⅱ		3			○			
	J a v a 演習		3			○			
	データサイエンス実践演習Ⅰ	2				○			
	データサイエンス実践演習Ⅱ	2					○		
	データサイエンス実践演習Ⅲ		2				○		
	価値創造演習		2				○		
(卒業研究)		0						○	
合計					45	43	34	2	
卒業単位数					124				
卒業要件及び履修方法									
<p>本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位を含む)、キャリア科目2単位および専門科目86単位(必修科目29単位、選択科目<選択必修科目12単位を含む>57単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。</p> <p>[履修科目の登録の上限*:44単位(年間)]</p> <p>※「海外語学研修」、「日本語Ⅰ」および「日本語Ⅱ」、「基礎ゼミナール」、「グローバルテクノロジー論」、「OIT概論」、「情報科学実践演習(国際PBL)」ならびに教科および教職に関する科目(卒業に必要な単位数に含まれないもの)を除く。</p>									

Ⅲ 生産・流通モデル

製造業・流通企業などにおいて製品開発・企画、マーケティング、品質管理、世論調査・社会調査、データマイニングなどができるデータサイエンティスト

【教育課程】

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次				
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次	
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎		2		○			
		社会学基礎		2					
		情報社会論		2			○		
		倫理学基礎		2		○			
		応用倫理学		2			○		
		日本の歴史		2					
		人類の歴史		2		○			
		文学基礎		2					
		観る文学		2					
		言語学基礎		2		○			
		日本国憲法		2					
		法学基礎		2					
		情報法学		2				○	
		経済学基礎		2			○		
		現代経済論		2					
		心理学基礎		2					
		人間発達と人権		2					
	外国語	英語表現 (basic1) a		1		○			
		英語表現 (basic1) b		1		○			
		英語の語法		2				○	
		口語英語 I a		1		○			
		口語英語 I b		1		○			
		英語による情報技術Ⅱ		2					
		英語表現 (basic2) a		1			○		
		英語表現 (basic2) b		1			○		
		口語英語Ⅱ a		1					
		口語英語Ⅱ b		1					
		英語による情報技術Ⅰ a		1					
		英語による情報技術Ⅰ b		1					
		英語演習		1					
		海外語学研修		2					
		日本語Ⅰ		2					
	日本語Ⅱ		2						
	健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学 a		1		○			
		基礎スポーツ科学 b		1			○		
		健康科学		2					
		スポーツ科学実習		1					
	共通科目・総合理学系	科学技術史	科学史		2				○
		物理	物理学基礎		2		○		
			物理現象の数理		2				
			力学		2				
			電磁気学		2		○		
			現代物理学入門		2				
化学		化学基礎		2					
		環境情報科学		2					
地学		地球科学基礎		2					
		地球環境		2		○			
生物		生命科学基礎		2					
		情報生命科学		2		○			
総合		観る自然科学		2					
キャリア科目	基礎ゼミナール		1		○				
	キャリアステップ		1						
	キャリアデザインⅠ		1			○			
	キャリアデザインⅡ		1						
	グローバルテクノロジー論		1						
	OIT概論		1						

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次			
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目	数理科学	線形数学Ⅰ	2			○		
		線形数学Ⅱ		2				
		微積分学Ⅰ	2			○		
		微積分学Ⅱ		2				
		情報数学		2			○	
		微分方程式		2		○		
		グラフ理論		2			○	
		数理計画法		2				○
		確率・統計	2				○	
		専門基礎	コンピュータ入門	2			○	
情報通信ネットワーク			2			○		
プログラミング基礎			2		○			
テクニカルライティング	2				○			
情報処理基礎			2					
コンピュータリテラシー			2		○			
データサイエンス入門	2				○			
データ構造とアルゴリズム			2					
実験計画法			2				○	
統計解析	2					○		
多変量解析			2				○	
IoT概論			2		○			
教育心理学		2						
基幹科目	データベースシステム		2			○		
	オペレーションズ・リサーチ		2				○	
	情報技術者論	2					○	
	情報ゼミナール	2					○	
	システム工学		2			○		
	情報セキュリティの基礎		2				○	
	経営システム論Ⅰ	2				○		
	データマイニング		2			○		
	テキストマイニング		1			○		
	ビジュアルプログラミング論		2			○		
	ソフトウェア工学		2					
	人工知能		2				○	
	パターン認識		2					
	機械学習	2				○		
発想法と問題解決		1			○			
応用科目	モデリングとシミュレーション		2				○	
	経営システム論Ⅱ		2				○	
	情報科学実践演習(国際PBL)		1					
	マーケティング論		2				○	
	数理ファイナンス		2					
	ロジスティクス		2				○	
	企業会計論		2				○	
	教育工学		2					
	教育方法論		2					
	情報科教育法a		2					
	工業経営論		2			○		
	投資意思決定論		2					
	経営戦略論		2				○	
	演習科目	C演習Ⅰ	3			○		
C演習Ⅱ			3					
J a v a 演習			3			○		
データサイエンス実践演習Ⅰ		2				○		
データサイエンス実践演習Ⅱ		2					○	
データサイエンス実践演習Ⅲ			2				○	
価値創造演習			2				○	
(卒業研究)		0					○	
合計					41	43	38	2
卒業単位数					124			
卒業要件及び履修方法								
<p>本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位を含む)、キャリア科目2単位および専門科目86単位(必修科目29単位、選択科目<選択必修科目12単位を含む>57単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。</p> <p>[履修科目の登録の上限*:44単位(年間)]</p> <p>※「海外語学研修」、「日本語Ⅰ」および「日本語Ⅱ」、「基礎ゼミナール」、「グローバルテクノロジー論」、「OIT概論」、「情報科学実践演習(国際PBL)」ならびに教科および教職に関する科目(卒業に必要な単位数に含まれないもの)を除く。</p>								

IV 金融・経済モデル

金融・保険業などにおいて商品開発・企画、クウォンツ、ビッグデータ解析、データコンサルティングができるデータサイエンティスト

【教育課程】

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次				
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次	
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎		2		○			
		社会学基礎		2					
		情報社会論		2					
		倫理学基礎		2		○			
		応用倫理学		2			○		
		日本の歴史		2			○		
		人類の歴史		2		○			
		文学基礎		2					
		観る文学		2					
		言語学基礎		2		○			
		日本国憲法		2					
		法学基礎		2					
		情報法学		2					
		経済学基礎		2			○		
		現代経済論		2			○		
		心理学基礎		2					
		人間発達と人権		2					
	外国語	英語表現 (basic1) a		1		○			
		英語表現 (basic1) b		1		○			
		英語の語法		2				○	
		口語英語 I a		1		○			
		口語英語 I b		1		○			
		英語による情報技術 II		2					
		英語表現 (basic2) a		1			○		
		英語表現 (basic2) b		1			○		
		口語英語 II a		1					
		口語英語 II b		1					
		英語による情報技術 I a		1					
		英語による情報技術 I b		1					
		英語演習		1					
		海外語学研修		2					
		日本語 I		2					
		日本語 II		2					
	健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学 a		1		○			
		基礎スポーツ科学 b		1			○		
		健康科学		2					
		スポーツ科学実習		1					
	共通科目・総合理学系	科学技術史	科学史		2				
		物理	物理学基礎		2		○		
			物理現象の数理		2				
			力学		2				
			電磁気学		2		○		
			現代物理学入門		2			○	
化学		化学基礎		2					
		環境情報科学		2					
地学		地球科学基礎		2					
		地球環境		2		○			
生物		生命科学基礎		2					
		情報生命科学		2		○			
総合		観る自然科学		2					
キャリア科目	基礎ゼミナール		1		○				
	キャリアステップ		1						
	キャリアデザイン I		1			○			
	キャリアデザイン II		1						
	グローバルテクノロジー論		1						
	OIT概論		1						

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次			
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目	数理学	線形数学Ⅰ	2			○		
		線形数学Ⅱ		2				○
		微積分学Ⅰ	2			○		
		微積分学Ⅱ		2				○
		情報数学		2				
		微分方程式		2		○		
		グラフ理論		2			○	
		数理計画法		2				○
		確率・統計	2				○	
		専門基礎	コンピュータ入門	2			○	
情報通信ネットワーク			2					
プログラミング基礎			2		○			
テクニカルライティング	2				○			
情報処理基礎			2					
コンピュータリテラシー			2		○			
データサイエンス入門	2				○			
データ構造とアルゴリズム			2			○		
実験計画法			2				○	
統計解析	2					○		
多変量解析			2				○	
IoT概論			2		○			
教育心理学		2						
基幹科目	データベースシステム		2			○		
	オペレーションズ・リサーチ		2				○	
	情報技術者論	2					○	
	情報ゼミナール	2					○	
	システム工学		2					
	情報セキュリティの基礎		2				○	
	経営システム論Ⅰ	2				○		
	データマイニング		2			○		
	テキストマイニング		1			○		
	ビジュアルプログラミング論		2			○		
	ソフトウェア工学		2					
	人工知能		2				○	
	パターン認識		2			○		
	機械学習	2				○		
発想法と問題解決		1			○			
応用科目	モデリングとシミュレーション		2				○	
	経営システム論Ⅱ		2				○	
	情報科学実践演習(国際PBL)		1					
	マーケティング論		2					
	数理ファイナンス		2				○	
	ロジスティクス		2					
	企業会計論		2				○	
	教育工学		2					
	教育方法論		2					
	情報科教育法a		2					
	工業経営論		2					
	投資意思決定論		2				○	
	経営戦略論		2				○	
演習科目	C演習Ⅰ	3			○			
	C演習Ⅱ		3					
	J a v a 演習		3			○		
	データサイエンス実践演習Ⅰ	2				○		
	データサイエンス実践演習Ⅱ	2					○	
	データサイエンス実践演習Ⅲ		2				○	
	価値創造演習		2				○	
(卒業研究)		0					○	
合計					41	43	40	0
卒業単位数					124			
卒業要件及び履修方法								
<p>本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位を含む)、キャリア科目2単位および専門科目86単位(必修科目29単位、選択科目<選択必修科目12単位を含む>57単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。</p> <p>[履修科目の登録の上限*:44単位(年間)]</p> <p>※「海外語学研修」、「日本語Ⅰ」および「日本語Ⅱ」、「基礎ゼミナール」、「グローバルテクノロジー論」、「OIT概論」、「情報科学実践演習(国際PBL)」ならびに教科および教職に関する科目(卒業に必要な単位数に含まれないもの)を除く。</p>								

V 教育モデル

教育機関などにおいて数学および情報の教員、教育効果の分析、教育コンテンツの開発ができるデータサイエンティスト

【教育課程】

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次			
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次
共通科目・総合人間学系	人文社会科学	哲学基礎		2				
		社会学基礎		2				
		情報社会論		2			○	
		倫理学基礎		2		○		
		応用倫理学		2			○	
		日本の歴史		2			○	
		人類の歴史		2		○		
		文学基礎		2				
		観る文学		2				
		言語学基礎		2		○		
		日本国憲法		2			○	
		法学基礎		2				
		情報法学		2				○
		経済学基礎		2				
		現代経済論		2				
		心理学基礎		2				
		人間発達と人権		2		○		
	外国語	英語表現 (basic1) a		1		○		
		英語表現 (basic1) b		1		○		
		英語の語法		2				○
		口語英語 I a		1		○		
		口語英語 I b		1		○		
		英語による情報技術 II		2				
		英語表現 (basic2) a		1				
		英語表現 (basic2) b		1				
		口語英語 II a		1			○	
		口語英語 II b		1			○	
		英語による情報技術 I a		1				
		英語による情報技術 I b		1				
		英語演習		1				
		海外語学研修		2				
		日本語 I		2				
		日本語 II		2				
	健康・スポーツ科学	基礎スポーツ科学 a		1		○		
		基礎スポーツ科学 b		1			○	
		健康科学		2				
		スポーツ科学実習		1				
	共通科目・総合理学系	科学技術史	科学史		2			
		物理	物理学基礎		2		○	
			物理現象の数理		2			
			力学		2			
			電磁気学		2		○	
			現代物理学入門		2			
化学		化学基礎		2				
		環境情報科学		2				
地学		地球科学基礎		2				
		地球環境		2		○		
生物		生命科学基礎		2				
		情報生命科学		2		○		
総合		観る自然科学		2				
キャリア科目	基礎ゼミナール		1		○			
	キャリアステップ		1					
	キャリアデザイン I		1			○		
	キャリアデザイン II		1					
	グローバルテクノロジー論		1					
	OIT概論		1					

科目区分	授業科目の名称	単位数			年次			
		必修	選択	自由	1年次	2年次	3年次	4年次
専門科目	数理科学	線形数学Ⅰ	2			○		
		線形数学Ⅱ		2				○
		微積分学Ⅰ	2			○		
		微積分学Ⅱ		2				○
		情報数学		2			○	
		微分方程式		2		○		
		グラフ理論		2			○	
		数理計画法		2				○
		確率・統計	2				○	
		専門基礎	コンピュータ入門	2			○	
情報通信ネットワーク			2			○		
プログラミング基礎			2		○			
テクニカルライティング	2				○			
情報処理基礎			2					
コンピュータリテラシー			2		○			
データサイエンス入門	2				○			
データ構造とアルゴリズム			2			○		
実験計画法			2				○	
統計解析	2					○		
多変量解析			2				○	
IoT概論			2		○			
教育心理学			2		○			
基幹科目	データベースシステム		2			○		
	オペレーションズ・リサーチ		2				○	
	情報技術者論	2					○	
	情報ゼミナール	2					○	
	システム工学		2					
	情報セキュリティの基礎		2				○	
	経営システム論Ⅰ	2				○		
	データマイニング		2					
	テキストマイニング		1			○		
	ビジュアルプログラミング論		2			○		
	ソフトウェア工学		2			○		
	人工知能		2				○	
	パターン認識		2					
	機械学習	2				○		
発想法と問題解決		1			○			
応用科目	モデリングとシミュレーション		2				○	
	経営システム論Ⅱ		2				○	
	情報科学実践演習(国際PBL)		1					
	マーケティング論		2					
	数理ファイナンス		2					
	ロジスティクス		2					
	企業会計論		2					
	教育工学		2				○	
	教育方法論		2			○		
	情報科教育法a		2				○	
	工業経営論		2					
	投資意思決定論		2					
	経営戦略論		2					
演習科目	C演習Ⅰ	3			○			
	C演習Ⅱ		3					
	J a v a 演習		3			○		
	データサイエンス実践演習Ⅰ	2				○		
	データサイエンス実践演習Ⅱ	2					○	
	データサイエンス実践演習Ⅲ		2				○	
	価値創造演習		2					
(卒業研究)		0					○	
合計					45	43	36	0
卒業単位数					124			
卒業要件及び履修方法								
<p>本大学に4年以上在学し、共通科目36単位(人文社会科学12単位以上、外国語8単位、健康・スポーツ科学2単位を含む)、キャリア科目2単位および専門科目86単位(必修科目29単位、選択科目<選択必修科目12単位を含む>57単位)を含めて合計124単位以上修得すること。加えて、卒業研究(0単位)も合格すること。</p> <p>[履修科目の登録の上限*:44単位(年間)]</p> <p>※「海外語学研修」、「日本語Ⅰ」および「日本語Ⅱ」、「基礎ゼミナール」、「グローバルテクノロジー論」、「OIT概論」、「情報科学実践演習(国際PBL)」ならびに教科および教職に関する科目(卒業に必要な単位数に含まれないもの)を除く。</p>								

データサイエンス学科 時間割表

【資料7】

		1年次													
		前期							後期						
		科目名	担当者	組	教室	分類	コース	備考	科目名	担当者	組	教室	分類	コース	備考
月	1														
	2	データサイエンス入門 力学	濱田 藤		1303 1206	必			キャリアステップ	権原		1402			
	3	線形数学 I 口語英語 I a	平嶋 メロウ、ヘロン、 バージ、チャン	B A	1303 1201、1202、第 2LL、第3LL	必			微分方程式 口語英語 I b	江口 メロウ、ヘロン、 バージ、チャン	B A	1203 1201、1202、 第2LL、第3LL			
	4	線形数学 I 口語英語 I a	平嶋 メロウ、ヘロン、 バージ、チャン	A B	1303 1201、1202、第 2LL、第3LL	必			口語英語 I b	メロウ、ヘロン、 バージ、チャン	B	1201、1202、 第2LL、第3LL			
	5								人間発達と人権	西野		1301			
火	1	言語学基礎	横山		1311										
	2	言語学基礎	横山		1311				人類の歴史 言語学基礎	大村 横山		1205 1405			
	3	力学 物理学基礎 地球科学基礎	藤 藤井 横川	A	1301 1404 1405				人類の歴史 言語学基礎 電磁気学 地球環境	大村 横山 藤井 横川	B	1301 1405 1404 1403			
	4	物理学基礎 地球科学基礎 生命科学基礎 力学	藤井 横川 矢野 藤	B	1404 1405 1501 1301				人類の歴史 電磁気学 地球環境 情報生命科学 教育心理学	大村 藤井 横川 矢野 酒井	A	1301 1404 1403 1310 1305			
	5														
水	1	コンピュータリテラシー 基礎ゼミナール	皆川 雨宮、黒川、 井上 [※] 、宮脇、 杉川、田岡、 矢野、井垣、 須山、積山	B A	第5演習室 1301、1302、 1305、1401、 1401、1402、 1402、1405、 1515、第5演習室				C演習 I	坂平		第6演習室	必		
	2	コンピュータリテラシー 基礎ゼミナール	権原 横山、斉藤、 平、山本、 藤井、古樋、 藤、横川、坂平	A B	第5演習室 1301、1302、 1401、1401、 1402、1402、 1405、1515、 第5演習室				C演習 I	坂平		第6演習室	必		
	3	日本語 I (留学生のみのみ)	原田		1202				日本語 II (留学生のみのみ)	原田		1202			
	4	日本語 I (留学生のみのみ)	原田		1202				日本語 II (留学生のみのみ)	原田		1202			
	5														
木	1	微積分学 I 英語表現 (basic1)a	濱田 新庄谷、黒川、 田岡、島田	B A	1405 1201、第1LL、 第2LL、第3LL	必			英語表現 (basic1)b	新庄谷、黒川、 田岡、島田	A	1201、第1LL、 第2LL、第3LL			
	2	微積分学 I 英語表現 (basic1)a	濱田 新庄谷、黒川、 田岡、島田	A B	1405 1201、第1LL、 第2LL、第3LL	必			英語表現 (basic1)b 微分方程式	新庄谷、黒川、 田岡、島田 江口	B A	1201、第1LL、 第2LL、第3LL 1203			
	3	地球科学基礎	横川		1403				テクニカルライティング 地球環境	須山、光田 横川		1305、1401 1302	必		
	4	地球科学基礎 力学	横川 藤		1403 1302										
	5														
金	1	コンピュータ入門	荒木		1303	必			プログラミング基礎	荒木		1303			
	2	基礎スポーツ科学a	横山、井上 [※]		1602				IoT概論	荒木		1303			
	3	倫理学基礎 生命科学基礎 化学基礎	雨宮 矢野 田中		1302 1310 1403				倫理学基礎 環境情報科学 情報生命科学	雨宮 角谷 矢野		1305 1310 1502			
	4	倫理学基礎 生命科学基礎 化学基礎	雨宮 矢野 田中		1302 1310 1403				倫理学基礎 環境情報科学 情報生命科学 化学基礎	雨宮 角谷 矢野 田中		1305 1310 1502 1501			
	5														
期間外								情報処理基礎	安留、権原、 須永、橋本、 中西		1501				

		2年次													
		前期							後期						
		科目名	担当者	組	教室	分類	コース	備考	科目名	担当者	組	教室	分類	コース	備考
月	1	パターン認識	須山		1304				統計解析	濱田		1304	必		
	2	発想法と問題解決 テキストマイニング	平嶋 坂平	A B	1202 1203			前半 前半	ソフトウェア工学	安留		1304			
	3	発想法と問題解決 テキストマイニング	平嶋 坂平	B A	1202 1203			後半 後半	ビジュアルプログラミング論	安留		第5演習室			
	4	キャリアデザインⅠ 物理現象の数理	坂平 藤		1401、1402 1403				データマイニング	坂平		1305			
	5	物理現象の数理	藤		1403										
火	1	グラフ理論	江口		1304				データサイエンス実践演習Ⅰ	荒木、椎原、 皆川、 江口		1203、1401、 多目的室143、 共通実験室2	必		
	2	経営システム論Ⅰ 日本の歴史	椎原 大村		1304 1310	必		データサイエンス実践演習Ⅰ	荒木、椎原、 皆川、 江口		1203、1401、 多目的室143、 共通実験室2	必			
	3	哲学基礎 日本の歴史 観る文学 英語による情報技術Ⅰa	雨宮 大村 横山 平山		1402 1502 第6演習室 1305			応用倫理学 現代物理学入門	雨宮 藤		1302 1311				
	4	哲学基礎 日本の歴史	雨宮 大村		1402 1502			応用倫理学 現代物理学入門	雨宮 藤		1302 1311				
	5														
水	1	機械学習	平嶋		1304	必		観る文学	横山		1401				
	2	データ構造とアルゴリズム	安留		1304			応用倫理学 観る自然科学 観る文学	雨宮 横川、藤、藤井、 矢野、井上 [※] 横山		1302 1402、共通実験 室2、3、4 1401				
	3														
	4														
	5														
木	1	C演習Ⅱ	荒木		第5演習室			Java演習	安留		第5演習室				
	2	C演習Ⅱ	荒木		第5演習室			Java演習	安留		第5演習室				
	3	確率・統計	濱田		1303	必		情報数学	江口		1304				
	4	システム工学	山田		1303			キャリアデザインⅡ	田岡		1401、1402				
	5							教育方法論 英語による情報技術Ⅰb	北 平山		ラーニングcommons 1304				
金	1	工業経営論	皆川		1304			データベースシステム 文学基礎	須山 横山		1304 1404				
	2	情報通信ネットワーク	荒木		1304			基礎スポーツ科学b 文学基礎	横山、井上 [※] 横山		1603 1404				
	3	心理学基礎 日本国憲法 社会学基礎 経済学基礎 文学基礎 英語表現(basic2)a 環境情報科学	八木 玄 池田 瀬野 横山 横山 中村 角谷		1301 1205 1603 1501 1405 第2LL 1502			情報社会論 法学基礎 心理学基礎 現代経済論 英語表現(basic2)b	池田 玄 八木 瀬野 中村		1302 1205 1602 1301 第2LL				
	4	心理学基礎 日本国憲法 社会学基礎 経済学基礎 文学基礎 英語表現(basic2)a 口語英語Ⅱa	八木 玄 池田 瀬野 横山 古樋、中村 メロウ		1301 1205 1603 1501 1405 第1LL、第2LL 第3LL			情報社会論 法学基礎 心理学基礎 経済学基礎 英語表現(basic2)b 口語英語Ⅱb	池田 玄 八木 瀬野 古樋、中村 メロウ		1302 1205 1602 1301 第1LL、第2LL 第3LL				
	5														

2019年度教育実習受け入れ校一覧

実習校	実習教科(科目)	実習週間
1 三木市立緑が丘中学校	数学	3週間
2 大阪府立岸和田高等学校	数学	3週間
3 京都府立久御山高等学校	数学	3週間
4 神戸市立科学技術高等学校	工業	2週間
5 大阪市立緑中学校	数学	3週間
6 兵庫県立洲本実業高等学校	工業(機械)	2週間
7 兵庫県立兵庫工業高等学校	工業(総合理科学科)	2週間
8 岸和田市立山直中学校	理科	3週間
9 兵庫県立三田祥雲館高等学校	理科(化学)	3週間
10 福井県立武生工業高等学校	工業(工業化学)	2週間
11 高槻市立第二中学校	理科	3週間
12 兵庫県立兵庫工業高等学校	工業(総合理科学科)	3週間
13 多可町立中町中学校	理科	3週間
14 私立大手前丸亀中学・高等学校	理科	3週間
15 奈良県立桜井高等学校	理科(化学)	2週間
16 大阪市立都島工業高等学校	理科(化学)	3週間
17 兵庫県立武庫荘総合高等学校	理科(化学)	3週間
18 大阪市立東高等学校	理科(化学)	3週間
19 堺市立浜寺中学校	理科	3週間
20 姫路市立大津中学校	理科	3週間
21 兵庫県立宝塚西高等学校	数学	3週間
22 貝塚市立第三中学校	数学	3週間
23 亀岡市立育親中学校	数学	3週間
24 宇治市立広野中学校	数学	3週間
25 私立常翔学園高等学校	理科(化学)	3週間
26 寝屋川市立第八中学校	理科	3週間
27 大阪市立西高等学校	情報	3週間
28 芦屋市立山手中学校	数学	3週間
29 大阪府立芦間高等学校	数学	3週間
30 大阪府寝屋川市立第四中学校	数学	3週間
31 大阪府箕面市立第四中学校	数学	3週間
32 尼崎市立小田中学校	数学	3週間

		3年次													
		前期						後期							
		科目名	担当者	組	教室	分類	コース	備考	科目名	担当者	組	教室	分類	コース	備考
月	1	情報セキュリティの基礎	山本		1404				モデリングとシミュレーション	坂平		1405			
	2	人工知能	須山		1405				数理ファイナンス	濱田		1405			
	3	オペレーションズ・リサーチ	椎原		1405				数理計画法	椎原		1405			
	4								線形数学Ⅱ	鎌倉良		1304			IM、INと合同開講
	5								微積分学Ⅱ	鎌倉良		1304			IC、ISと合同開講
火	1	データサイエンス実践演習Ⅱ	濱田、坂平		第3、第4演習室	必			データサイエンス実践演習Ⅲ	平嶋、須山		第3、第4演習室			
	2	データサイエンス実践演習Ⅱ	濱田、坂平		第3、第4演習室	必			データサイエンス実践演習Ⅲ	平嶋、須山		第3、第4演習室			
	3								投資意思決定論	皆川		1303			
	4														
	5														
水	1	情報法学 英語の語法	家本 中村、島田		1403 第1LL、第2LL				教育工学	安留		1403			
	2	情報法学 英語の語法 健康科学	家本 田岡、島田 井上裕		1403 第1LL、第2LL 1201				情報技術者論	須山、布村、 佐野、福澤、 山田、深海、 杉川、牧野、 神田、平山		1310	必		IC、INと合同開講
	3														
	4														
	5														
木	1								英語による情報技術Ⅱ	久保田		1405			
	2	英語による情報技術Ⅱ	久保田		1303				ロジスティクス 英語による情報技術Ⅱ	平嶋 久保田		1303 1405			
	3	マーケティング論	皆川		1405				経営システム論Ⅱ	椎原、林、 山田、宮田		1501			ISと合同開講
	4	多変量解析	江口		1405				情報ゼミナール	椎原、安留、皆 川、濱田、須山、 平嶋、荒木、坂 平、江口			必		
	5								英語の語法 英語演習	島田 メロウ		第2LL 第3LL			
金	1	実験計画法	江口		1405										
	2	企業会計論	皆川		1405										
	3														
	4	スポーツ科学実習	井上裕		1202										
	5	情報科教育法a	大井		第5演習室										
期間外								経営戦略論 価値創造演習	山田、深海、 宮田 濱田		1501 1205				

		4年次													
		前期							後期						
		科目名	担当者	組	教室	分類	コース	備考	科目名	担当者	組	教室	分類	コース	備考
月	1														
	2														
	3														
	4														
	5														
火	1	科学史	但馬		1303										
	2														
	3														
	4														
	5														
水	1														
	2														
	3														
	4														
	5														
木	1														
	2														
	3														
	4														
	5														
金	1														
	2														
	3														
	4														
	5														

2019年度教育実習受け入れ校一覧

実習校	実習教科(科目)	実習週間
1 三木市立緑が丘中学校	数学	3週間
2 大阪府立岸和田高等学校	数学	3週間
3 京都府立久御山高等学校	数学	3週間
4 神戸市立科学技術高等学校	工業	2週間
5 大阪市立緑中学校	数学	3週間
6 兵庫県立洲本実業高等学校	工業(機械)	2週間
7 兵庫県立兵庫工業高等学校	工業(総合理科学科)	2週間
8 岸和田市立山直中学校	理科	3週間
9 兵庫県立三田祥雲館高等学校	理科(化学)	3週間
10 福井県立武生工業高等学校	工業(工業化学)	2週間
11 高槻市立第二中学校	理科	3週間
12 兵庫県立兵庫工業高等学校	工業(総合理科学科)	3週間
13 多可町立中町中学校	理科	3週間
14 私立大手前丸亀中学・高等学校	理科	3週間
15 奈良県立桜井高等学校	理科(化学)	2週間
16 大阪市立都島工業高等学校	理科(化学)	3週間
17 兵庫県立武庫荘総合高等学校	理科(化学)	3週間
18 大阪市立東高等学校	理科(化学)	3週間
19 堺市立浜寺中学校	理科	3週間
20 姫路市立大津中学校	理科	3週間
21 兵庫県立宝塚西高等学校	数学	3週間
22 貝塚市立第三中学校	数学	3週間
23 亀岡市立育親中学校	数学	3週間
24 宇治市立広野中学校	数学	3週間
25 私立常翔学園高等学校	理科(化学)	3週間
26 寝屋川市立第八中学校	理科	3週間
27 大阪市立西高等学校	情報	3週間
28 芦屋市立山手中学校	数学	3週間
29 大阪府立芦間高等学校	数学	3週間
30 大阪府寝屋川市立第四中学校	数学	3週間
31 大阪府箕面市立第四中学校	数学	3週間
32 尼崎市立小田中学校	数学	3週間

2020年度 教育実習手続き要領

I. 2020年度「教育実習」を履修できる者

1. ① 2020年4月現在、4年次生であり、2021年3月卒業見込みの者
 - ② 「教職入門」、「教育原論」、「教育心理学」、「教科に関する科目（10単位以上）」の単位を2019年度中にすべて修得する見込みの者。
 - ③ 「教科教育法 a・b」（取得しようとする免許教科の教育法を必修）の単位を2019年度中に修得する見込みの者。
 - ④ 「道徳教育の研究」の単位を2019年度中に修得する見込みの者
 - ⑤ 「福祉教育概論（介護等の体験）」の単位を2020年度中に修得する見込みの者。
- ※④・⑤は中学校教育実習履修者のみ
2. 教職に関する科目、教科に関する科目の必要単位を充足する見込みの者。
 3. 2019年3月26日（火）〔工学部〕・27日（水）〔情報科学部〕の「教育実習履修ガイダンス」に出席した者。
 4. 中学校、高等学校、中等教育学校（国公立・私立は問わない）での教職に就くことを希望する者。
 5. 2020年3月9日（月）、10日（火）に申請し、事前許可を受けた者。

II. 実習校の開拓

教育実習校は、各自で開拓することを原則とします。開拓方法等は次のとおりです。

1. 実習依頼先

出身校または縁故のある中学校、高等学校へ実習受入の依頼に行く。

実習は、中学校または高等学校のどちらかで行えば、免許状取得に有効である。

ここ数年、内諾交渉の時期が早まってくる傾向にあるので、教育実習履修ガイダンス終了後、できるだけ早く、実習校に連絡を取り、訪問すること。

【注1】 次の市立学校において教育実習を希望する場合は、大学から先に所轄の教育委員会に申請しなくてはならないので、希望者は直接実習校へ依頼せず、必ず教務課または情報科学部事務室へ申し出ること。

○ 豊中市立、神戸市立、姫路市立の中学校

○ 京都市立の中学校・高等学校

また、上記以外の学校でも特別な手続きが必要と指示を受けた場合や、内諾書の下欄に教育委員会の連絡先が記載されている場合は、速やかに教務課または情報科学部事務室申し出ること。

【注2】 常翔学園高等学校または常翔学園中学校へ教育実習を依頼する場合は、常翔学園高等学校のホームページに申込み方法が掲載されているので、事前に内容を確認しその指示に従うこと。なお、**受け入れ対象は卒業生のみ。**

【教育実習申込みページ URL】 <http://www.highs.josho.ac.jp/high/teaching.html>

2. 実習教科

取得しようとする免許状と同一教科とする。

「数学」と「情報」、「数学」と「工業」、「理科」と「工業」、「情報」と「工業」などの2教科の免許を取得しようとする場合は、いずれかの一教科でよい。

ただし、必ず実習教科の「教育法 a・b」を修得しておくこと。

また、できる限り自分が教職に就く場合に担当したい教科で実習を行うことが望ましい。

3. 実習期間

中一種免・高一種免の両方を希望する者および中一種免のみ希望する者は3週間、高一種免のみ希望する者は2週間の実習が必要。

実習時期は、前期期間中（5月～7月）の受入れを依頼すること。

※ 各自の履修状況にもよるが、教育実習のために連続して大学を欠席すると、授業や卒研に支障の出る恐れが大きいため、必要最低期間を原則とするが、上記以外の期間を提示された場合は、次のように対応すること。

- (ア) 中一種免希望者が「2週間」と提示された場合
3週間に延長してもらうよう依頼。
- (イ) 中一種免希望者が「4週間」と提示された場合
3週間に短縮してもらうよう依頼。
- (ウ) 高一種免希望者が「3週間」と提示された場合
なるべく都合をつけて参加する。
- (エ) 高一種免希望者が「4週間」と提示された場合
3週間に短縮してもらうよう依頼。

4. 実習依頼時の提出書類

①「教育実習願書・内諾書」

必要事項を記入し、各自実習予定校へ提出する。

実習の承諾をいただければ、内諾書（右半分）を受け取る。

※ 内諾書は後日発行してもらうケースが多いため、再度訪問できない場合等は返信用封筒（切手貼付）を持参すること。

②「履歴書・自己紹介書」（1部）

記入例を参考に作成し、各自実習予定校へ提出する。

<注意事項>

- ・写真は、スーツ着用で撮影すること。
- ・指導教員の欄は空白にしておくこと。

有職社会人は、内諾交渉に行く前に、必ず職場の上長の了解を得ておくこと。

※ 内諾をもらっていても、前ページの1. の条件を満たしていない者、もしくは条件を満たしていても教育職員になる意志のなくなった者は、本人の責任において実習校を訪問し、辞退する旨を申し出て、お詫びすること。また、大学からも文書でお詫びするため、2020年3月8日までに教務課または情報科学部事務室へ辞退届（任意様式）を提出すること。この作業を怠ると、来年度から実習校での教育実習ができなくなる恐れがあるので注意すること。

Ⅲ. 「教育実習」事前許可の申請

1. 日 時 1回目：2019年9月24日（火）、25日（水）
12：30～17：00
2回目：2020年3月9日（月）、10日（火）
12：30～17：00

2. 場 所 工学部：教務課（大宮キャンパス7号館2階）
ロボティクス&デザイン工学部：学部事務室（梅田キャンパス7階）
情報科学部：学部事務室（枚方キャンパス1号館1階）
※所属学科のあるキャンパスの提出先に提出すること。

3. 提出書類

- ◎1回目に提出するもの

「教育実習願書・内諾書」の内諾書（右半分）のみ

- ◎2回目に提出するもの

- ①「履歴書・自己紹介書」（教育実習生用） 1部

記入例を参考に作成すること。

<注意事項>

- ・2020年4月1日現在で記入すること。
- ・写真は、スーツ着用で撮影すること。
- ・指導教員の欄は空白にしておくこと。

提出された「履歴書・自己紹介書」は2020年4月下旬に大学から正式に依頼する際に実習校へ送付する。

- ②「『教育実習』事前許可願」（3枚綴り）

必要事項をすべて記入して提出すること。

実習費の欄は、内諾書に記載されている実習費の金額を記入する。実習校で実習費の指定がない場合は、実習期間が2週間の者は10,000円、3週間の者は15,000円（それ以上の者は、1週間につき5,000円増）とする。

実習費が不要の場合は、金額欄を二重線で抹消して提出すること。

実習費は教務課・ロボティクス&デザイン工学部事務室・情報科学部事務室で事前許可の受付後、会計担当部署にて納入するので用意しておくこと。

教育実習費は、正式依頼の時に大学から実習校に現金書留で送付するか、教育委員会や実習校から指定された口座に入金する。

Ⅳ. その他

教育実習へ行くにあたり、大学の授業・実習・卒業研究との両立のためには相当な努力が必要となる。よって、各自、以下のような対策を講じること。

- ・必修科目等は、できる限り3回生のうちに修得できるよう努めること。
- ・教育実習期間中、大学の授業・実習・卒業研究等を欠席することについては、担当教員と事前に相談し、ご配慮をお願いすること。

2020年度 教育実習に関する日程（予定）

- 2019年3月26日（火） 工 学 部 教育実習履修ガイダンス
3月27日（水） 情報科学部 教育実習履修ガイダンス
- 4月上旬 各自で早めに教育実習予定校に行き、内諾書をもらう。
～8月頃 ※ 実習校へ直接依頼する他、別途教育委員会に手続きが必要な場合は、すぐに大学へ申し出ること。
- 4月24日（水） **教育実習希望調書の提出**
～25日（木） （提出先：教務課・ロボティクス&デザイン工学部事務室・
情報科学部事務室）
- 9月24日（火） **2020年度教育実習履修申請事前許可申請**
～25日（水） ※ 内諾書（右半分）を提出する
（受付場所：教務課・ロボティクス&デザイン工学部事務室・
情報科学部事務室）
- 2020年3月9日（月） **2020年度教育実習履修申請事前許可願受付**
～10日（火） （受付場所：教務課・ロボティクス&デザイン工学部事務室・
情報科学部事務室）
※ 教育実習費を納入する
- 4月上旬 教育実習事前指導開始（6～7回）
- 5月下旬 教育実習履修許可の確認
（各自で「履修登録確認表」を出力して確認すること）
- 4月下旬 教務課から各実習校の学校長宛に正式依頼
～5月上旬 ※ 教育実習費を送付
- 5月中旬 実習校からの承諾書（写）を配付
- 5月下旬～ 教育実習開始（2～4週間）
- **実習終了後2週間以内** 「教育実習記録」を教務課へ提出
- 7月上旬 教育実習事後指導
- 2021年1月下旬～ 「教育実習記録」の返却（教職教室）

令和元（2019）年度インターンシップ受入機関

1. 企業等団体

アイクラフト(株)、(株)アイレックス、(株)浅沼組、安治川鉄工(株)、あずやん(株)、尼崎電機(株)、(株)荒谷建設コンサルタント、(株)アルトナー、(株)池下設計、アイデアピール、(株)伊藤金属製作所、(株)内田洋行、エスペック(株)、(株)エムアンドエー、(株)M S Tコーポレーション、OKC、大阪機電(株)、大阪府庁、Odesign、(株)オオバ、(株)岡本設計、(株)奥村組、オリジナル設計(株)、(株)笠谷工務店、川崎地質(株)、川田建設(株)、(株)関西マツダ、関西電子情報産業協同組合(KEIS)(株)オンテック)、(株)キクチコンサルタント、(株)教映社、協和テクノロジー(株)、近畿地方整備局（国営明石海峡公園事務所）、キンキ道路(株)、久米電気(株)、(株)栗本鐵工所、ケーアンドイー(株)、(株)K K S、(株)鴻池組、向洋電機(株)、五洋建設(株)、コンストラクションインベンスメントマネージャーズ(株)、(株)三社電機製作所、サンショウシステム(株)、(株)三水コンサルタント、(株)サンセイテクノス、三友工業(株)、(株)ジーアイデザインファクト、滋賀県土木交通部（大津土木事務所）、GK Kyoto、シバタ工業(株)、(株)昭建、スナダ建設(株)、住友電設(株)、ダイキン HVAC ソリューション中四国(株)、タイセイ(株)、大成温調(株)、大成建設(株)、ダイトロン(株)、大日本除虫菊(株)、大和鋼業(株)、タカゾノグループ、高松建設(株)、宅都グループ、(株)たけでん、中央コンサルタンツ(株)、中央電設(株)、寺崎電気産業(株)、東亜外業(株)、東亜建設工業(株)、東伸工業(株)、東洋電機(株)、トーテックアメニティ(株)、豊中市役所、トレックスセミコンダクター(株)、(株)トンボ、(株)ナイキ、西日本高速道路ファシリティーズ(株)、西松建設(株)、日工電子工業(株)、日東コンピューターサービス(株)、(株)日本インシーク、(株)日本電機研究所、日本ファブテック(株)、野村建設工業(株)、乃村工藝社、(株)バウハウス丸栄、間工作舎、(株)服部建築事務所、パナソニックアーキスケルトンデザイン(株)、パナソニックソリューションテクノロジー(株)、バルトソフトウェア(株)、姫路経営者協会（グローリー(株)）、福井県経営者協会（旭電設(株)、えちぜん鉄道(株)）、(株)フジタ、フルタニ産業(株)、(株)フルノソフトテック、(株)HEXEL Works、(株)北條建築構造研究所、(株)マイスターエンジニアリング、(株)まいむ創芸、前田道路(株)、(株)マックス、マツダ(株)、(株)松村組、マツモト機械(株)、マテックス(株)、三井住友建設(株)、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング(株)、明星金属工業(株)、(株)森長工務店、(株)箭木木工所、八千代エンジニアリング(株)、(株)山本金属製作所、ユーザックシステム(株)、(株)吉武工務店、リコージャパン(株)、和歌山県経営者協会（(有)明日香コンピューター、太洋工業(株)、和歌山市役所）

2. 高等学校

茨木工科高等学校、西野田工科高等学校、都島工業高等学校、淀川工科高等学校

○大阪工業大学大学・大学院運営会議規定

1996年2月27日

学園211

改正 2020年4月1日

(趣旨)

第1条 この規定は、大阪工業大学学則第8条および組織規定第43条第1項に定める大阪工業大学大学・大学院運営会議（以下「大学・大学院運営会議」という）の構成、審議事項、運営等必要な事項を定める。

(構成)

第2条 大学・大学院運営会議は、つぎの者をもって構成する。

- イ 学長
- ロ 副学長
- ハ 研究科長
- ニ 学部長
- ホ 教務部長
- ヘ 学生部長
- ト 図書館長
- チ 情報センター長
- リ 学長室長
- ヌ 入試部長
- ル 就職部長
- ヲ 国際交流センター長
- ワ 教育センター長
- カ 研究支援・社会連携センター長
- コ 研究支援・社会連携センター副センター長

2 前項にかかわらず、学長は必要に応じてオブザーバーとして関係者の出席を認めることができる。

(審議事項)

第3条 大学・大学院運営会議は、つぎの事項を審議する。

- イ 学生の入学ならびに卒業および課程修了にかかる基本方針に関すること
- ロ 年間行事予定に関すること
- ハ 教育課程の編成にかかる基本方針に関すること
- ニ 教育研究上の重要な事項および教育研究の振興に関すること
- ホ アセスメント・ポリシーの策定に関すること
- ヘ 規定の制定・改廃に関すること
- ト 教員の留学に関すること

- チ 名誉教授の称号授与等に関する事
- リ 理事会に付議する案件（教員の任免を除く）に関する事
- ヌ 学長が諮問した事項に関する事
- ル その他管理運営上の重要な事項に関する事

（報告事項）

第4条 大学・大学院運営会議には、つぎの事項を報告するものとする。

- イ 大学および大学院にかかる理事会決定事項に関する事
- ロ 教授会ならびに研究科委員会および各委員会で審議した事項に関する事
- ハ 学長が大学・大学院運営会議への報告を必要と認めた事項に関する事

（招集および議長）

第5条 学長は、大学・大学院運営会議を招集し、議長となる。

- 2 学長に事故があるときまたは欠けたときは、職制に関する規定第7条第4項により置く工大学長代理が議長となり、議長の職務を行う。

（小委員会）

第6条 議長は、必要に応じて、小委員会を設けることができる。

- 2 小委員会では、大学・大学院運営会議から付託された事項について審議する。

（大学・大学院運営会議の庶務）

第7条 大学・大学院運営会議の庶務は、学長室庶務課で取り扱う。

（運営細則）

第8条 この規定の定めるもののほか、大学・大学院運営会議の運営に関し必要な事項は、大学・大学院運営会議の議を経て学長が定める。

（規定の改廃）

第9条 この規定の改廃は、大学・大学院運営会議の意見を聴き、学長の承認を得て、理事長が行う。

付 則

- 1 この規定は、1996年4月1日から施行する。
- 2 この改正規定は、2020年4月1日から施行する。

本学HPにおける公表情報及び掲載先一覧

1 大学の教育研究上の目的に関すること	学部	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html#chap01
	大学院	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_gradoit.html#chap01
2 教育研究上の基本組織に関すること	大学の組織図	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/organization.html
3 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績、教員の年齢構成に関すること	教員組織、各教員が保有する学位及び業績、教員の年齢構成	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/soshiki.html
	教育職員数・事務職員数	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data01.html
4 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること	アドミッションポリシー	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/admission.html
	入試状況	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data05.html
	入学者推移	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data06.html
	収容定員（学部）	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html#teiin
	収容定員（大学院）	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_gradoit.html#teiin
	収容定員充足率	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data07.html
	在籍学生数	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data08.html
	社会人学生数	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data09.html
	留学生数	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data10.html
	海外派遣学生数	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data11.html
	卒業・修了者数（学位授与数）	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data12.html
	進路状況	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data14.html
	5 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること	カリキュラムポリシー
WEBシラバス		http://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/index.html
教育目標とカリキュラム編成方針、カリキュラムマップ		http://www.oit.ac.jp/japanese/syllabus/index2.html
6 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること	ディプロマポリシー	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/de_policy.html
	教育課程および履修方法、単位の授与、卒業および学位の授与（学部）	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html#chap06 http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html#chap07 http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html#chap08
	課程修了の要件、学位の授与（大学院）	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_gradoit.html#chap05 http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_gradoit.html#chap06
7 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること	大宮キャンパス概要、交通アクセス	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/access_omiya.html http://www.oit.ac.jp/japanese/access/access_omiya.html
	梅田キャンパス概要、交通アクセス	http://www.oit.ac.jp/rd/umeda/index.html http://www.oit.ac.jp/rd/access/index.html
	枚方キャンパス概要、交通アクセス	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/access_hirakata.html http://www.oit.ac.jp/japanese/access/access_hirakata.html
	校地・建物面積、校舎等の耐震化率	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data02.html
	運動施設の概要	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data03.html
	図書館蔵書数	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/openinfo/data04.html
	研究・教育施設	http://www.oit.ac.jp/japanese/facility/index.html
8 授業料、入学金その他の大学が徴収する費用に関すること	学費	http://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/fee.html
9 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること	学習支援	http://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/support.html
	奨学金	http://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/scholarship.html
	就職・キャリア形成	http://www.oit.ac.jp/japanese/career/index.html
	保健室	http://www.oit.ac.jp/japanese/health/index.html
	学生相談	http://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/counseling.html
	相談時間・相談員等	http://www.oit.ac.jp/japanese/gakusei/counseling_time.html
	留学生支援	http://www.oit.ac.jp/english/international/exchangeStudent.html
10 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報	建学の精神	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/spirit.html
	教育の理念と方針	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/philosophy.html
	大学・大学院の目的	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/purpose.html
	教育研究上の目的（既述）	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html#chap01 http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_gradoit.html#chap01
	ディプロマポリシー（既述）	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/de_policy.html
	カリキュラムポリシー（既述）	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/cu_policy.html
11 学則	大阪工業大学学則	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_oit.html
	大阪工業大学大学院学則	http://www.oit.ac.jp/japanese/oit/rule_gradoit.html
12 設置届出書、設置計画履行状況等報告書	設置届出書、設置計画履行状況報告書	https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/setti.html
13 自己点検・評価報告書、認証評価の結果	認証評価、自己点検・評価	https://www.oit.ac.jp/japanese/oit/ninsyouthyouka.html#daigaku



就職行事と活動の流れ（2021年3月卒業・修了生対象）

月	主な就職行事等		就職活動の流れ
	工学部・ロボティクス&デザイン工学部・知的財産学部 (大学院含む)	情報科学部 (大学院含む)	
5月	8日～14日 就職ガイダンス① 概要説明、現状認識	15日 就職ガイダンス① 概要説明、現状認識	今年度の就職状況について報告
6月		12日 就職ガイダンス② 履歴書の書き方 インターンシップ申込 就職模擬テスト① 一般常識模擬テスト	今年度の就職状況について報告 自己分析開始 ●大学生活・高校以前を振り返る ●長所・短所を考える
7月	1日～5日 就職ガイダンス② 自己分析 就職模擬テスト① SPI模擬テスト	10日 就職ガイダンス③ 自己分析 就職活動体験報告会 就職模擬テスト② SPI模擬テスト	自己分析開始 ●大学生活・高校以前を振り返る ●長所・短所を考える
8・9月			
10月	1日～7日 就職ガイダンス③ 業界・企業研究 就職模擬テスト② 一般常識テスト 15日～21日 就職模擬テスト③	2日 就職ガイダンス④ プログラマ適性対策講座 面接手法を学ぶ 就職模擬テスト③ CAB模擬テスト	新聞・雑誌・就職課等資料・就職講演・就職雑誌等により業界・業種・職種を研究する ●自己PRを考える
11月	5日～11日 就職ガイダンス④ 履歴書の書き方 就職模擬テスト④ エントリーシート作成 12日～18日 業界セミナー 25日～29日 就職ガイダンス⑤ 就職活動体験報告会	6日 就職ガイダンス⑤ 業界・企業研究 27日 模擬面接会	履歴書完成 自己分析・企業研究に基づいて履歴書(大学所定)を作成し、就職課等で校閲を受ける
12月	9日～20日 業界セミナー	4日・11日 模擬面接会 18日 就職ガイダンス⑥ 直前対策 就職模擬テスト④ SPI模擬テスト	
1月			
2月	個別模擬面接 27日～28日 OB企業セミナー	18日～22日 進路面談 25日～28日 企業プレゼミナー	
3月	4日～13日 合同企業説明会	5日～6日 合同企業説明会	企業訪問 (セミナー・会社説明会・工場見学等)
3月～5月	就職ナビサイトでのエントリー、会社説明会 WEB上での筆記試験 合同企業説明会		企業研究開始(エントリー) 興味を持った企業に対して就職サイト等でエントリーし、個々の企業について理解を深める
6月以降	採用試験受験(面接等) 採用内定(進路決定書類提出、アングート実施)		

学生の確保の見通し等を記載した書類

- 1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況
 - 1-1 学生の確保の見通し
 - (1) 定員充足の見込み …………… P. 2
 - (2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 …………… P. 2
 - (3) 学生納付金の設定の考え方 …………… P. 5
 - 1-2 学生確保に向けた具体的な取組状況 …………… P. 5
- 2 人材需要の動向等社会の要請
 - (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要） …… P. 7
 - (2) 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 …………… P. 7

学生確保の見通し等を記載した書類

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1-1 学生の確保の見通し

(1) 定員充足の見込み

人工知能（AI）やIoT、ロボット、ビッグデータなどの情報技術革新への期待感などを背景に、情報分野を学べる学部・学科の人気の高まっている。本学情報科学部既設4学科及び類似する学部・学科等を持つ近隣他大学においてもその傾向は明らかで、情報分野における志願者数は右肩上がりに推移している。

令和3（2021）年4月に設置を計画している情報科学部データサイエンス学科に対する高校生のニーズ調査の結果においても、入学定員を超える入学意向があり、十分な志願者を確保できる見通しを得ている。

なお、同一法人が設置している広島国際大学健康科学部医療福祉学科において、入学定員超過率が0.49倍で、0.7倍未満となった。

この主な原因としては、福祉・介護現場における他職種との賃金格差や昇給などの賃金処遇面の問題、労働時間や労働環境の問題、キャリア展望の不透明さなど、福祉・介護職としての卒業後の進路に対する不安が大きく影響しているものと考えられる。

本学科は、健康・医療・福祉分野の学部教育の充実と発展を図ることを目的として、医療福祉学部、医療経営学部、心理学部、医療栄養学部を発展的に統合し、令和2（2020）年4月に健康科学部医療福祉学科、医療経営学科、心理学部、医療栄養学科として改組したものである。開設にあたって健康科学部医療福祉学科の定員規模の在り方について、大学内において検討を行った結果、高齢化の更なる進展に伴う福祉・介護需要が確実に増加していく中で、日本国内における福祉・介護人材の量的及び質的な確保は重要な課題であり、福祉・介護人材を安定的に輩出することは、本大学の使命であるとともに、地域福祉の推進に寄与するものでもあることから、当面の間、医療福祉学部医療福祉学科の入学定員100人を維持することとし、募集戦略の強化による学生確保を目指すこととした。

しかしながら、令和2（2020）年度の入学定員充足率は0.49倍となり、入学定員が未充足の結果となった。今後は入学定員充足にむけた各種改善策の取り組みに加えて、学生募集戦略の一層の強化による学生確保に努めることとするが、本学科の入学者数の実態や推移等を見極めつつ、適正規模について検討していくこととする。

(2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

① 私立大学の情報分野の入試志願者数・倍率の推移

河合塾が発行する進学情報誌『ガイドライン』（2019年10月号）によると、私立大学の情報分野の一般入試志願者は、平成27（2015）年度の137,263人から、令和元（2019）年度は223,766人と、この5年間で大きく増加している。志願倍率も平成27（2015）年度3.3倍が、令和元（2019）年度は4.7倍に上昇しており、受験生の人気が高まっている

ことがわかる。

【資料 1】 情報分野の志願者数等の推移（河合塾『ガイドライン』2019 年 10 月号）

② 情報科学部既設学科の入学志願状況等

情報分野の人気上昇の背景には、AI や IoT など情報技術の発展や需要の高まりによる高校生の期待感向上が考えられる。本学情報科学部既設 4 学科においても、平成 27(2015)年度～令和元（2019）年度の志願者数は、右肩上がりの傾向にある。

また、情報科学部の設置地である枚方キャンパスのオープンキャンパス来場者数についても安定して伸びている。

【資料 2】 情報科学部既設学科の志願者数、合格者数、入学者数、定員超過率の推移

【資料 3】 オープンキャンパス来場者数の推移（枚方キャンパス）

③ 類似する学部・学科・コース等を持つ近隣他大学の状況

本学の近隣他大学においても、データサイエンスについて学べる、あるいは類似する学部・学科・コース新設の動きが活発であるが、募集人員を大きく上回る志願者があり受験生の高まるニーズに応えられていない。本学情報科学部にデータサイエンス学科を開設することは、受験生にとって選択肢が増えることになり、大学は相互に志願者を確保できると考えられる。なお、ここで全国の状況ではなく近隣他大学のみを挙げた理由は、本学志願者の 9 割超が近畿 2 府 5 県に所在する高等学校出身者であることによる。

【資料 4】 類似する学部・学科・コース等を持つ近隣他大学一覧

【資料 5】 類似する学部・学科・コース等を持つ近隣他大学の志願状況

④ 受験対象者へのアンケート調査

前述のとおり、本学既設学部・学科の過去 5 年の志願者の 9 割超が近畿 2 府 5 県に所在する高等学校出身者である。その実績を参考に、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県に所在する高等学校の 2 年生に調査を実施し、5,034 人から回答を得た。

回答者の所属クラスは「理系クラス（理系コース）」が 61.0%、「文系クラス（文系コース）」が 16.8%であった。回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」が 60.3%、「国公立大学に進学」が 42.4%、「就職」が 13.0%で、私立大学への進学志望者が多く、大阪工業大学がターゲットとする対象に調査を実施できていると考えられる。回答者の興味のある学問系統は、「工学」が 39.9%で最も高い。次いで「理学」が 24.4%、「経済・経営・商学」が 15.8%と続く。

データサイエンス学科の特色に対する魅力度（「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の割合の合計値）は、すべての項目において 6 割を超えた。最も魅力度が高いのは、「データの分析結果から課題を見つけ、その有効な解決策や新たな知識を見出すことで、製造・販売・流通・教育・健康・スポーツ・防災・農業・食などのさまざまな分野の企業や社会に貢献する。」（72.2%）であり、「とても魅力を感じる」と

回答した人の割合も 27.9%で最も高い。次いで魅力度が高いのは、「社会や企業で得られた膨大（ぼうだい）で多様なデータを教材にして、AI（人工知能）やアプリを使った実践的なデータ分析を学ぶ。」（71.1%）である。以下、「経営や仕事の現場において、AIをはじめとする IT（情報技術）とデータ分析を駆使して、データサイエンスに裏付けられた改善を推進したり、新たな価値を生み出すことができる人材を育成する。」（67.3%）、「地方自治体などの行政機関や企業と連携して、リアルで具体的な課題解決に取り組む。このために、世代、業種などの枠を超えたチームを編成し、協力してデータの分析から解決策の提案・実現までを体験的に学ぶ。」（64.2%）と続く。

受験・入学意向については、データサイエンス学科を「受験したいと思う」と答えた人は 17.4%（877 人）であり、そのうち、大阪工業大学「情報科学部データサイエンス学科」に「入学したいと思う」と回答した人は、87.1%（764 人）で、予定している入学定員 70 人を 10 倍以上も上回っていた。

大学の所在地である「大阪府」の高校在籍者からの入学意向は 15.1%（3,241 人中、490 人）、隣接する「兵庫県」の高校在籍者からの入学意向は 15.2%（1,174 人中、178 人）と、この 2 府県だけでも予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

また、「理系クラス（理系コース）」在籍者からの入学意向は 18.1%（3,070 人中、557 人）と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

【資料 6】 大阪工業大学「情報科学部データサイエンス学科」（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】

⑤ 若年人口、18 歳人口と大学進学率等の推移推計
(0-14 歳人口の長期推計)

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」（出生中位・死亡中位仮定）によれば、我が国の総人口は長期にわたって減少が続くと推計されている。将来的な大学進学者群となる 0-14 歳人口は、2015 年の全国の 0-14 歳人口 1,594.5 万人を 100%とした場合、2040 年は 1,193.6 万人（74.9%）との推計がなされている。本学の主要な学生募集地域である近畿 2 府 5 県（三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）では、2015 年の 0-14 歳人口 284.8 万人（100%）に対し、2040 年は 204.9 万人（71.9%）と、20 年後には約 3 割の減少となる推計がなされている。

(18 歳人口・大学進学率等の長期推計)

中央教育審議会「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」によれば、18 歳人口は、2017 年の 119.8 万人（全国）から、2040 年には 88.2 万人（2017 年比 73.6%）になると推計されている。近畿 2 府 5 県（三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）では、2017 年の 22.2 万人が 2040 年には 15.4 万人（2017 年比 69.3%）になる推計となっている。一方で、大学進学率は上昇傾向が続いている。2040 年の大学進学率（全国）は 57.4%と推計されており、2017 年（52.6%）と比較すると 4.8 ポイント増加することとなっている。なお、近畿地区の大学進学率は他地域と比べて高い府県が多く、京都府が 2017 年度全国 2 位（64.7%）、奈良県 4 位（57.0%）、

大阪府 5 位 (55.3%)、兵庫県 6 位 (55.0%) となっている。また、大学進学時の都道府県別流入率で大阪府は 9.9% の流入超過となっており、全国で 3 番目に高い。

本学では、若年人口、18 歳人口の減少予測を認識、把握した上で、受験生から選ばれる大学、選ばれる学部学科となるための様々な事業展開や教育改革、就職力の強化などに全学で取り組むとともに、今般のデータサイエンス学科設置にあたっては、情報分野、ことにデータサイエンス分野の人気・期待の高まりを受け、かつ、後述する社会課題、ビジネス課題の解決や新たな価値を創造できる人材養成を踏まえた地域の要請に応える計画として推進するものである。本学科の開設後の中長期的な学生募集は、将来の若年人口、18 歳人口の減少の中も、十分に学生を確保できる見込みであると考えている。

(3) 学生納付金の設定の考え方

情報科学部データサイエンス学科の学生納付金は、下表のとおりとする。

(単位：円)

	入学金 (入学時納入)	授業料 (毎年度納入)	教育充実費 (毎年度納入)	諸費 (毎年度納入)
入学初年度	250,000	1,290,000	100,000	13,700
2 年次以降	—	1,290,000	200,000	13,200

学生納付金には入学金、授業料のほか、特色ある教育を充実させるための教育充実費を設定している。諸費を含めた 4 年間の学生納付金合計 6,163,300 円は、類似する学部・学科等を持つ近隣他大学の令和 2 (2020) 年度入学者の納付金平均額に比べて約 7 万円低くなっており、学生募集において競争力のある設定であるとともに、継続的な教育研究を可能とする設定としている。

【資料 7】 類似する学部・学科等を持つ近隣他大学の学生納付金

1 - 2 学生確保に向けた具体的な取組状況

(1) 多様な入学選考 (選抜) 試験の実施

本学では、アドミッションポリシーに沿って、つぎのように多様な入学選考 (選抜) 試験を実施している (令和 2 (2020) 年度入試実績)。

- ・公募制推薦入試
- ・一般入試前期 A 日程 (均等配点方式)
- ・一般入試前期 B 日程 (高得点重視方式)
- ・一般入試後期 D 日程 (高得点 2 教科方式)
- ・一般入試前期 AC・BC、後期 DC 日程 (大学入試センター試験併用入試)

- ・一般入試前期 C・後期 C 日程（大学入試センター試験利用入試）
- ・普通科高校特別推薦入試
- ・専門高校特別推薦入試
- ・ものづくり・調査研究 AO 入試、社会人入試、帰国生徒入試、外国人留学生入試、指定校推薦入試など

また、遠隔地の受験生に対して利便性を図り、広く志願者を確保するため、公募制推薦入試では本学大宮校地のほか 9 会場（南大阪（堺）、京都、神戸、奈良、姫路、和歌山、岡山、徳島、高松）、一般入試前期 A 日程では 16 会場（南大阪（堺）、京都、神戸、奈良、姫路、和歌山、彦根、津、名古屋、金沢、岡山、広島、徳島、高松、松山、福岡）、一般入試後期 D 日程では 3 会場（津、岡山、徳島）に試験場を設け、入学選考（選抜）試験を実施している。

(2) 広報活動

データサイエンス学科の開設に向けて、つぎのような広報活動を行っている。

- (ア) リーフレット類など広報誌の作成【資料 8】
- (イ) ホームページへの新設学科特設サイト開設【資料 9】
- (ウ) 高校 2 年生（受験初年度対象者）に向けてのダイレクトメール発送【資料 10】
- (エ) 受験情報誌、受験サイトへの広告掲載【資料 11】
- (オ) 高等学校等教員対象入試説明会

受験生の進学先決定には高等学校や塾・予備校教員の指導が大きな影響を与えることから、本学では近畿圏の高等学校等教員を主な対象に入試説明会を開催している。令和元（2019）年度は 176 校から計 180 人の参加があり、データサイエンス学科の開設告知をはじめ、本学の教育研究の特色、入試要項、前年度の入試結果など、本学に関する理解度向上に役立っている【資料 12】。

本学ではこれまでも、つぎのような方策により広報活動を行っており、データサイエンス学科の設置にあわせ、更に活動を強化していく計画である。

<本学における主な広報活動>

(ア) ホームページ上での周知

本学ホームページに「受験生の方」という受験生向けページを設け、受験に関する次のような情報を詳しく提供している。

- ・入試要項及び学費、入試 Q&A など
- ・学部・学科、大学院における「アドミッションポリシー」
- ・進学相談会日程一覧
- ・過去の入試結果

(イ) パンフレット類の作成

大学案内や入試ガイドなどのパンフレット類を活用し、本学の概要や特色などを幅広く広報している。

(ウ) 高校・予備校訪問

例年延べ 400～450 校程度の高校・予備校訪問において、受入れ方針や入試要項を伝え、進路指導の現状に関する情報収集を行っている。

(エ) オープンキャンパス

毎年 3 月・7 月・8 月に計 7 回開催し、令和元（2019）年は過去最高の計 8,593 人の来場者数を記録した。模擬授業や施設見学などを通じて、来場者に本学を知ってもらう機会としている。

【資料 13】 令和元（2019）年度オープンキャンパス来場者数

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

データサイエンス学科では、情報処理技術に加えて数理統計に関連する基礎知識と問題解決能力を身につけることで、新たな価値を創造できるデータサイエンスのプロフェッショナル人材を養成する。

具体的にはディプロマ・ポリシーに掲げている能力を習得させる。

【データサイエンス学科ディプロマ・ポリシー】

データサイエンス学科では、情報科学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。

- (A) 情報処理技術およびデータの収集・分析から得られた成果の活用が人や社会および自然等に及ぼす影響を理解し、それらの改善に取り組むことができる。〔データサイエンスの活用が社会に与える影響を理解する能力〕
- (B) 社会システムの発展・改良に向け、広い視野および倫理的な視点から判断し、行動できる。〔広い視野および倫理的な視点からの判断力と行動力〕
- (C) 情報処理技術および数理統計に関連する基礎知識を有しており活用できる。〔知識の活用力〕
- (D) 課題の背景を理解する能力を有しており、データの収集・分析に基づいた問題解決ならびに価値創造を提案することができる。〔問題解決や価値創造を提案できる能力〕
- (E) 自分の考えを論理的かつ正確に伝え、かつ、相手を理解するために必要なコミュニケーション能力を有し、他者と協働して活動することができる。〔他者と協働して活動できる能力〕

(2) 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①社会的要請

『第 5 期科学技術基本計画』（平成 28（2016）年 1 月閣議決定）において、狩猟社会、

農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会である Society 5.0 の実現に向けた取組の推進が掲げられた。IoT、ロボット、人工知能（AI）、ビッグデータといった社会の在り方に影響を及ぼす新たな技術が進展し、我が国は、これら先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会である Society 5.0 の実現を目指している。『科学技術イノベーション総合戦略 2017』（平成 29（2017）年 6 月閣議決定）では、「Society 5.0 を実現していくには、そのために必要な基盤技術を牽引する人材の育成・確保が不可欠である。特に、必要な基盤技術を支える横断的な科学技術である数理科学や計算科学技術、データサイエンスの振興や人材育成が重要」としている。

実世界で測定され、収集、蓄積されるデータの爆発的増加に伴い、蓄積されたデータを分析し、ビジネスに有用な新たな価値を創造するデータサイエンティストの需要は急増している。経済産業省の『IT 人材需給に関する調査』（平成 31（2019）年 3 月）では、2018 年時点で IT 人材の不足数は 22 万人、2030 年に 45 万人不足すると試算（中位シナリオ）し、さらに「AI やビッグデータ、IoT 等、第 4 次産業革命に対応した新しいビジネスの担い手として、付加価値の創出や革新的な効率化等により生産性向上等に寄与できる IT 人材」と定義される先端 IT 人材は 2030 年に 27～55 万人不足すると試算している。また、「AI を実現する数理モデルについての研究者や AI 機能を搭載したソフトウェアやシステムの開発者、AI を活用した製品・サービスの企画・販売者」とする AI 人材は 2018 年時点で 3.4 万人、2030 年に 12.4 万人不足すると試算（平均シナリオ）。政府の統合イノベーション戦略推進会議は令和元（2019）年 6 月に『AI 戦略 2019』を策定し、年間 25 万人の AI 人材（データサイエンス・AI を理解し、各専門分野で応用できる人材）を育成する目標を掲げた。

このように、本学が養成しようとするデータサイエンティスト、IT 人材、AI 人材に対する需要は将来にわたって見込まれており、社会的要請は大きい。

②企業等への採用意向調査

本学情報科学部既設学科卒業生の就職実績を参考に、データサイエンス学科卒業生の就職先として想定される企業の人事採用担当者を対象に調査を実施し、257 社から回答を得た。回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は 23.7%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人は 68.1% であり、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できたと考えられる。回答企業の本社所在地は、「東京都」が 42.8% と最も多く、次いで本学の所在地である「大阪府」が 30.7% であった。回答企業の業種としては、「情報通信業」が 61.9% と最も多く、次いで「サービス業」が 10.5%、「金融・保険業」が 8.2% と多い。回答企業の平均的な正規社員の採用人数は、「100 名以上」が 22.2% で最も多く、すべての企業が毎年、1 名以上の正規社員を採用している。

データサイエンス学科の社会的必要性については、99.2%（255 企業）が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学科であると評価している。

データサイエンス学科卒業生に対する採用意向については、「採用したいと思う」と答

えた企業は 95.7% (246 企業) で採用想定人数の合計は 674 名と、予定している入学定員 70 名を大きく上回っている。

また、業種別に見ると、「採用したいと思う」と答えた割合は、製造業 95.0%、情報通信業 98.1%、金融・保険業 90.5%、複合サービス事業／サービス業 93.3%で、「その他」(左記以外)でも 88.9%であった。業種に関係なく採用意向が高いことがわかる。

【資料 14】 大阪工業大学「情報科学部データサイエンス学科」(仮称) 設置に関する
ニーズ調査結果報告書【企業対象調査】

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料目次

- 【資料1】 情報分野の志願者数等の推移（河合塾『ガイドライン』2019年10月号）
- 【資料2】 情報科学部既設学科の志願者数、合格者数、入学者数、定員超過率の推移
- 【資料3】 オープンキャンパス来場者数の推移（枚方キャンパス）
- 【資料4】 類似する学部・学科・コース等を持つ近隣他大学一覧
- 【資料5】 類似する学部・学科・コース等を持つ近隣他大学の志願状況
- 【資料6】 大阪工業大学「情報科学部データサイエンス学科」（仮称）設置に関するニーズ調査
結果報告書【高校生対象調査】
- 【資料7】 類似する学部・学科等を持つ近隣他大学の学生納付金
- 【資料8】 情報科学部データサイエンス学科 広報用リーフレット
- 【資料9】 情報科学部データサイエンス学科 特設サイト
- 【資料10】 高校2年生（受験初年度対象者）向けダイレクトメール
- 【資料11】 受験情報誌への掲載広告
- 【資料12】 令和元（2019）年度大阪工業大学入試説明会 実施報告
- 【資料13】 令和元（2019）年度オープンキャンパス来場者数
- 【資料14】 大阪工業大学「情報科学部データサイエンス学科」（仮称）設置に関するニーズ調査
結果報告書【企業対象調査】

1. 書類等の題名

本文 2 ページ

定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

【資料1】 情報分野の志願者数等の推移（河合塾『ガイドライン』2019年10月号）

2. 出典

雑誌名：Guideline（ガイドライン）

出版元：河合塾

号数等：2019年10月号

<https://www.keinet.ne.jp/magazine/guideline/backnumber/19/10/gaku.pdf>

3. 引用範囲

注目の学部・学科 数理・データサイエンス

P46 <図表2> 情報分野の志願者数・倍率の推移

4. その他の説明

なし

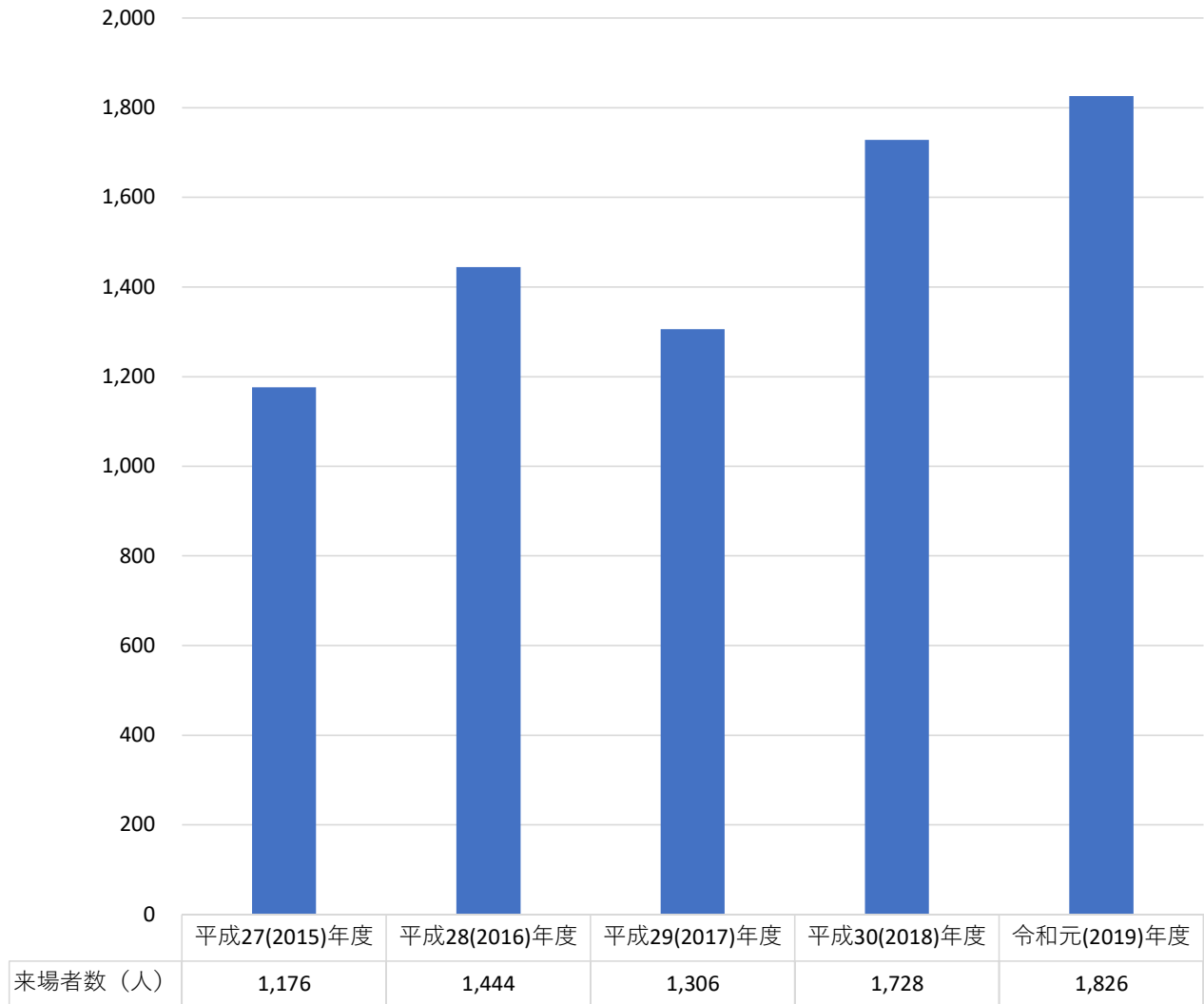
【資料2】 情報科学部既設学科の志願者数、合格者数、入学者数、定員超過率の推移

年度	情報科学部既設4学科	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	定員超過率
平成27 (2015) 年度	コンピュータ科学科	95	834	331	102	1.07
	情報システム学科	95	1,157	349	109	1.15
	情報メディア学科	95	871	337	106	1.12
	情報ネットワーク学科	95	545	287	105	1.11
	合計	380	3,407	1,304	422	1.11
平成28 (2016) 年度	コンピュータ科学科	95	845	273	110	1.16
	情報システム学科	95	1,163	291	101	1.06
	情報メディア学科	95	1,185	304	103	1.08
	情報ネットワーク学科	95	599	284	106	1.12
	合計	380	3,792	1,152	420	1.11
平成29 (2017) 年度	コンピュータ科学科	105	579	281	103	0.98
	情報システム学科	105	1,568	268	99	0.94
	情報メディア学科	105	966	300	111	1.06
	情報ネットワーク学科	105	551	245	107	1.02
	合計	420	3,664	1,094	420	1.00
平成30 (2018) 年度	コンピュータ科学科	105	703	279	97	0.92
	情報システム学科	105	1,964	256	92	0.88
	情報メディア学科	105	1,120	248	102	0.97
	情報ネットワーク学科	105	597	237	96	0.91
	合計	420	4,384	1,020	387	0.92
令和元 (2019) 年度	情報知能学科※	105	1,176	370	98	0.93
	情報システム学科	105	2,357	312	115	1.10
	情報メディア学科	105	1,935	290	106	1.01
	ネットワークデザイン学科※	105	676	330	116	1.10
	合計	420	6,144	1,302	435	1.04

※令和元（2019）年度、学科名称変更

以上

【資料3】オープンキャンパス来場者数の推移（枚方キャンパス）



【資料4】 類似する学部・学科・コース等を持つ近隣他大学一覧

大学・学部・学科			コース等	所在地	開設年
滋賀大学	データサイエンス学部	データサイエンス学科		滋賀県彦根市	平成29 (2017) 年
立命館大学	情報理工学部	情報理工学科	先端社会デザイン コース	滋賀県草津市	平成29 (2017) 年
	理工学部	数理科学科	データサイエンス コース		令和2 (2020) 年
龍谷大学	先端理工学部	数理・情報科学課程		滋賀県大津市	令和2 (2020) 年
京都産業大学	情報理工学部	情報理工学科	データサイエンス コース	京都府京都市	平成30 (2018) 年
関西大学	総合情報学部	総合情報学科	社会情報システム系	大阪府高槻市	平成19 (2007) 年
大和大学	理工学部	理工学科	数理科学専攻	大阪府吹田市	令和2 (2020) 年
兵庫県立大学	社会情報科学部	社会情報科学科		兵庫県神戸市	平成31 令和元 (2019) 年

以上

【資料5】類似する学部・学科・コース等を持つ近隣他大学の志願状況（一般入試・センター利用）

大学・学部・学科	年度	入試日程等	志願者数 (a)	募集定員 (b)	a/b			
滋賀大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科 平成29（2017）年開設	平成29 （2017） 年度※1	前期日程	203	80	4.9			
		後期日程	186					
		計	389					
	平成30 （2018） 年度※1	前期日程	156	80	3.7			
		後期日程	140					
		計	296					
	平成31/令和 元（2019） 年度※1	前期日程	209	70	6.0			
		後期日程	209					
		計	418					
兵庫県立大学 社会情報科学部 社会情報学科 平成31/令和元（2019年）開設	平成31/令和 元（2019） 年度※2	前期	180	80	10.7			
		中期	674					
		計	854					
京都産業大学 情報理工学部 情報理工学科 平成30（2018）年開設	平成30 （2018） 年度※3	前期スタンダード3科目	937	89	47.3			
		前期高得点重視3科目	734					
		前期スタンダード2科目	230					
		前期高得点重視2科目	181					
		前期センタープラス	689					
		センター前期4科目	288					
		センター前期5科目	256					
		中期スタンダード3科目	282					
		中期高得点重視3科目	229					
		中期センタープラス	143					
		後期	182					
		センター後期	59					
		計	4,210					
		平成31 令和元 （2019） 年度※3	前期スタンダード3科目			896	87	47.5
			前期高得点重視3科目			700		
	前期スタンダード2科目		199					
	前期高得点重視2科目		162					
	前期センタープラス		675					
	センター前期4科目		278					
	センター前期5科目		246					
	中期スタンダード3科目		286					
	中期高得点重視3科目		241					
	中期センタープラス		149					
	後期		228					
	センター後期		73					
	計	4,133						

大学・学部・学科	年度	入試日程等	志願者数 (a)	募集定員 (b)	a/b
立命館大学 情報理工学部 情報理工学科 平成29(2017)年開設	平成29 (2017) 年度 ※4	全学統一	1,648	266	17.7
		学部個別配点方式	492		
		センター併用 情報理工学部型	430		
		センター+面接	4		
		後期分割	312		
		センター7科目	730		
		センター5科目	559		
		センター3科目	480		
		センター後期	66		
		計	4,721		
		平成30 (2018) 年度 ※4	全学統一		
	学部個別配点方式		628		
	センター併用 情報理工学部型		542		
	センター+面接		4		
	後期分割		224		
	センター7科目		794		
	センター5科目		687		
	センター3科目		469		
	センター後期		24		
	計		5,384		
	平成31/ 令和元 (2019) 年度 ※5		全学統一	1,722	266
		学部個別配点方式	533		
		センター併用 情報理工学部型	459		
		センター+面接	4		
		後期分割	180		
		センター7科目	600		
		センター5科目	458		
		センター3科目	555		
		センター後期	25		
		計	4,536		

大学・学部・学科	年度	入試日程等	志願者数 (a)	募集定員 (b)	a/b
関西大学 総合情報学部 総合情報学科	平成29 (2017) 年度 ※6	学部個別日程・全学部日程	3,270	280	18.8
		後期日程	868		
		センター前期	607		
		センター中期	450		
		センター後期	78		
		計	5,273		
	平成30 (2018) 年度 ※6	学部個別日程・全学部日程	3,418	280	19.1
		後期日程	959		
		センター前期	475		
		センター中期	434		
		センター後期	48		
		計	5,334		
	平成31/ 令和元 (2019) 年度 ※6	学部個別日程・全学部日程	4,413	280	23.2
		後期日程	672		
		センター前期	682		
		センター中期	671		
		センター後期	45		
		計	6,483		

出典

- ※1 滋賀大学公式ホームページ (入学者選抜資料 平成29年度、30年度、31年度)
- ※2 兵庫県立大学公式ホームページ (入学者選抜実施結果_平成31年度)
- ※3 京都産業大学入試ガイド2018、2019
- ※4 各入試年度入試調査結果調査 (ベネッセコーポレーション調べ)
- ※5 立命館大学入試ガイド2019
- ※6 関西大学入試ガイド2017、2018、2019

以上

大阪工業大学
「情報科学部 データサイエンス学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和1年12月
株式会社 進研アド

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2021年4月開設予定の大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		三重県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	7,537人(52校)
	有効回収数 (回収校数)	5,034人(41校) 有効回収率:66.8%
調査時期		2019年10月2日(水)～2019年11月15日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
<ul style="list-style-type: none">・性別・高校種別・高校所在地・所属クラス・高校卒業後の希望進路・興味のある学問系統・大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に対する魅力度・大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」への受験意向・大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」への入学意向

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」に対する需要を確認するための調査として設計。大阪工業大学の主な学生募集エリアと想定される三重県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し、5,034人から回答を得た。

- 回答者の性別は「男性」が72.8%、「女性」が26.7%である。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が43.9%、「私立」が56.1%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、大阪工業大学の所在地である「大阪府」が64.4%を占め、最も高い。次に「兵庫県」が23.3%、「京都府」が6.7%と続く。
- 回答者の所属クラスは「理系クラス(理系コース)」が61.0%を占め、最も高い。次に「文系クラス(文系コース)」が16.8%、「その他」が15.7%と続く。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」が60.3%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が42.4%、「就職」が13.0%と続く。私立大学への進学志望者が多いことから、大阪工業大学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の学びと関連する「工学」が39.9%で最も高い。次いで、「理学」が24.4%、「経済・経営・商学」が15.8%と続く。

高校生対象 調査結果まとめ

大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に対する魅力度

- 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目において6割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「B. データの分析結果から課題を見つけ、その有効な解決策や新たな知識を見出すことで、製造・販売・流通・教育・健康・スポーツ・防災・農業・食などのさまざまな分野の企業や社会に貢献する。」(72.2%)であり、「とても魅力を感じる」と回答した人の割合も27.9%で最も高い。

次いで魅力度が高いのは、「A. 社会や企業で得られた膨大(ぼうだい)で多様なデータを教材にして、AI(人工知能)やアプリを使った実践的なデータ分析を学ぶ。」(71.1%)である。以下、「D. 経営や仕事の現場において、AIをはじめとするIT(情報技術)とデータ分析を駆使して、データサイエンスに裏付けられた改善を推進したり、新たな価値を生み出すことができる人材を育成する。」(67.3%)、「C. 地方自治体などの行政機関や企業と連携して、リアルで具体的な課題解決に取り組む。このために、世代、業種などの枠を超えたチームを編成し、協力してデータの分析から解決策の提案・実現までを体験的に学ぶ。」(64.2%)と続く。

※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」への受験意向／入学意向

- 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」を「受験したいと思う」と答えた人は、17.4% (877人)である。
- 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」を「受験したいと思う」と答えた877人のうち、大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」に「入学したいと思う」と回答した人は、87.1% (764人)である。

高校生対象 調査結果まとめ

大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」への 入学意向者数

※ここからは、大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は、15.2% (5,034人中、**764人**)。予定している入学定員数70名を大きく上回っている。

<属性別>

◇性別

- 「男性」の入学意向は18.2% (3,663人中、**668人**)で、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。また、「女性」の入学意向についても6.6% (1,342人中、**89人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- 大阪工業大学の所在地である「大阪府」の高校在籍者からの入学意向は15.1% (3,241人中、**490人**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。また、隣接する「兵庫県」の高校在籍者からの入学意向は15.2% (1,174人中、**178人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」在籍者からの入学意向は18.1% (3,070人中、**557人**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

◇高校卒業後の希望進路別

- 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は18.1% (3,035人中、**550人**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。

◇興味のある学問系統別

- 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の学問内容と関連する「工学」に興味がある回答者の入学意向は25.2% (2,009人中、**507人**)と、予定している入学定員数を大きく上回る入学意向者がみられた。また、「経済・経営・商学」に興味がある回答者の入学意向は17.0% (796人中、**135人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に対する魅力度別

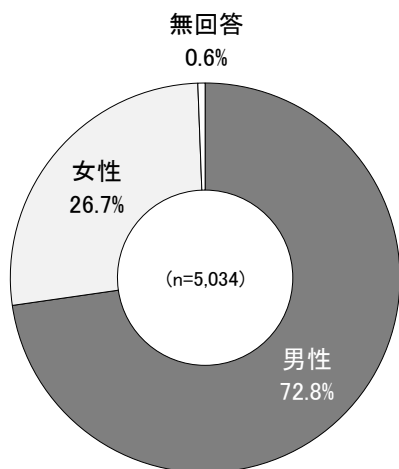
- 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に魅力を感じている回答者の入学意向は、いずれの特色でも20%程度みられ、新学科の特色に魅力を感じた人からの入学意向が高い傾向がうかがえる。

高校生対象 調査結果

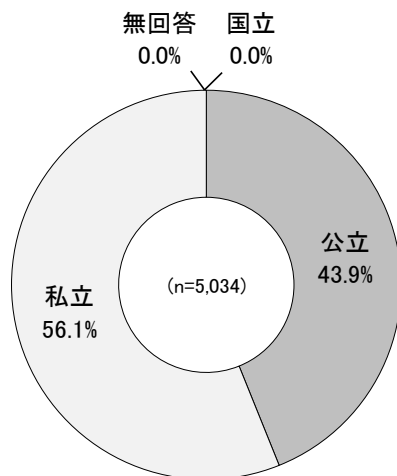


回答者の属性(性別／高校種別／高校所在地／所属クラス)

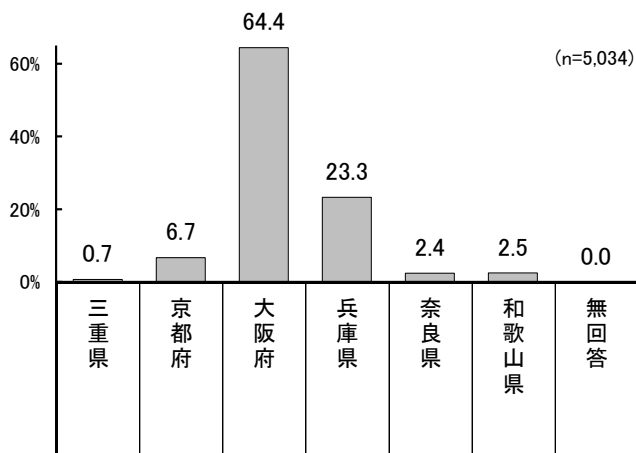
■性別



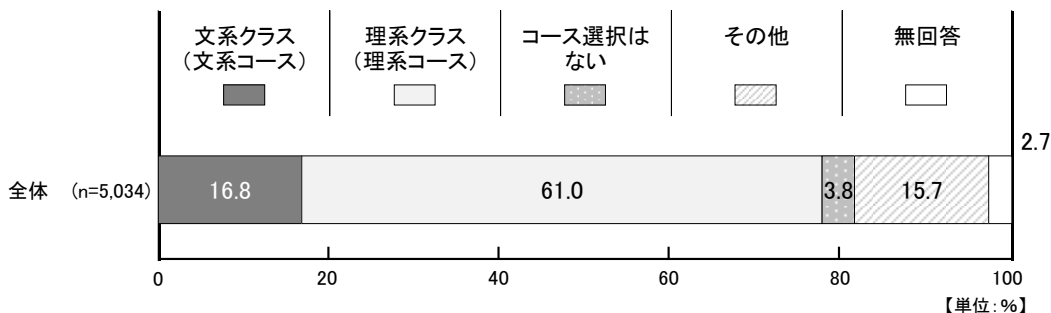
■高校種別



■高校所在地



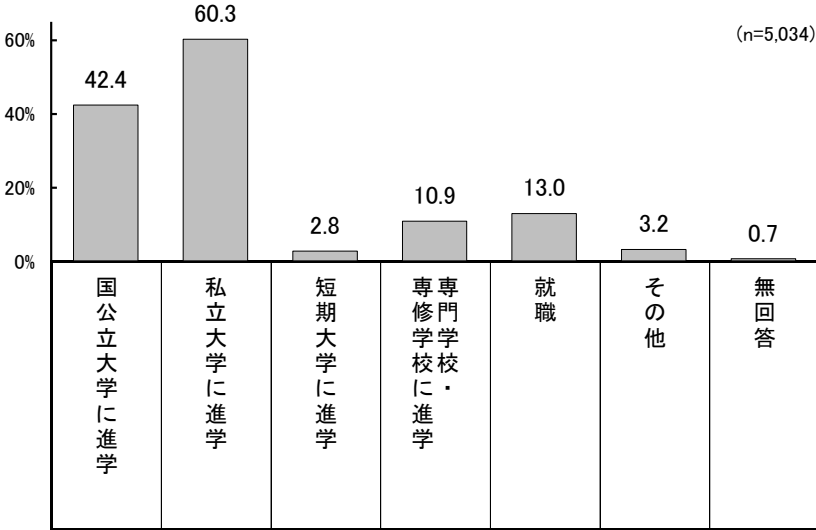
■所属クラス



高校卒業後の希望進路／興味のある学問系統

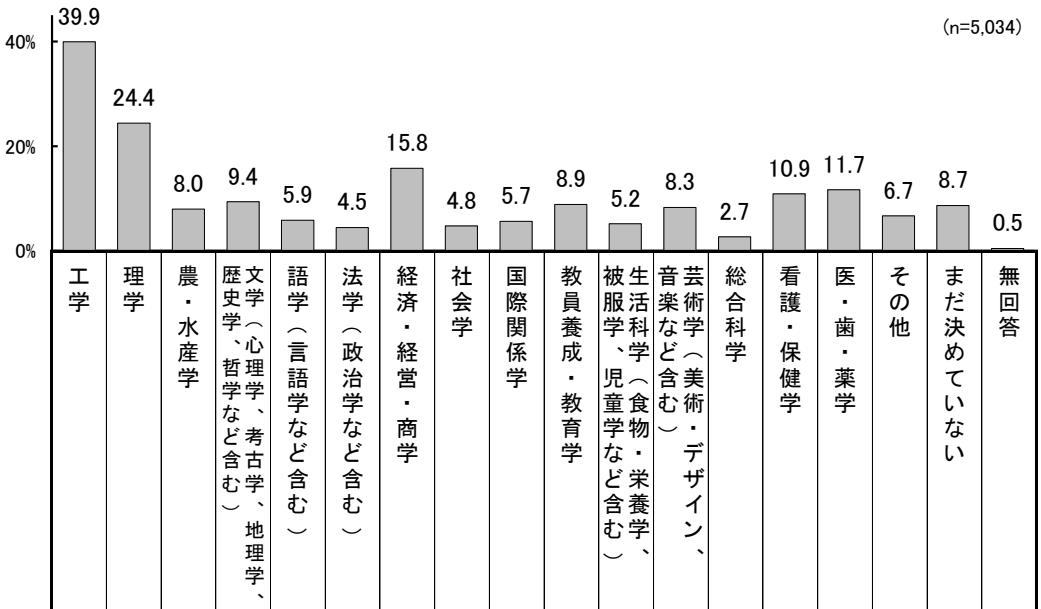
■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



■興味のある学問系統

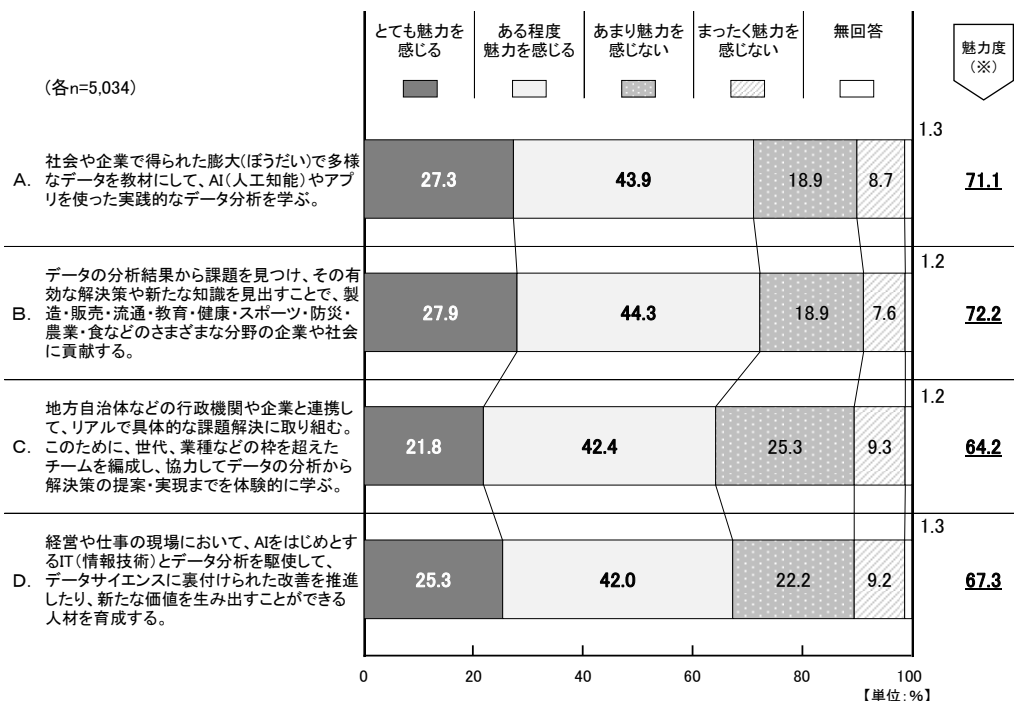
Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。
以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に対する魅力度

■大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に対する魅力度

Q3. 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



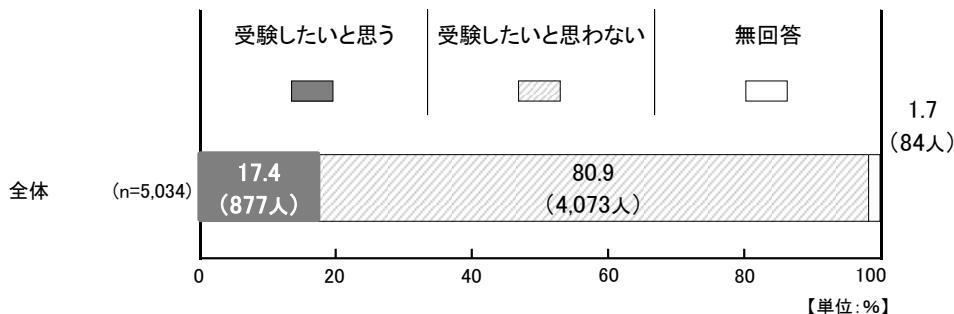
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」への受験意向／入学意向

■大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」への受験意向

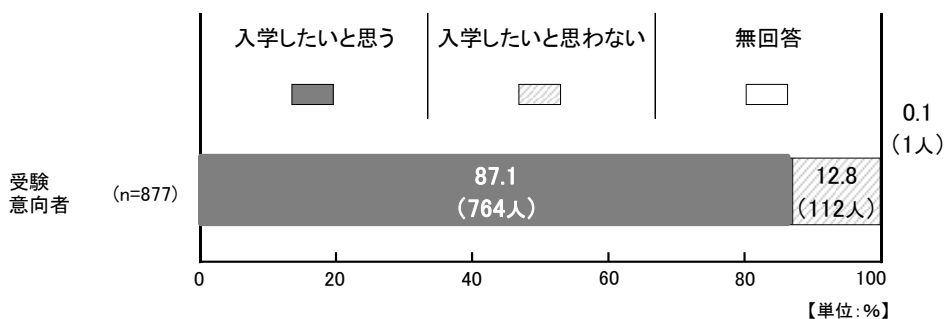
Q4. あなたは、大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた877人のみ抽出

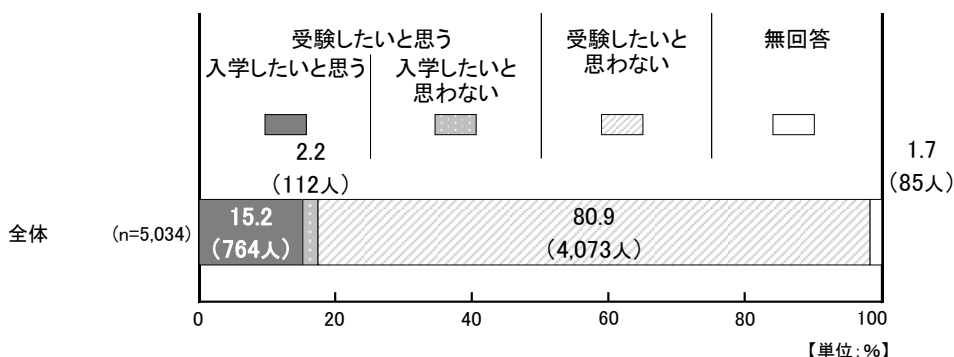
■大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」への入学意向

Q5. あなたは、大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)に合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

■大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」への受験意向別入学意向

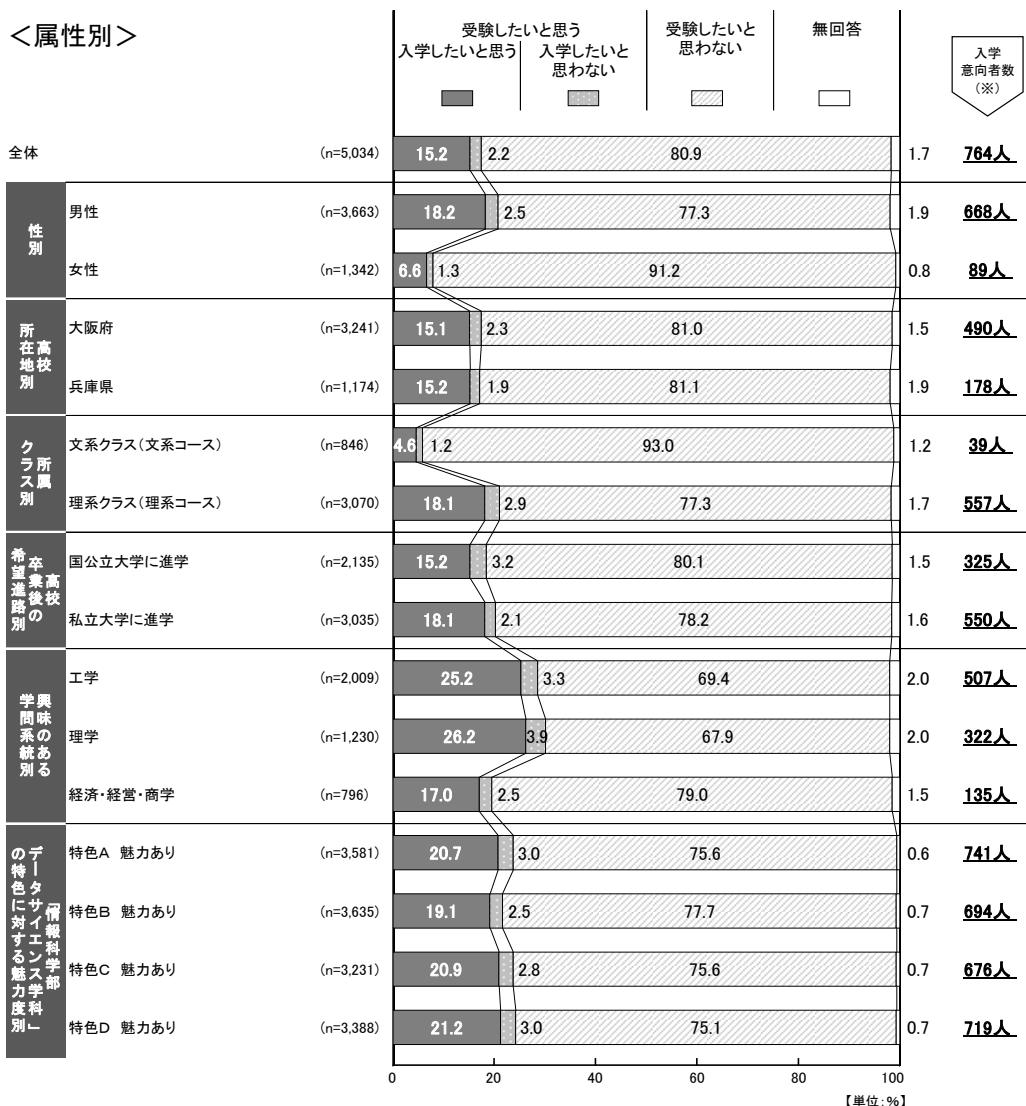


大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」への 受験意向別入学意向<属性別>

■大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」への受験意向別入学意向 <属性別>

※大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

<属性別>



※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

卷末資料 調查票



【資料7】 類似する学部・学科等を持つ近隣他大学の学生納付金

大学	学部	学科等	1年次				2年次			3年次			4年次			合計
			入学金	授業料	教育充実費 ／実験実習 費／施設費	諸費	授業料	教育充実費 ／実験実習 費／施設費	諸費	授業料	教育充実費 ／実験実習 費／施設費	諸費	授業料	教育充実費 ／実験実習 費／施設費	諸費	
大阪工業大学	情報科学部	データサイエンス学科	250,000	1,290,000	100,000	13,700	1,290,000	200,000	13,200	1,290,000	200,000	13,200	1,290,000	200,000	13,200	6,163,300
立命館大学	情報理工学部	情報理工学科	200,000	1,566,200	-	23,000	1,566,200	-	15,000	1,566,200	-	15,000	1,566,200	-	15,000	6,532,800
立命館大学	理工学部	数理工学科	200,000	1,509,400	-	23,000	1,509,400	-	15,000	1,509,400	-	15,000	1,509,400	-	15,000	6,305,600
龍谷大学	先端理工学部	数理・情報科学課程	260,000	1,029,000	223,600	33,000	1,029,000	483,600	13,500	1,029,000	483,600	13,500	1,029,000	483,600	43,500	6,153,900
京都産業大学	情報理工学部	情報理工学科	270,000	989,000	245,000	19,500	992,000	510,000	6,500	992,000	510,000	6,500	992,000	510,000	16,500	6,059,000
関西大学	総合情報学部	総合情報学科	260,000	1,302,000	-	27,000	1,432,000	-	27,000	1,432,000	-	7,000	1,432,000	-	7,000	5,926,000
大和大学	理工学部	理工学科	180,000	1,430,000	-	50,000	1,560,000	-	35,000	1,560,000	-	35,000	1,560,000	-	35,000	6,445,000

※他大学の学生納付金は各大学のHPより（令和2(2020)年度入学者の学生納付金）

データを使い、 世界を動かせ。



情報科学部 DEPARTMENT OF DATA SCIENCE

データサイエンス学科 (仮称)

2021年4月開設予定 (設置構想中)

※学科の概要等は予定であり、今後変更になる場合があります。

 みらいを つくる つたえる まもる
大阪工業大学
OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

時代のニーズが高まる分野、
データサイエンス。
あふれるデータを分析し、
新たな価値を生み出す
プロになる。

✦ データサイエンスとは？

データサイエンスとは、多種多様なデータをもとに新たな価値を創造するための学問。情報処理や統計学、AIなどを駆使してデータを研究・分析することで、膨大なデータから新たな価値を生み出し、社会の発展に役立てます。

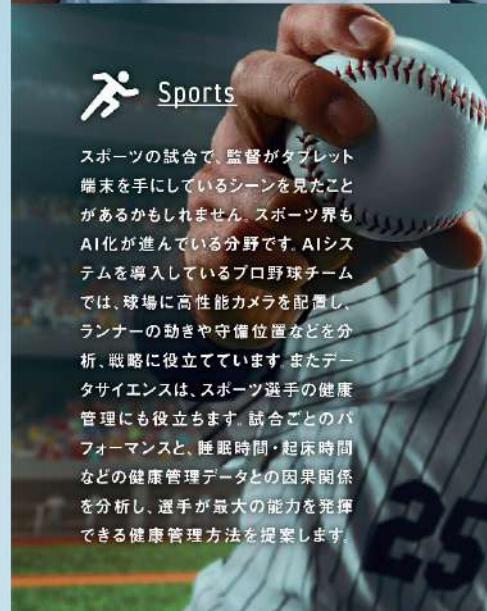
✦ ICT(情報通信技術)に強い大阪工業大学 だからできる、文理融合の新たな学び。

データサイエンスのプロフェッショナルをめざすには、情報技術や数理統計、経営システムなど、文系・理系の枠を超えた多様な知識が必要です。本学情報科学部は、既存の理系4学科*との有機的に連携した学びを展開。既存4学科が「ICTを「作る人」をめざすのに対し、価値創造マインドや課題解決能力、コミュニケーション能力を備えたICTを「使いこなす人」をめざします。1922年の開学以来「現場で活躍できる知的専門職業人」を育成してきた大阪工業大学。未来のデータサイエンティストを育成する環境が整っています。

*既存の理系4学科：情報科学部 情報知能学科、情報システム学科、情報メディア学科、ネットワークデザイン学科



CASE.1
SNSの書き込みから
AIが好みのファッション
をキャッチ。



✦ Sports

スポーツの試合で、監督がタブレット端末を手にしているシーンを見たことがあるかもしれません。スポーツ界もAI化が進んでいる分野です。AIシステムを導入しているプロ野球チームでは、球場に高性能カメラを配置し、ランナーの動きや守備位置などを分析、戦略に役立てています。またデータサイエンスは、スポーツ選手の健康管理にも役立ちます。試合ごとのパフォーマンスと、睡眠時間・起床時間などの健康管理データとの因果関係を分析し、選手が最大の能力を発揮できる健康管理方法を提案します。

情報科学部 データサイエンス学科(仮称) 2021年4月開設予定

本学科では、社会や企業などで得られる膨大で多様なデータを、AIやアプリを使って実践的に分析する手法を学びます。それらの分析結果から課題を見つけ、有効な解決策や新たな価値を見出すことで、製造・販売・流通・教育・健康・スポーツ・防災・農業・食などのさまざまな分野の企業や社会で活躍できる人材を育成します。

POINT 1 データ分析→課題発見→解決。 情報を使いこなす文理融合の学び。

実在するデータを使用し、アプリやプログラミングなどのITスキルを高め、分析力を磨きます。シミュレーションや演習、プロジェクト等を通じて、意思決定力やコミュニケーション力を鍛え、経営システムも学ぶことで価値創造マインドを身に付けます。ITスキル・データ分析力・価値創造マインドを育成する文理融合の学びが、データサイエンティストとして活躍できる力を伸ばします。

POINT 2 情報技術で機器やシステムを作る、既存4学科と連携。

情報科学部の既存4学科とチームを組み、AI・IoTを基盤としたシステム開発など、課題解決のためのデータ分析から実装までを一貫して学びます。他学科には最新の情報通信技術を修得する学生たちが集います。本学科では、データサイエンス的アプローチを学ぶだけでなく、AI・IoTやICTの技術を身に付け、データ分析や問題解決能力を養います。



Social Networking Service

SNSに上がってくる広告が、欲しいものや気になる商品だったこと、ありませんか？実はそれ、SNSに書き込んだ言葉やアップした写真をAIが検知して、関連する広告を表示しているのです。「〇〇(ブランド名)のスカートめっちゃかわいい!」など書き込んだ文章から、ブランド名や好みのデザインなどをAIがデータとして検知、検索履歴やよく見るサイト・画像などもデータとして検知され、SNSやインターネットの広告表示、企業のブランディング・マーケティングに利用されています。

実はこんなところにも！
『データサイエンスのなせる技』

CASE.2

選手のあらゆる動きをAIで分析。
監督の采配を支える。

CASE.3

レーンを回る寿司の鮮度や売上状況のビッグデータを分析。



Food

回転寿司の大手チェーンでは、レーンを回る寿司の鮮度や売上状況を管理しています。いつ、どこかの店舗で、どんな寿司がレーンに流れ、いつ食べられたか等のデータを、寿司皿につけたICタグで把握。年間10億件以上にもなるビッグデータで需要予測し、レーンに流す寿司の種類や量をコントロールしています。他にもデータサイエンスは、健康年齢を改善する食生活の提案にも役立ちます。定期健診データから将来の健康状態を予測し、摂取カロリーなどから食生活を分析。その人に適した「健康レシピ」の推薦に活用されています。

ビジネスシーンや暮らしの中に、さまざまなかたちでデータサイエンスが活用されており、社会が発展していくためにも欠かせないこの学問には、無限の可能性が広がっています。大阪工業大学でデータサイエンティストと一緒にめざしませんか？

(設置構想中)

POINT

3 企業・行政と連携した実践的PBL教育。

大阪の地で約100年の歴史を刻んできた本学は、公的機関と連携した「地域産業支援プラットフォーム」などの産官学連携に数多く取り組んでいます。本学科では企業・行政との連携を生かし、現場のデータで演習を行う実践的PBL教育(問題解決型学習)や共同研究でスキルを磨きます。

連携先の例 金融・保険会社 / メーカー / IT企業 / 病院 / 製薬会社 / ヘルスケア企業 / 小売・物流会社 / 建設会社 / 食品会社 / 農業 / 行政(防災・減災、防犯、福祉、環境など)

めざす進路(具体的な活躍分野)

データサイエンティストとして、さまざまな産業や官公庁・地方自治体においてデータ解析能力を活かした価値創造が期待されます。どのような分野においても、データに基づく意思決定は必須のものとなっています。以下にデータサイエンティストが活躍できる具体的な例を挙げます。

- 製造業(製品開発・企画、マーケティング、品質管理、イノベーション)
- 金融・保険業(商品開発・企画、クウォンツ、ビッグデータ解析、データコンサルタント)
- ITを中心とした広告・流通企業(商品開発・企画、世論調査・社会調査、データマイニング)
- 官公庁・地方自治体(公的データの作成、データに基づく政策決定)
- 中学・高校を含む教育機関(数学および情報の教員、教育効果の分析、教育コンテンツの開発)
- IT企業(付加価値を創造するSE、データアナリスト)
- 経営コンサルタント

✧ 本学科の目的、養成する人材像

情報処理技術に加えて数理統計に関連する基礎知識と問題解決能力を身につけることで、新たな価値を創造できるデータサイエンスのプロフェッショナル人材を養成します。具体的には右記に掲げる能力の習得を目指します。

- 情報処理技術およびデータの収集・分析から得られた成果の活用が人や社会および自然等に及ぼす影響を理解し、それらの改善に取り組むことができる。
- 社会システムの発展・改良に向け、広い視野および倫理的な視点から判断し、行動できる。
- 情報処理技術および数理統計に関連する基礎知識を有しており活用できる。
- 課題の背景を理解する能力を有しており、データの収集・分析に基づいた問題解決ならびに価値創造を提案することができる。
- 自分の考えを論理的かつ正確に伝え、かつ、相手を理解するために必要なコミュニケーション能力を有し、他者と協働して活動することができる。

✧ 開設予定科目

データサイエンス実践演習I・II／プログラミング基礎／人工知能／価値創造演習／データマイニング／IoT概論／統計解析／モデリングとシミュレーション／マーケティング論／発想法と問題解決／データ構造とアルゴリズム など

入学定員 70名

学 費

初年次納付金 1,640,000円 / 2年次以降 1,490,000円

※学費は情報科学部の2020年度入学生の学費に基づいており、変更となる場合があります。正式な学費は、2021年度学生募集要項等で公表します。

✧ 情報科学部 データサイエンス学科(仮称)で身に付ける能力

ITスキル

大量のデータを収集・保管・活用するだけでなく、価値創造を実現するための能力

データ分析力

データ分析のための基礎理論を身に付け、AIやアプリを使って分析する能力

価値創造力

課題の背景を理解するための知識および、チームで問題解決するための能力



類似する学部学科(他大学)

- 滋賀大学 / データサイエンス学部 データサイエンス学科
- 兵庫県立大学 / 社会情報科学部 社会情報科学科
- 京都産業大学 / 情報理工学部 情報理工学科(データサイエンスコース)
- 立命館大学 / 情報理工学部 情報理工学科(先端社会デザインコース)
- 鎌倉大学 / 先端理工学部 数理・情報科学課程
- 関西大学 / 総合情報学部 総合情報学科(社会情報システム系)
- 大和大学 / 理工学部 理工学科(数理学専攻)

交通アクセス

枚方キャンパス 〒573-0196 大阪府枚方市北山1丁目79-1

- JR学研都市線長尾駅から、京阪バス「北山中央」「大阪工大前」下車すぐ
※授業期間内の平日には直通便も運行

- 京阪本線樟葉(くずは)駅、枚方市駅から、京阪バス「北山中央」「大阪工大前」下車すぐ

- JR京橋駅から 31分(JR快速・京阪バス) □ 京阪祇園四条駅から 42分(京阪特急・京阪バス)

[入試部(大宮キャンパス)]

〒535-8585 大阪市旭区大宮5丁目16-1

TEL:06-6954-4086

<https://www.oit.ac.jp>



データサイエンス学科(仮称)の詳細は随時更新中。詳しくはwebをチェック!

大阪工業大学 データサイエンス学科 検索

<https://www.oit.ac.jp/is/datascience/>



- 枚方キャンパス 【情報科学部】データサイエンス学科(2021年4月開設予定・設置構想中) / 情報知能学科 / 情報システム学科 / 情報メディア学科 / ネットワークデザイン学科
- 大宮キャンパス 【工学部】都市デザイン工学科 / 建築学科 / 機械工学科 / 電気電子システム工学科 / 電子情報システム工学科 / 応用化学科 / 環境工学科 / 生命工学科
- 【知的財産学部】知的財産学科
- 梅田キャンパス 【ロボティクス&デザイン工学部】ロボット工学科 / システムデザイン工学科 / 空間デザイン学科

発行:2019年10月

大阪工業大学 情報科学部 データサイエンス学科
OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

データサイエンスとは | 教育の特色 | 新学科の位置づけ

データサイエンス学科 (2021年 開設予定 (設置構想中))

設置計画は現在構想中です。
また、設置計画は予定であり、内容に変更があり得ます。

今後、さまざまなビジネス分野で戦略的にデータを扱うために、
数理的思考をもち、データを分析・活用できる人材が求められています。
本学科は、さまざまなデータから新たな価値を創造できる人材(データサイエンティスト)の育成を目指します。

CASE 01	CASE 02	CASE 03	CASE 04
<p>Sport スポーツ</p>	<p>Health care 健康</p>		
<p>Sport × Health care</p>		<p>野球やサッカーの試合ごとのパフォーマンスと、睡眠時間・起床時間などの健康管理データとの因果関係を分析し、プレーヤーにとって最大の運動能力を発揮できる最適な健康管理方法を提案してくれます。</p>	

本学科での学びは、次のような考えの人にマッチします。

- 時代の変化から生まれるリアルな課題解決に興味がある
- 人や社会にかかわる課題解決に挑戦したい
- ビックデータ処理やデータマイニングなどにより新しい発見を目指したい
- 課題の背景を理解し、データを基にした解決方法を検討する能力を身に付けたい
- 情報システムの企画・設計から開発までを体得したい
- AIやデータ分析のアプリを使って仕事を進めたいと考えている

✦ データサイエンス学科における教育の特色 ✦

アプリを使ってデータ分析を学ぶのか!!
これなら僕にもできそうだ。



ITスキル



大量のデータを収集・保管・活用だけでなく、価値創造を実現するためにも、**情報技術**は欠かせません。

社会や企業に価値ある知恵を提供するという視点が大切なのです。



データ分析力



データ分析のための基礎理論を学びます。そして、AIやアプリを使って分析する能力を磨きます。

価値創造力

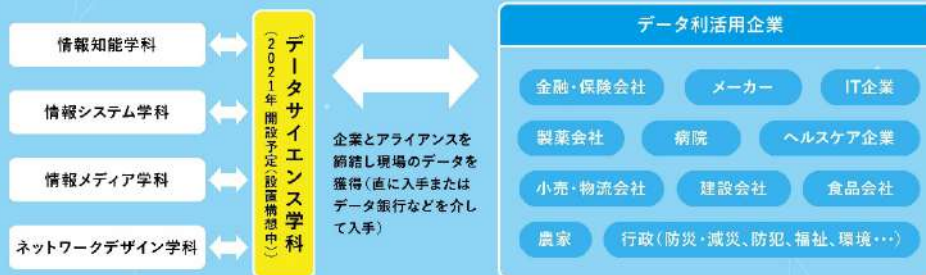


課題の背景を理解するための知識を身につけます。また、**チーム**で問題解決を図るための演習もあります。

- 社会や企業の課題に対する**データサイエンス的アプローチ**を学ぶだけではありません。既設4学科とチームになりAI/IT(情報技術)を基盤とした**システム開発**も含んでいます。課題解決のために**分析から実装までの一貫した問題解決**に挑戦する機会があります。
- 1年次では**アプリの使い方やプログラミングの基礎**を学び、2年次からは社会や企業のデータとアプリを使って**分析力**を磨きます。

- ・シミュレーションや演習、プロジェクト等を通じて、**意思決定力**や**コミュニケーション力**を鍛えます。
- ・情報科学部において培われた**教育プログラム**により、**ITスキル**を高めます。
- ・ジョイントした企業と、**PBL**や**共同研究**などを介して、**価値創造力**を実践的に学びます。

✦ データサイエンス学科の位置づけ ✦



- ・企業や地方自治体などの行政機関と連携することで実際のデータを獲得し、その分析を通じて新しい価値を生み出すための研究を推進します。
- ・情報科学部の既設4学科の有する情報技術とデータ活用企業の課題解決を適合させる役割を果たします。
- ・AI/IT(情報技術)の開発よりも**AI/ITを使いこなせる人材**を育成します。



プレビューイメージ (配信予定日: 2019/11/29)

タイトル

【京都産業大学と一緒に検討したい大学情報】 社会が求める新しい分野の学びにチャレンジ!

本文

こんにちは。Benesse編集室のアキモトです。

皆さんはまだ2年生ですが、そろそろ進路について本格的に考え始める季節になりました。来年をイメージして早めに受験の準備に入りましょう。

今回は、滋賀県の高校に通うあなたに、京都産業大学と一緒に志望校登録されることが多い大阪工業大学の情報をお届けします！
ぜひ、大学研究の参考にしてください。

「」ご紹介する大学「」

[大阪工業大学](#)

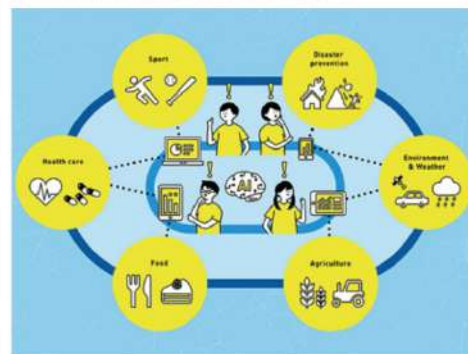
==INDEX=====

●今日の「データサイエンス」って何だろう？

●文理融合で学ぶ新しいデータサイエンス

=====

今注目の「データサイエンス」って何だろう？



工学系に興味のあるあなたは、時代のニーズが高まる分野である「データサイエンス」を知っていますか？

「データサイエンス」とは、多種多様なデータをもとに新たな価値を創造するための学問。情報処理や統計学、AIなどを駆使してデータを研究・分析することで、膨大なデータから新たな価値を生み出し、社会の発展に役立てるものです。

日本政府もデータサイエンスに注目しており、「情報社会」(Society4.0)のさらに先を行く「超スマート社会」(Society5.0)の基盤的技術としてAIを位置づけています。内閣府を中心としたAI戦略の一つとして本分野の人材育成が急がれており、文系・理系にかかわらずデータサイエンス教育の展開が求められています。そのためさまざまな大学で、データサイエンス教育に向けた環境整備が進んでおり、今後

ますます重要になる分野なのです。

では、このデータサイエンスが活用されているシーンの一例を紹介しましょう。

CASE1.】 SNSの書き込みからAIが好みのファッションをキャッチ

SNSに上がってくる広告が、欲しいものや気になる商品だったこと、ありませんか？ 実はそれ、SNSに書き込んだ言葉やアップした写真をAIが検知して、関連する広告を表示しているのです。検索履歴やよく見るサイト・画像などもデータとして検知され、SNSやインターネットの広告表示、企業のブランディング・マーケティングに利用されています。

CASE2.】 選手のあらゆる動きをAIで分析、監督の采配を支える

スポーツ界もAI化が進んでいる分野です。AIシステムを導入しているプロ野球チームでは、球場に高性能カメラを配置し、ランナーの動きや守備位置などを分析、戦略に役立てています。また、試合ごとのパフォーマンスと、睡眠時間・起床時間などのデータとの因果関係を分析し、選手が最大の能力を発揮できるよう健康管理のサポートにも役立てています。

CASE3.】 鮮度や売り上げ状況などから、寿司の種類や量をコントロール

回転寿司の大手チェーンでは、レーンを回る寿司の鮮度や売り上げ状況を管理しています。いつ、どの店舗でどんな寿司がレーンに流れ、いつ食べられたか等のデータを寿司皿につけたICタグで把握。これらのデータを活用して、レーンに流す寿司の種類や量をコントロールしています。

このように、ビジネスシーンや暮らしの中に、さまざまななかたちでデータサイエンスが活用されています。社会のニーズに応えるべく、データサイエンス分野のプロを育てる新しい学部・学科がどんどん設置されています。

文理融合で学ぶ新しいデータサイエンス



「データサイエンス」の分野を学べる学部・学科がさまざまな大学に設置されるなか、2021年4月には、大阪工業大学情報科学部にデータサイエンス学科（※）が新設される予定です。

※仮称・設置構想中。設置計画は予定であり、内容等変更

なる場合があります。

データサイエンスのプロをめざすには、情報技術や数理統計、経営システムなど、文系・理系の枠を超えた多様な知識が必要です。大阪工業大学 情報科学部には現在、情報知能学科、情報システム学科、情報メディア学科、ネットワークデザイン学科があり、ICT（情報通信技術）を「作る人」をめざす教育が展開されています。このように「ICTに強い大学」だからこそ、未来のデータサイエンティストを育成する環境が整っているといえるでしょう。

・めざす進路

- 新たな価値創造を行えるSE（金融系、流通系、製造系、教育系、公共系）
- ITを中心とした広告・流通企業（ECサイト運営会社）
- 製造業（製品開発・企画、インダストリアルエンジニア）
- 金融・保険業（商品開発・企画）
- 官公庁・地方自治体（公開データに基づくアナリスト）
- 中学・高校を含む教育機関（数学および情報の教員、教育効果の分析、教育用コンテンツの開発）
- 経営コンサルタント

[>>データサイエンス学科（※）の詳細はコチラ](#)

[▲TOPに戻る](#)

2021年度開設予定 新しい大学・学部・学科情報

大阪工業大学

新しい
学科

●情報科学部
データサイエンス学科*

※学科名等、記載内容は変更になる場合があります。
*設置構想中

設置予定地 大阪府枚方市北山1-79-1
問い合わせ先 入試部(大宮キャンパス)
TEL (06) 6954-4086(直)

アクセス
●秋方キャンパス(情報科学部)：京阪本線「塩草」駅、JR学研都市線「長尾」駅からバスで「北山中央」「大阪工大」下車すぐ ※JR「長尾」駅からは直通バスも運行

大学パンフを取り寄せる

※顔のはがきを使おう! / スマートフォン・PCからアクセス

大学パンフコード

3633

[送付物] 大学案内など
[発送時期] 随時
[料金] 無料



maravision.jp

情報科学部

大阪

データサイエンス学科

設立のねらい

多様なデータを分析し
新たな価値を生み出す

情報化がますます進展する近年、ビジネスのあらゆる現場で大量の情報(ビッグデータ)を活用することが増え、「データサイエンス」へのニーズが高まっています。データサイエンスとは、情報処理や統計学、AIなどを駆使して多種多様なデータを研究・分析することで、膨大なデータから新たな価値を生み出し、社会の発展に役立てるといふものです。

データサイエンスのプロフェッショナルをめざすには、情報処理技術に加え、数理統計、経営システムなど、文系・理系の枠を超えた多様な知識が必要です。本学の情報科学部は、既存の理系4学科

(情報知能学科、情報システム学科、情報メディア学科、ネットワークデザイン学科)と有機的な連携により、『データサイエンティスト』を育成する環境を整えています。

何を学ぶか

情報科学部既存4学科と連携し、文理融合の学びを展開

情報科学部の既存4学科と連携し、AI・IoTをベースとしたシステム開発など、課題解決のためのデータ分析から実装までを一貫して学びます。他学科ではICT(情報通信技術)を「作る人」をめざすのに対し、同学科では価値創造マイナンドや課題解決能力、コミュニケーション能力を備えたICTを「使いこなす人」をめざします。データサイエンス的アプローチを学ぶだけでなく、AI・IoTやICTの技術を身に付け、『データサイエンティスト』として必要な能力を身に付けます。

卒業後の進路

ニーズの高いスキルを生かし
社会の多様な場で活躍

『データサイエンティスト』の能力を身に付けることにより、さまざまな分野や企業で活躍することができます。

【めざす進路】

- 製造業(製品開発・企画、マーケティング、品質管理、イノベーション)
- 金融・保険業(商品開発・企画、クウォンツ、ビッグデータ解析、データコンサルタント)
- ITを中心とした広告・流通企業(商品開発・企画、世論調査・社会調査、データマイニング)
- 官公庁・地方自治体(公的データの作成、データに基づく政策決定)
- 中学・高校を含む教育機関(数学および情報の教員、教育効果の分析、教育コンテンツの開発)
- IT企業(付加価値を創造するSE、データアナリスト)
- 経営コンサルタント

大阪



文理融合の学びを展開する。



既存の理系4学科との有機的な連携により、データサイエンティスト育成の環境を整備。

【資料12】

令和元(2019)年度大阪工業大学入試説明会 実施報告について

1. 実施概要

開催地	開催日	会場	出席数		
			2019年度	2018年度	2017年度
梅田	6月3日(月)	梅田キャンパス	74校77人	61校62人	52校53人
京都	6月13日(木)	TKPガーデンシティ京都	28校28人	27校29人	26校27人
神戸	6月14日(金)	神戸三宮東急REIホテル	14校14人	29校29人	16校16人
大宮	6月18日(火)	大宮キャンパス	40校41人	地震の影響により中止 (申込数:33校34人)	59校63人※1
姫路	6月21日(金)	ホテル日航姫路	20校20人	7校7人※2	15校16人※2

合計 176校180人 157校161人※3 168校175人

(対象:高校・予備校等教員)

※1 梅田会場(2回目)実績 ※2 奈良会場実績 ※3 未開催の大阪会場の申込数含む

2. 実施内容

開催地	実施内容
梅田	【挨拶】 本学の取り組みについて
	【新学科紹介】 情報科学部 データサイエンス学科について
	【入試説明】 2019年度入試結果総括 2020年度入試概要 2021年度入試について
	【トピック紹介】 ロボティクス&デザイン工学部のめざす教育
	【キャンパス見学】 ・20階 デザイン演習室(空間デザイン学科) ・15階 学生実験室(ロボット工学科) ・14階 研究フロア(システムデザイン工学科) ・6階 ラーニングコモンズ
	個別懇談

開催地	実施内容
大阪 (大宮)	【挨拶】 本学の取り組みについて
	【新学科紹介】 情報科学部 データサイエンス学科について
	【入試説明】 2019年度入試結果総括 2020年度入試概要 2021年度入試について
	【キャンパス見学】 ・10号館1～3階 ものづくりセンター ・1号館1階 モノラボアネックス ・2号館1～5階 建築学科新拠点
	個別懇談
京都 神戸 姫路	【挨拶】 本学の取り組みについて
	【新学科紹介】 情報科学部 データサイエンス学科について
	【入試説明】 2019年度入試結果総括 2020年度入試概要 2021年度入試について
	学生活動報告
	個別懇談

以上

令和元(2019)年度 オープンキャンパス 来場者数

開催日・キャンパス	男	女	保護者等 (その他子供含む)	計
3/17(日)・梅田キャンパス ※全学部対象、2019年初実施	472	104	286	862
7/14(日)・枚方キャンパス	445	56	222	723
※前年度と比較	413 108%	55 102%	206 108%	674 107%
7/21(日)・梅田キャンパス	440	111	316	867
※前年度と比較	470 94%	157 71%	306 103%	933 93%
8/3(土)・大宮キャンパス	1,305	212	632	2,149
※前年度と比較	1,406 93%	195 109%	547 116%	2,148 100%
8/4(日)・梅田キャンパス	611	195	427	1,233
※前年度と比較	676 90%	203 96%	501 85%	1,380 89%
8/12(月・休)・枚方キャンパス	651	99	353	1,103
※前年度と比較	651 100%	91 109%	312 113%	1,054 105%
8/25(日)・大宮キャンパス	945	162	549	1,656
※前年度と比較	834 113%	151 107%	625 88%	1,610 103%
計	4,397	835	2,499	8,593
	4,450 99%	852 98%	2,497 100%	7,799 110%

大阪工業大学
「情報科学部 データサイエンス学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【企業対象調査】

令和1年12月
株式会社 進研アド

企業対象 調査概要

1. 調査目的

2021年4月開設予定の大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」新設構想に関して、企業のニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業・団体の採用担当者
調査エリア		青森県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、石川県、福井県、長野県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、大分県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	600社
	回収数(回収率)	257社(42.8%)
調査時期		2019年10月2日(水)～2019年10月25日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業対象調査
<ul style="list-style-type: none">・人事採用への関与度・本社所在地・勤務先の主な業種・従業員数・正規社員の平均採用人数・本年度の採用予定数・採用したい学問分野・大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に対する魅力度・大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の社会的必要性・大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」卒業生に対する採用意向・大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」卒業生の毎年の採用想定人数

企業対象 調査結果まとめ



企業対象 調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」に対する人材需要を確認するための調査として設計。大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の卒業生就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、257企業から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は23.7%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人は68.1%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社所在地は、「東京都」が42.8%で最も高い。次いで大阪工業大学の所在地である「大阪府」が30.7%、「愛知県」が5.4%である。
- 回答企業の業種としては「情報通信業」が61.9%で最も高い。次いで「サービス業」が10.5%、「金融・保険業」が8.2%である。
- 回答企業の従業員数(正規社員)は、「100名～500名未満」が38.1%で最も高い。次いで「1,000名～5,000名未満」が29.6%、「500名～1,000名未満」が17.1%である。

回答企業の採用状況(過去3か年)／本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は、「100名以上」が22.2%で最も高い。次いで「10名～20名未満」が18.7%、「50名～100名未満」が17.1%である。すべての企業が毎年、1名以上の正規社員を採用している。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が57.6%で最も高い。次いで「増やす」が28.4%である。回答企業の多くで昨年と同等かそれ以上の採用が予定されている様子である。
- 回答企業の採用したい学問分野を複数回答で聴取したところ、「工学分野」が55.3%で最も高い。次いで「理学分野」が41.2%、「学んだ学問分野にはこだわらない」が40.5%である。

企業対象 調査結果まとめ

大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に対する魅力度

- 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目で9割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「A. 社会や企業で得られた膨大(ぼうだい)で多様なデータを教材にして、AI(人工知能)やアプリを使った実践的なデータ分析を学ぶ。」
「B. データの分析結果から課題を見つけ、その有効な解決策や新たな知識を見出すことで、製造・販売・流通・教育・健康・スポーツ・防災・農業・食などのさまざまな分野の企業や社会に貢献する。」が同率で並び、いずれも96.9%である。

次に魅力度が高いのは「C. 地方自治体などの行政機関や企業と連携して、リアルで具体的な課題解決に取り組む。このために、世代、業種などの枠を超えたチームを編成し、協力してデータの分析から解決策の提案・実現までを体験的に学ぶ。」(95.7%)、「D. 経営や仕事の現場において、AIをはじめとするIT(情報技術)とデータ分析を駆使して、データサイエンスに裏付けられた改善を推進したり、新たな価値を生み出すことができる人材を育成する。」(95.3%)である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の社会的必要性

- 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の社会的必要性については、99.2% (255企業)が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

企業対象 調査結果まとめ

大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、95.7% (**246企業**)である。
- 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた246企業へ、大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**674名**で、予定している入学定員数70名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

<属性別>

◇本社所在地別

- 「西日本」エリアに本社がある企業からの採用意向は、93.4% (121企業中、**113企業**)。採用想定人数の合計は**261人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。「大阪府」に本社がある企業からの採用意向は、93.7% (79企業中、**74企業**)。採用想定人数の合計は**197人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇業種別

- 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の学問内容と関連する「情報通信業」の企業からの採用意向は、98.1% (159企業中、**156企業**)。採用想定人数の合計は**420人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「製造業」「金融・保険業」では、採用意向の割合が90%以上、「その他(上記以外)」でも80%以上と高く、多様な業種で安定した人材需要がうかがえる。

企業対象 調査結果まとめ

◇本年度の採用予定数別

- 本年度の採用予定数を「採用予定あり(増やす・昨年度並み・減らす)」と回答した企業からの採用意向は、96.2%(235企業中、**226企業**)。採用想定人数の合計は**633人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇採用したい学問分野別

- 「工学分野」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、96.5%(142企業中、**137企業**)。採用想定人数の合計は**395人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に対する魅力度別

- 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に魅力を感じている企業からの採用意向は、いずれの特色でも9割を超えており、また、採用人数の合計も同様に、予定している入学定員数をすべて大きく上回っている。

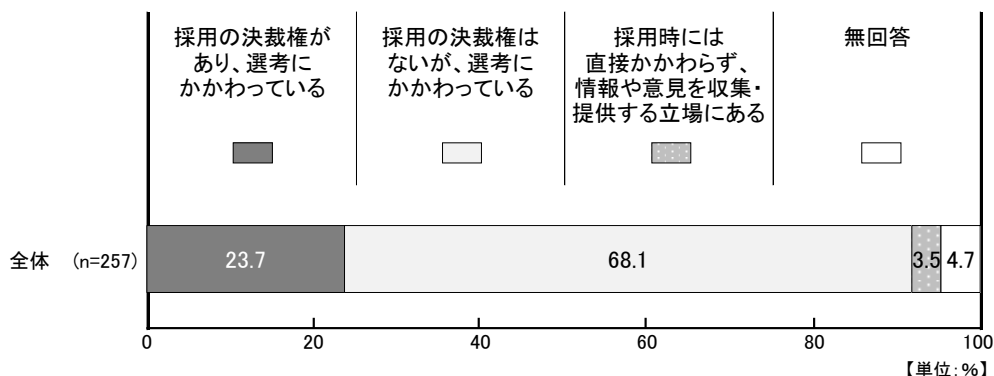
企業対象 調査結果



回答企業(回答者)の属性(人事採用への関与度/本社所在地)

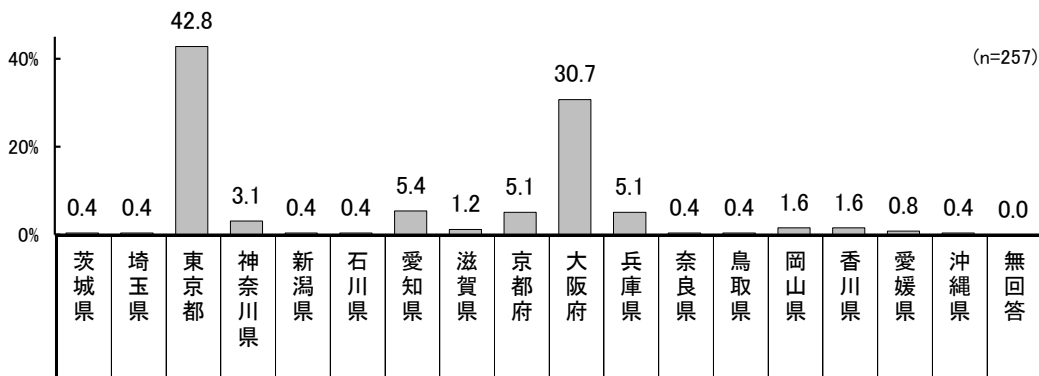
■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■本社所在地

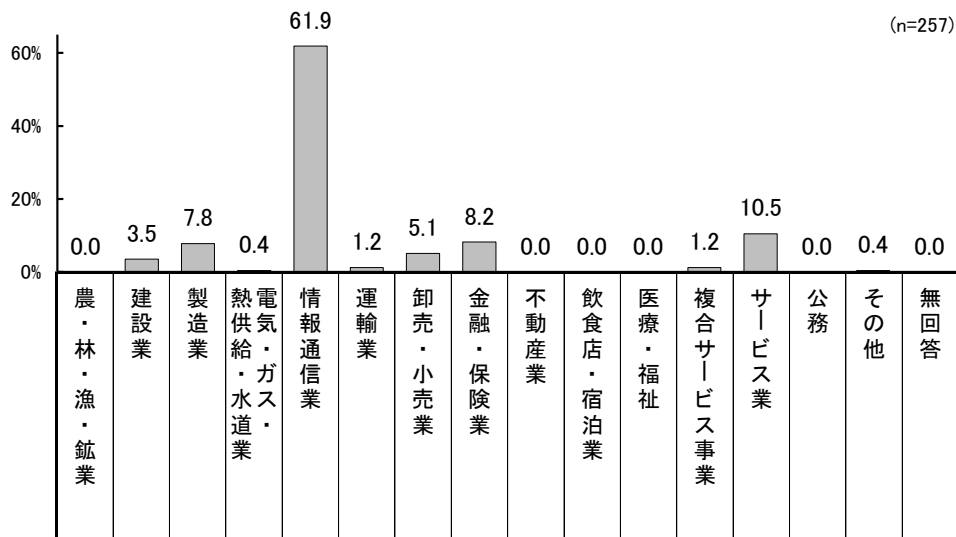
Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。



回答企業(回答者)の属性(勤務先の主な業種/従業員数)

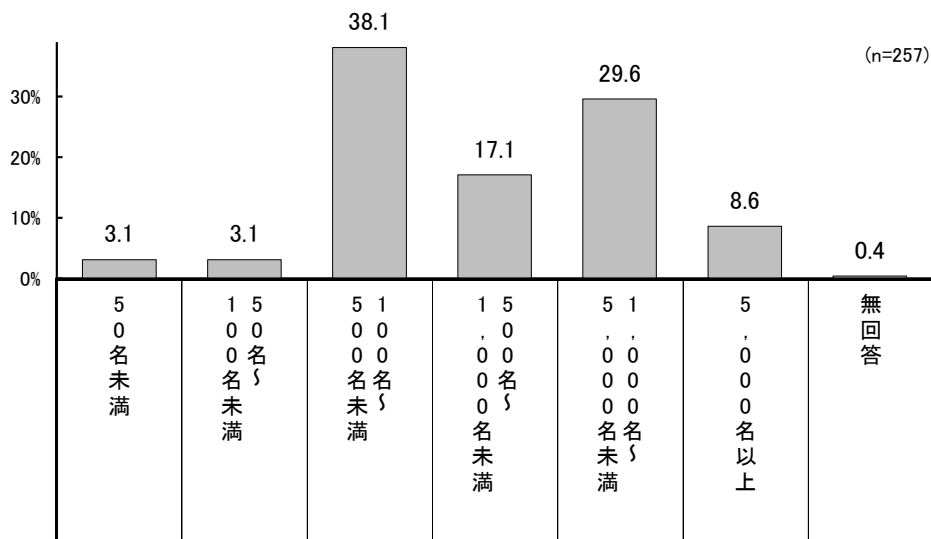
■勤務先の主な業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



■従業員数

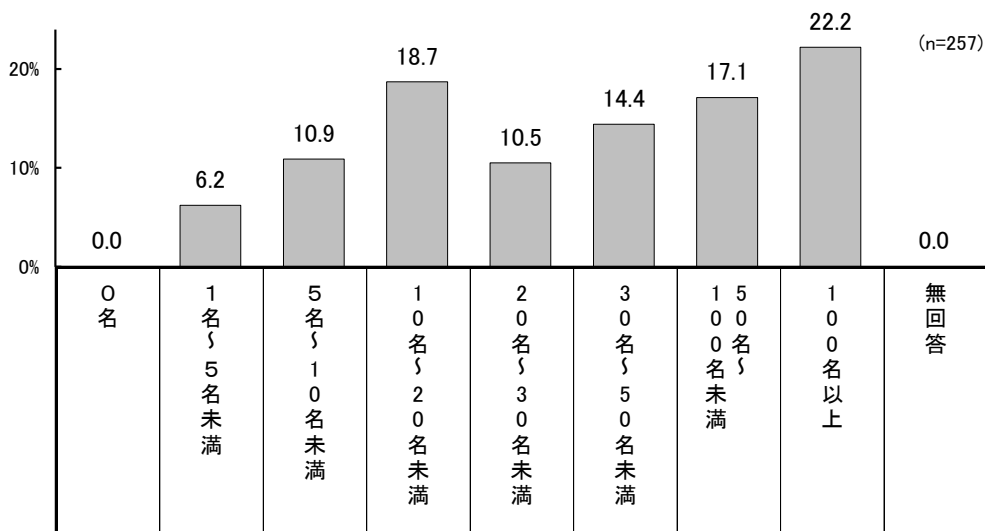
Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



正規社員の平均採用人数／本年度の採用予定数

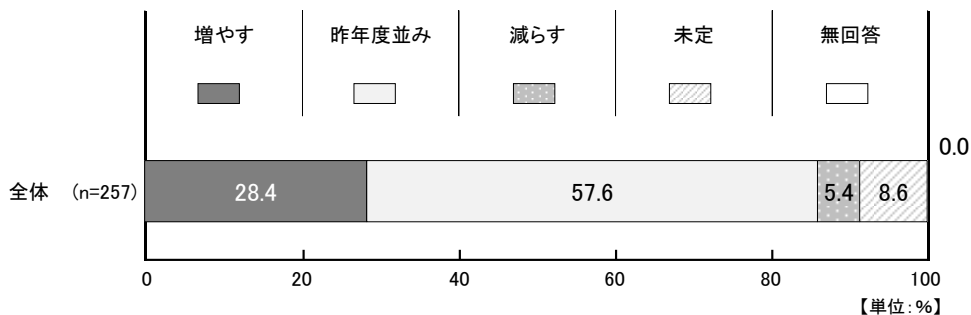
■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■本年度の採用予定数

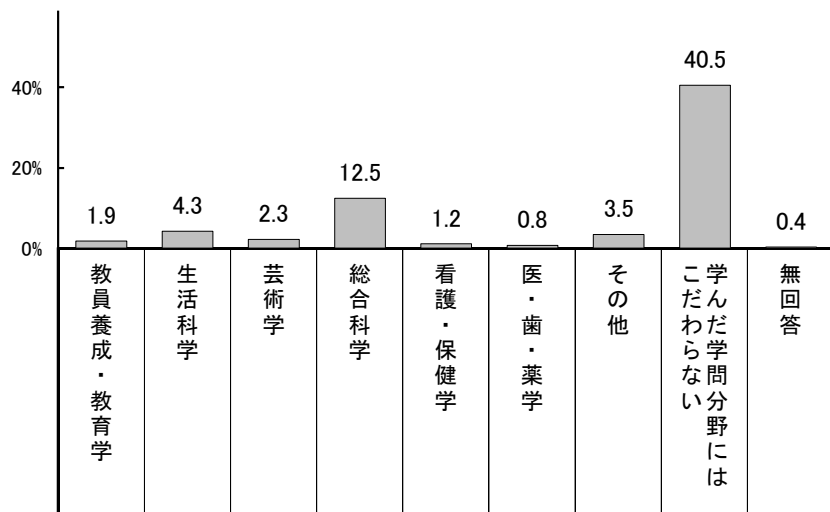
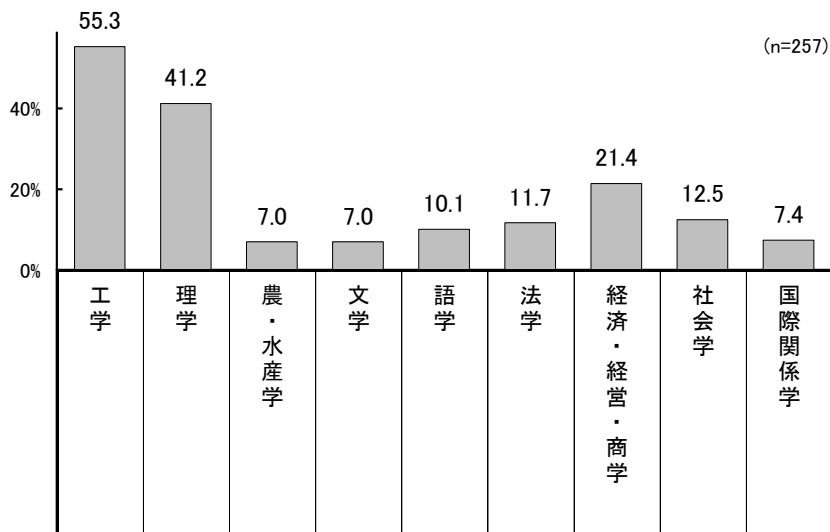
Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)



採用したい学問分野

■採用したい学問分野

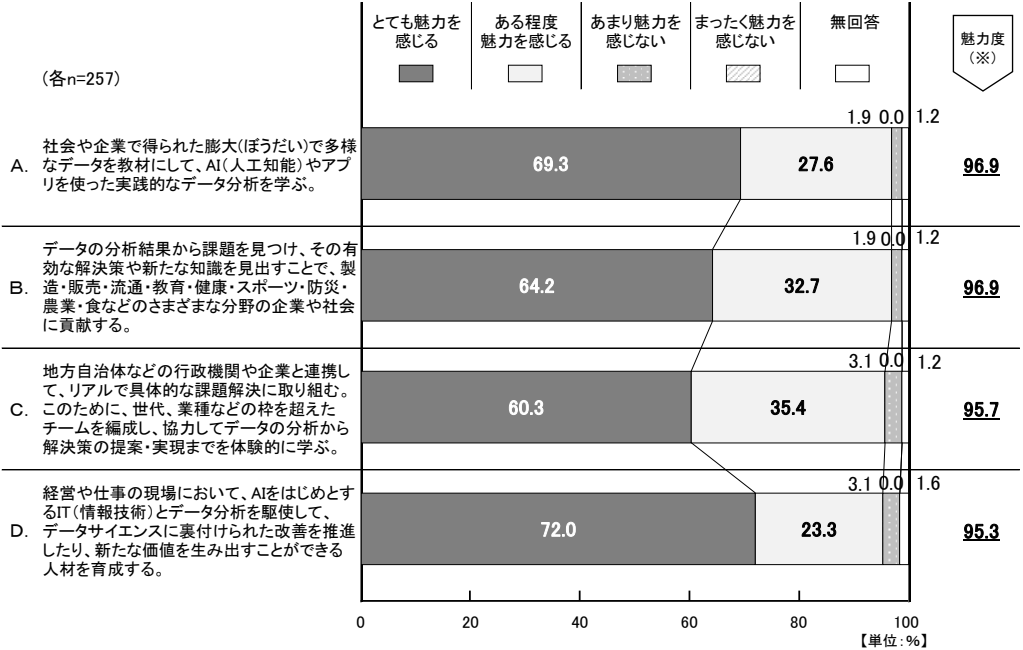
Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)



大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に対する魅力度

■大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の特色に対する魅力度

Q8. 大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



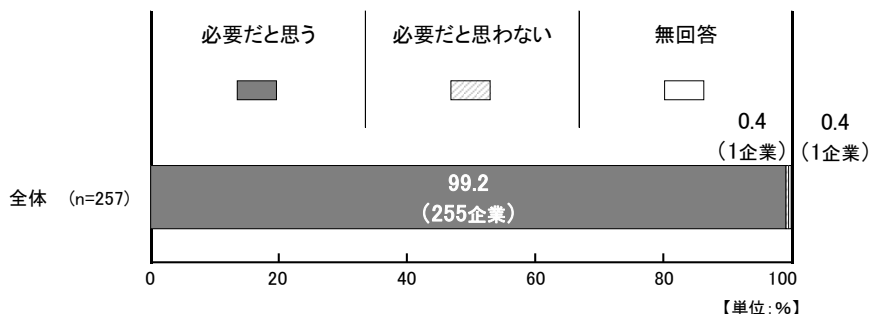
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

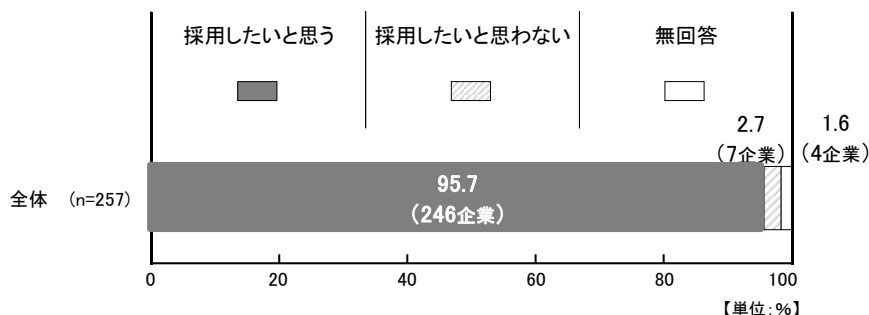
■大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われますか。(あてはまる番号1つに○)



■大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた246企業のみ抽出

■大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)

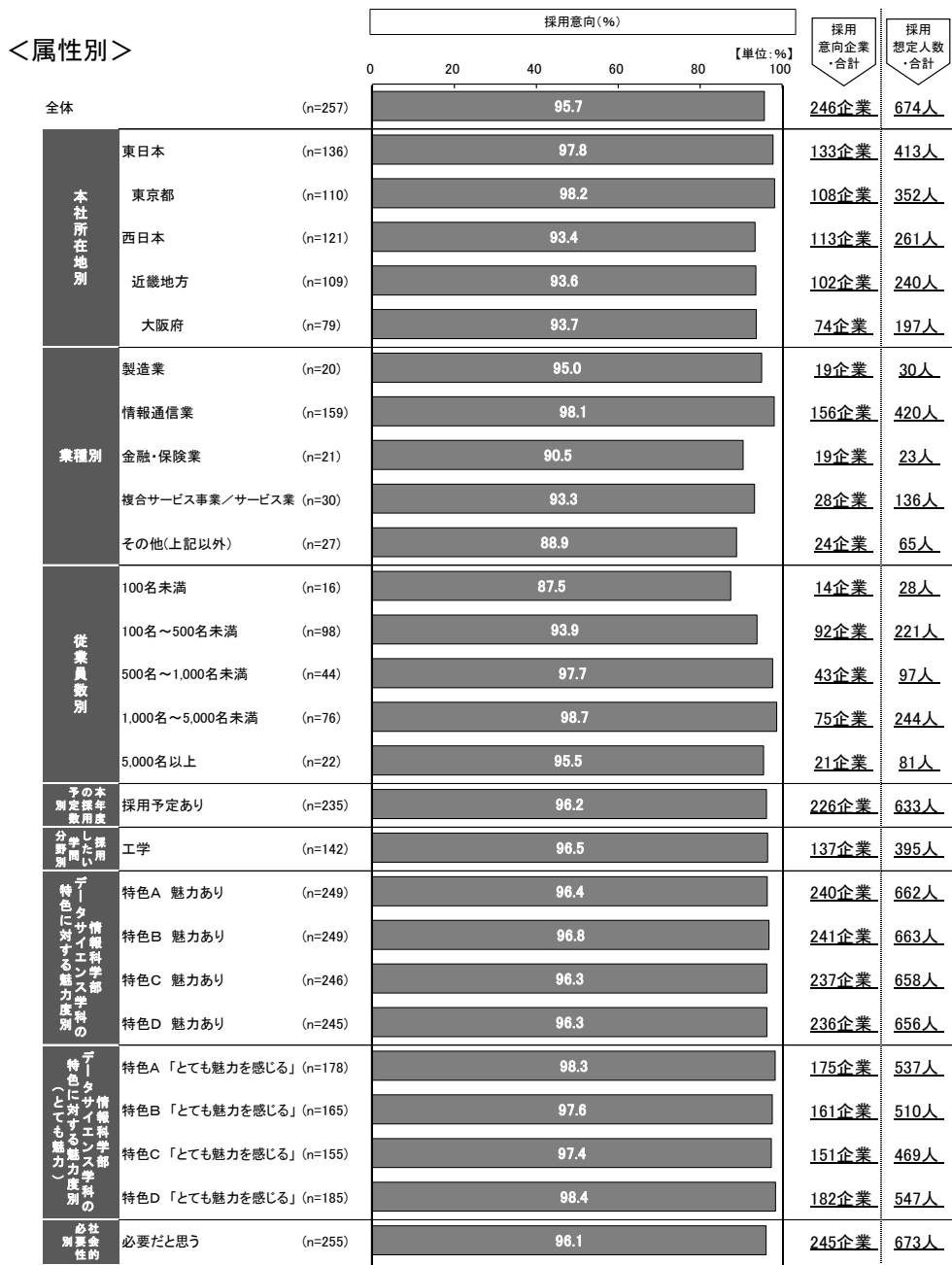
標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 5 9名	10名 以上	計 (※びたの採 用企業 想定人 数・計 人数を)	
		全体	246	% 27.6%	25.2%	24.0%	2.0%		11.8%
		企業数	68	62	59	5	29	14	
		名	68	124	177	20	145	140	

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

■大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数 <属性別>

※大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で具体的な人数を回答した企業の採用想定人数の合計を【採用想定人数】と定義する。



※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

卷末資料 調查票



調査票

大阪工業大学「情報科学部 データサイエンス学科」(仮称)に関するアンケート

大阪工業大学では2021年(令和3年)4月に、「情報科学部 データサイエンス学科」(仮称)を新設することを構想しています。
このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「情報科学部 データサイエンス学科」(仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かわかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|-------------|--------------|
| 1. 農・林・漁・鉱業 | 6. 運輸業 | 11. 医療・福祉 |
| 2. 建設業 | 7. 卸売・小売業 | 12. 複合サービス事業 |
| 3. 製造業 | 8. 金融・保険業 | 13. サービス業 |
| 4. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 9. 不動産業 | 14. 公務 |
| 5. 情報通信業 | 10. 飲食店・宿泊業 | 15. その他 |

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 100名～500名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 0名 | 4. 10名～20名未満 | 7. 50名～100名未満 |
| 2. 1名～5名未満 | 5. 20名～30名未満 | 8. 100名以上 |
| 3. 5名～10名未満 | 6. 30名～50名未満 | |

Q6. 貴社・貴団体の本年年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|----------|--------|
| 1. 増やす | 3. 減らす |
| 2. 昨年度並み | 4. 未定 |

裏面へ続←→

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	マスマ アキ 益山 新樹 <令和元年11月>		工学博士		大阪工業大学 学長 (令和元.11～令和3.10)

別記様式第3号(その2の1)

教 員 の 氏 名 等													
(情報科学部データサイエンス学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数	
1	専	教授 (学科 長)	シハラマツカ 椎原 正次 <令和3年4月>		博士 (工学)		キャリアステップ OIT概論 ※ 数理計画法 情報処理基礎 ※ コンピュータリテラシー オペレーションズ・リサーチ 情報ゼミナール 経営システム論 I 経営システム論 II ※ データサイエンス実践演習 I (卒業研究)	1後 1前 3後 1後 1前 3前 3後 2前 3後 2後	1 0.1 2 0.1 2 2 2 0.5 2 —	1 1 1 1 1 1 1 1 1 —	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 教授 (平成6.4)	5日	
2	専	教授	スヤマタカユキ 須山 敬之 <令和3年4月>		博士 (情報学)		基礎ゼミナール テクニカルライティング データベースシステム 情報技術者論 ※ 情報ゼミナール 人工知能 パターン認識 データサイエンス実践演習 III (卒業研究)	1前 1後 2後 3後 3後 3前 2前 3後	1 2 2 0.9 2 2 2 2 —	1 1 1 1 1 1 1 1 —	日本電信電話株式 会社 コミュニケーション科 学基礎研究所 主幹研究員 (平成4.4)	5日	
3	専	教授	ハマダ エツオ 濱田 悦生 <令和3年4月>		博士 (理学)		微積分学 I 確率・統計 データサイエンス入門 統計解析 情報ゼミナール 数理ファイナンス データサイエンス実践演習 II 価値創造演習 (卒業研究)	1前 2前 1前 2後 3後 3後 3前 3後	4 2 2 2 2 2 2 2 —	2 1 1 1 1 1 1 1 —	大阪大学大学院 基礎工学研究科 特任教授 (平成15.4) 大阪大学 数理・データ科学教 育研究センター兼任 (平成27.10)	5日	
4	専	教授	ヤストノセイゴ 安留 誠吾 <令和3年4月>		博士 (工学)		情報処理基礎 ※ データ構造とアルゴリズム 情報ゼミナール ビジュアルプログラミング論 ソフトウェア工学 教育工学 Java演習 (卒業研究)	1後 2前 3後 2後 2後 3後 2後	0.6 2 2 2 2 2 3 —	1 1 1 1 1 1 1 —	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン 学科 教授 (平成16.4)	5日	
5	専	教授	ミガワケンタロウ 皆川 健多郎 <令和3年4月>		博士 (工学)		コンピュータリテラシー 情報ゼミナール マーケティング論 企業会計論 工業経営論 投資意思決定論 データサイエンス実践演習 I (卒業研究)	1前 3後 3前 3前 2前 3後 2後	2 2 2 2 2 2 2 —	1 1 1 1 1 1 1 —	大阪工業大学 工学部 環境工学科 教授 (平成10.4)	5日	
6	専	准教授	サカヒラフミヒロ 坂平 文博 <令和3年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール キャリアデザイン I 情報ゼミナール データマイニング テキストマイニング モデリングとシミュレーション C演習 I データサイエンス実践演習 II (卒業研究)	1前 2前 3後 2後 2後 3後 1後 3前 —	1 1 2 2 2 2 3 2 —	1 1 1 1 2 1 1 1 —	株式会社構造計画 研究所 (平成19.4)	5日	
7	専	准教授	ヒラシマヨウイチ 平嶋 洋一 <令和3年4月>		博士 (工学)		線形数学 I 情報ゼミナール 機械学習 発想法と問題解決 ロジスティクス データサイエンス実践演習 III (卒業研究)	1前 3後 2前 2前 3後 3後	4 2 2 2 2 2 —	2 1 1 2 1 1 —	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン 学科 准教授 (平成18.4)	5日	

調書 番号	専任等 区分	職位	フナガ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
8	専	准教授	アラキ ヒデオ 荒木 英夫 <令和3年4月>		博士 (工学)		コンピュータ入門 情報通信ネットワーク プログラミング基礎 IoT概論 情報ゼミナール C演習Ⅱ データサイエンス実践演習Ⅰ (卒業研究)	1前 2前 1後 1後 3後 2前 2後 —	2 2 2 2 2 3 2 —	1 1 1 1 1 1 1 —	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 准教授 (平成19.4)	5日
9	専	講師	エグチ ショウイチ 江口 翔一 <令和3年4月>		博士 (数理学)		情報数学 微分方程式 グラフ理論 実験計画法 多変量解析 情報ゼミナール データサイエンス実践演習Ⅰ (卒業研究)	2後 1後 2前 3前 3前 3後 2後 —	2 4 2 2 2 2 2 —	1 2 1 1 1 1 1 —	大阪大学 数理・データ科学教 育研究センター 特任助教 (平成29.8)	5日
10	兼担	教授	アマヤ トオル 雨宮 徹 <令和3年4月>		博士 (学術)		哲学基礎 倫理学基礎 応用倫理学 基礎ゼミナール	2前 1前・後 2後 1前	4 8 6 1	2 4 3 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 教授 (平成31.4)	—
11	兼担	教授	タカ イクエ 田岡 育恵 <令和3年4月>		博士 (文学)		英語表現 (basic1) a 英語表現 (basic1) b 英語の語法 基礎ゼミナール キャリアデザインⅡ	1前 1後 3前 1前 2後	2 2 2 1 1	2 2 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 (平成13.4)	—
12	兼担	教授	ヒラヤマ マコト 平山 亮 <令和4年4月>		博士 (工学)		英語による情報技術Ⅰa 英語による情報技術Ⅰb 情報技術者論 ※ 情報科学実践演習 (国際PBL)	2前 2後 3後 2前・後	1 1 0.7 1	1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 (平成25.4)	—
13	兼担	教授	フジイ ケンイチ 藤井 研一 <令和3年4月>		理学博士		物理学基礎 電磁気学 視る自然科学 ※ 基礎ゼミナール	1前 1後 2後 1前	4 4 0.6 1	2 2 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 教授 (平成19.4)	—
14	兼担	教授	フジ ヒロユキ 藤 博之 <令和3年4月>		博士 (理学)		物理現象の数理 力学 現代物理学入門 視る自然科学 ※ 基礎ゼミナール	2前 1前 2後 2後 1前	4 8 4 0.3 1	2 4 2 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 教授 (令和2.4)	—
15	兼担	教授	ヨコカワ ミ 横川 美和 <令和3年4月>		博士 (理学)		地球科学基礎 地球環境 視る自然科学 ※ 基礎ゼミナール	1前 1後 2後 1前	8 6 0.6 1	4 3 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン 学科 教授 (平成13.4)	—
16	兼担	教授 (学部長)	サノ ムツオ 佐野 睦夫 <令和4年4月>		博士 (工学)		グローバルテクノロジー論 情報技術者論 ※ 情報科学実践演習 (国際PBL)	2前・後 3後 2前・後	1 0.1 1	1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 (平成14.4)	—
17	兼担	教授	フカミ サトル 深海 悟 <令和3年4月>		工学博士		OIT概論 ※ 情報技術者論 ※ 経営戦略論 ※	1前 3後 3後	0.1 0.7 0.6	1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 教授 (平成8.4)	—
18	兼担	教授	マキノ ヒロユキ 牧野 博之 <令和3年4月>		博士 (工学)		OIT概論 ※ 情報技術者論 ※	1前 3後	0.1 0.6	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 教授 (平成20.4)	—
19	兼担	教授	スズキ モトユキ 鈴木 基之 <令和3年4月>		博士 (工学)		OIT概論 ※	1前	0.1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 (平成24.4)	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
20	兼任	教授	ツカモト カツシ 塚本 勝俊 <令和3年4月>		博士 (工学)		OIT概論 ※	1前	0.1	1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン 学科 教授 (平成24.4)	—
21	兼任	教授	イノウエ ススム 井上 晋 <令和3年4月>		博士 (工学)		OIT概論 ※	1前	0.1	1	大阪工業大学 工学部 都市デザイン工学科 教授 (平成7.4)	—
22	兼任	教授	テラシ ヒロユキ 寺地 洋之 <令和3年4月>		学士 (建築学)		OIT概論 ※	1前	0.1	1	大阪工業大学 工学部 建築学科 教授 (平成5.4)	—
23	兼任	教授	シュウ コウ 周 虹 <令和3年4月>		工学博士		OIT概論 ※	1前	0.1	1	大阪工業大学 工学部 電子情報システム工 学科 教授 (平成6.4)	—
24	兼任	教授	ノムラ リョウキ 野村 良紀 <令和3年4月>		工学博士		OIT概論 ※	1前	0.1	1	大阪工業大学 工学部 応用化学科 教授 (平成6.4)	—
25	兼任	教授	イノウエ ユウキ 井上 雄紀 <令和3年4月>		博士 (工学)		OIT概論 ※	1前	0.1	1	大阪工業大学 ロボティクス&デザイ ン工学部 ロボット工学科 教授 (平成8.4)	—
26	兼任	教授	ニシオ コウジ 西應 浩司 <令和3年4月>		博士 (学術)		OIT概論 ※	1前	0.1	1	大阪工業大学 ロボティクス&デザイ ン工学部 空間デザイン学科 教授 (平成19.4)	—
27	兼任	教授	ミノ コロウ 水野 五郎 <令和3年4月>		法学修士 ※		OIT概論 ※	1前	0.1	1	大阪工業大学 知的財産学部 知的財産学科 教授 (平成17.4)	—
28	兼任	教授	カマクラ ヨシナリ 鎌倉 良成 <令和5年4月>		博士 (工学)		線形数学Ⅱ 微積分学Ⅱ	3後 3後	2 2	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 教授 (平成31.4)	—
29	兼任	教授	スナガ ヒロシ 須永 宏 <令和3年4月>		博士 (情報科学)		情報処理基礎 ※	1後	0.4	1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 教授 (平成21.4)	—
30	兼任	教授	ハシモト ワタル 橋本 渉 <令和3年4月>		博士 (工学)		情報処理基礎 ※ 情報科学実践演習 (国際PBL)	1後 2前・後	0.3 1	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 (平成14.4)	—
31	兼任	教授	ヤマダ タカアキ 山田 隆亮 <令和4年4月>		博士 (情報科学)		情報技術者論 ※ システム工学 経営システム論Ⅱ ※ 経営戦略論 ※	3後 2前 3後 3後	0.9 2 0.4 0.7	1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 教授 (平成31.4)	—
32	兼任	教授	コウダ トモコ 神田 智子 <令和5年4月>		博士 (情報学)		情報技術者論 ※	3後	0.7	1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 教授 (平成18.4)	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フツガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
33	兼任	教授	フクザワ ヤスコ 福澤 寧子 <令和5年4月>		博士 (工学)		情報技術者論 ※	3後	0.7	1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン 学科 教授 (平成28.4)	—
34	兼任	教授	ハヤシ シゲキ 林 茂樹 <令和5年4月>		Master of Science in Management (英国)		経営システム論Ⅱ ※	3後	0.4	1	大阪工業大学 知的財産学部 知的財産学科 教授 (平成17.4)	—
35	兼任	教授	キタ ヒデカズ 北 秀和 <令和4年4月>		修士 (学術)		教育方法論	2後	2	1	大阪工業大学 教務部 教職教室 教授 (平成24.4)	—
36	兼任	准教授	アンドリュウ メロウ Andrew Mellor <令和3年4月>		Doctor of Philosophy (英国)		口語英語Ⅰa 口語英語Ⅰb 口語英語Ⅱa 口語英語Ⅱb 英語演習	1前 1後 2前 2後 3後	2 2 1 1 1	2 2 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 准教授 (平成21.4)	—
37	兼任	准教授	フルヒ ナオキ 古樋 直己 <令和3年4月>		修士 (英語学) ※		英語表現 (basic2) a 英語表現 (basic2) b 基礎ゼミナール	2前 2後 1前	1 1 1	1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 准教授 (平成29.4)	—
38	兼任	准教授	ムラオ ジュンコ 村尾 純子 <令和3年4月>		修士 (文学) ※		海外語学研修	1・ 2・ 3・ 4 前・後	2	1	大阪工業大学 ロボティクス&デザイ ン工学部 空間デザイン学科 准教授 (平成23.4)	—
39	兼任	准教授	イノウエ ユミコ 井上 裕美子 <令和3年4月>		博士 (学術)		基礎スポーツ科学a 基礎スポーツ科学b 健康科学 スポーツ科学実習 視る自然科学 ※ 基礎ゼミナール	1前 2後 3前 3前 2後 1前	1 1 2 1 0.6 1	1 1 1 1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン 学科 准教授 (平成8.4)	—
40	兼任	准教授	ヤノ コウジロウ 矢野 浩二郎 <令和3年4月>		博士 (生理学)		生命科学基礎 情報生命科学 視る自然科学 ※ 基礎ゼミナール	1前 1後 2後 1前	6 6 0.6 1	3 3 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン 学科 准教授 (平成23.4)	—
41	兼任	准教授	サイウ タカシ 斉藤 隆 <令和3年4月>		理学博士		基礎ゼミナール	1前	1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 准教授 (平成7.4)	—
42	兼任	准教授	イガキ ヒロシ 井垣 宏 <令和3年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール 情報科学実践演習 (国際PBL)	1前 2前・後	1 1	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 准教授 (平成27.4)	—
43	兼任	准教授	タイラ ヒロシ 平 博順 <令和3年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール	1前	1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 准教授 (平成26.4)	—
44	兼任	准教授	ミヤワキ ケンサブロウ 宮脇 健三郎 <令和3年4月>		博士 (情報学)		基礎ゼミナール 情報科学実践演習 (国際PBL)	1前 2前・後	1 1	1 1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 准教授 (平成19.4)	—
45	兼任	准教授	ナカニシ チカコ 中西 知嘉子 <令和3年4月>		博士 (工学)		情報処理基礎 ※	1後	0.6	1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 准教授 (平成28.4)	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
46	兼任	准教授	サカイ ケイコ 酒井 恵子 <令和3年4月>		博士 (教育学)		教育心理学	1後	2	1	大阪工業大学 教務部 教職教室 准教授 (平成13.4)	—
47	兼任	准教授	ヌノムラ ヤスヒロ 布村 泰浩 <令和5年4月>		博士 (情報科学)		情報技術者論 ※	3後	0.1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 准教授 (平成27.4)	—
48	兼任	講師	ヨコヤマ エリ 横山 恵理 <令和3年4月>		博士 (文学)		文学基礎 観る文学 言語学基礎 基礎ゼミナール	2前・後 2前・後 1前・後 1前	8 6 8 1	4 3 4 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 講師 (平成28.4)	—
49	兼任	講師	クロカワ ナオヒコ 黒川 尚彦 <令和3年4月>		博士 (文学)		英語表現 (basic1) a 英語表現 (basic1) b 基礎ゼミナール	1前 1後 1前	2 2 1	2 2 1	大阪工業大学 情報科学部 情報システム学科 講師 (平成23.4)	—
50	兼任	講師	スギカワ サトシ 杉川 智 <令和3年4月>		博士 (工学)		基礎ゼミナール 情報技術者論 ※ 情報科学実践演習 (国際PBL)	1前 3後 2前・後	1 0.6 1	1 1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン 学科 講師 (平成25.4)	—
51	兼任	講師	ヤマモト ヨウヘイ 山本 雄平 <令和3年4月>		博士 (情報学)		基礎ゼミナール 情報セキュリティの基礎	1前 3前	1 2	1 1	大阪工業大学 情報科学部 ネットワークデザイン 学科 講師 (平成31.4)	—
52	兼任	講師	ウエノ ミキ 上野 未貴 <令和3年4月>		博士 (工学)		OIT概論 ※	1前	0.1	1	大阪工業大学 工学部 電子情報システム工 学科 講師 (平成31.4)	—
53	兼任	講師	コタニ ナオキ 小谷 直樹 <令和4年4月>		博士 (工学)		情報科学実践演習 (国際PBL)	2前・後	1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 講師 (平成25.4)	—
54	兼任	講師	ジンノウ タカオ 神納 貴生 <令和4年4月>		博士 (工学)		情報科学実践演習 (国際PBL)	2前・後	1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報知能学科 講師 (平成29.4)	—
55	兼任	講師	ムラキ ユウタ 村木 祐太 <令和4年4月>		博士 (工学)		情報科学実践演習 (国際PBL)	2前・後	1	1	大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 講師 (平成25.4)	—
56	兼任	講師	イケダ トモカ 池田 知加 <令和4年4月>		博士 (社会学)		社会学基礎 情報社会論	2前 2後	4 4	2 2	大阪工業大学 兼任講師 (平成14.4)	—
57	兼任	講師	オオムラ タカオ 大村 拓生 <令和3年4月>		博士 (文学)		日本の歴史 人類の歴史	2前 1後	6 6	3 3	大阪工業大学 兼任講師 (平成19.4)	—
58	兼任	講師	ケン テツヒロ 玄 哲浩 <令和4年4月>		修士 (法学)		日本国憲法 法学基礎	2前 2後	4 4	2 2	大阪工業大学 兼任講師 (平成25.4)	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
59	兼任	講師	イエト マミ 家本 真実 <令和5年4月>		修士 (法学)		情報法学	3前	4	2	摂南大学 法学部 法律学科 准教授 (平成17.4)	—
60	兼任	講師	セノ ムツミ 瀬野 陸見 <令和4年4月>		修士 (経済学) ※		経済学基礎 現代経済論	2前・後 2後	6 2	3 1	大阪工業大学 兼任講師 (平成30.4)	—
61	兼任	講師	ヤギ シゲカズ 八木 成和 <令和4年4月>		修士 (教育学)		心理学基礎	2前・後	8	4	四天王寺大学 教育学部 教育学科 教授 (平成10.4)	—
62	兼任	講師	ニシノ ヨウイチ 西野 陽一 <令和3年4月>		文学士		人間発達と人権	1後	2	1	大阪工業大学 客員教授 (平成24.4)	—
63	兼任	講師	シマダ ヒロユキ 島田 浩之 <令和3年4月>		修士 (文学) ※		英語表現 (basic1) a 英語表現 (basic1) b 英語の語法	1前 1後 3前・後	2 2 6	2 2 3	大阪工業大学 兼任講師 (平成26.4)	—
64	兼任	講師	シンシヨウダニ ヨウコ 新庄谷 洋子 <令和3年4月>		修士 (言語文化学)		英語表現 (basic1) a 英語表現 (basic1) b	1前 1後	2 2	2 2	大阪工業大学 兼任講師 (令和2.4)	—
65	兼任	講師	ナカムラ ハナエ 中村 英江 <令和4年4月>		修士 (英文学)		英語の語法 英語表現 (basic2) a 英語表現 (basic2) b	3前 2前 2後	2 2 2	1 2 2	大阪工業大学 兼任講師 (平成26.4)	—
66	兼任	講師	ピーター バーンズ Peter Burge <令和3年4月>		Bachelor of Archaeology (英国)		口語英語 I a 口語英語 I b	1前 1後	2 2	2 2	大阪工業大学 兼任講師 (令和3.4)	—
67	兼任	講師	エルズベス ヘロン Elsbethy Herron <令和3年4月>		MA in TEYL (英国)		口語英語 I a 口語英語 I b	1前 1後	2 2	2 2	大阪工業大学 兼任講師 (平成20.4)	—
68	兼任	講師	ゴードン チャン Gordon Chan <令和3年4月>		Bachelor of Commerce (ニュージーラ ンド)		口語英語 I a 口語英語 I b	1前 1後	2 2	2 2	大阪工業大学 兼任講師 (令和3.4)	—
69	兼任	講師	クボタ シンジ 久保田 真司 <令和4年4月>		修士 (工学)		英語による情報技術Ⅱ	3前・後	6	3	大阪工業大学 兼任講師 (平成30.9)	—
70	兼任	講師	ハラダ カヨコ 原田 佳代子 <令和3年4月>		文学修士		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ	1前 1後	2 2	1 1	大阪工業大学 兼任講師 (平成2.4)	—
71	兼任	講師	ツヤマ タカツネ 積山 敬経 <令和3年4月>		体育学修士		基礎スポーツ科学a 基礎スポーツ科学b 基礎ゼミナール	1前 2後 1前	1 1 1	1 1 1	大阪工業大学 兼任講師 (令和2.4)	—

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する週当 たり平均日数
72	兼任	講師	タジマ トオル 但馬 亨 <令和6年4月>		修士 (学術)		科学史	4前	2	1	四日市大学 関孝和数学研究所 研究員 (平成25.4)	—
73	兼任	講師	タナカ リュウイチロウ 田中 龍一郎 <令和3年4月>		博士 (薬学)		化学基礎	1前・後	6	3	摂南大学 薬学部 薬学科 講師 (平成3.4)	—
74	兼任	講師	カクタニ ヒデキ 角谷 秀樹 <令和3年4月>		博士 (薬学)		環境情報科学	1後・2前	6	3	摂南大学 薬学部 薬学科 講師 (平成30.4)	—
75	兼任	講師	クワネ ミツコ 菜根 美津子 <令和3年4月>		修士 (繊維学)		OIT概論 ※	1前	0.1	1	大阪工業大学 兼任講師 (平成23.4)	—
76	兼任	講師	ミツタ ケンロウ 光田 憲朗 <令和3年4月>		博士 (工学)		テクニカルライティング	1後	2	1	三菱電機株式会社 先端技術総合研究 所 開発戦略部 技術顧問 (昭和56.4)	—
77	兼任	講師	ミヤタ ヒデアリ 宮田 秀典 <令和5年4月>		理学博士		経営システム論Ⅱ ※ 経営戦略論 ※	3後 3後	0.7 0.7	1 1	大阪工業大学 兼任講師 (平成24.4)	—
78	兼任	講師	オオイ ショウ 大井 翔 <令和5年4月>		博士 (情報学)		情報科教育法a	3前	2	1	立命館大学 助教(平成30.4)	—

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	3人	2人	人	人	5人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	1人	2人	人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	1人	1人	5人	2人	人	人	9人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	